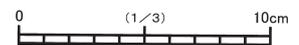
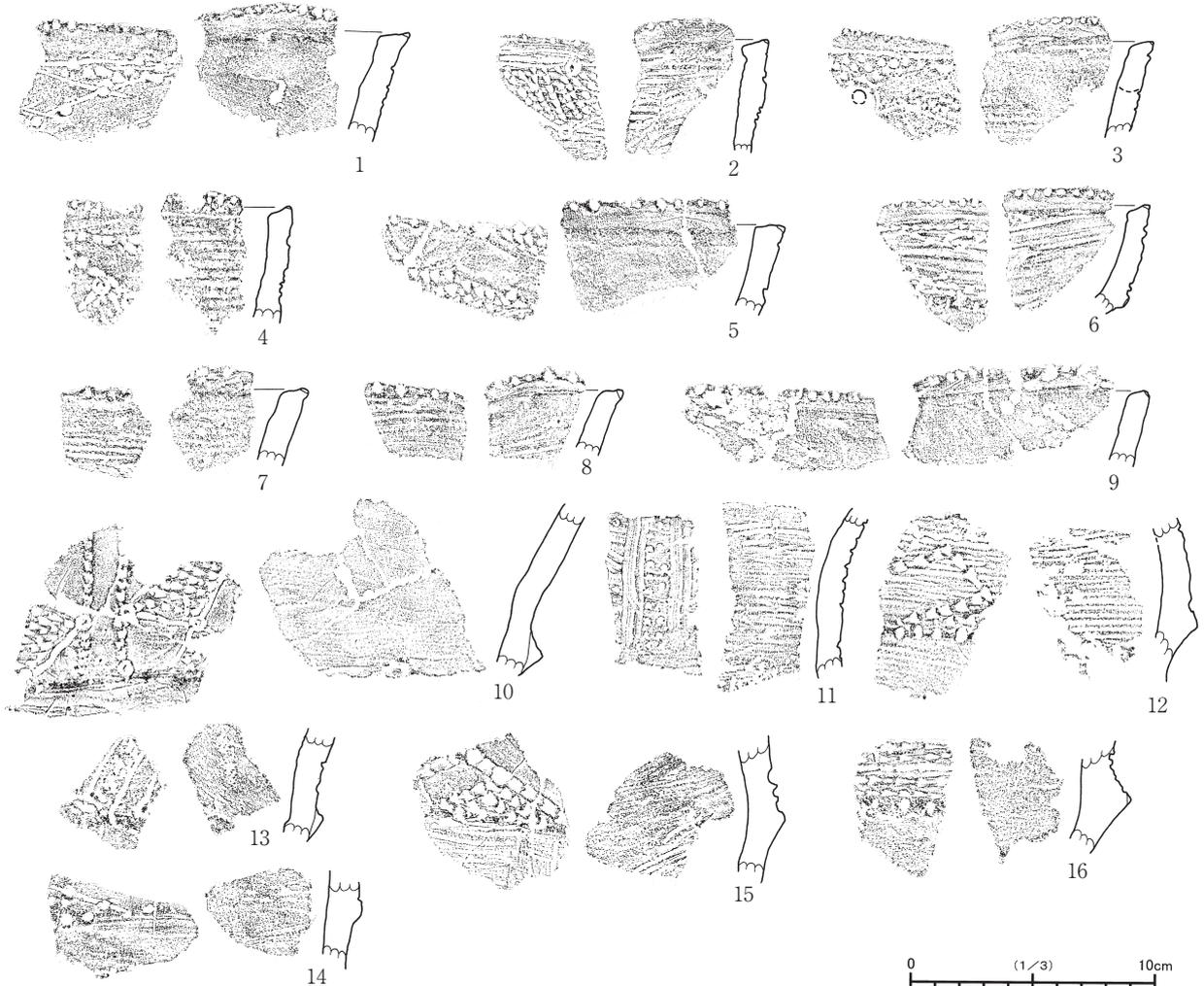


セクション位置：A-A'・B-B'

No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	黒色	多量の礫・少量のローム粒			
2	黒褐色	多量のローム粒・少量のソフトローム			
3	暗褐色	やや多量のソフトローム・少量のロームブロック(小)			
4	暗褐色	ソフトローム主体・多量のローム粒・少量の焼土ブロック			
5	暗褐色	多量のローム粒・少量のソフトローム・焼土粒			
6	暗褐色	やや多量のソフトローム			



第300図 178号遺構実測図および出土遺物実測図(1)

179号遺構

【検出位置】 セ72区2B-D3

【種別】 竪穴状遺構

【規模ほか】 長軸2.06m・短軸1.04m・深さ13cm。形状は楕円形?。南側は調査区外(第302図)。

【出土遺物】 15点・565gの礫が出土している。すべてに被熱のあとがみられる。土器は、3点・17g出土している。取り上げ方法は、覆土一括扱いのもののみである。いずれも条痕文系のものであることから、当該時期を179号遺構の帰属時期とみる。ただし、図示できるような資料ではなかった。

180号遺構

【検出位置】 セ72区2A-D4、3A-C3

【種別】 竪穴状遺構

【規模ほか】 長軸2.50m・短軸2.48m・深さ44cm。形状は円形(第302図)。

【覆土】 暗褐色土を主体とする。ローム粒を含むものが多い。

【重複関係】 古墳周溝との重複により遺構中央の覆土および東側壁面一部を欠失する。

【出土遺物】 252点・3,714gの礫が出土している。このうちすべてに被熱のあとがみられる。土器は、1点・3g出土している。取り上げ方法は、覆土一括扱いである。唯一の出土土器が条痕文系のものであることから、当該時期を180号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 第302図1は条痕文系深鉢形土器の胴部破片である。

181号遺構

【検出位置】 セ72区2B-B2・B4、3B-A1・A3

【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸6.18m・短軸5.56m・深さ91cm。燃焼面5箇所(第303図)。

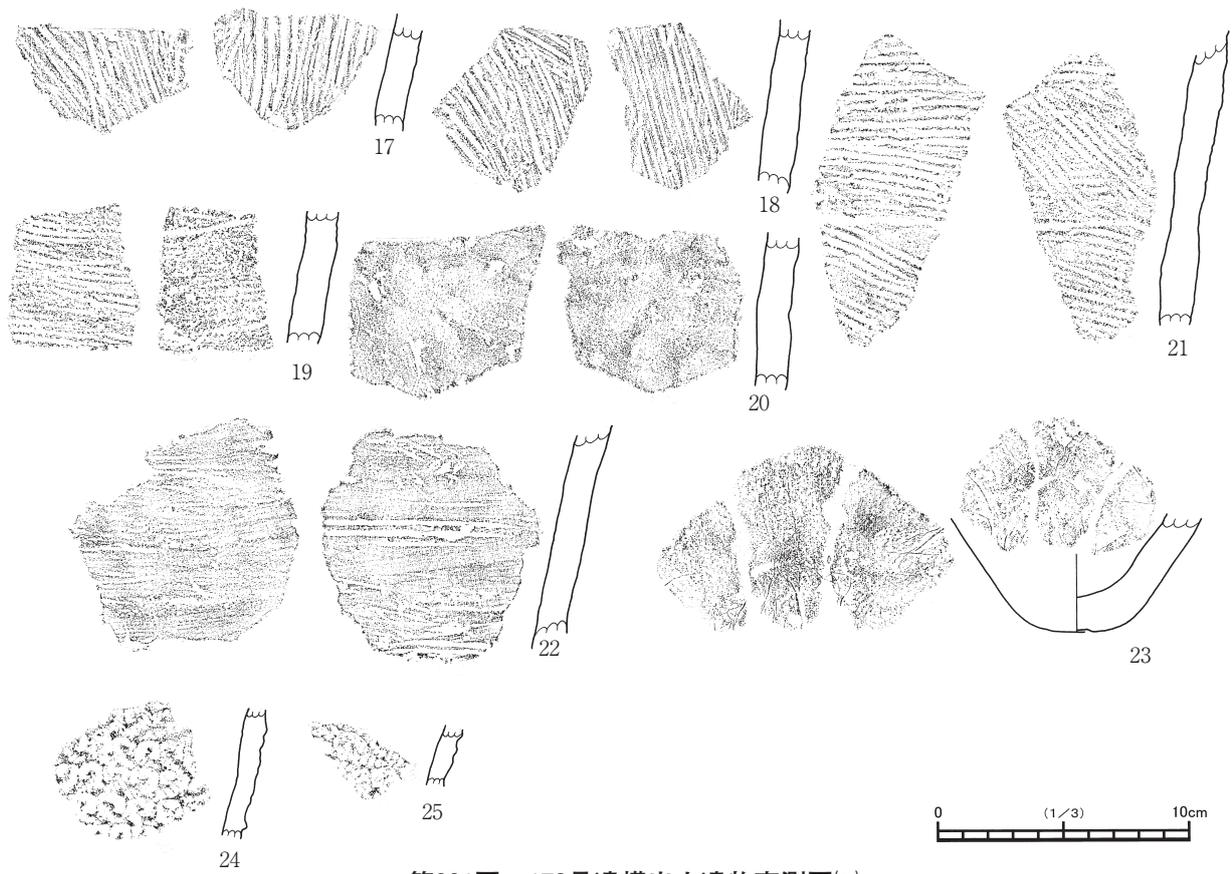
【覆土】 暗褐色土・暗赤褐色土などを主体とする。ローム粒・焼土粒を含むものが多い。一部に貝層がみられる。貝層は遺構覆土の中央部分にアメーバ状に展開し、長軸550・短軸450・厚さ66cmほどの規模で形成されていた。貝層は土の混入量や貝種の違いから分けられる6層からなり、貝の密度が高く良好な保存状態を保っていたことから、その一部を接状剥離し保存資料とした。

【その他】 周囲に竪穴状の掘り込みがある。

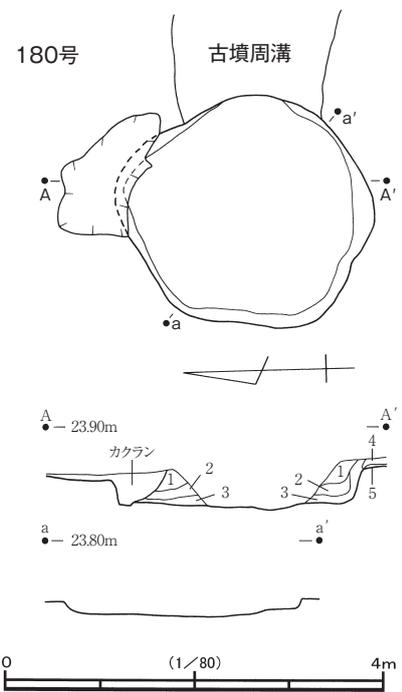
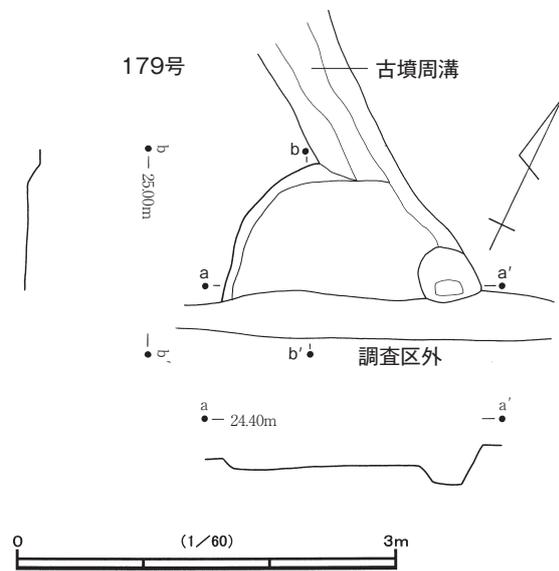
【重複関係】 古墳周溝との重複により遺構南側の覆土(貝層)の一部を欠失する。

【出土遺物】 649点・30,299gの礫が出土している。このうち98.4%に被熱のあとがみられる。石器は、9点出土している。うちわけは、石鏃6点・石鏃未製品2点・尖頭器1点、このほか黒曜石・チャートの剥片8点がある。土器は、1,876点・46,828g出土している。取り上げ方法は、平面・垂直位置を記録した点あげ、一括扱いの両方がある。遺物は壁面付近をのぞく覆土の中央部、その上層から中層部分に多く出土している。土器のうちわけは、撚糸文系、条痕文系、一部に縄文が施文される条痕・縄文、羽状縄文系などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系のもので全体の99.2%あり、当該時期を181号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、点あげしたものを第306図1・2、第307図3～7・第308図8～13・第309図14～19・第310図20～29・第311図30～40・第312図41～43に、覆土一括扱いのものを第312図44～56・第313図57～69・第314図70～94・第315図95～106・第316図107～121・第317図122～135・第

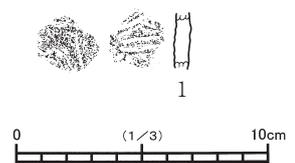


第301図 178号遺構出土遺物実測図(2)

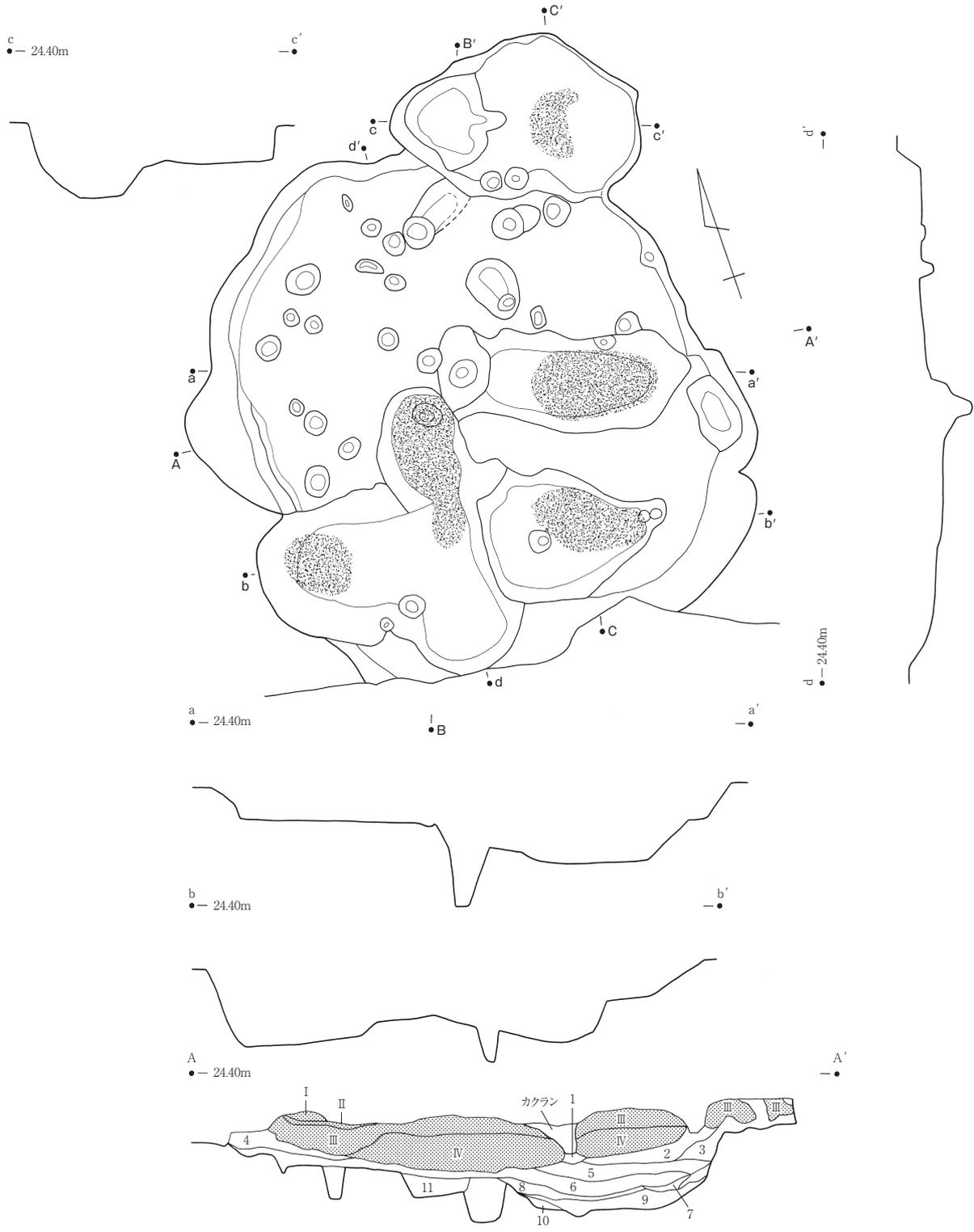


セクション位置：A-A'

No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	暗褐色	少量のソフトローム			
2	暗褐色	少量のソフトローム・ローム粒			
3	暗褐色	多量のローム粒・やや多量のソフトローム			
4	暗褐色	多量のソフトローム			
5	明褐色	多量のソフトローム・ローム粒			



第302図 179・180号遺構実測図および出土遺物実測図

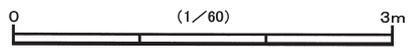


セクション位置：A-A'

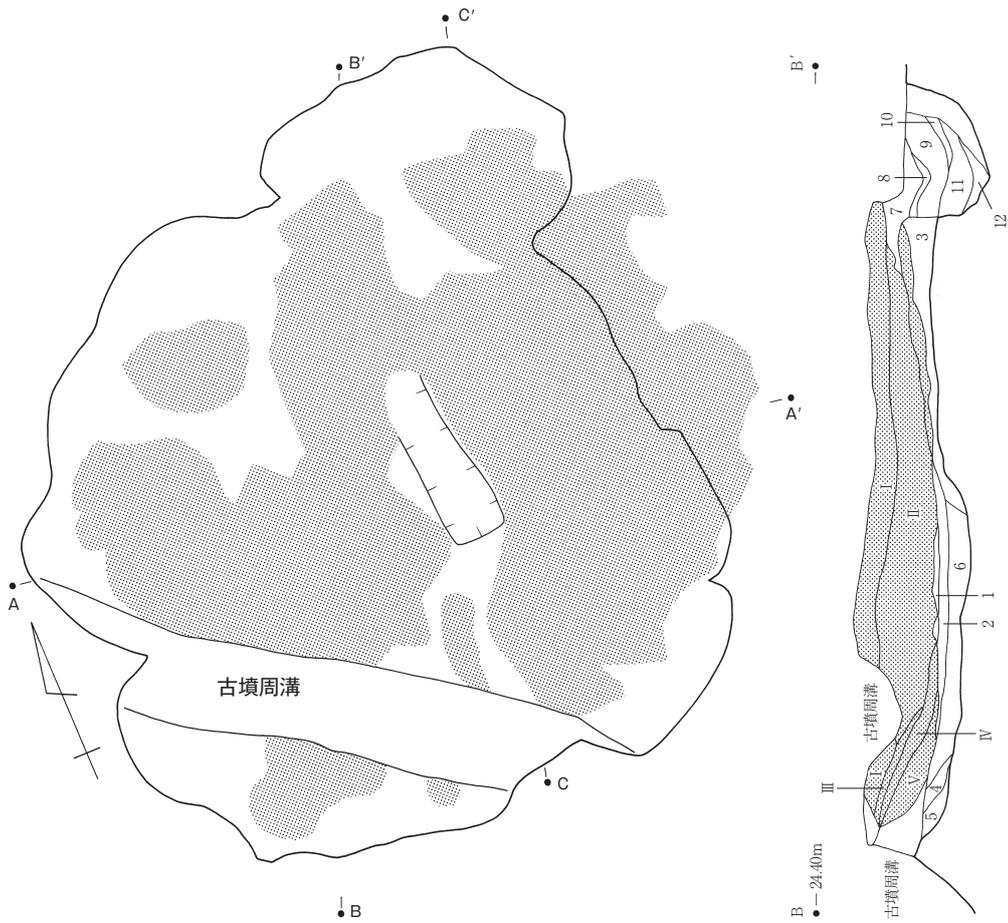
No.	種別 (主の混じり具合)	主体貝	その他の貝	備考
I	混土貝層		ハマグリ・ハイガイ	
II	混土貝層		マガキ・マテガイ	
III	混土貝層		ハマグリ・ハイガイ・マテガイ	
IV	純貝層	ハマグリ	マテガイ層状	

セクション位置：A-A'

No.	土色	混入物	主のしまり	粘性	備考
1	黒色				視乱か?
2	黒褐色	少量のソフトローム			
3	黒褐色	やや多量のローム粒			
4	暗褐色	多量のローム粒			
5	黒褐色	少量のソフトローム・焼土粒			
6	暗褐色	多量のローム粒・少量の焼土粒			
7	赤灰色	主に焼土・やや多量の灰			
8	暗褐色	多量のローム粒・少量のソフトローム			
9	暗赤褐色	ロームブロック (小) 主体・少量の焼土粒			
10	黄褐色	ソフトローム主体			
11	暗赤褐色	多量の焼土粒・ローム			



第303図 181号遺構実測図

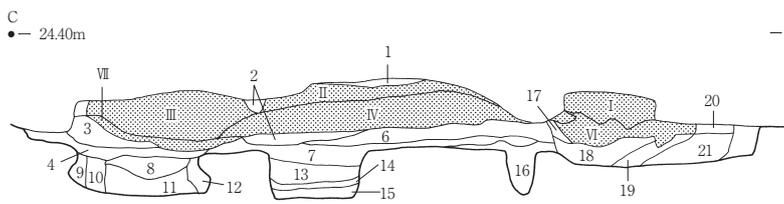


セクション位置：B-B'

No.	種別 (土の混じり具合)	主体貝	その他の貝	備考
I	混土貝層	ハマグリ	少量のマテガイ・ハイガイ	
II	純貝層	ハマグリ	少量のハイガイ・マテガイ層状	
III	純貝層	マテガイ		
IV	混土貝層		少量のハマグリ・ハイガイ・マテガイ	
V	混土貝層		少量のハマグリ・ハイガイ・マテガイ	
VI	混土貝層 (暗褐色)		少量のハマグリ	

セクション位置：B-B'

No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	暗褐色				やや粗い
2	暗褐色	多量のロームブロック・やや多量の焼土			
3	暗赤褐色	多量のソフトローム・焼土粒・焼土ブロック			
4	暗褐色	ロームブロック・少量の焼土			
5	黒褐色	少量のソフトローム			
6	暗褐色	多量のロームブロック・ローム粒・少量の焼土粒			
7	黒褐色	少量のソフトローム・ローム粒			
8	黒褐色	少量のソフトローム			
9	暗褐色	多量のブロック状のソフトローム			
10	暗褐色	少量のソフトローム			
11	暗褐色	多量のソフトローム			
12	暗褐色	少量のソフトローム・ロームブロック			

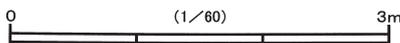


セクション位置：C-C'

No.	種別 (土の混じり具合)	主体貝	その他の貝	備考
I	混土貝層		少量のハマグリ	視乱
II	混土貝層	ハマグリ	ハイガイ・マテガイ	
III	純貝層	ハマグリ	マテガイ層状	
IV	混土貝層-純貝層	ハマグリ	ハイガイ・マテガイ	
V	純貝層	ハマグリ		
VI	混土貝層	ハマグリ		
VII	混土貝層	ハマグリ		

セクション位置：C-C'

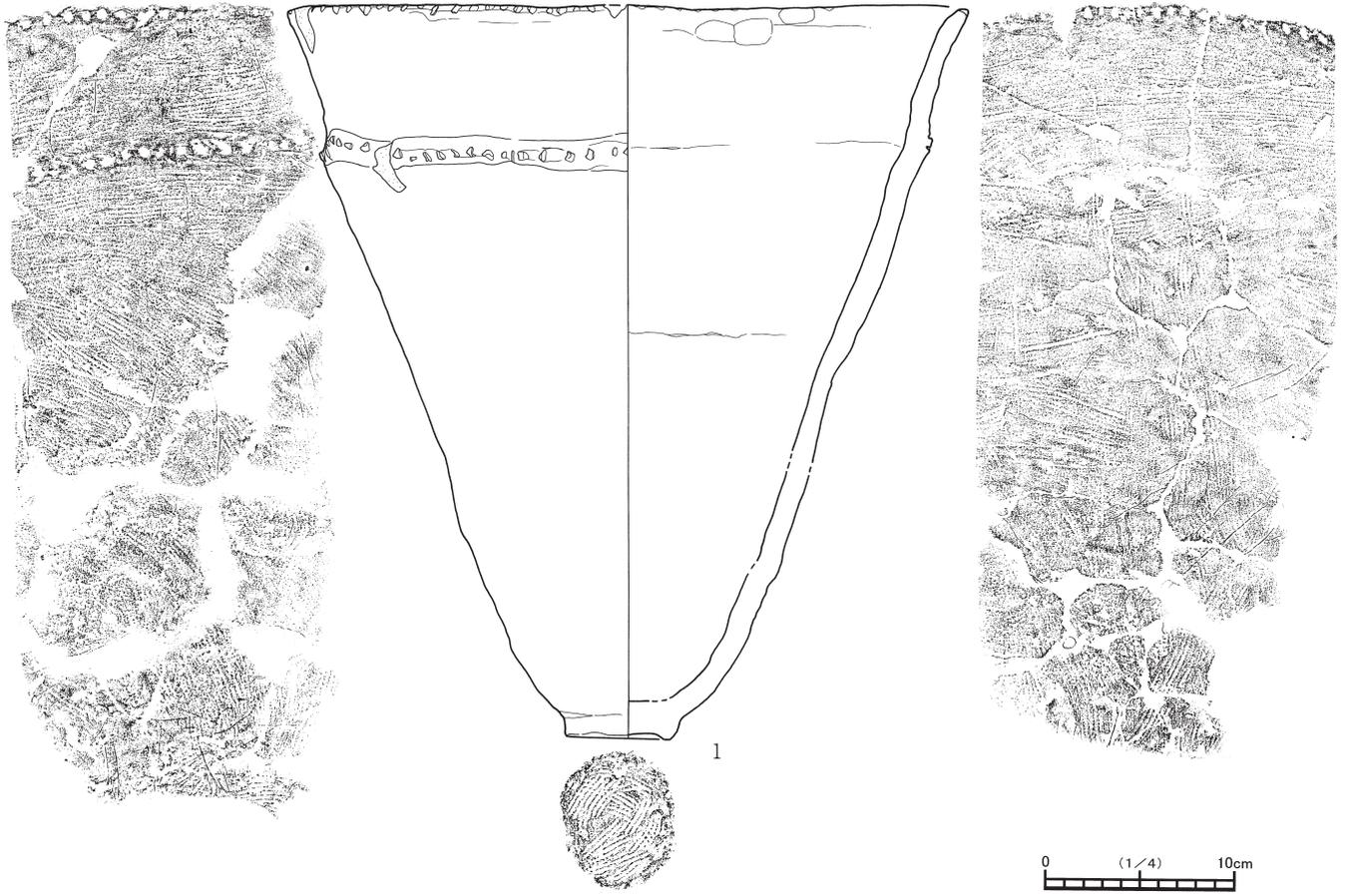
No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	黒褐色				
2	黒色				少量のハマグリ
3	暗褐色	やや多量のローム粒			
4	黒色	少量のローム粒			
5	黒色				
6	暗褐色	多量のローム粒			
7	黒褐色	少量のソフトローム			
8	黒赤褐色	焼けたロームブロック (小) 主体・少量のロームブロック			
9		ロームブロック主体			
10	暗褐色	ロームブロック主体・少量の黒色土			
11	暗赤褐色	焼けたロームブロック (小) 主体・少量のロームブロック			
12		ロームブロック主体			
13	黒褐色	少量のソフトローム・焼土粒			
14	暗褐色	多量のローム粒・少量のソフトローム			
15	暗赤褐色	ロームブロック (小) 主体・少量の焼土粒			
16	暗褐色	多量のソフトローム・少量のローム粒			
17	黒褐色	少量のローム粒			
18	暗褐色	多量のローム粒			
19	暗褐色	多量のローム粒			
20	暗褐色	少量のソフトローム			
21	暗褐色	多量のソフトローム・ローム粒・少量の焼土粒			



第304図 181号遺構内貝層実測図



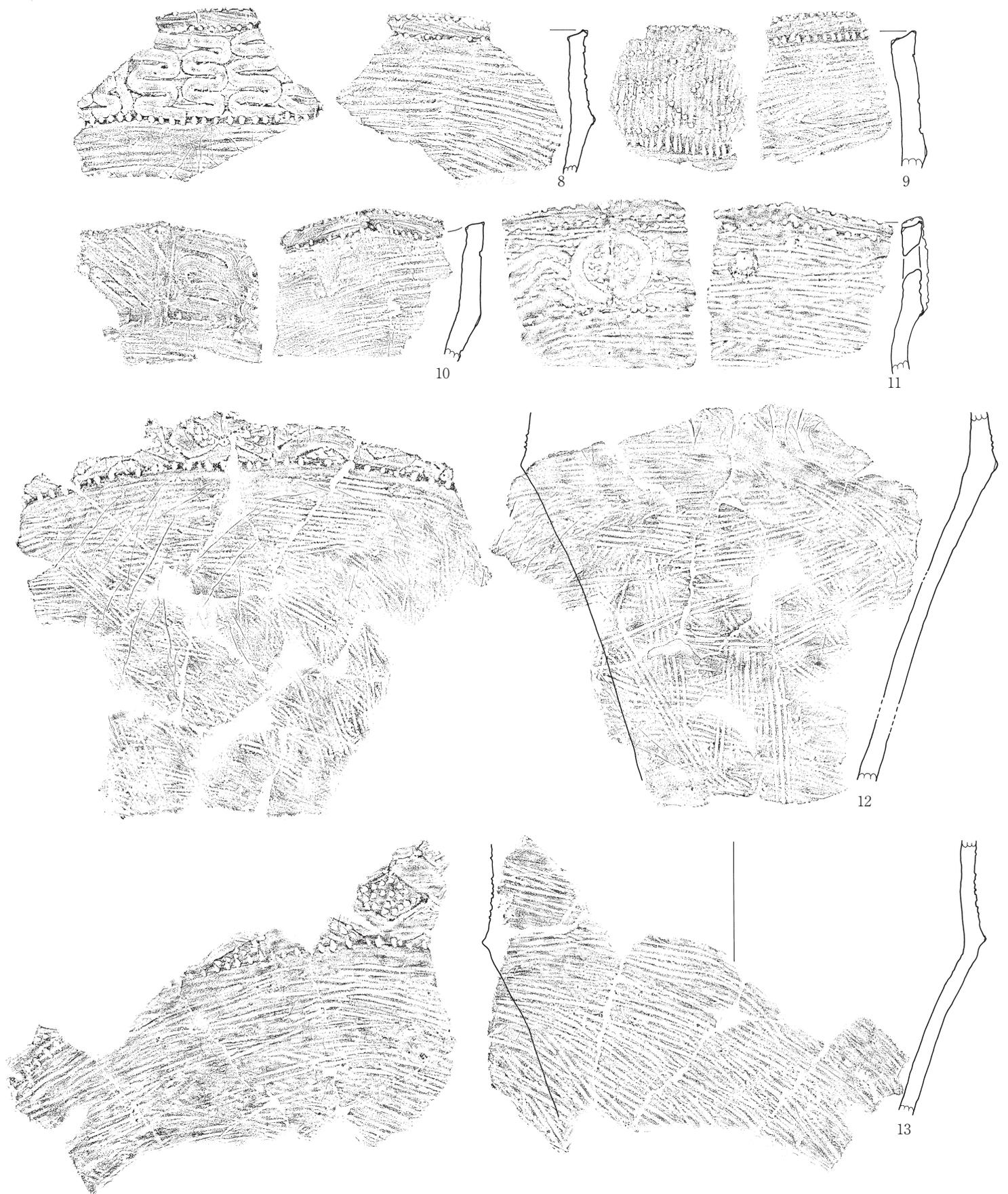
第305図 181号遺構内貝層サンプル採取地点および遺物出土状況図



第306图 181号遺構出土遺物実測図(1)

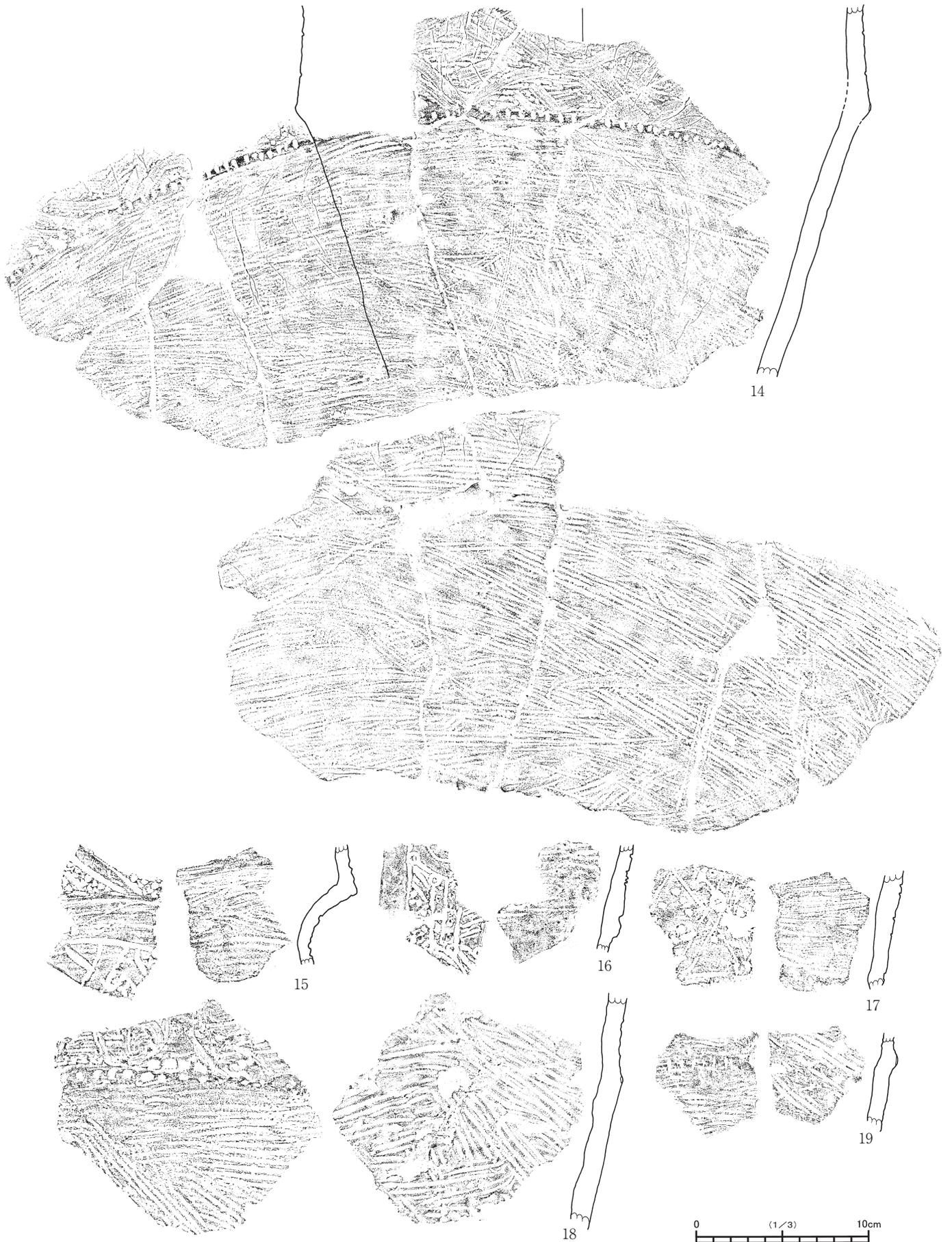


第307图 181号遺構出土遺物実測図(2)



0 (1/3) 10cm

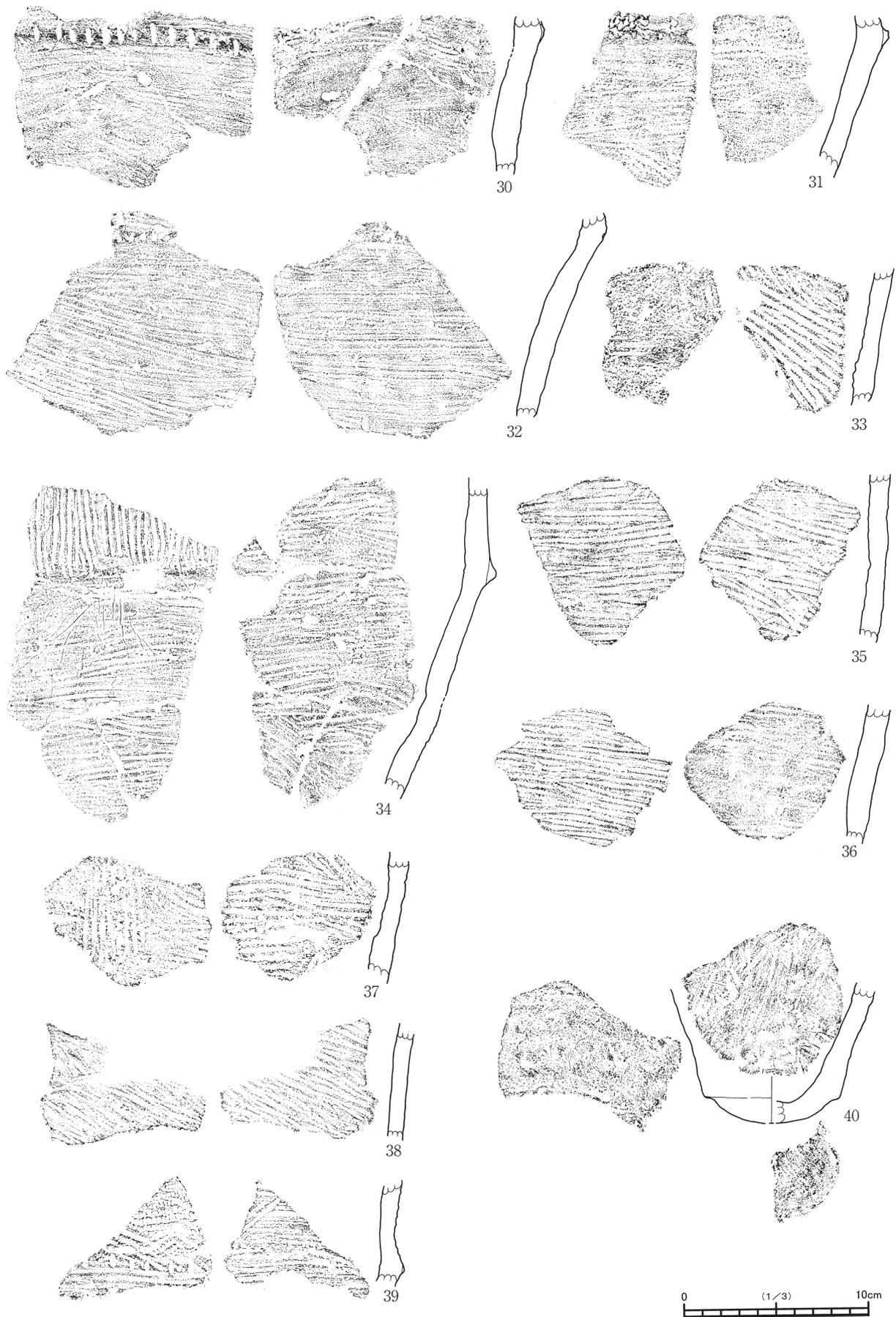
第308图 181号遺構出土遺物実測図(3)



第309图 181号遺構出土遺物実測図(4)



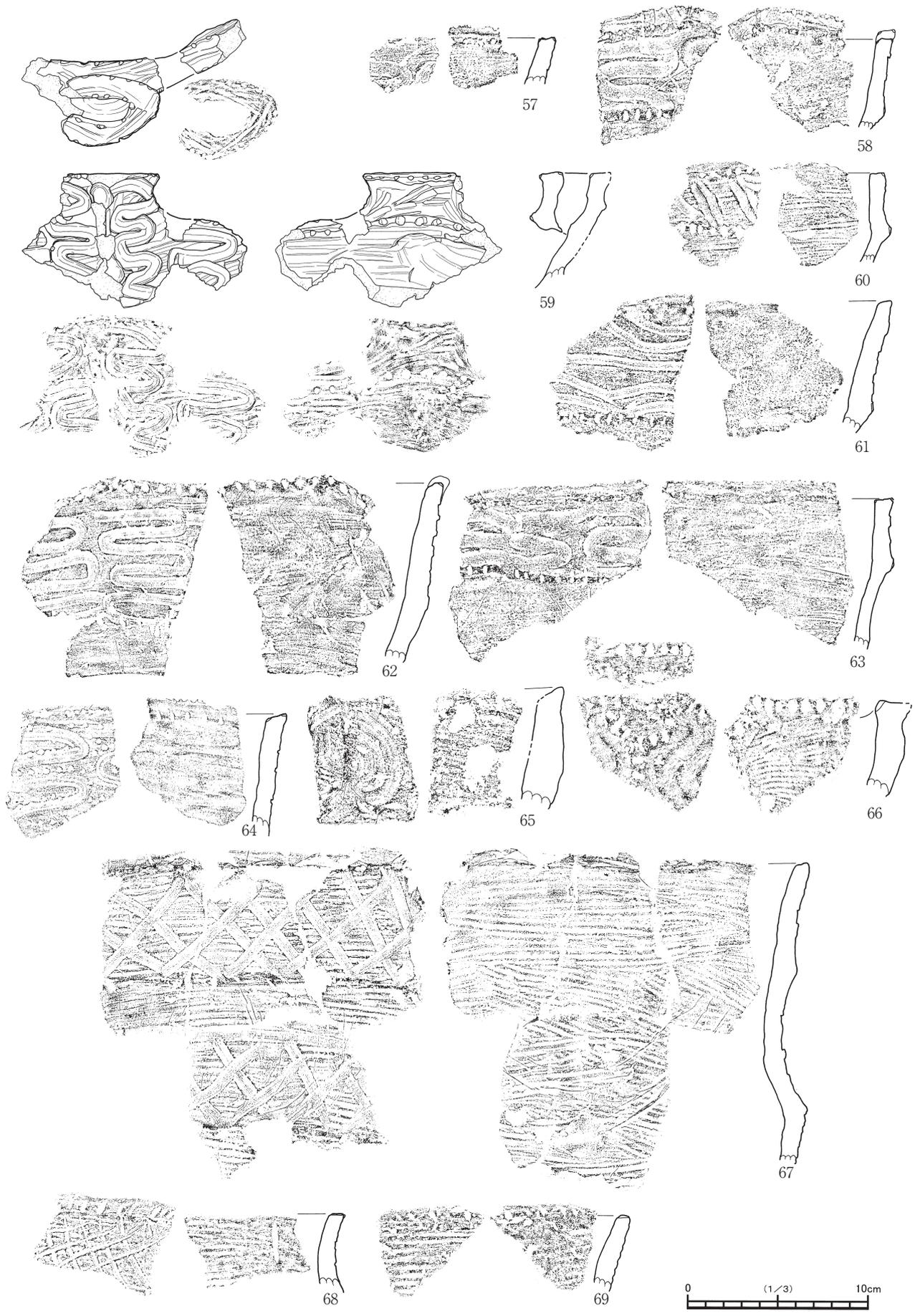
第310图 181号遺構出土遺物実測図(5)



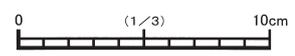
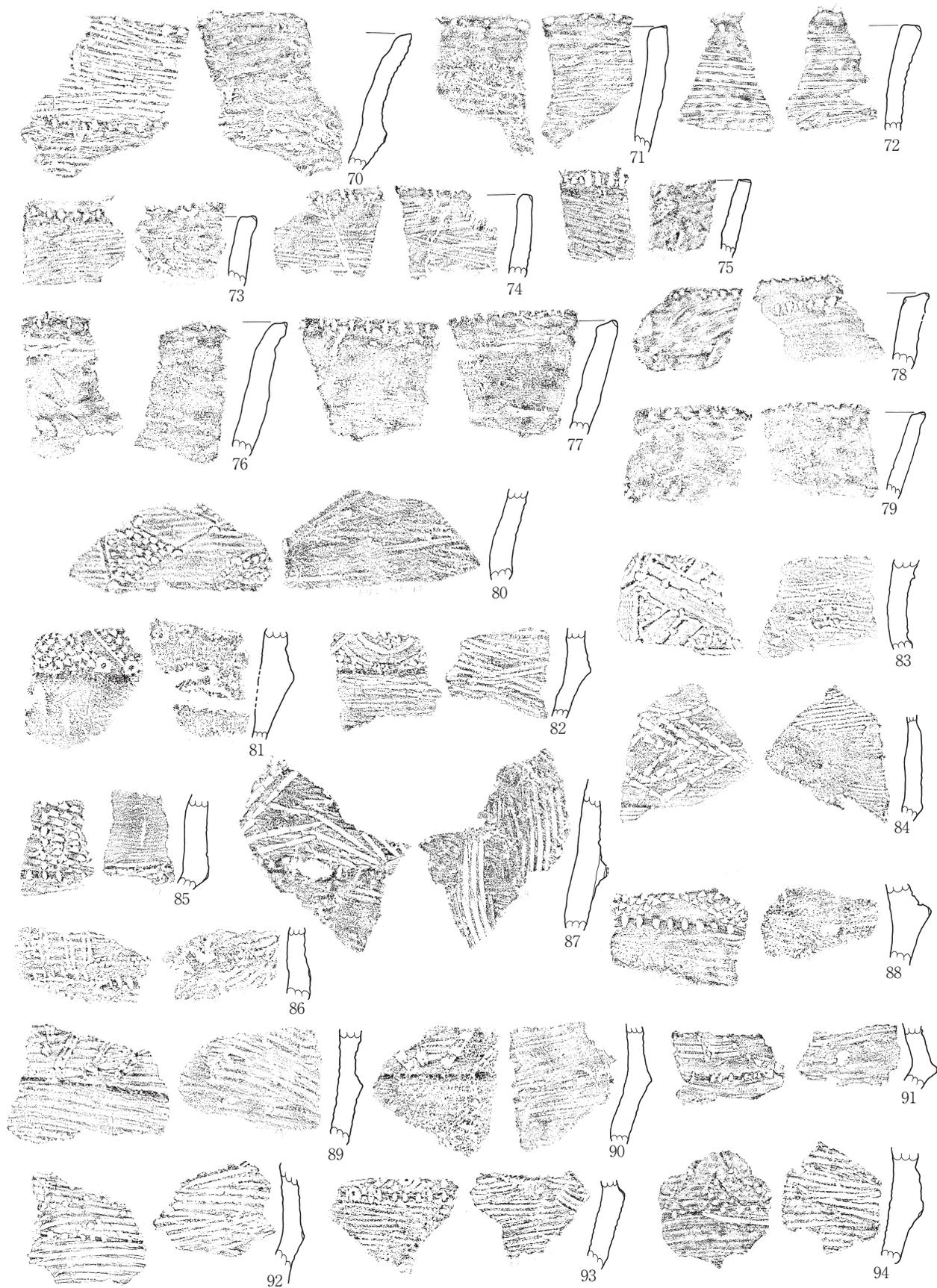
第311图 181号遺構出土遺物実測図(6)



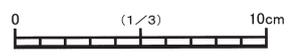
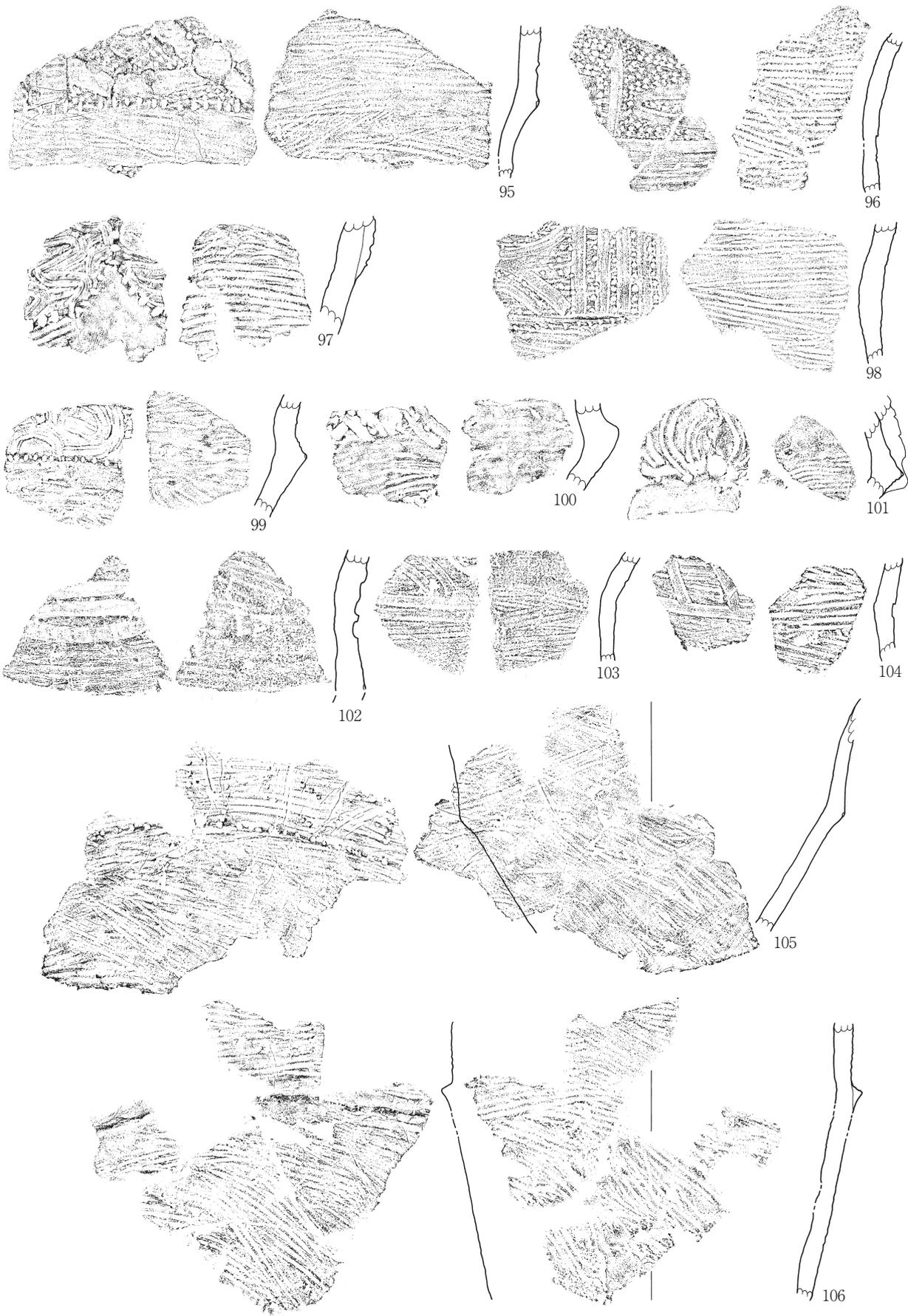
第312图 181号遺構出土遺物実測図(7)



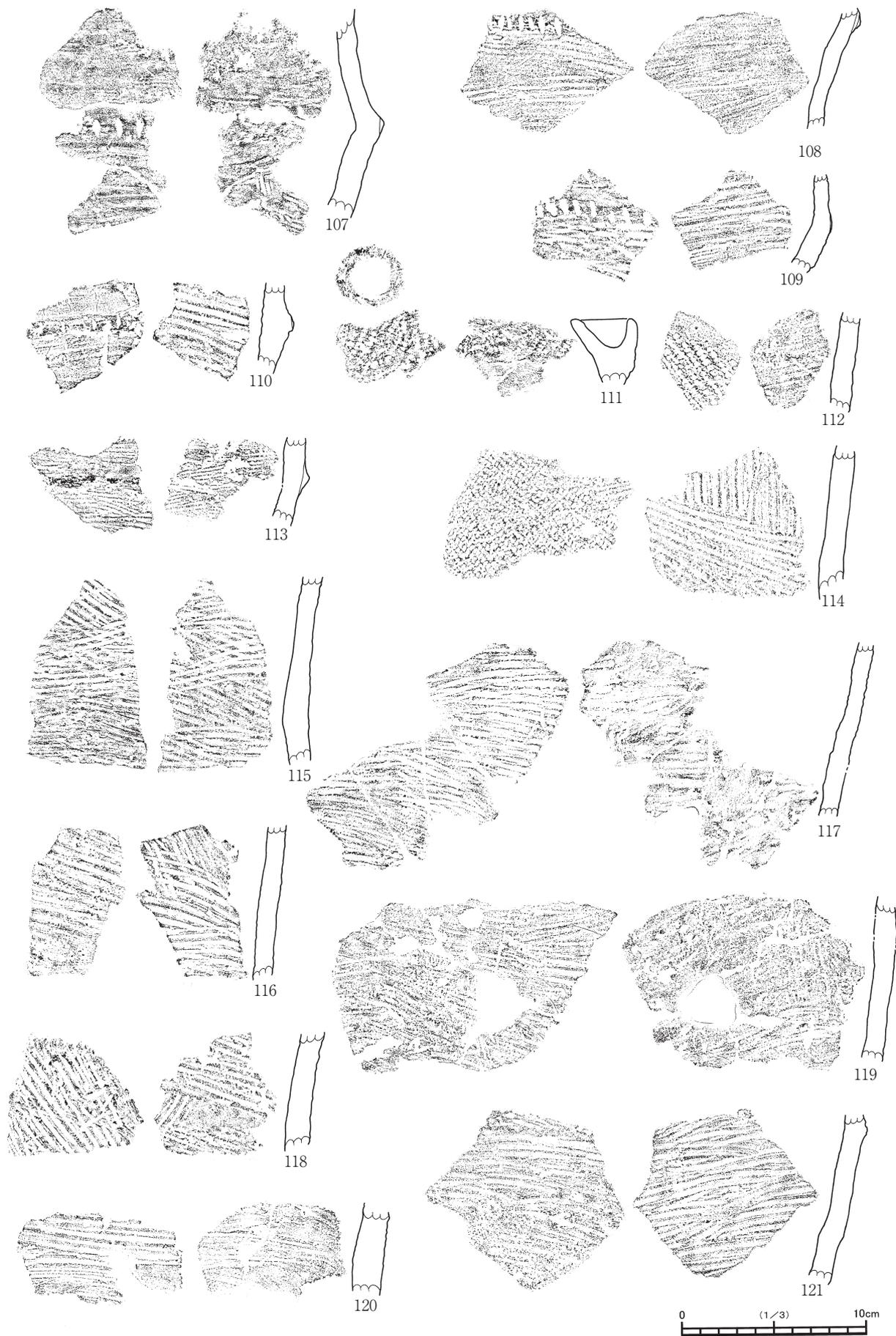
第313图 181号遺構出土遺物実測図(8)



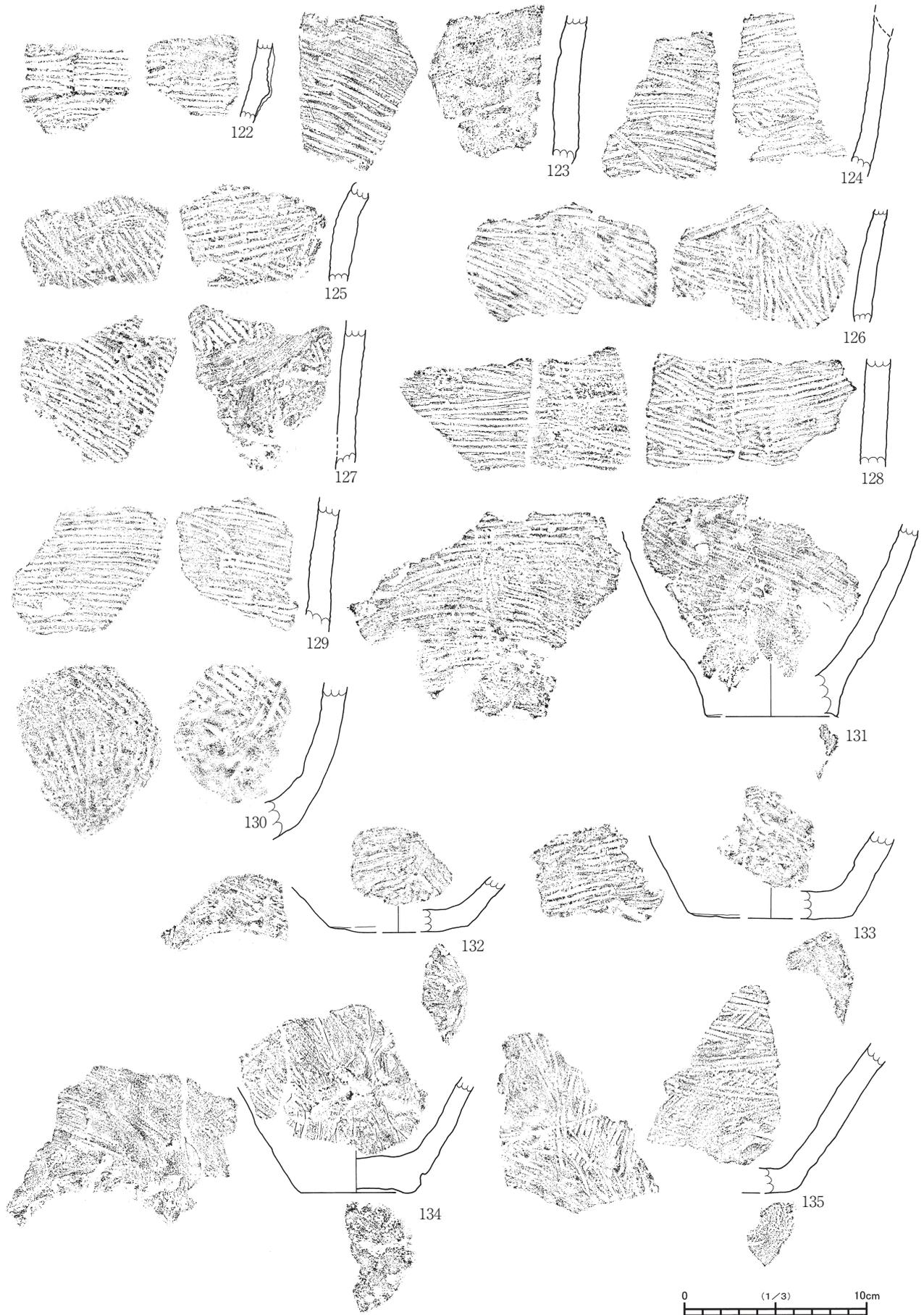
第314图 181号遺構出土遺物実測図(9)



第315图 181号遺構出土遺物実測図(10)



第316图 181号遺構出土遺物実測図(11)



第317图 181号遺構出土遺物実測図(12)

318図136～139に示した。1は口径352mm・器高390mm・底径56mmを測る平縁の条痕文系深鉢形土器のほぼ完形個体である。器形は胴部に屈曲の少ないバケツ状。口縁下に刺突文を付す横位隆帯を施し、口唇部に刺突をめぐらす。外面・内面ともに横・斜方向に、底面にも条痕文を施す。2～11・44～79は条痕文系深鉢形土器の口縁部、12～39・80～129は胴部、40～43・130～135は底部の破片である。2は推定口径304mm・現存器高237mmを測る平縁の個体で、文様は凹線による縦位・横位の直線文、曲線文を主体とする。3は推定口径265mm・現存器高216mmを測る緩やかな波状口縁をもつ個体で、文様は凹線による曲線文を主体とし文様間に刺突文列を施すものである。4は縦位・斜位の幅広の浅い押し引き沈線文がみられる。5は凹線による直線・曲線文を主体とする。12は現存器高215mm・推定胴部最大径276mmを測る個体で、文様は微隆帯による区画内に連続刺突文を充填するもの。13は現存器高159mm・推定胴部最大径292mmを測る個体で、文様は微隆帯による区画内に連続刺突文を充填するもの。14は現存器高214mm・推定胴部最大径330mmを測る個体で、文様は浅い凹線による菱形区画内に連続刺突文を充填するもの。20は現存器高160mm・推定胴部最大径292mmを測る個体で、文様は凹線による曲線文が主体。40は現存器高76mmを測る底部で、底面は丸底。43は推定底径106mmを測る底部で、底面は上げ底である。59は環状把手で、凹線による縦位の曲線文を施す。67は凹線による格子状文がみられる。105は現存器高124mm・推定胴部最大径205mmを測る屈曲部に浅い刺突がめぐるもの。106は現存器高147mm・推定胴部最大径224mmを測る横位隆帯があるもの。111・112・114は外面や内面の一部に縄文を施文するものである。131は現存器高70mm・推定底径105mmを測る平底の底部である。136・137は羽状縄文系深鉢形土器の胴部破片である。

出土石器を第318図140～148に示した。140～145は、チャート・黒曜石・無斑晶ガラス質安山岩・頁岩製の石鏃である。146・147は黒曜石製石鏃の未製品である。148は最大長34.5mmを測る黒曜石製の尖頭器である。

182号遺構

【検出位置】 セ72区2B-D1、3B-C1

【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸5.77m・短軸4.44m・深さ54cm。燃焼面1箇所（第319図）。

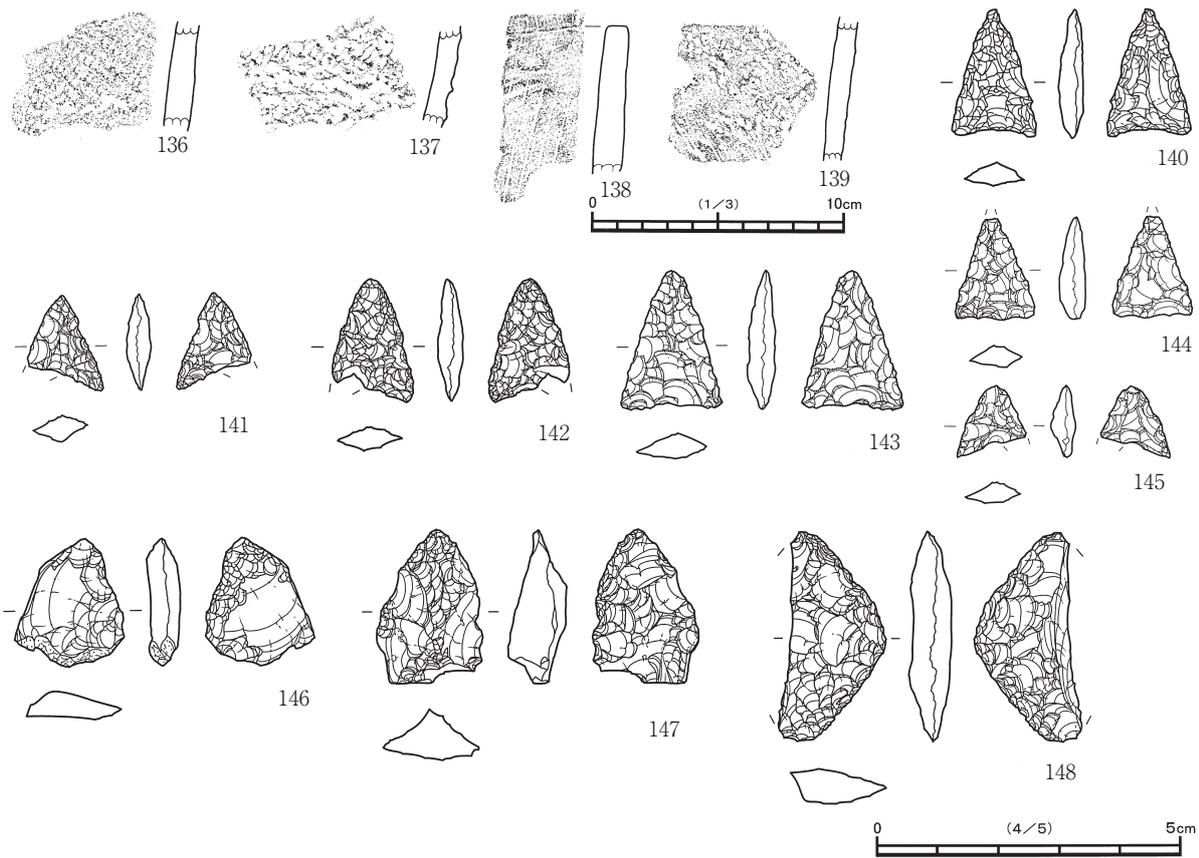
【覆土】 暗褐色土・黒褐色土などを主体とする。ローム粒・ロームブロック、焼土粒を含むものが多い。一部に貝層がみられる。貝層は遺構覆土の北東部1・南東部3箇所に、長軸370・短軸84・厚さ26cmほどの規模で形成されていた。

その他 周囲に竪穴状の掘り込みがある。

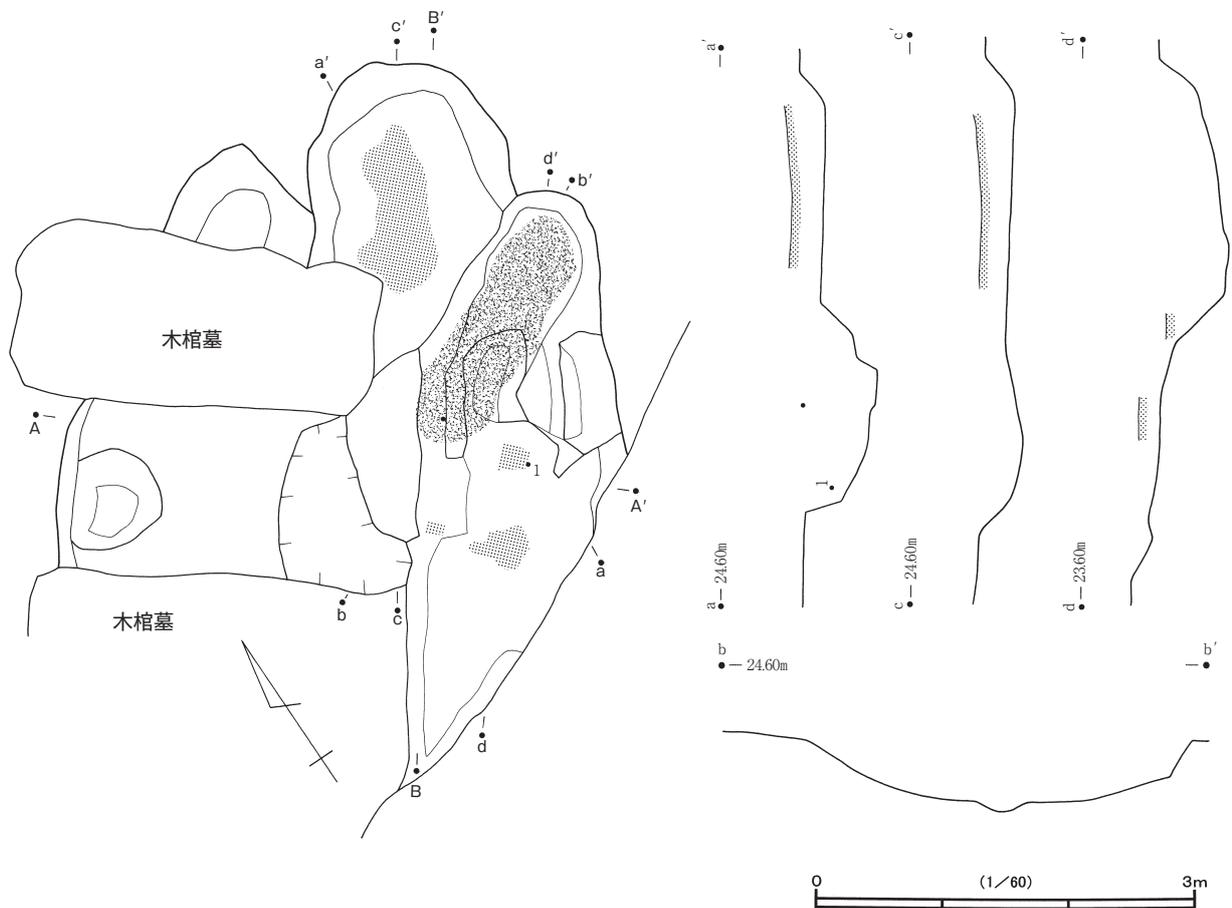
【重複関係】 木棺墓との重複により遺構の壁面や基底面の一部を欠失する。南側は調査区外。

【出土遺物】 209点・9,523gの礫および礫石器が出土している。このうち97%に被熱のあとがみられる。石器は、3点出土している。うちわけは、石皿2点・石鏃未製品1点である。土器は、308点・5,529g出土している。取り上げ方法は、平面・垂直位置を記録した点あげ、一括扱いの両方がある。うちわけは、条痕文系、一部に縄文が施される条痕・縄文、羽状縄文系などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系のもので全体の95.9%あり、当該時期を182号遺構の帰属時期とみる。

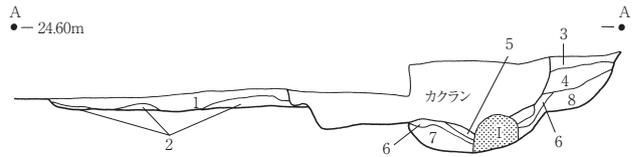
【遺物説明】 出土土器のうち、点あげしたものを第320図1に、覆土一括扱いのものを第320図2～14・第321図15～29に示した。1～14は条痕文系深鉢形土器の口縁部、15～26は胴部破片である。1



第318图 181号遺構出土遺物実測図(13)



第319图 182号遺構実測図(1)

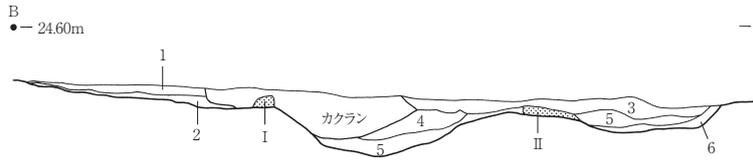


セクション位置：A-A'

No.	種別 (土の混じり具合)	主体貝	その他の貝	備考
I	混貝土層			

セクション位置：A-A'

No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	黒褐色	少量のソフトローム			
2	暗褐色	かなり多量のソフトローム			
3	黒色				
4	黒褐色	少量のソフトローム			
5	黒色				
6	黒褐色	少量のソフトローム			
7		少量の焼土ブロック			
8	黒褐色	少量のソフトローム・ローム粒			

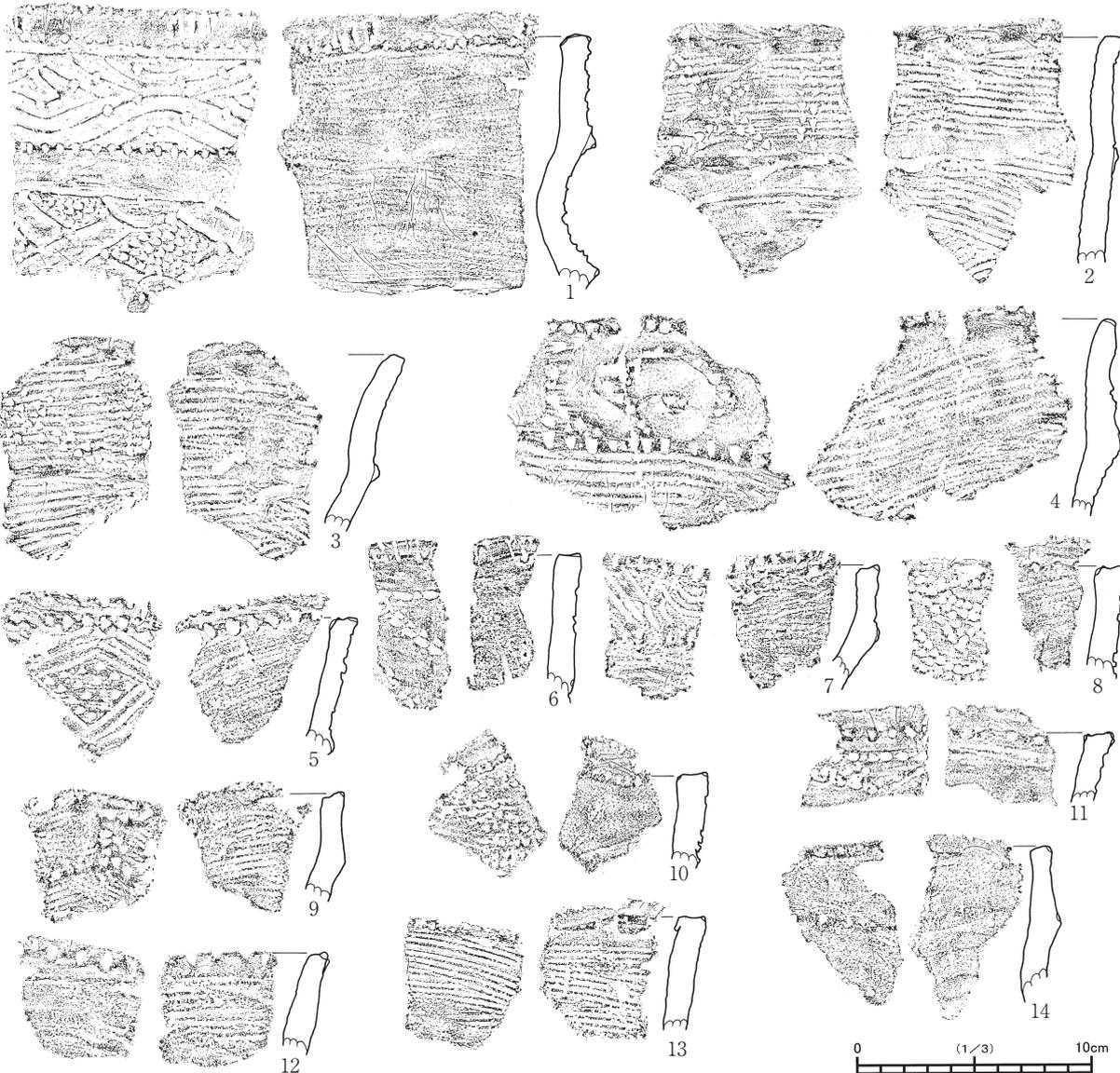


セクション位置：B-B'

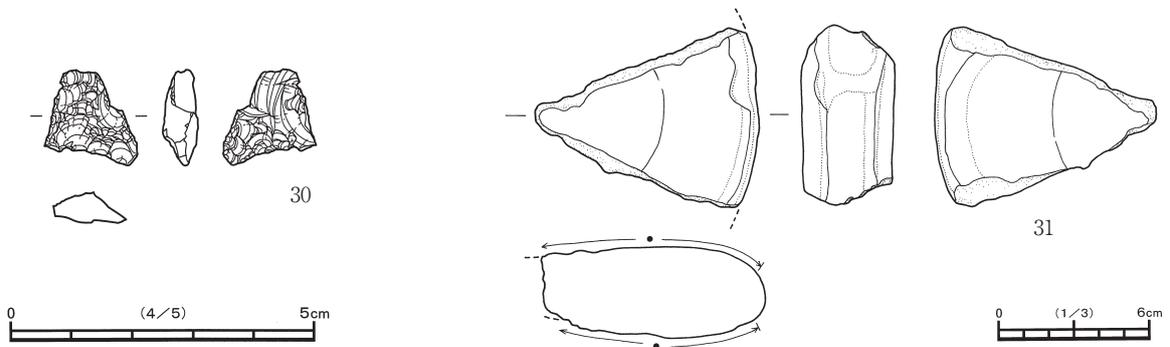
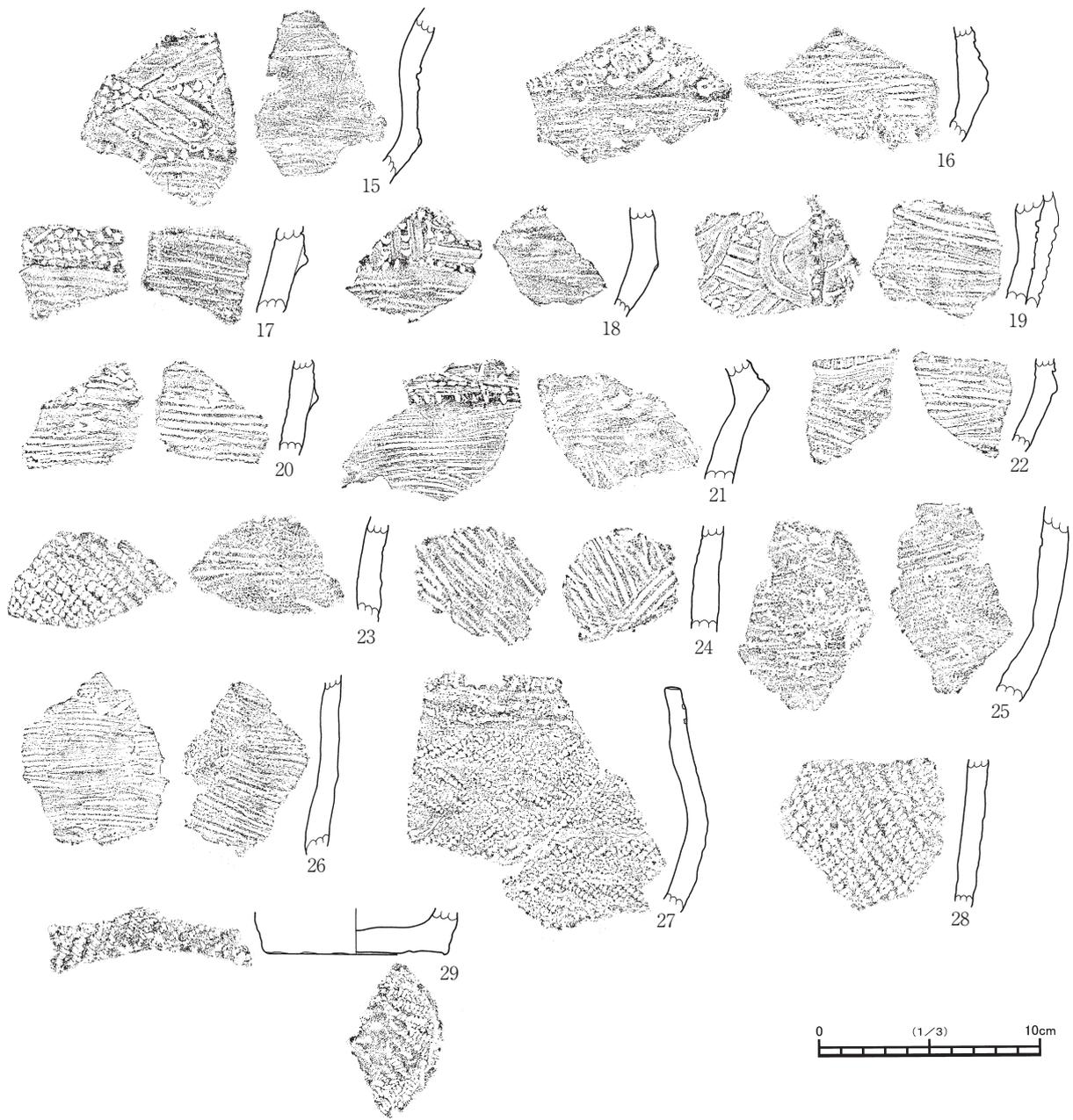
No.	種別 (土の混じり具合)	主体貝	その他の貝	備考
I	混貝土層			
II	混土貝層			

セクション位置：B-B'

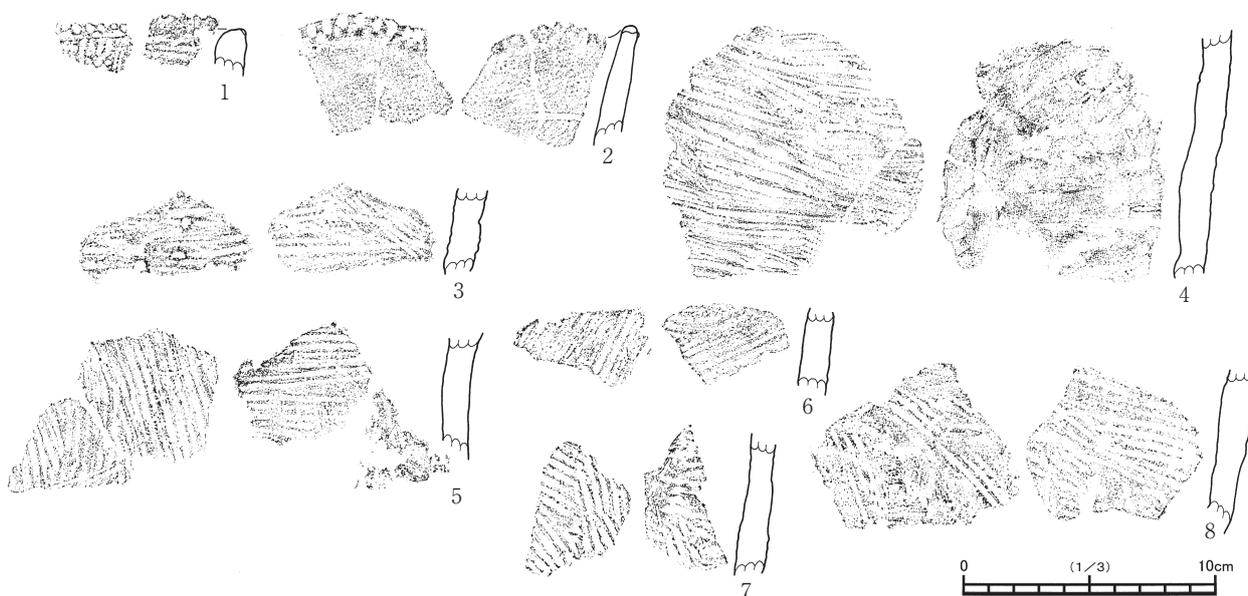
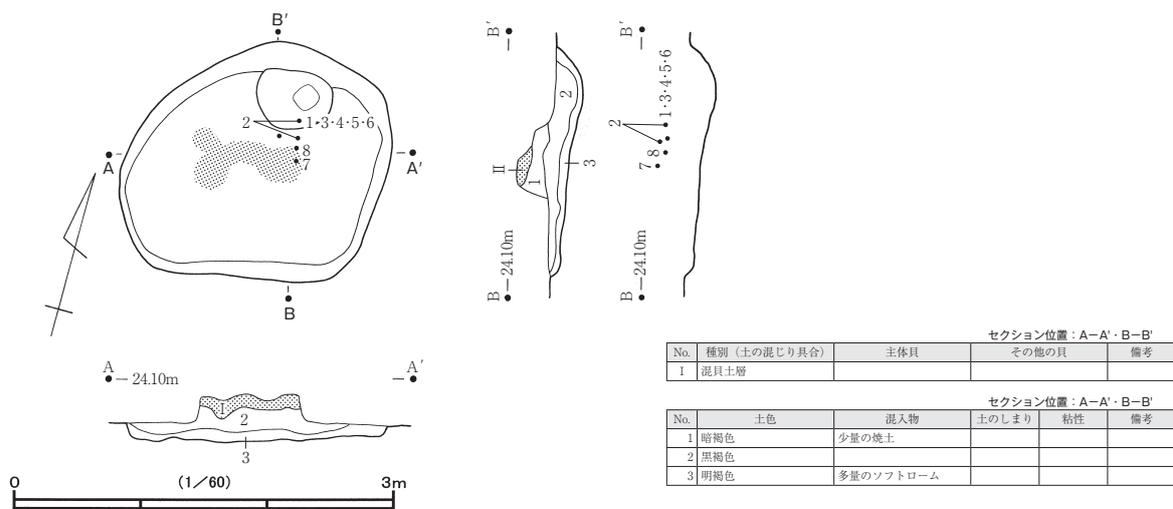
No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	暗褐色	少量のロームブロック (小)・ローム粒			
2	暗褐色	多量のソフトローム・ロームブロック (小)			地山
3	黒褐色	少量のローム粒・焼土粒			
4	暗褐色	少量の焼土粒			
5	暗褐色	やや多量のロームブロック (小)・焼土ブロック			
6	明褐色	ソフトローム主体			



第320図 182号遺構実測図(2)および出土遺物実測図(1)



第321图 182号遺構出土遺物実測図(2)



第322図 183号遺構実測図・遺物出土状況図および出土遺物実測図

は炉穴焼土面近くの基底面付近から出土した平縁の口縁部で、文様は微隆帯による三角形・菱形区画内に刺突文を充填するものである。2は縦位・斜位の連続刺突文がみられる。4は幅広の凹線による曲線文を主体的な文様とする。23は外面に縄文を施すもの。27～29は羽状縄文系・関山式深鉢形土器の口縁部・胴部・底部の破片である。出土石器のうち主なものを第321図30・31に示した。30は最大長15.4mmを測る黒曜石製の石鏃未製品である。31は多孔質輝石安山岩製の石皿破片である。

183号遺構

【検出位置】 セ72区3B-2A

【種別】 竪穴状遺構

【規模ほか】 長軸2.31m・短軸1.95m・深さ22cm（第322図）。

【覆土】 黒褐色土・暗褐色土などを主体とする。焼土を含むものがみられる。一部に貝層がみられ

る。貝層は遺構覆土の中心部分に、長軸88・短軸16・厚さ14cmほどの規模で形成されていた。覆土上層に堆積した貝の密度の低い混貝土層である。

【出土遺物】 10点・183gの礫が出土している。このうちすべてに被熱のあとがみられる。土器は、32点・598g出土している。取り上げ方法は、平面・垂直位置を記録した点あげのみである。遺物は、遺構の中央部よりやや東側、覆土の上層から出土している。土器のすべてが条痕文系のものであることから、当該時期を183号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器を第322図1～8に示した。これらは条痕文系深鉢形土器の口縁部および胴部破片である。

184号遺構

【検出位置】 セ72区3B-A4

【種別】 竪穴状遺構

【規模ほか】 長軸5.45m・短軸5.15m・深さ36cm（第323図）。

【覆土】 暗褐色土・明褐色土などを主体とする。ローム粒・ロームブロック、焼土を含むものが多い。一部に貝層がみられる。貝層は遺構覆土の中心部と北側・南東側の3箇所、長軸380・短軸170・厚さ21cmほどの規模で形成されていた。覆土上層に堆積した貝の密度の比較的高い混土貝層である。

【重複関係】 古墳周溝との重複により遺構北側および南側壁面の一部を欠失する。

【出土遺物】 274点・10,897gの礫および礫石器が出土している。このうち87.5%に被熱のあとがみられる。石器は、4点出土している。うちわけは、石鏃1点、石錐1点、磨石・敲石1点、磨石1点、このほか頁岩の剥片1点である。土器は、555点・9,662g出土している。取り上げ方法は、平面・垂直位置を記録した点あげ、一括扱いの両方がある。遺物は遺構北側の壁面近く、覆土上層を中心に出土している。土器のうちわけは、撚糸文系・条痕文系・羽状縄文系などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系のもので全体の99.2%あり、当該時期を184号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、点あげしたものを第324図1～13に、覆土一括扱いのものを第324図14～21・第325図22～49・第326図50～59に示した。1～4・14～27は条痕文系深鉢形土器の口縁部、5～13・28～54は胴部、55～57は底部の破片である。1は平縁の深鉢形土器で、文様は凹線による曲線文、縦位・斜位の直線文を主体とする。文様帯は楕円刺突を付す横位隆帯で区画する。口唇部前後面に浅い刺突をめぐらせる。44は縦位・横位の凹線文、屈曲部に楕円刺突文がみられる。58は撚糸文系深鉢形土器の胴部破片である。

出土石器を第326図60～63に示した。60は最大長31.6mmを測るチャート製の石鏃である。61は最大長27.1mmを測るチャート製の石錐である。62は最大長121mmを測る砂岩製の磨石・敲石である。63はデイサイト製磨石である。

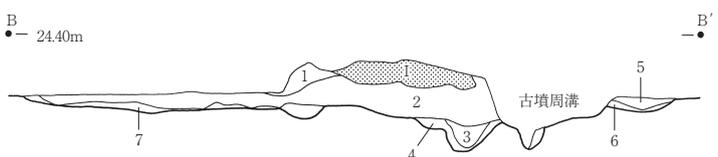
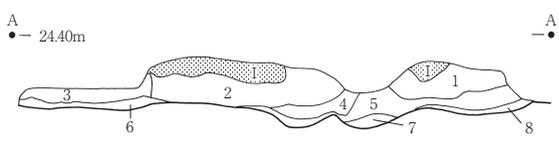
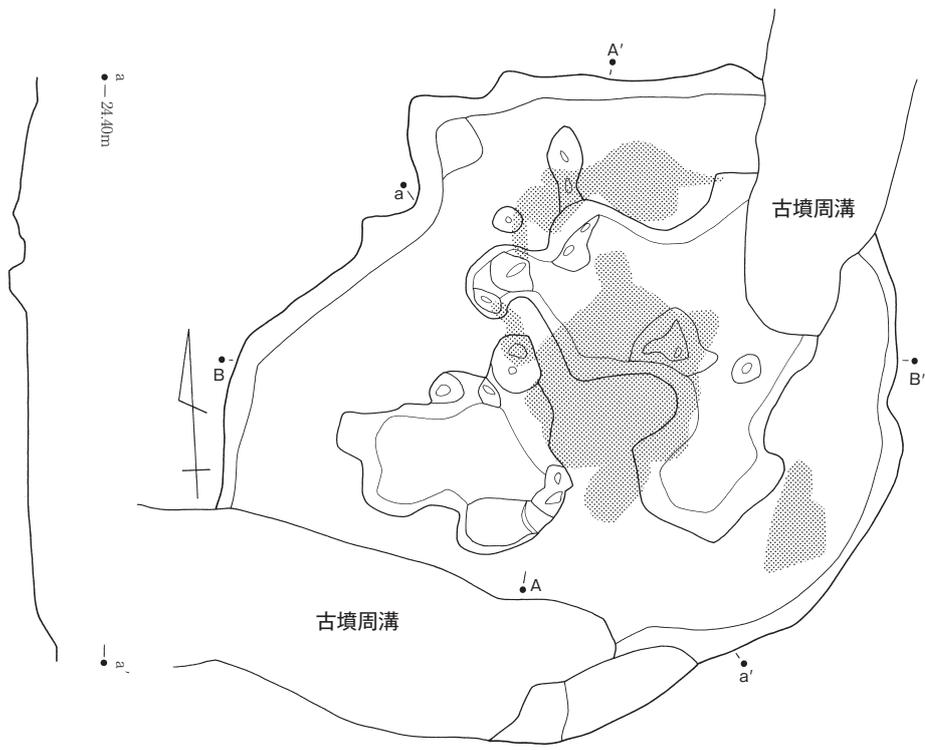
185号遺構

【検出位置】 セ72区3B-C1・C2

【種別】 竪穴状遺構

【規模ほか】 長軸3.39m・短軸3.29m・深さ14cm。南側は調査区外（第327図）。

【覆土】 黒褐色土・暗褐色土などを主体とする。ローム粒・焼土粒を含む層がみられる。一部に貝



セクション位置：A-A'

No.	種別 (土の混じり具合)	主体貝	その他の貝	備考
1	混土貝層	ハマグリ	少量のマテガイ・マガキ	

セクション位置：B-B'

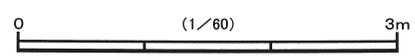
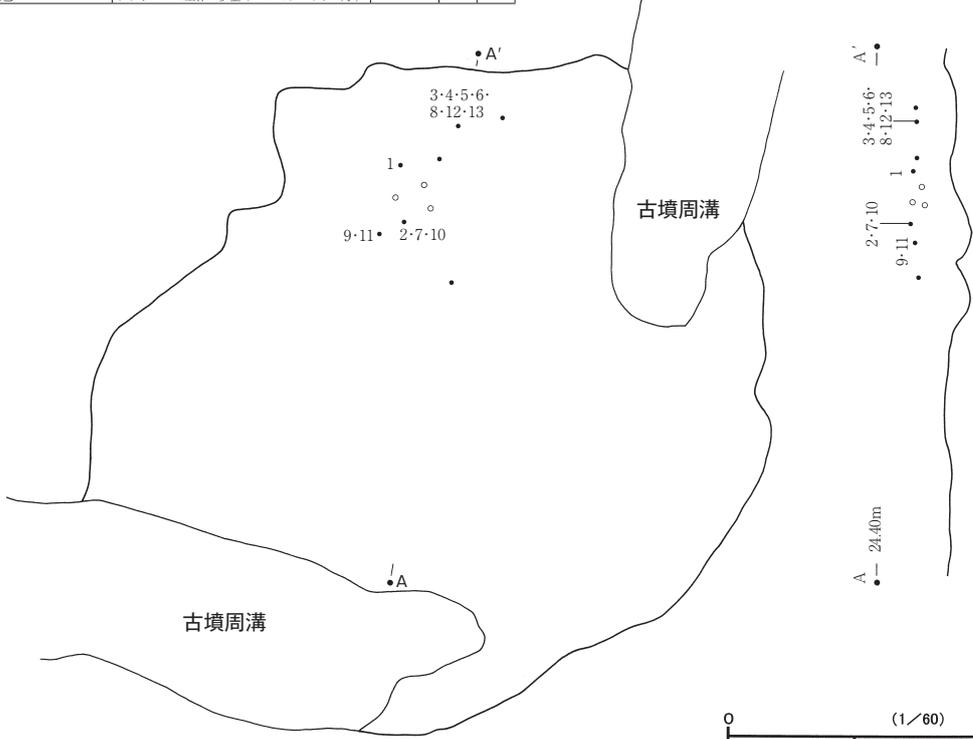
No.	種別 (土の混じり具合)	主体貝	その他の貝	備考
1	混土貝層	ハマグリ	少量のマテガイ・マガキ	

セクション位置：A-A'

No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	暗褐色	少量のローム粒			
2	暗褐色	多量のローム粒			
3	暗褐色	少量のローム粒・ソフトローム			
4	暗褐色	多量のローム粒・ロームブロック (小)			
5	暗褐色	多量のソフトローム・少量のローム粒			
6	暗褐色	多量のソフトローム・少量のローム粒			
7	暗褐色	多量のソフトローム			
8	明褐色	ソフトローム主体・少量のロームブロック (小)			

セクション位置：B-B'

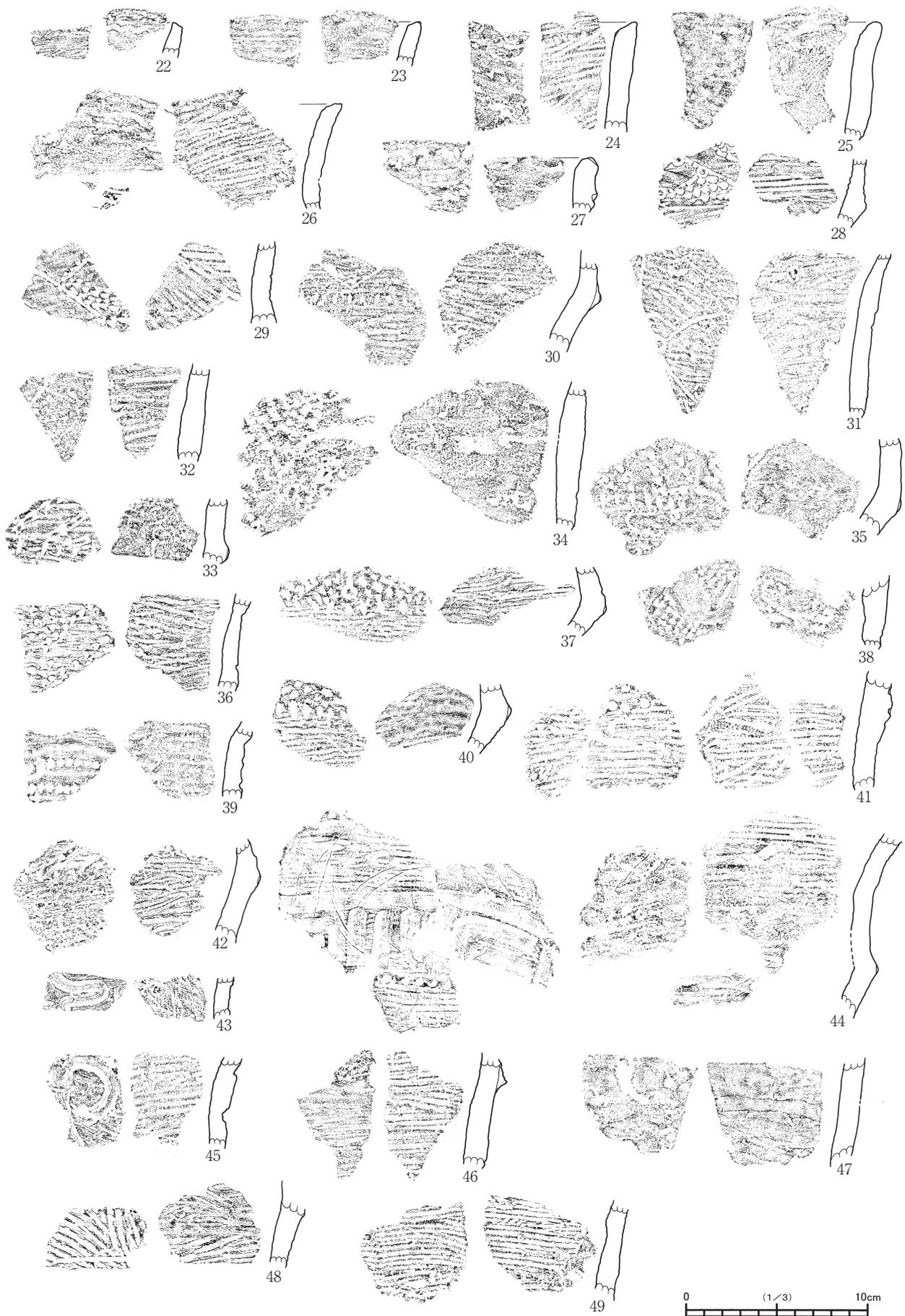
No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	暗褐色	少量のローム粒			
2	暗褐色	やや多量のローム粒・少量のソフトローム・焼土粒			
3	暗褐色	多量のソフトローム・少量の焼土粒			
4	明褐色	ソフトローム主体			
5	暗褐色	少量のソフトローム			
6	明褐色	ソフトローム主体			
7	明褐色	多量のソフトローム			



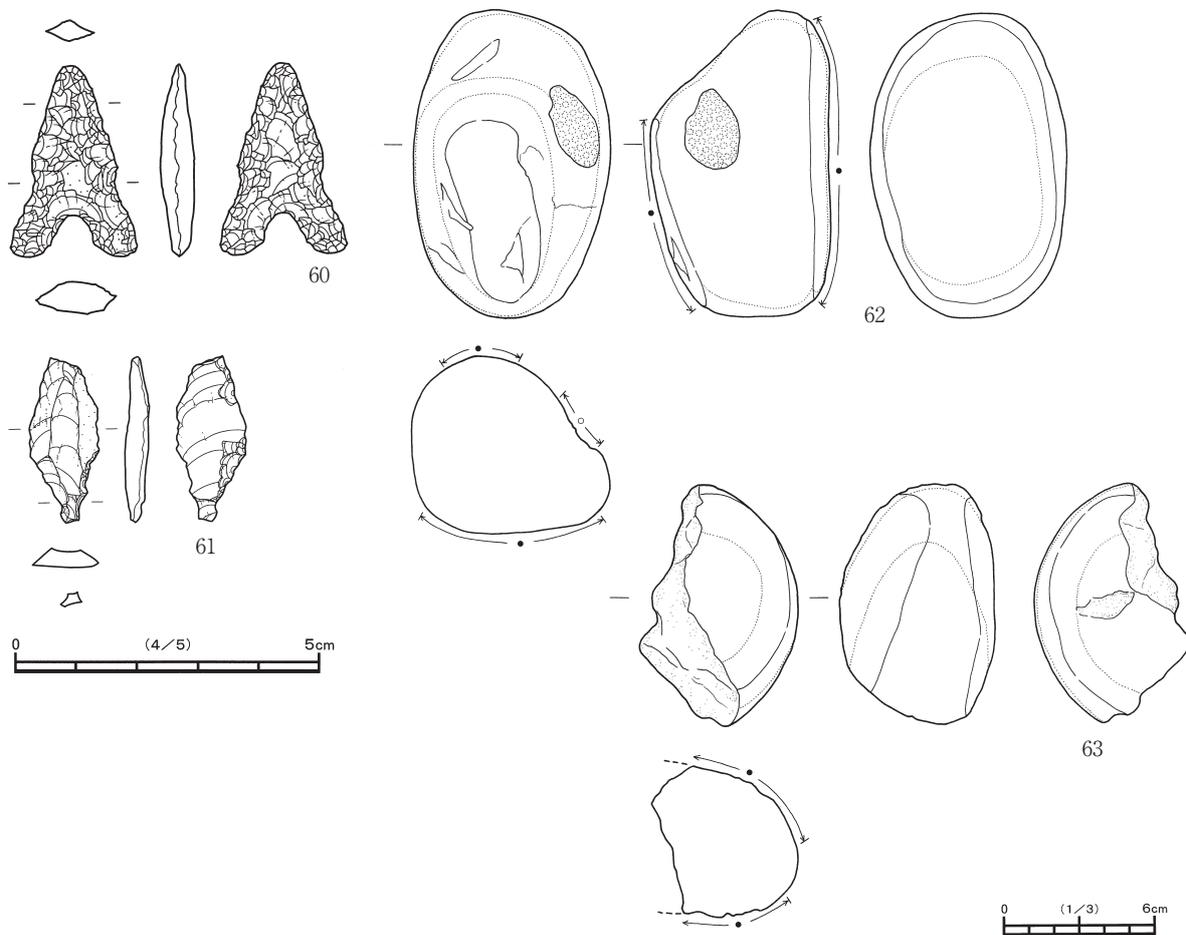
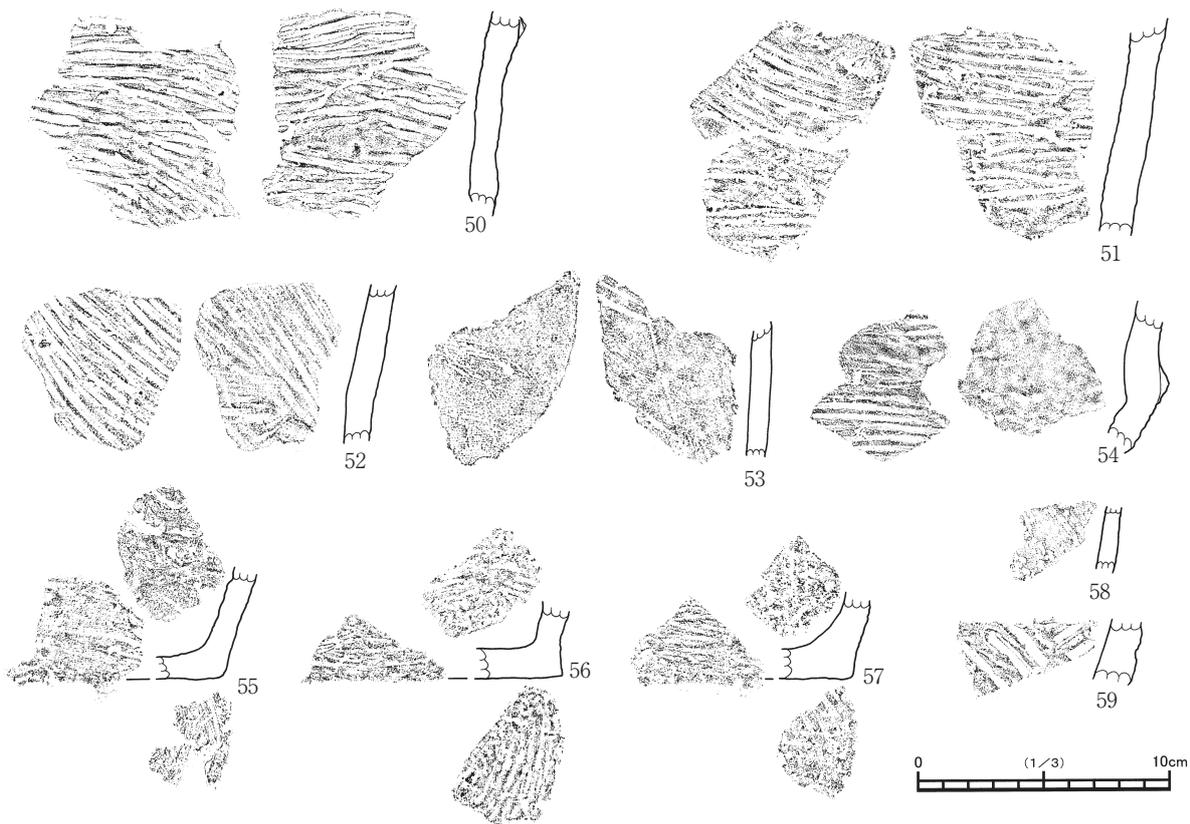
第323図 184号遺構実測図・遺物出土状況図



第324图 184号遺構出土遺物実測図(1)



第325图 184号遺構出土遺物実測図(2)



第326图 184号遺構出土遺物実測図(3)

層がみられる。貝層は遺構覆土の中心部南西側部分に、長軸216・短軸120・厚さ26cmほどの規模で形成されていた。貝層は床面付近から堆積する貝の密度の高い純貝層～混土貝層である。

【重複関係】 古墳周溝との重複により遺構の北側部分を欠失する。

【出土遺物】 165点・4,495gの礫が出土している。このうちすべてに被熱のあとがみられる。土器は、403点・12,163g出土している。取り上げ方法は、平面・垂直位置を記録した点あげ、一括扱いの両方がある。遺物は遺構の中央部、覆土上層～中層より多く出土した。土器のうちわけは、条痕文系、一部に縄文を施す条痕・縄文、羽状縄文系、加曽利B式などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系のもので全体の97.9%あり、当該時期を185号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、点あげしたものを第327図1、第328図2、第329図3・4、第330図5～10、第331図11～13に、覆土一括扱いのものを第331図14～34、第332図35～57、第333図58～65に示した。1～5・14～26は条痕文系深鉢形土器の口縁部、6～13・27～62は胴部、63は底部の破片である。1は平縁の深鉢形土器で、文様は凹線による曲線文・直線文、凹線間微隆帯上に円形文が施される。屈曲部には刺突がめぐる。口唇部前後面には刺突を施す。2は推定口径406mm・現存器高300mmを測る平縁の深鉢形土器である。文様の主体は縦位・横位の凹線文。口縁直下に二箇所の穿孔がみられる。口唇部前後面にはキザミを付す。3は推定口径429mm・現存器高254mmを測る緩い波状口縁の深鉢形土器である。微隆帯による菱形もしくは三角形区画内に刺突文を充填。微隆帯上に円形文を配す。屈曲部には刺突をめぐらせ、口唇部前後面にも刺突を施す。5は推定口径207mm・現存器高266mmを測る緩い波状口縁の深鉢形土器である。縦位・斜位の押し引き沈線もしくは連続刺突文を主な文様とする。横位隆帯上には楕円刺突を配し、口唇部前後面には刺突を施す。10は現存器高90mm・胴部最大径278mmを測るもので、凹線による区画内を刺突文で充填、区画のコーナー部にはハイガイ殻頂部の圧痕を施す。屈曲部には楕円刺突をめぐらす。49・50は外面に縄文を施す。64は羽状縄文系・花積下層式とみられる胴部破片である。65は加曽利B式の鉢形土器口縁部破片とみられる。

186号遺構

【検出位置】 セ72区3A-C4

【種別】 土坑

【規模ほか】 長軸0.86m・短軸0.61m・深さ34cm。形状はピット状（第334図）。

【覆土】 覆土中にわずかに貝ブロックを含むとの所見あり。

【重複関係】 古墳周溝と重複。その基底面より検出する。

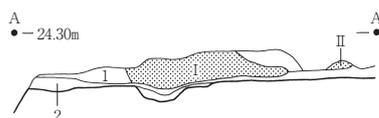
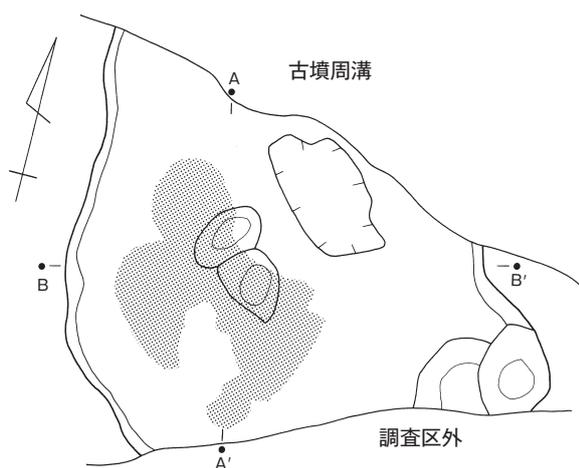
【出土遺物】 11点・248gの礫が出土している。このうちすべてに被熱のあとがみられる。土器は、6点・108g出土している。取り上げ方法は、覆土一括扱いのもののみである。うちわけは、条痕文系・不明などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系のもので全体のおよそ93%あり、当該時期を186号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、主なものを第334図1～3に示した。1・2は条痕文系深鉢形土器の胴部破片である。

187号遺構

【検出位置】 セ72区3A-C4・D3、3B-A2・B1

【種別】 土坑

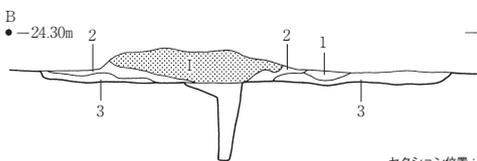


セクション位置：A-A'

No.	種別 (土の混じり具合)	主体貝	その他の貝	備考
I	純層貝	ハマグリ	少量のメテガイ	
II	混土貝層		ニシガイ・ハマグリ	

セクション位置：A-A'

No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	暗褐色	少量のローム粒・ロームブロック (小)			
2	黒褐色	少量のローム粒			

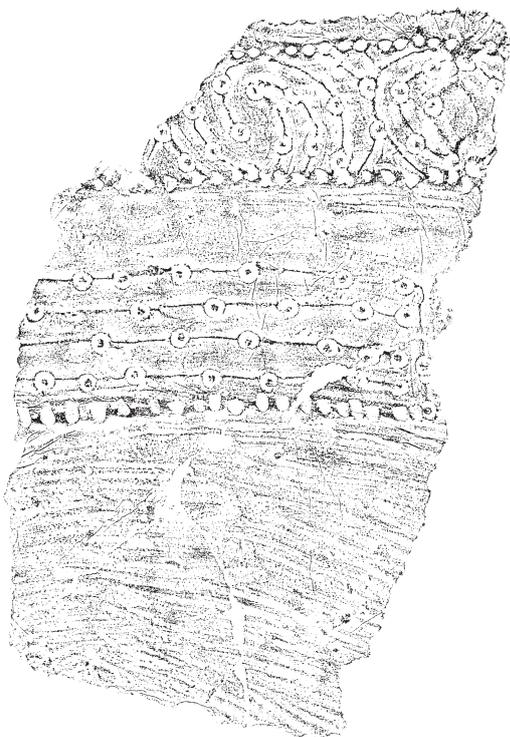
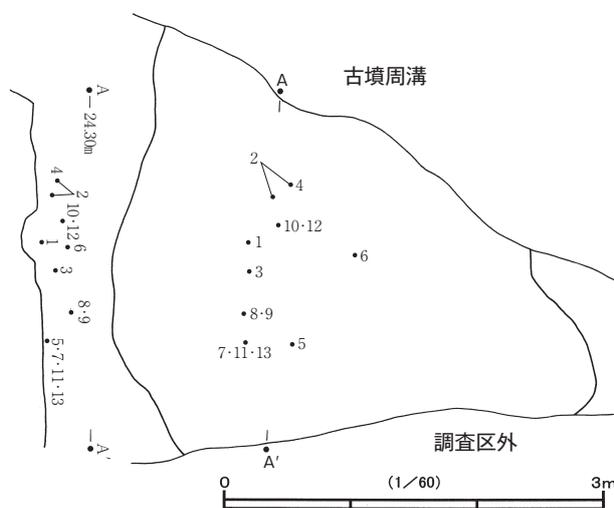
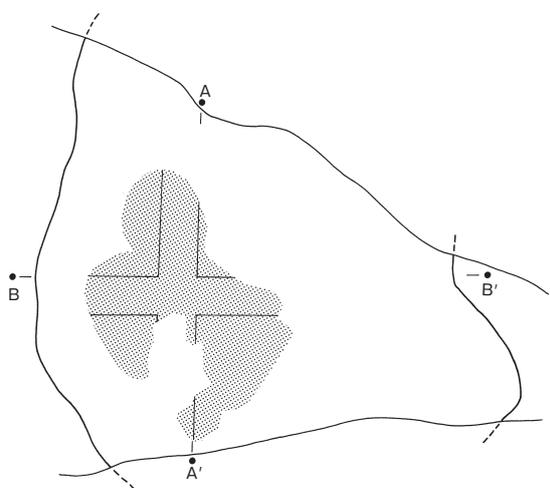


セクション位置：B-B'

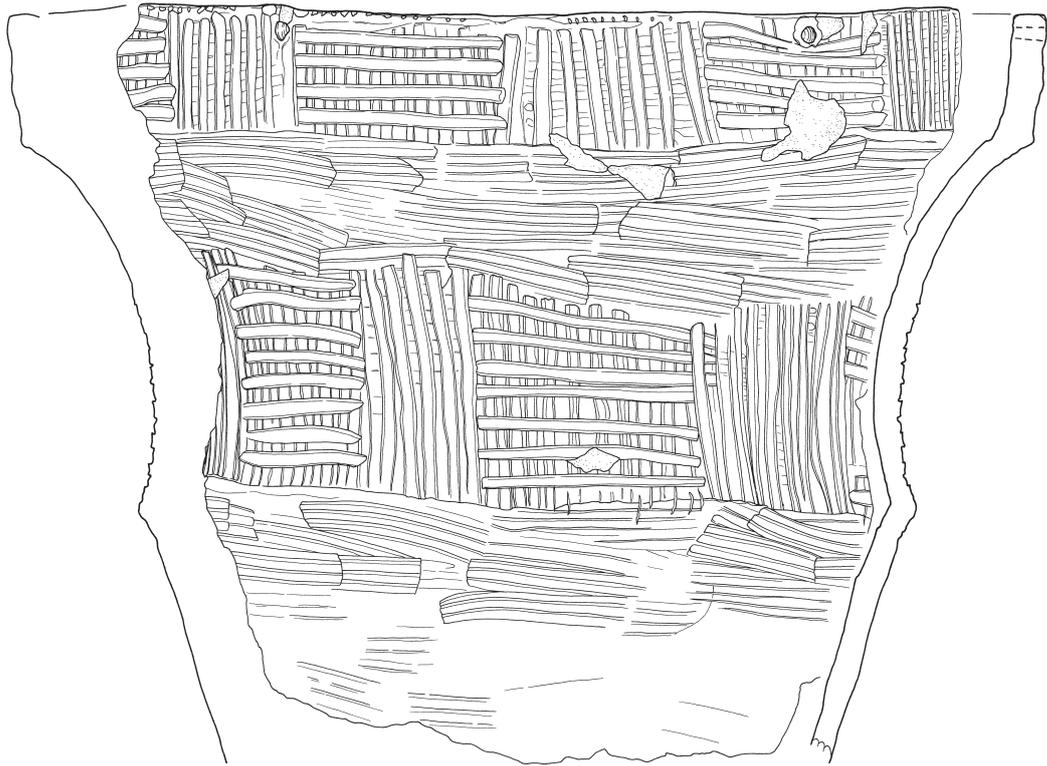
No.	種別 (土の混じり具合)	主体貝	その他の貝	備考
I	純貝層	ハマグリ	少量のメテガイ	

セクション位置：B-B'

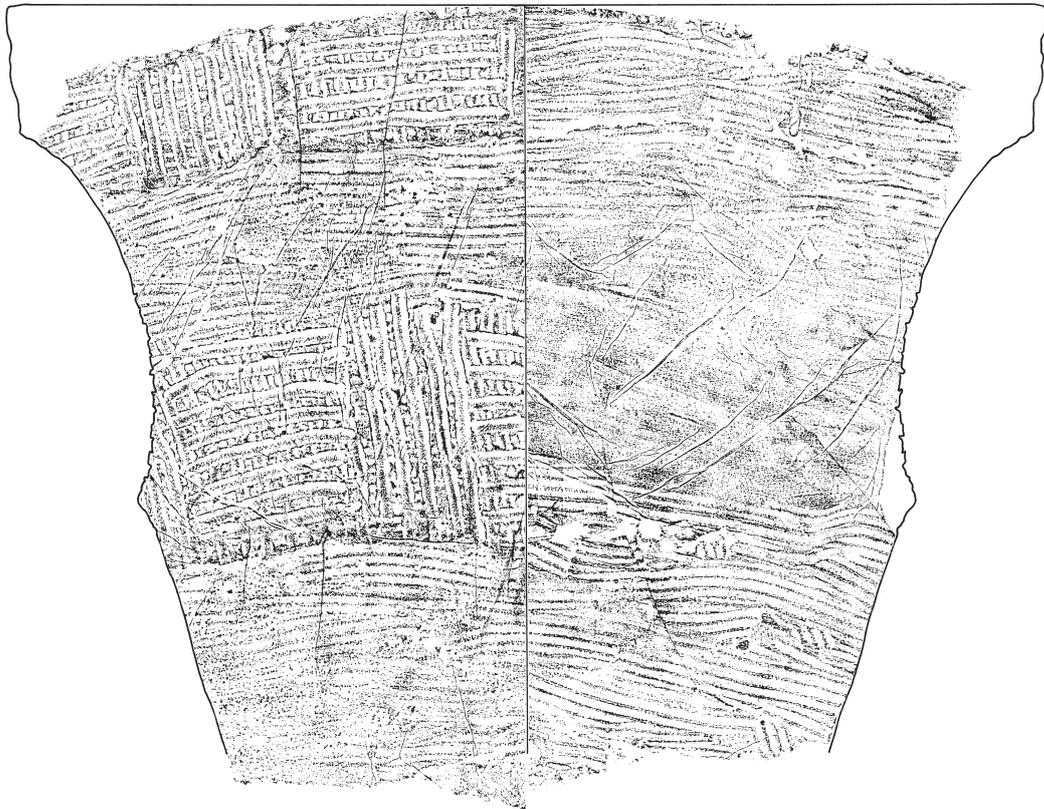
No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	黒褐色				
2	黒褐色	少量のローム粒・焼土粒			
3	暗褐色	少量のソフトローム			



第327図 185号遺構実測図・遺物出土状況図および出土遺物実測図(1)

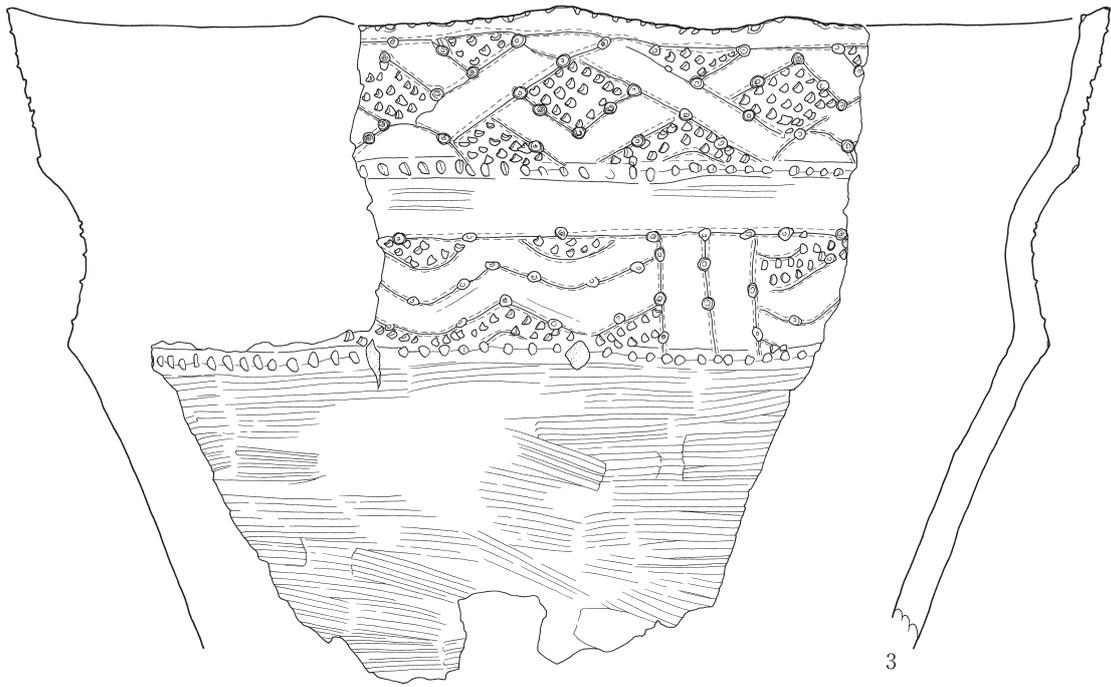


2

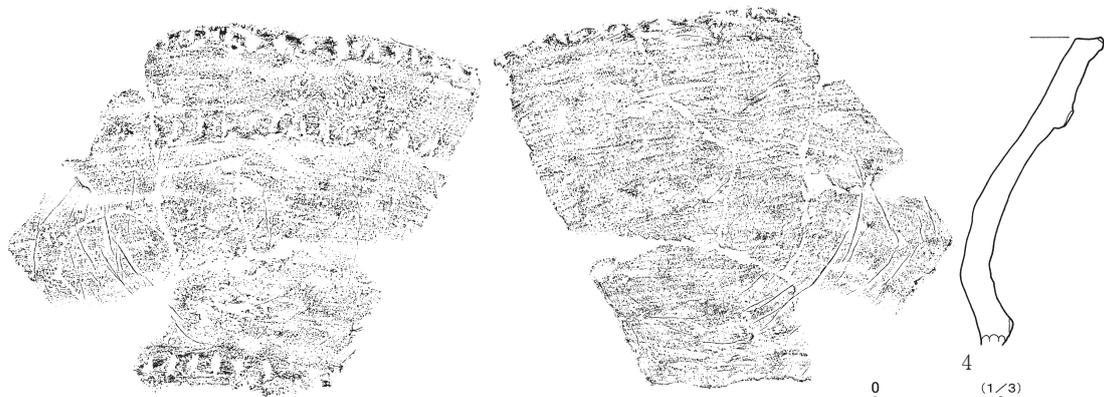
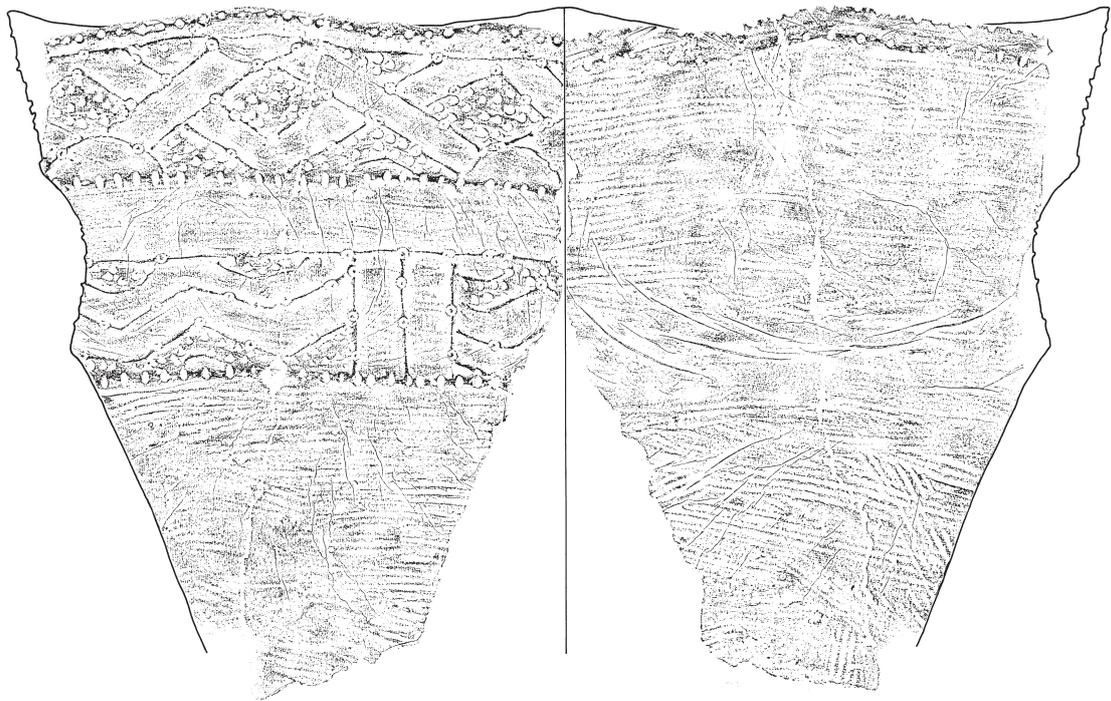


0 (1/3) 10cm

第328图 185号遺構出土遺物実測図(2)

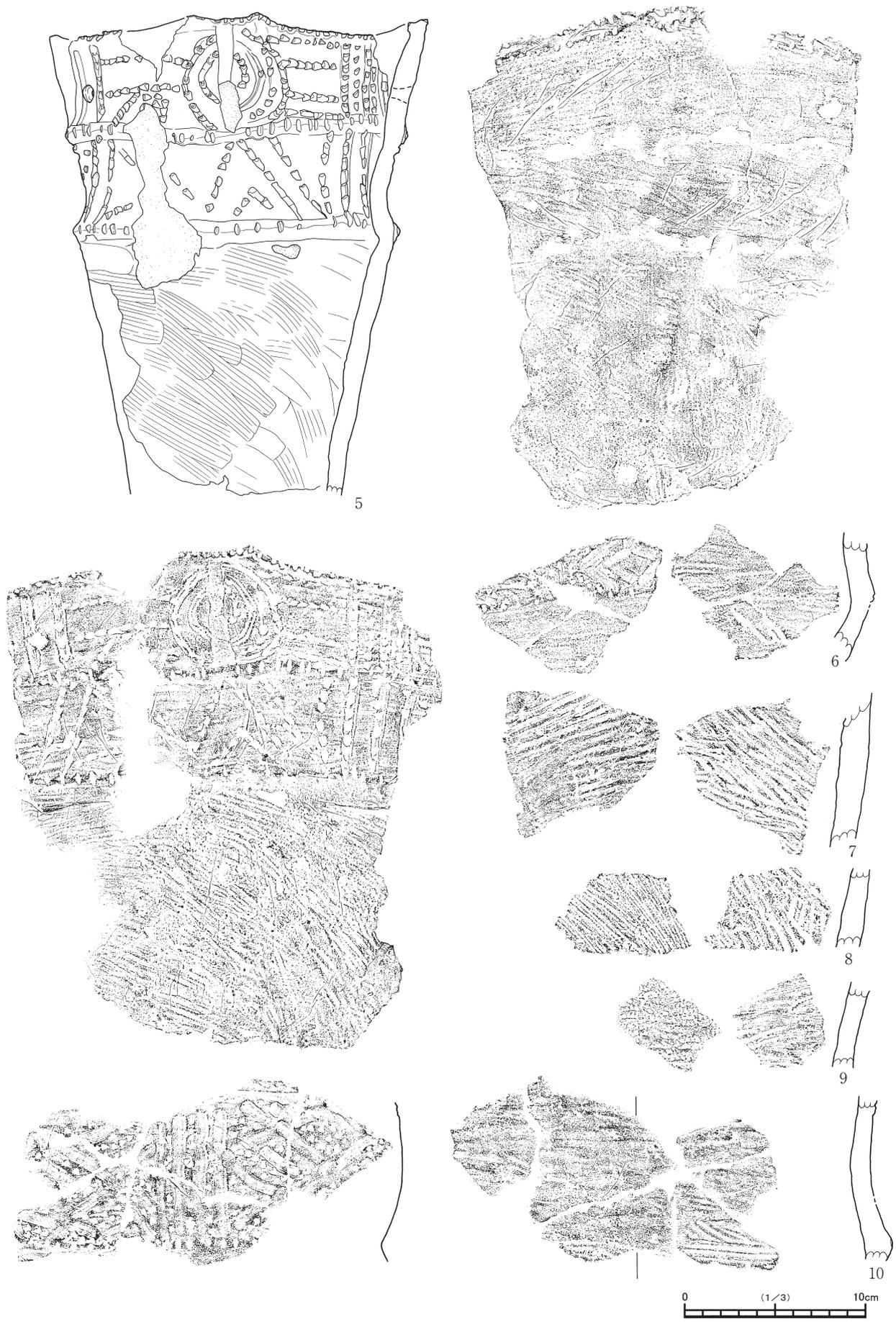


3

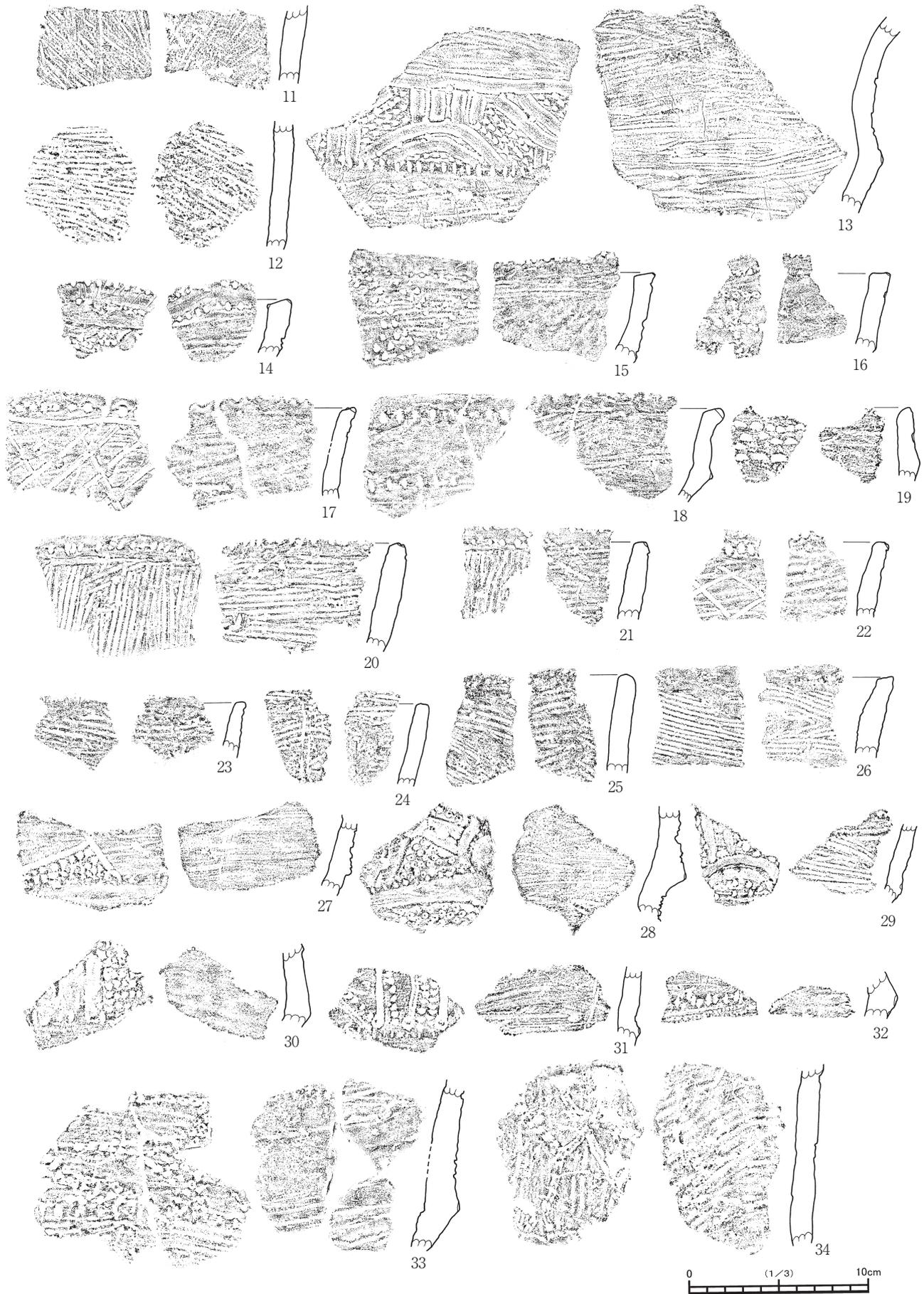


0 4 10cm
(1/3)

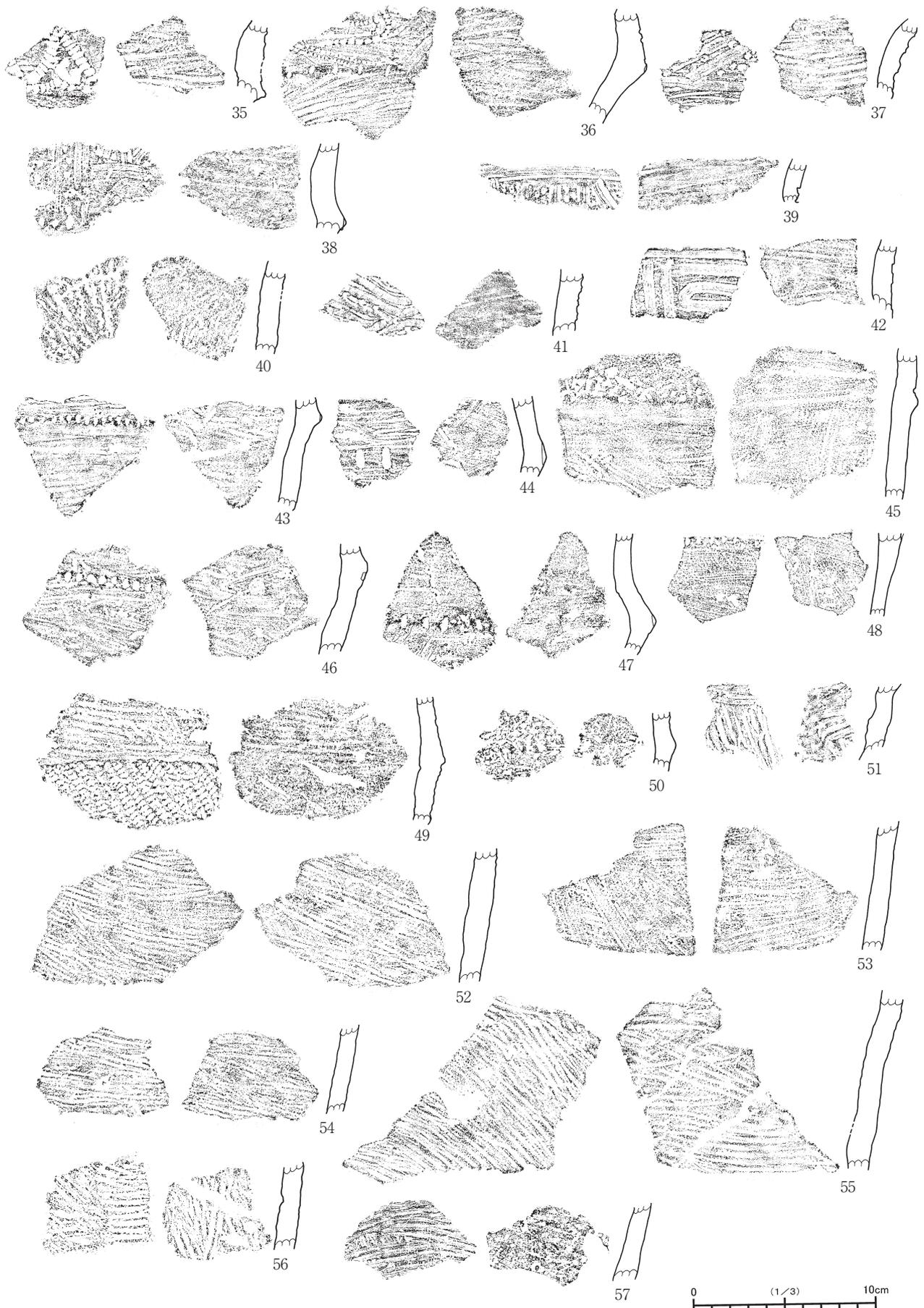
第329图 185号遺構出土遺物実測図(3)



第330图 185号遺構出土遺物実測図(4)



第331图 185号遺構出土遺物実測図(5)



第332图 185号遺構出土遺物実測図(6)

【規模ほか】 長軸1.78m・短軸1.06m・深さ44cm。形状は楕円形（第334図）。

【覆土】 黒褐色土・暗褐色土などを主体とする。ローム粒・ロームブロックを含む。

【重複関係】 古墳周溝と重複により、東側の一部を欠失する。

【出土遺物】 土器は、9点・98g出土している。取り上げ方法は、覆土一括扱いのもののみである。うちわけは、条痕文系・不明などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系のもので全体のおよそ54%あり、当該時期を187号遺構の帰属時期とみる。ただし、図示できるような資料はなかった。

188号遺構

【検出位置】 セ72区3A-B4

【種別】 炉穴？

【規模ほか】 長軸1.12m・短軸0.69m・深さ7cm。形状は楕円形（第335図）。

【覆土】 ローム粒・焼土粒を含む黒褐色土。

【出土遺物】 土器は、11点・83g出土している。取り上げ方法は、覆土一括扱いのもののみである。主体を占めるのは、そのすべてが条痕文系のものであることから、当該時期を188号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、主なものを第335図1～3に示した。いずれも条痕文系深鉢形土器の胴部破片である。

189号遺構

【検出位置】 セ72区4A-A3

【種別】 土坑

【規模ほか】 長軸1.63m・短軸1.22m・深さ93cm。形状は楕円形（第335図）。

出土遺物がないため遺構の詳細時期は不明。

190号遺構

【検出位置】 セ72区4A-C1

【種別】 土坑？

【規模ほか】 長軸1.98m・短軸0.82m・深さ10cm。形状は長楕円形（第335図）。

【覆土】 黒色土・明褐色土を主体とする。多量のロームブロック含む。

出土遺物がないため遺構の詳細時期は不明。

191号遺構

【検出位置】 セ72区4A-C1

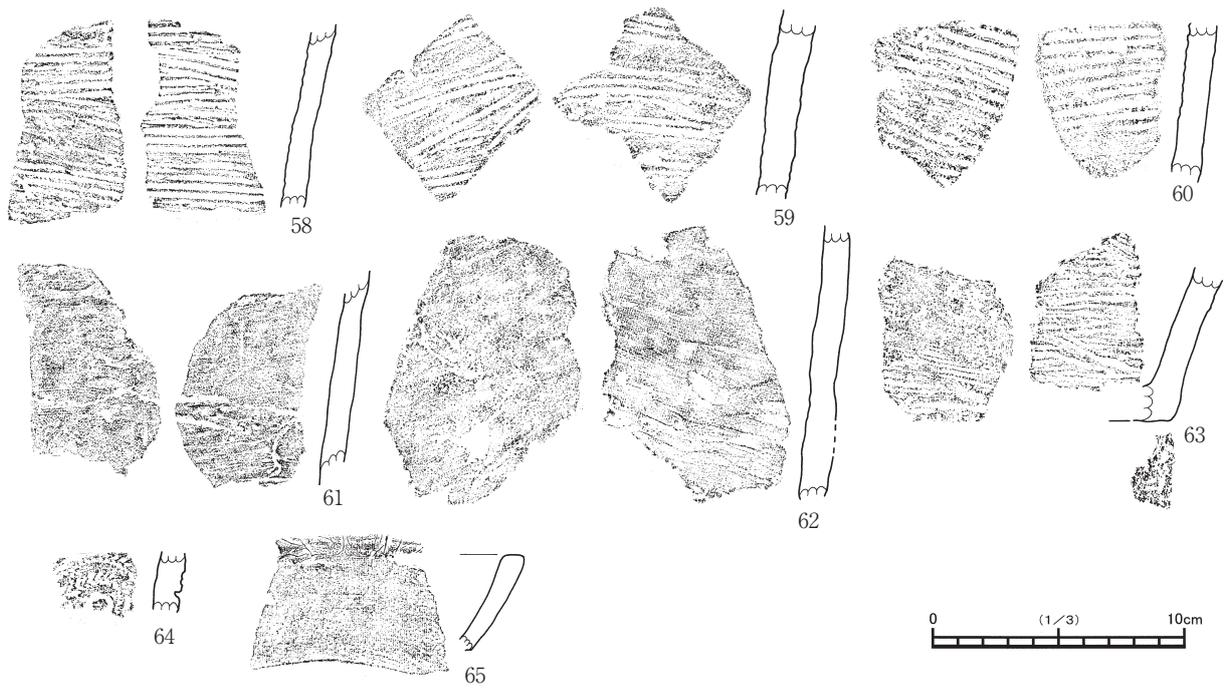
【種別】 土坑

【規模ほか】 長軸2.42m・短軸1.45m・深さ43cm。形状は楕円形（第335図）。

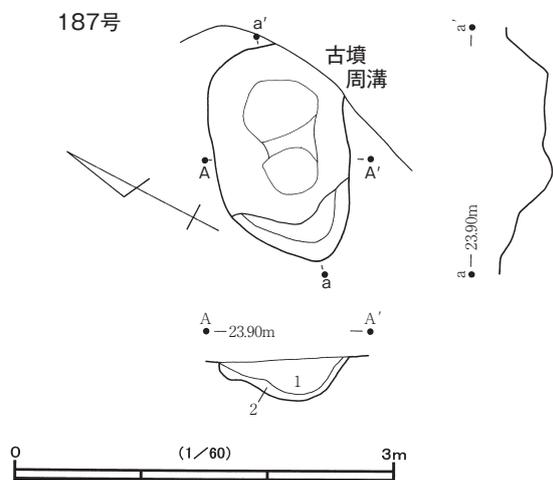
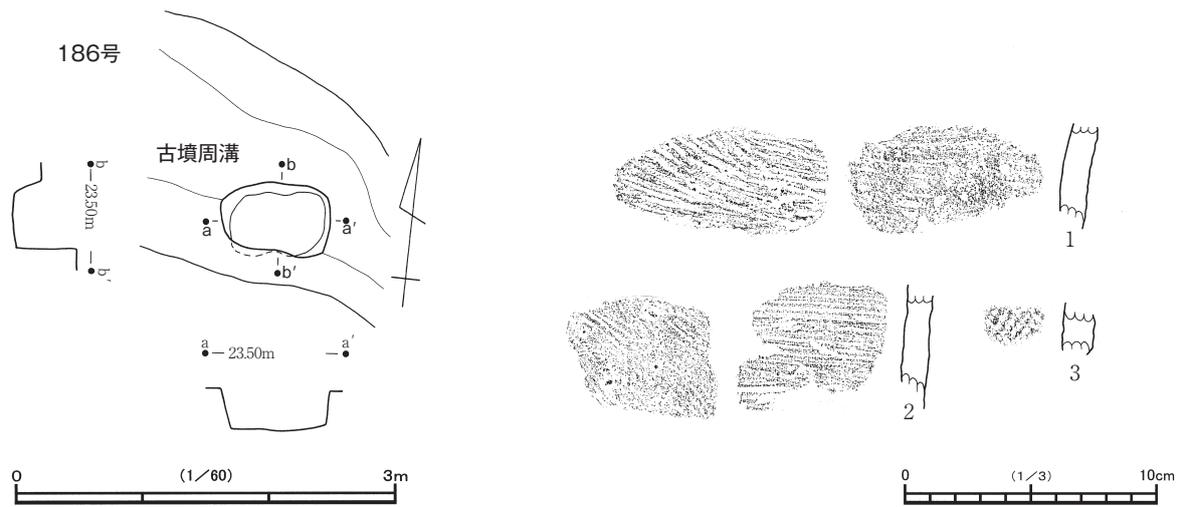
【覆土】 黒褐色土・明褐色土を主体とする。ロームブロック・ローム粒を多く含む。

【出土遺物】 2点・249gの礫が出土している。このうち31.7%に被熱のあとがみられる。土器は、30点・512g出土している。取り上げ方法は、覆土一括扱いのもののみである。そのすべてが条痕文系のものであることから、当該時期を191号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、主なものを第335図4～10に示した。いずれも条痕文系深鉢形土器の



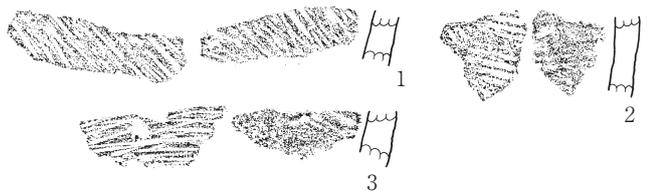
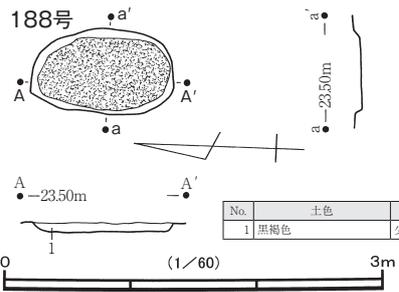
第333図 185号遺構出土遺物実測図(7)



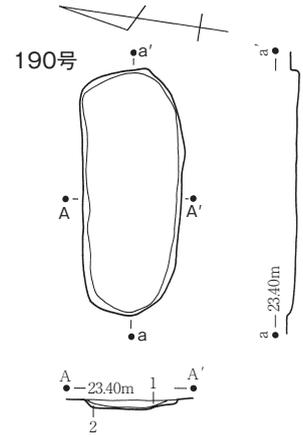
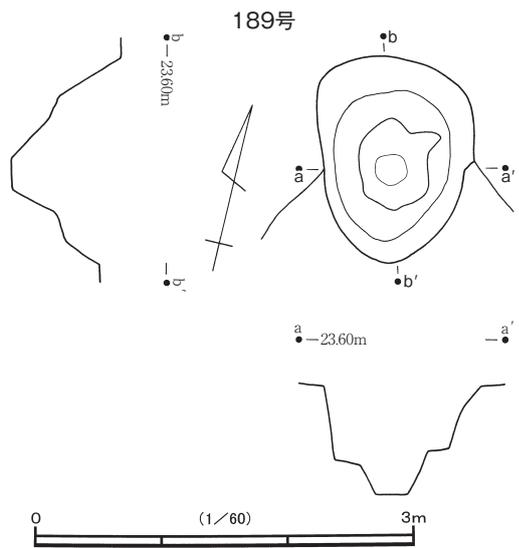
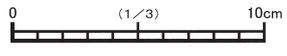
セクション位置：A-A'

No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	黒褐色	少量のローム粒			
2	暗褐色	ソフトローム主体・多量のローム粒			

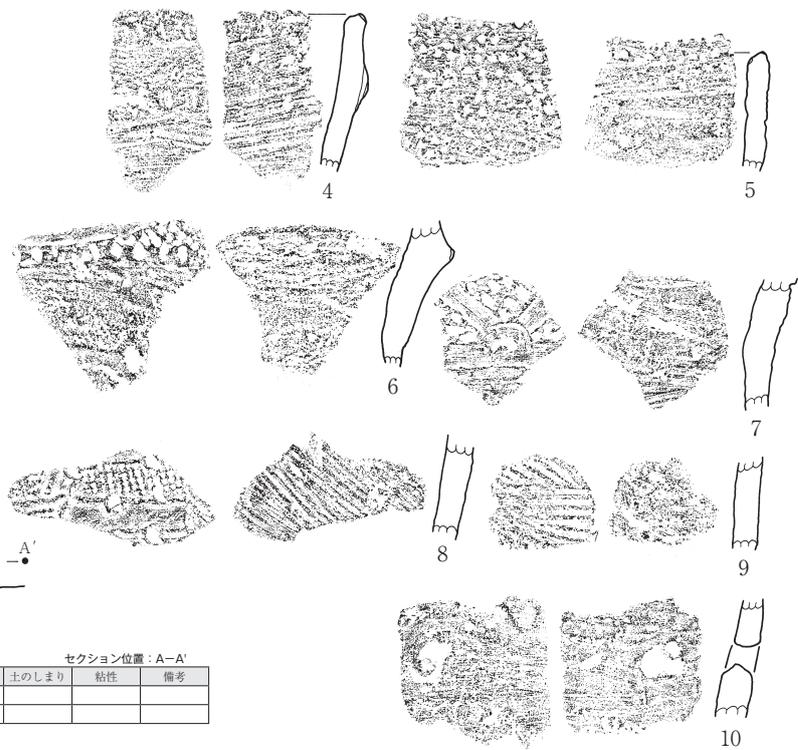
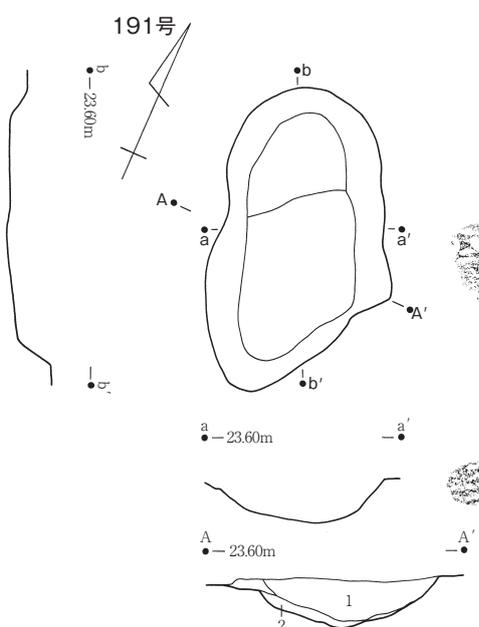
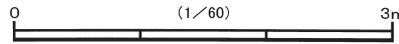
第334図 186・187号遺構実測図および出土遺物実測図



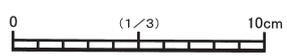
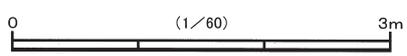
セクション位置: A-A'					
No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	黒褐色	少量のソフトローム・焼土粒			床面わずかに燃焼



セクション位置: A-A'					
No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	黒色	やや多量のソフトローム			
2	明褐色	かなり多量のソフトローム	有り		



セクション位置: A-A'					
No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	黒褐色	多量のロームブロック (小)・ローム粒			
2	明褐色	ソフトローム主体・多量のロームブロック (小)			



第335図 188・189・190・191号遺構実測図および出土遺物実測図

口縁部および胴部破片である。

192号遺構

【検出位置】 セ72区3A-D4

【種別】 土坑

【規模ほか】 長軸1.70m・短軸1.27m・深さ18cm。形状は楕円形（第336図）。

【覆土】 黒褐色土・暗褐色土を主体とする。ロームブロック・粒を含む。

【出土遺物】 1点・33gの被熱のあとがみられる礫が出土している。土器は、4点・94g出土している。取り上げ方法は、覆土一括扱いのもののみである。そのすべてが条痕文系のものであることから、当該時期を192号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、主なものを第336図1・2に示した。条痕文系深鉢形土器の口縁部および胴部破片である。

193号遺構

【検出位置】 セ72区3A-D4

【種別】 土坑

【規模ほか】 長軸1.31m・短軸1.19m・深さ30cm。形状は円形（第336図）。

【覆土】 黒褐色土・暗褐色土などを主体とする。ロームブロック・ローム粒を多く含む。

【出土遺物】 3点・13gの礫が出土している。すべてに被熱のあとがみられる。石器は、黒曜石の剥片1点がある。覆土一括扱いで取り上げた土器1点・8gが出土している。この土器が条痕文系のものであることから、当該時期を193号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 第336図3は条痕文系深鉢形土器の胴部破片である。

194号遺構

【検出位置】 セ72区4A-C3

【種別】 土坑

【規模ほか】 長軸1.66m・短軸1.14m・深さ43cm。形状は楕円形（第336図）。

【覆土】 暗褐色土・黒褐色土などを主体とする。ロームブロック・ローム粒を含む。

【出土遺物】 土器は、5点・53g出土している。取り上げ方法は、覆土一括扱いのもののみである。そのすべてが条痕文系のものであることから、当該時期を194号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、主なものを第336図4～6に示した。いずれも条痕文系深鉢形土器の胴部破片である。

195号遺構

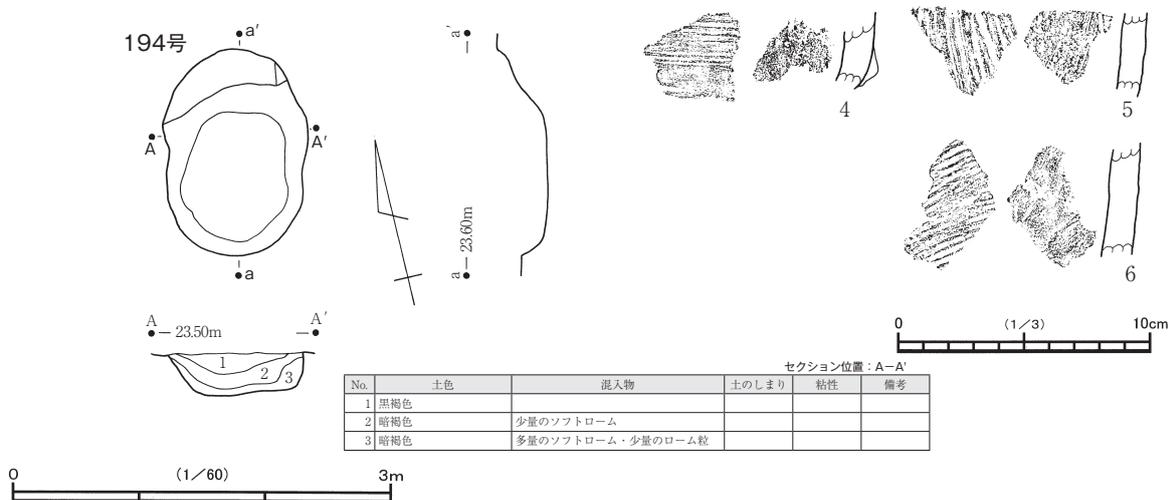
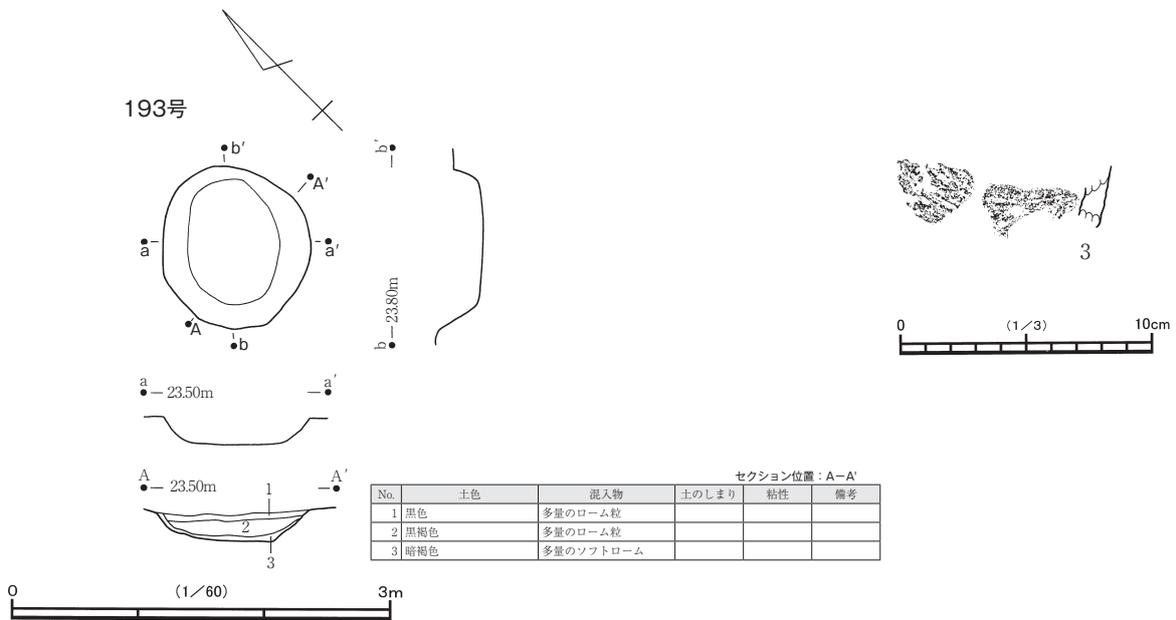
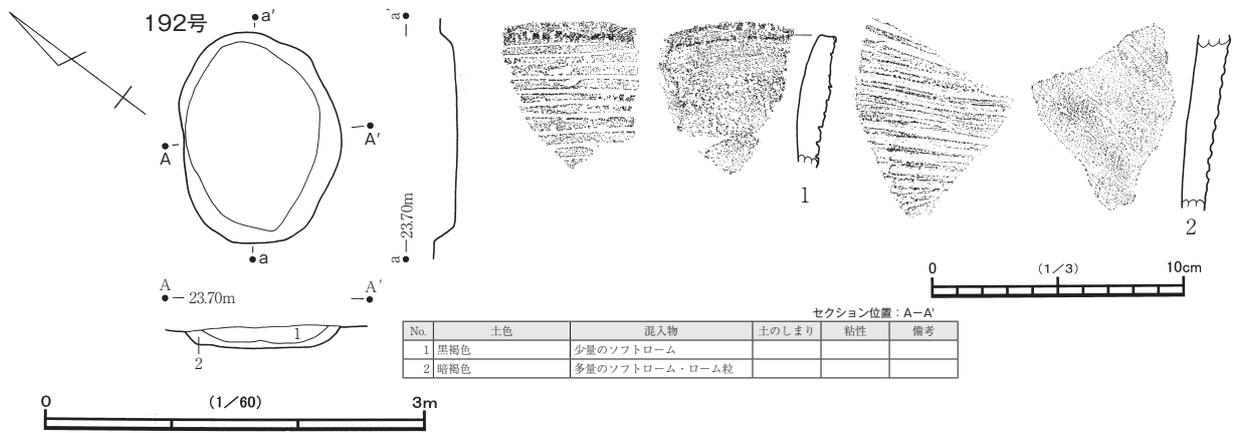
【検出位置】 セ72区3B-B1

【種別】 竪穴状遺構

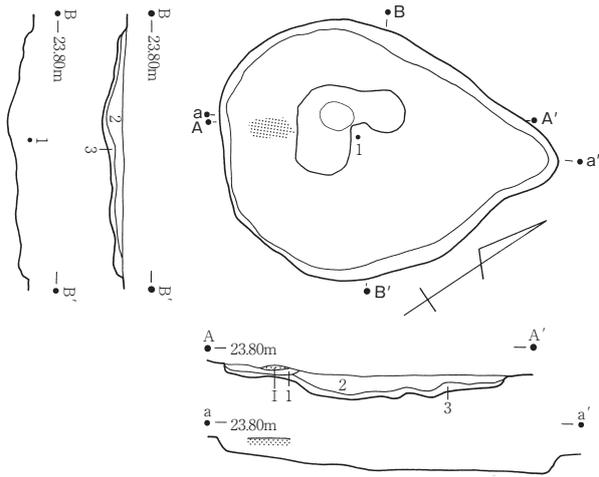
【規模ほか】 長軸2.68m・短軸2.11m・深さ29cm。形状はイチジク状。一部に貝層がみられる。貝層は遺構覆土の南西部分に、長軸34・短軸18・厚さ6cmほどの規模で形成されていた（第337図）。

【覆土】 暗褐色土・黒褐色土などを主体とする。ロームブロック・ローム粒を含む。

【出土遺物】 68点・1,873gの礫が出土している。このうちすべてに被熱のあとがみられる。土器は、72点・1,391g出土している。取り上げ方法は、平面・垂直位置を記録した点あげ、一括扱いの



第336図 192・193・194号遺構実測図および出土遺物実測図

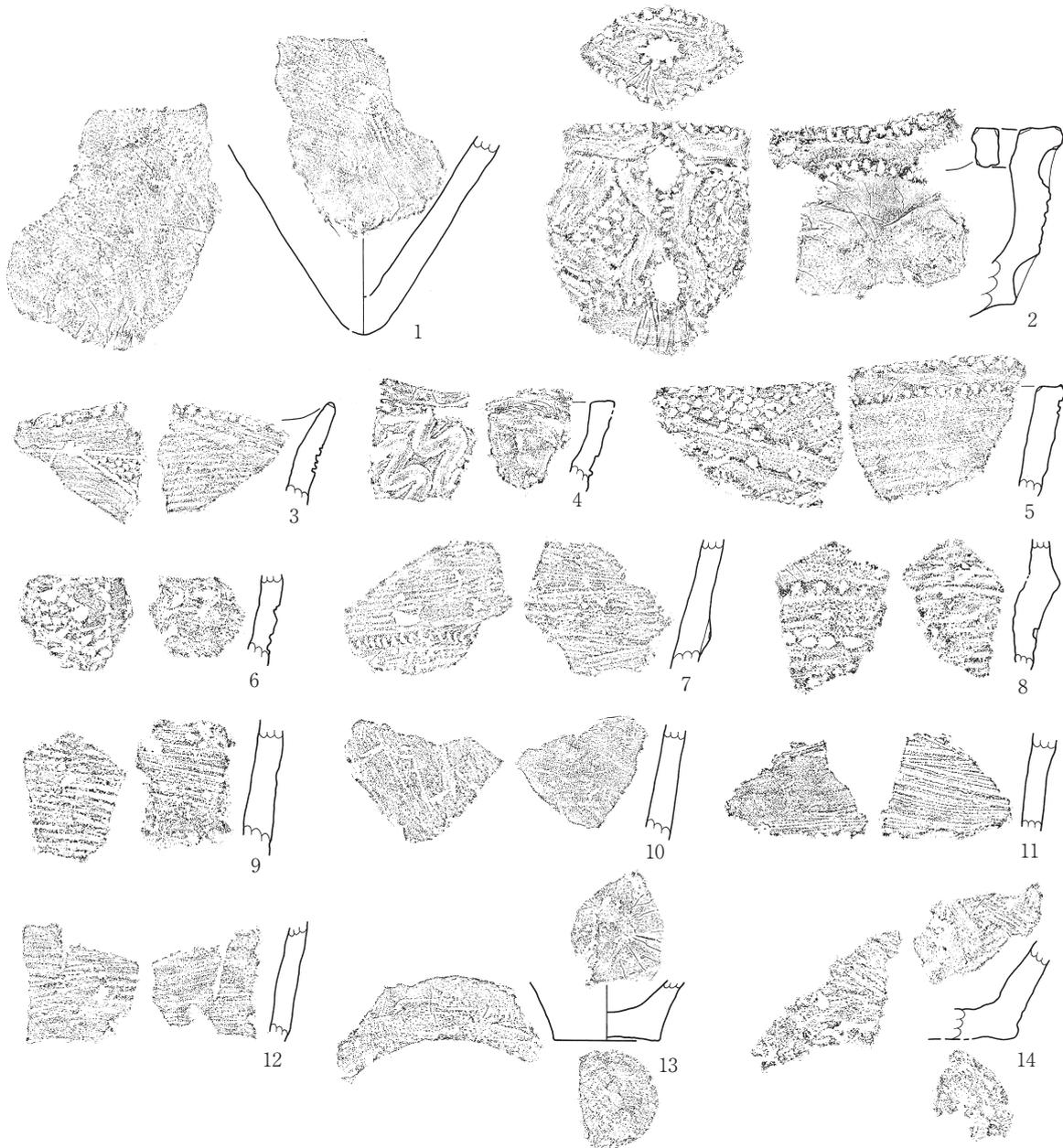


セクション位置：A-A'・B-B'

No.	種別（土の混じり具合）	主体貝	その他の貝	備考
1	混土貝層（黒色）	マガキ		

セクション位置：A-A'・B-B'

No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	黒褐色	少量のローム粒・ソフトローム			
2	暗褐色	多量のソフトローム			
3	黒褐色	多量のローム粒			



第337図 195号遺構実測図・遺物出土状況図および出土遺物実測図

両方がある。そのすべてが条痕文系のものであることから、当該時期を195号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、点あげしたものを第337図1に、覆土一括扱いのものを第337図2～14に示した。1は遺構中央部、覆土の上層から出土した条痕文系深鉢形土器の底部で、現存器高86mmを測る。形状は尖底である。2は環状把手部の破片で、文様は凹線による区画内に円形刺突文を充填、要所にハイガイ殻頂部圧痕を施すもの。刺突を付す横位隆帯がめぐる。また把手口唇部にも刺突がめぐる。3～5は口縁部、6～12は胴部、13・14は平底の底部破片である。

196号遺構

【検出位置】 セ72区3B-B2・B4、4B-A1・A3

【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸2.72m・短軸2.55m・深さ79cm。燃焼面3箇所（第338図）。

【覆土】 黒褐色土・黒色土などを主体とする。ローム粒・焼土粒を含むものが多い。一部に貝層がみられる。貝層は遺構覆土の中心部分に、長軸196・短軸170・厚さ81cmほどの規模で形成されていた。貝層は遺構基底面近くまで堆積し、貝の密度の高い純貝層～混土貝層からなる。

【出土遺物】 73点・2,222gの礫および礫石器が出土している。このうち92.2%に被熱のあとがみられる。石器は、磨石1点出土している。土器は、314点・5,762g出土している。取り上げ方法は、覆土一括扱いのもののみである。うちわけは、条痕文系・羽状縄文系などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系のもので全体のおよそ99%あり、当該時期を196号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、主なものを第338図1～9・第339図10～29・第340図30～49に示した。1～9は条痕文系深鉢形土器の口縁部、10～46は胴部、47・48は底部の破片である。9は推定口径198mm・現存器高144mmを測る口縁がやや波状をなすもので、外面は斜方向に、内面は横・斜方向に条痕文を施す。19は横位・斜位の連続刺突文がみられるものである。49は羽状縄文系深鉢形土器の胴部破片である。出土石器は第340図50に示した。輝石安山岩製の磨石である。

197号遺構

【検出位置】 セ72区4A-D1

【種別】 土坑

【規模ほか】 長軸1.74m・短軸1.01m・深さ16cm。形状は楕円形（第341図）。

【覆土】 黒褐色土・明褐色土などを主体とする。ローム粒・ロームブロックを含む。

出土遺物がないため遺構の詳細時期は不明。

198号遺構

【検出位置】 セ72区4A-D2

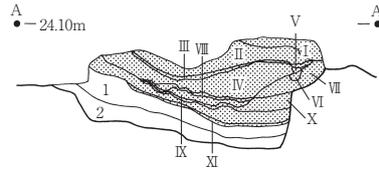
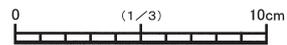
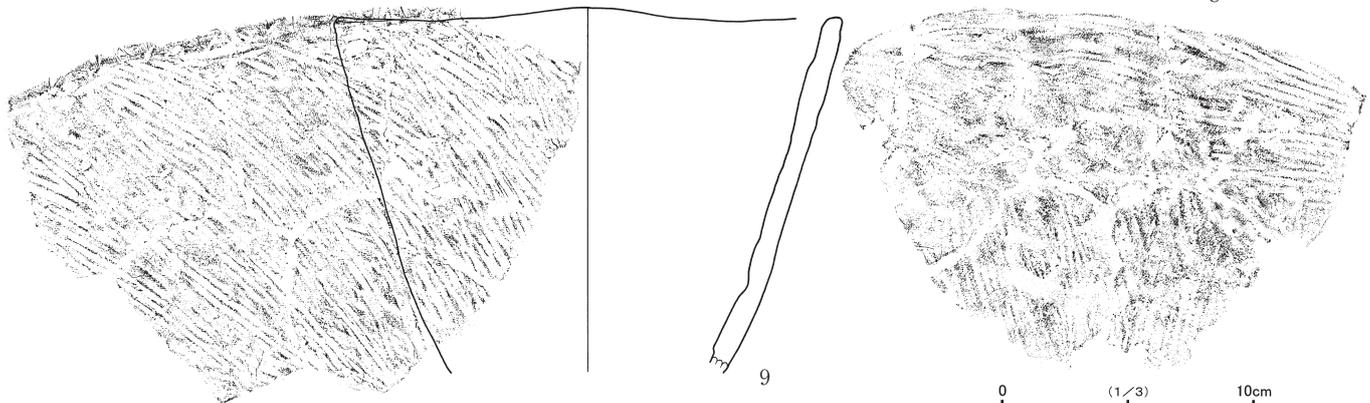
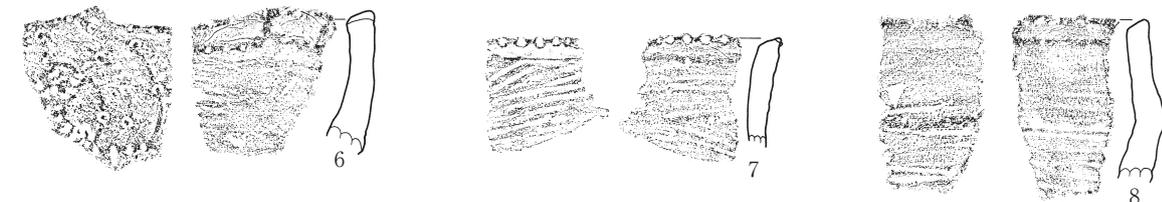
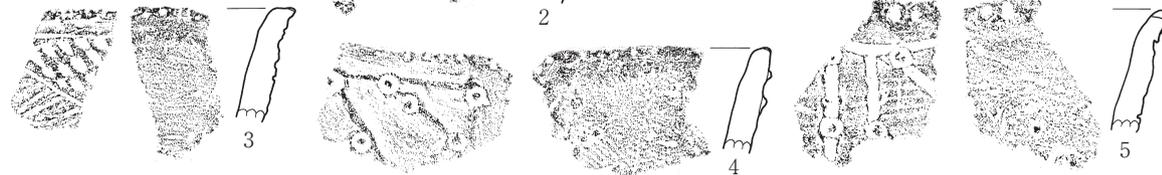
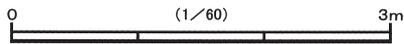
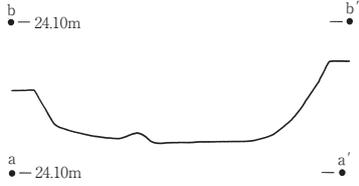
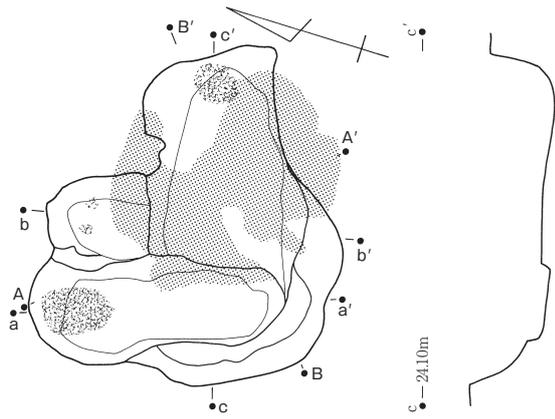
【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸1.80m・短軸0.84m・深さ17cm。主軸方向 40°。焼土の痕跡は希薄である（第341図）。

【覆土】 黒色土・暗褐色土などを主体とする。ローム粒を含むものが多い。

【出土遺物】 覆土一括扱いで取り上げた土器1点・23gが出土している。この土器が条痕文系のものであることから、当該時期を198号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 第341図1は条痕文系深鉢形土器の胴部破片である。表裏面ともに条痕文は明瞭でなく

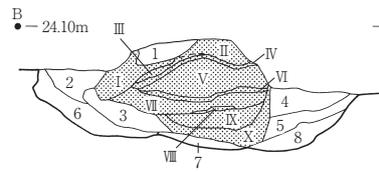


セクション位置：A-A'

No.	種別 (土の混じり具合)	主体貝	その他の貝	備考
I	混貝土層 (黒褐色土)		少量のハマグリ	
II	混貝土層 (黒褐色土)		少量のハマグリ	
III	純貝層	マテガイ		破砕層
IV	純貝層	ハマグリ		
V	混土貝層 (少量の黒色土)	ハマグリ		
VI	純貝層	マテガイ		破砕層
VII	純貝層	ハマグリ		
VIII	純貝層	マテガイ		破砕層
IX	混土貝層 (少量の黒色土)	ハマグリ	マテガイ	破砕層
X	純貝層	マテガイ		破砕層
XI	純貝層	マテガイ		破砕層

セクション位置：A-A'

No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	黒褐色	少量のローム粒・焼土粒	欠く		
2	黒褐色	少量のロームブロック (小)・ローム粒・焼土粒	有り		



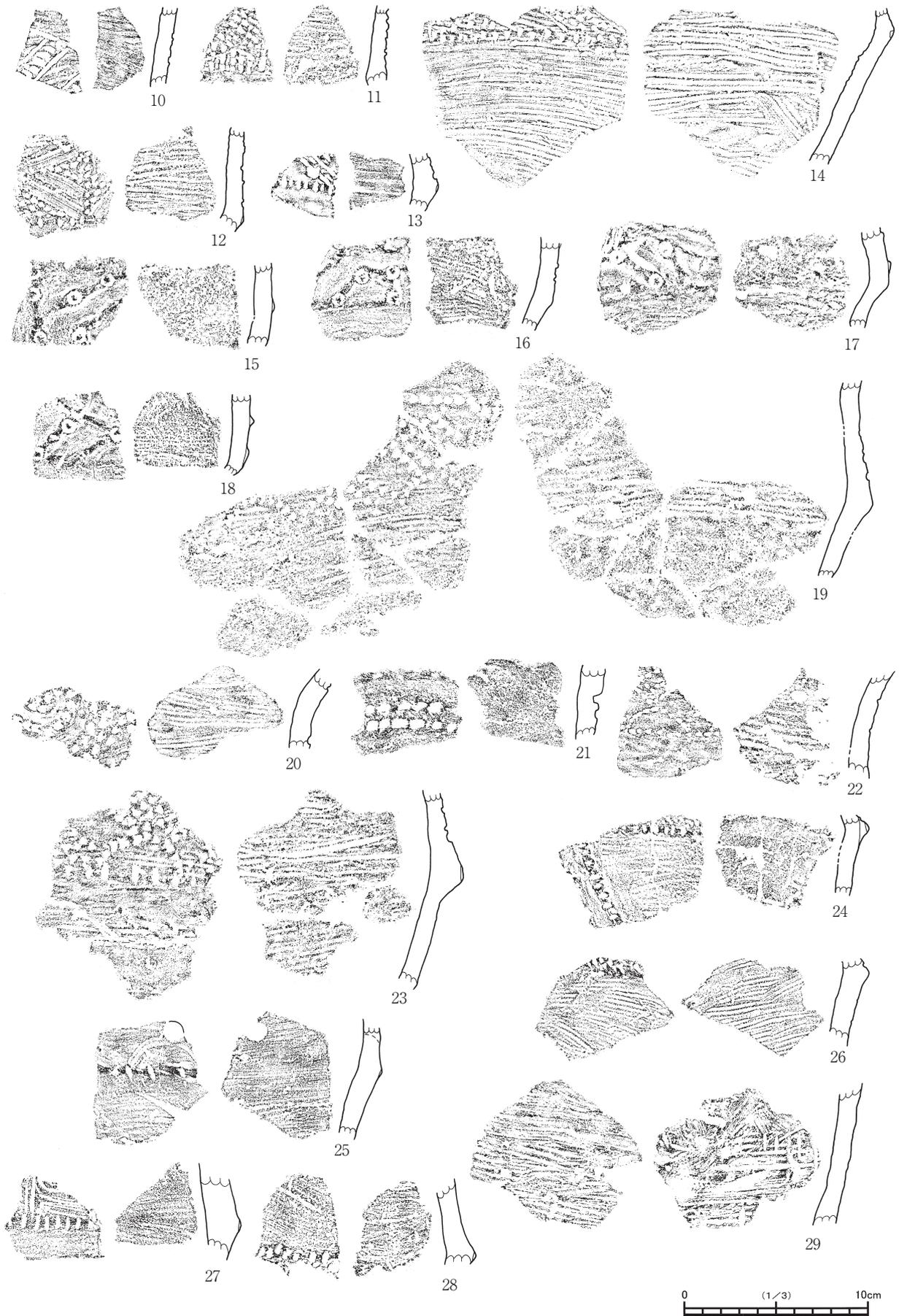
セクション位置：B-B'

No.	種別 (土の混じり具合)	主体貝	その他の貝	備考
I	混土貝層 (少量の黒色土)	ハマグリ		
II	混貝土層 (黒褐色土)	ハマグリ		
III	混貝土層 (多量の黒色土)		少量のハマグリ	
IV	純貝層	マテガイ		破砕層
V	純貝層	ハマグリ		
VI	純貝層	マテガイ		破砕層
VII	混土貝層 (少量の黒色土)	ハマグリ	少量の破砕マテガイ	
VIII	純貝層	マテガイ		破砕層
IX	純貝層	ハマグリ		
X	混貝土層 (多量の黒色土)		少量のハマグリ	

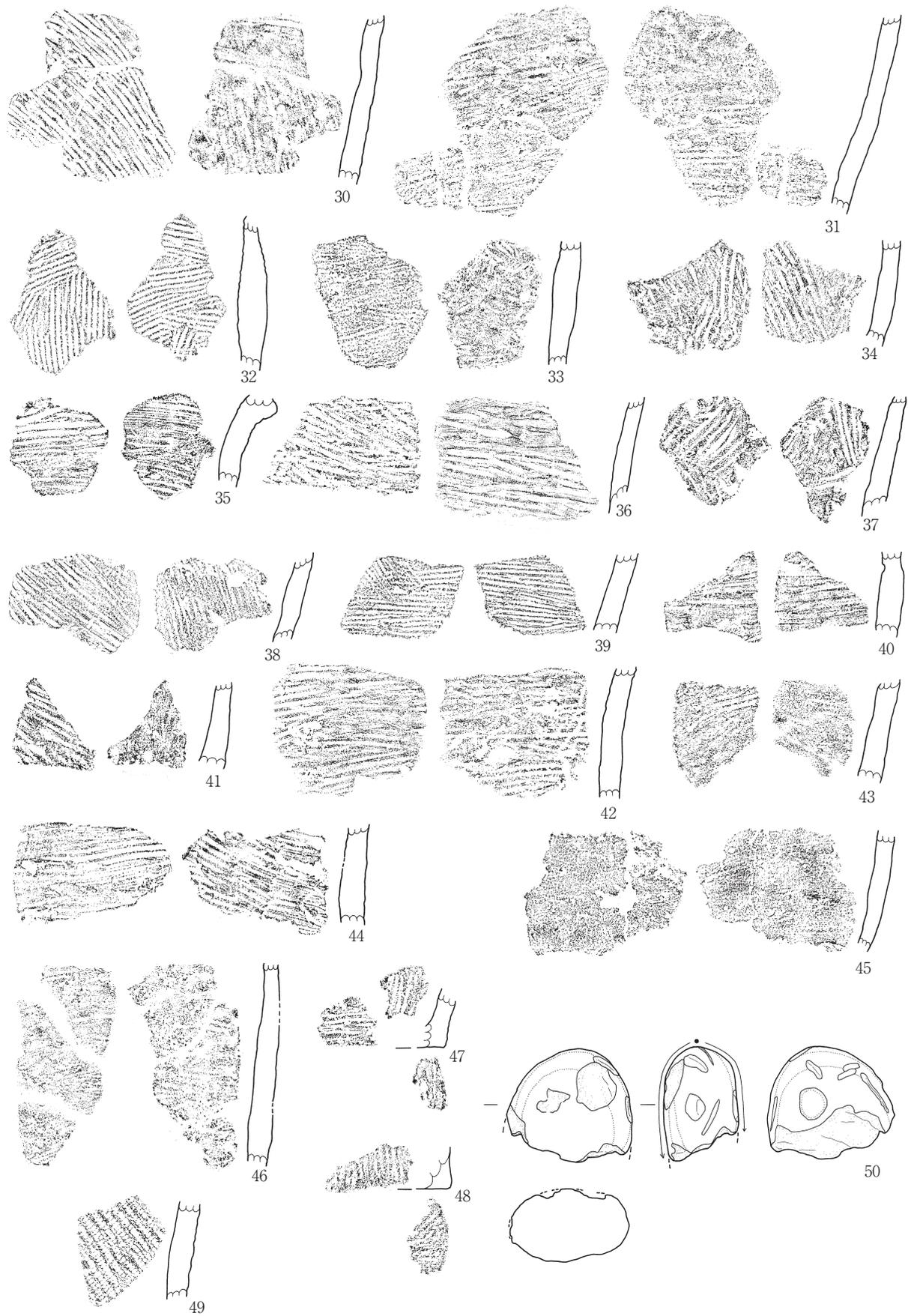
セクション位置：B-B'

No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	黒色				
2	黒褐色	少量のローム粒・焼土粒			
3	黒褐色	ロームブロック (小)・ローム粒・焼土粒			
4	黒色	少量のローム粒			
5	黒褐色	少量のローム粒			
6	黒褐色	やや少量のローム粒・焼土粒			
7	黒色	少量のローム粒・焼土粒			
8	暗褐色	多量のローム粒・少量のロームブロック (小)・焼土粒			

第338図 196号遺構実測図および出土遺物実測図(1)



第339图 196号遺構出土遺物実測図(2)



第340图 196号遺構出土遺物実測図(3)

ナデ痕をのこす。

199号遺構

【検出位置】 セ73区B2-F

【種別】 土坑

【規模ほか】 長軸1.38m・短軸1.22m・深さ70cm（第341図）。

【覆土】 暗茶褐色土を主体とする。ローム粒・焼土粒を多く含む。

【出土遺物】 被熱した1点・88gの礫が出土している。覆土一括扱いで取り上げた土器1点・8gが出土している。この土器が条痕文系のものであることから、当該時期を199号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 第341図2は条痕文系深鉢形土器の胴部破片である。内外面ともに斜方向に条痕が施される。

200号遺構

【検出位置】 セ73区C3-P

【種別】 土坑

【規模ほか】 長軸2.01m・短軸1.47m・深さ55cm。形状は円形（第342図）。

【覆土】 暗褐色土・暗茶褐色土などを主体とする。少量の焼土粒を含む層が多い。

【出土遺物】 被熱した1点・110gの礫が出土している。石器は、黒曜石の剥片1点がある。土器は、26点・364g出土している。取り上げ方法は、覆土一括扱いのもののみである。そのすべてが条痕文系のものであることから、当該時期を200号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、主なものを第342図1～6に示した。いずれも条痕文系深鉢形土器の口縁部および胴部破片である。

201号遺構

【検出位置】 セ73区C3-P

【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸1.07m・短軸0.76m・深さ19cm。主軸方向34°。燃焼面1箇所（第341図）。

【覆土】 暗褐色土・赤褐色土などを主体とする。焼土粒の混入がみられる。

【出土遺物】 土器は、4点・33g出土している。取り上げ方法は、覆土一括扱いのもののみである。そのすべてが条痕文系のものであることから、当該時期を201号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、主なものを第341図3・4に示した。いずれも条痕文系深鉢形土器の口縁部破片である。

202号遺構

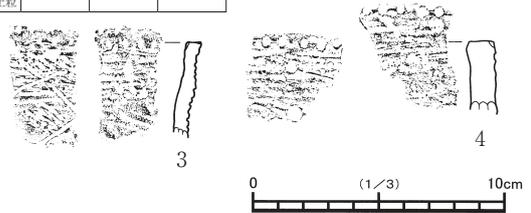
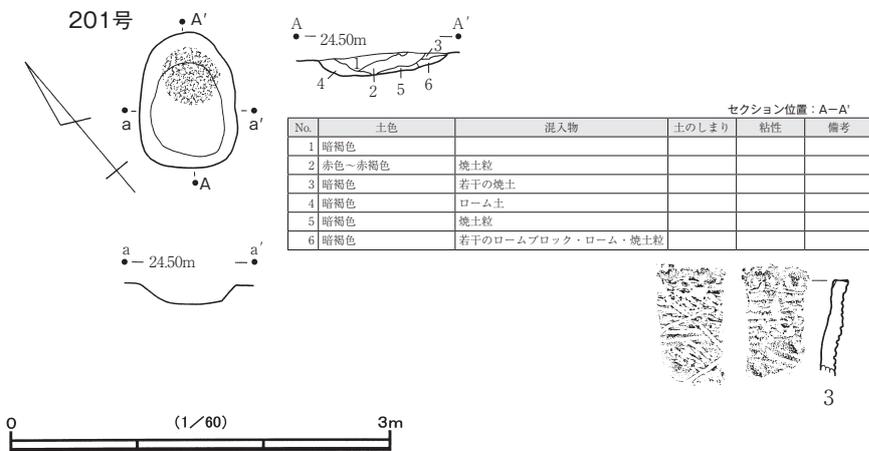
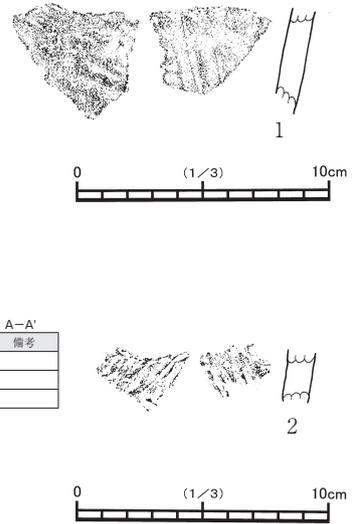
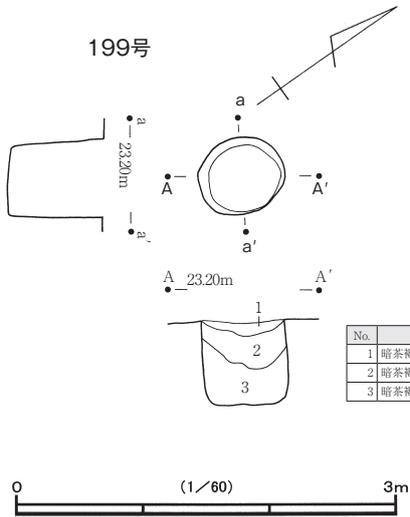
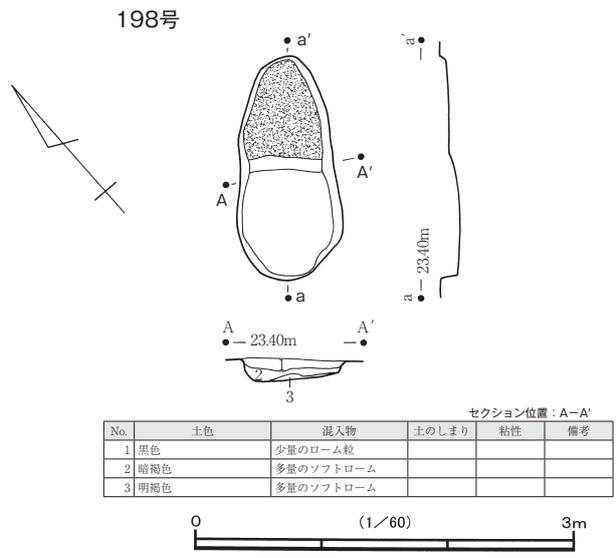
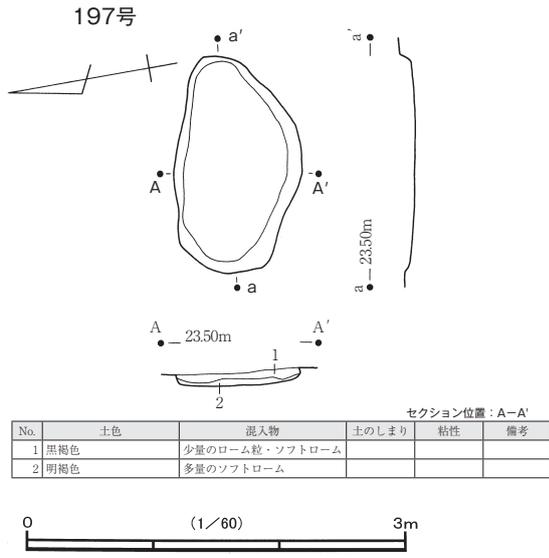
【検出位置】 セ73区D5-B・F

【種別】 炉穴？

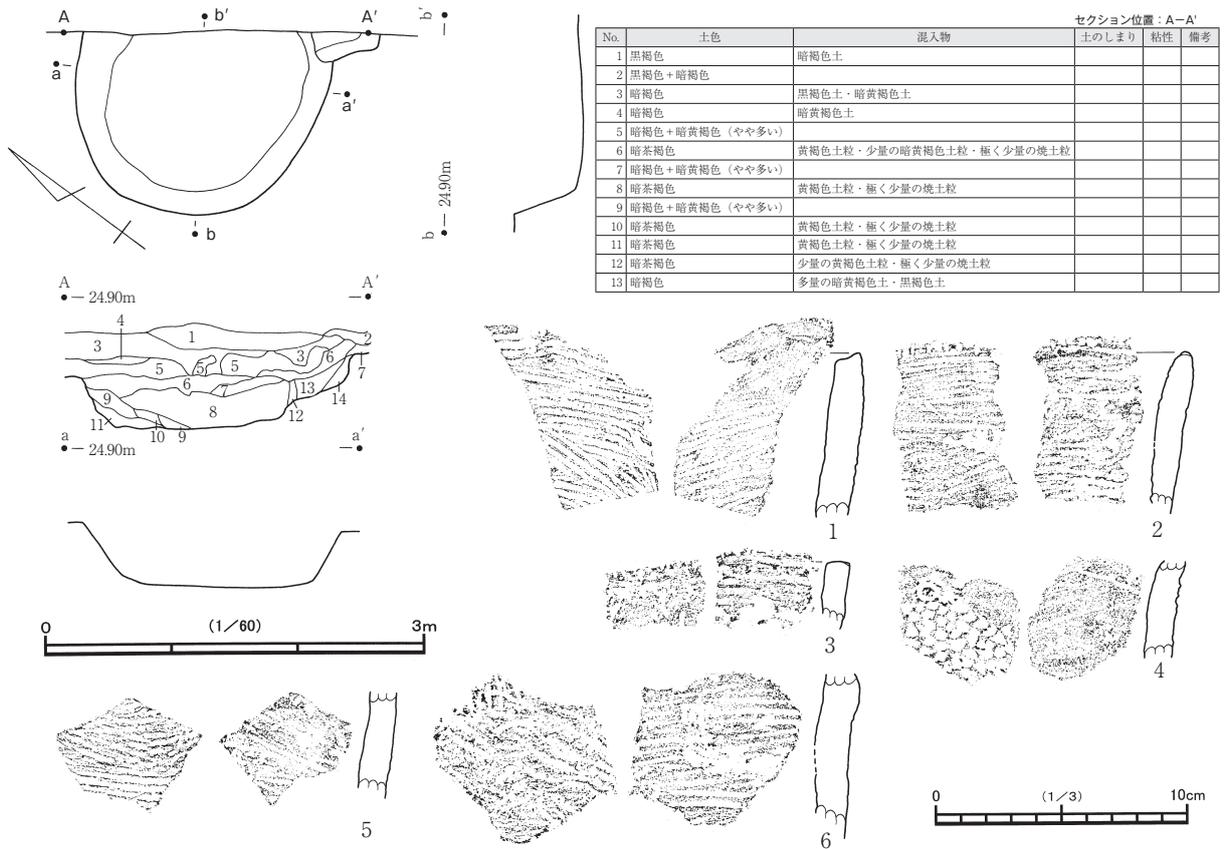
【規模ほか】 長軸0.96m・短軸0.50m・深さ26cm。燃焼面1箇所。北側は調査区外（第343図）。

【覆土】 黒褐色土・暗黄褐色土などを主体とする。

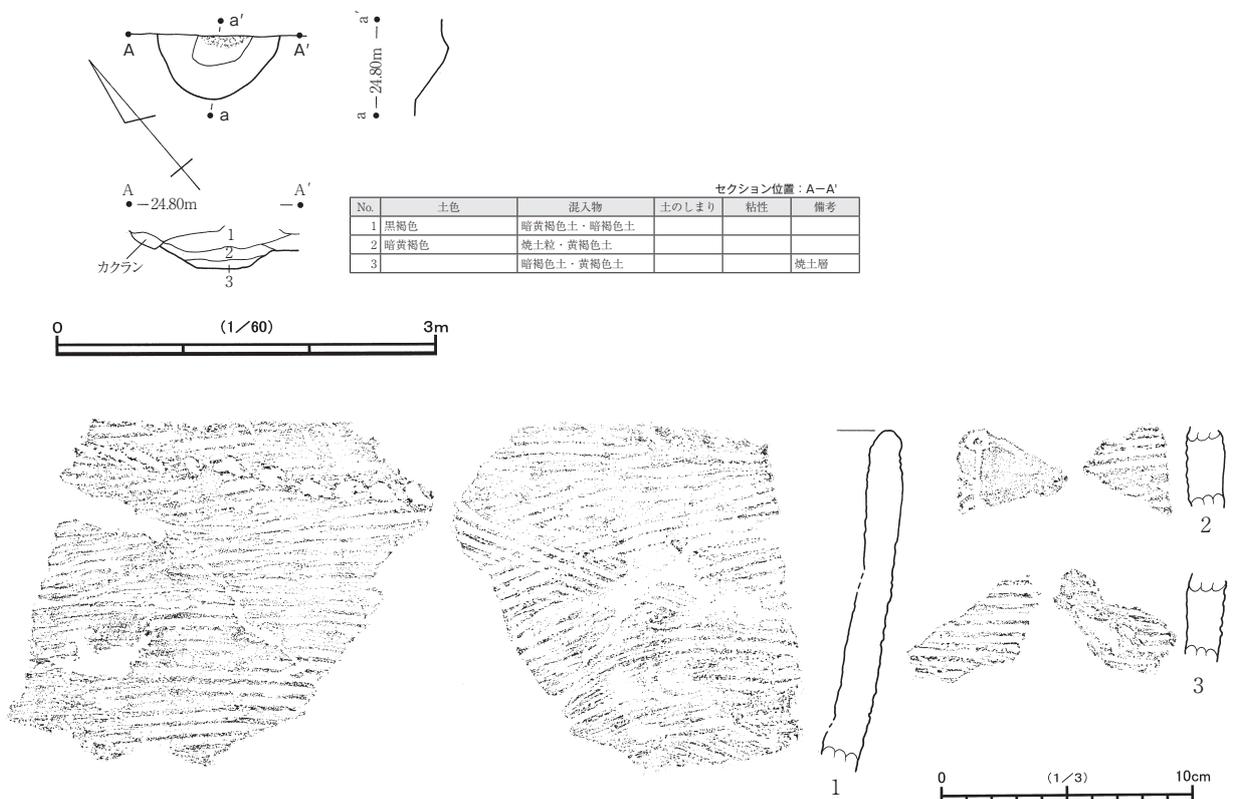
【出土遺物】 土器は10点・403g出土している。取り上げ方法は、覆土一括扱いのもののみである。そのすべてが条痕文系のものであることから、当該時期を202号遺構の帰属時期とみる。



第341図 197・198・199・201号遺構実測図および出土遺物実測図



第342図 200号遺構実測図および出土遺物実測図



第343図 202号遺構実測図および出土遺物実測図

【遺物説明】 出土土器のうち、主なものを第343図1～3に示した。条痕文系深鉢形土器の口縁部および胴部破片である。

203号遺構

【検出位置】 セ73区D4-I・J・N

【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸2.82m・短軸1.43m・深さ30cm。燃焼面1箇所（第344図）。

【重複関係】 東側で溝状遺構と重複するためこの部分を欠失する。

【覆土】 茶褐色土・暗褐色土などを主体とする。

出土遺物がないため遺構の詳細時期は不明。

204号遺構

【検出位置】 セ73区D4-M・N

【種別】 炉穴？

【規模ほか】 長軸2.10m・短軸2.07m・深さ48cm。燃焼面1箇所。形状は竪穴状。東側に203号遺構が隣接する。後世のカクランなどにより西側・南側を欠失する（第344図）。

【覆土】 茶褐色土・暗褐色土などを主体とする。ローム粒や焼土を含む。

【出土遺物】 2点・23gの被熱のあとがみられる礫が出土している。土器は、12点・267g出土している。取り上げ方法は、覆土一括扱いのもののみである。そのすべてが条痕文系のものであることから、当該時期を204号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、主なものを第344図1・2に示した。条痕文系深鉢形土器の胴部破片である。また、発掘調査の際、203・204号遺構の遺物が分離されずに取り上げられたものがある。土器99点・1,267gが出土している。うちわけは、条痕文系、一部に縄文が施される条痕・縄文などである。このうち条痕文系は全体のおよそ91%ある。主なものを第344図3～21に示した。4・10・14・15の外面には縄文がみられる。また、7には縦方向にハイガイ腹縁部圧痕文が認められる。

205号遺構

【検出位置】 セ73区D4-J・K・N・O

【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸1.72m・短軸1.37m・深さ58cm。主軸方向 33°。燃焼面1箇所（第345図）。

【覆土】 茶褐色土・暗黄褐色土などを主体とする。

出土遺物がないため遺構の詳細時期は不明。

206号遺構

【検出位置】 セ73区D4-M

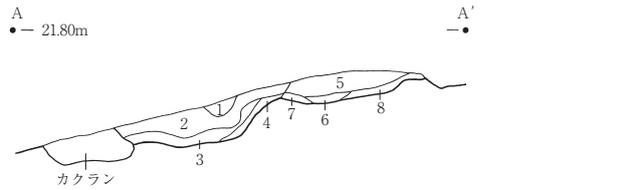
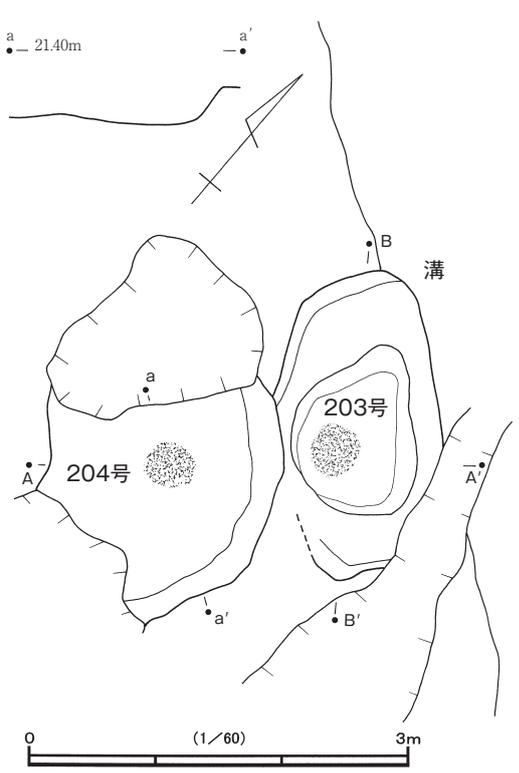
【種別】 炉穴？

【規模ほか】 長軸0.95m・短軸0.87m・深さ37cm。形状は円形。燃焼面1箇所（第345図）。

【覆土】 焼土粒を含む茶褐色土を主体とする。

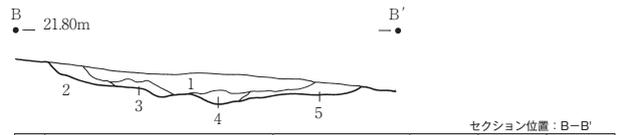
【出土遺物】 土器は、3点・43g出土している。取り上げ方法は、覆土一括扱いのもののみである。いずれも条痕文系のものであることから、当該時期を206号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、主なものを第345図1・2に示した。いずれも条痕文系深鉢形土器の



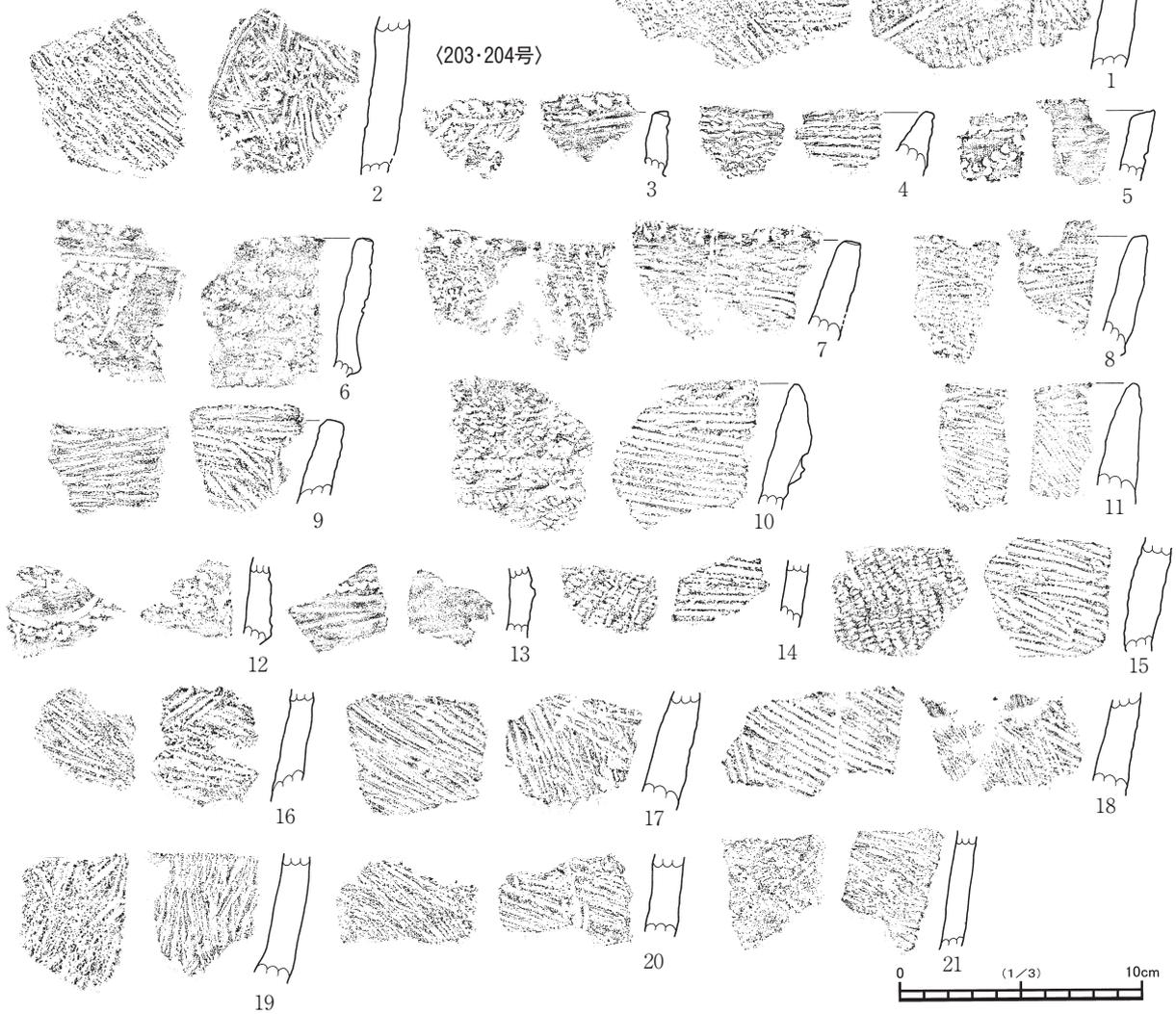
セクション位置：A-A'

No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	黒灰褐色	茶褐色土		軟	
2	茶褐色	ローム粒			
3	暗褐色	ローム粒少量の黄褐色土・茶褐色土			
4	茶褐色+暗褐色				
5	茶褐色	少量の黄褐色土			
6	暗褐色	黄褐色土・焼土			
7	黄褐色				
8	黄褐色+暗褐色	茶褐色土			



セクション位置：B-B'

No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	茶褐色	暗黄褐色土・暗褐色土			
2	暗褐色+黄褐色	茶褐色土			
3	暗褐色+黄褐色 (2層より黄褐色少ない)				
4		焼土			
5	暗茶褐色	黄褐色土			



第344図 203・204号遺構実測図および出土遺物実測図

胴部破片である。

207号遺構

【検出位置】 セ73区D5-F

【種別】 炉穴？

【規模ほか】 長軸2.00m・短軸1.28m・深さ44cm。焼土不明（第346図）。

【覆土】 暗褐色土・暗黄褐色土などを主体とする。

【重複関係】 西側が208号遺構と重複、この部分が欠失するため焼土痕が存在したかは不明。

【出土遺物】 1点・11gの被熱した礫が出土している。土器は、56点・893g出土している。取り上げ方法は、覆土一括扱いのもののみである。そのすべてが条痕文系のものであることから、当該時期を207号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、主なものを第347図1～13に示した。条痕文系深鉢形土器の口縁部および胴部破片である。1は沈線による三角形区画内に押し引き沈線文を充填、要所に円形文を配すものである。

208号遺構

【検出位置】 セ73区D5-F・G

【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸3.11m・短軸1.69m・深さ46cm。主軸方向140°。燃焼面1箇所（第346図）。

【覆土】 暗褐色土・暗黄褐色土などを主体とする。

【重複関係】 東側で207号遺構と重複、本遺構が後から作られている。

【出土遺物】 1点・26gの被熱した礫が出土している。土器は、49点・797g出土している。取り上げ方法は、覆土一括扱いのもののみである。そのすべてが条痕文系のものであることから、当該時期を208号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、主なものを第347図14～22に示した。条痕文系深鉢形土器の口縁部および胴部破片である。14は微隆帯による区画内に連続刺突文を充填、微隆帯上の要所に円形文を配すものである。口唇部後面には浅い刺突がみられる。また、発掘調査の際、207・208号遺構の遺物が分離されずに取り上げられたものがある。61点・899gの土器が出土している。そのすべては条痕文系のものである。主なものを第347図23～32に示した。条痕文系深鉢形土器の口縁部および胴部破片である。

209号遺構

【検出位置】 セ73区D5-G

【種別】 炉穴？

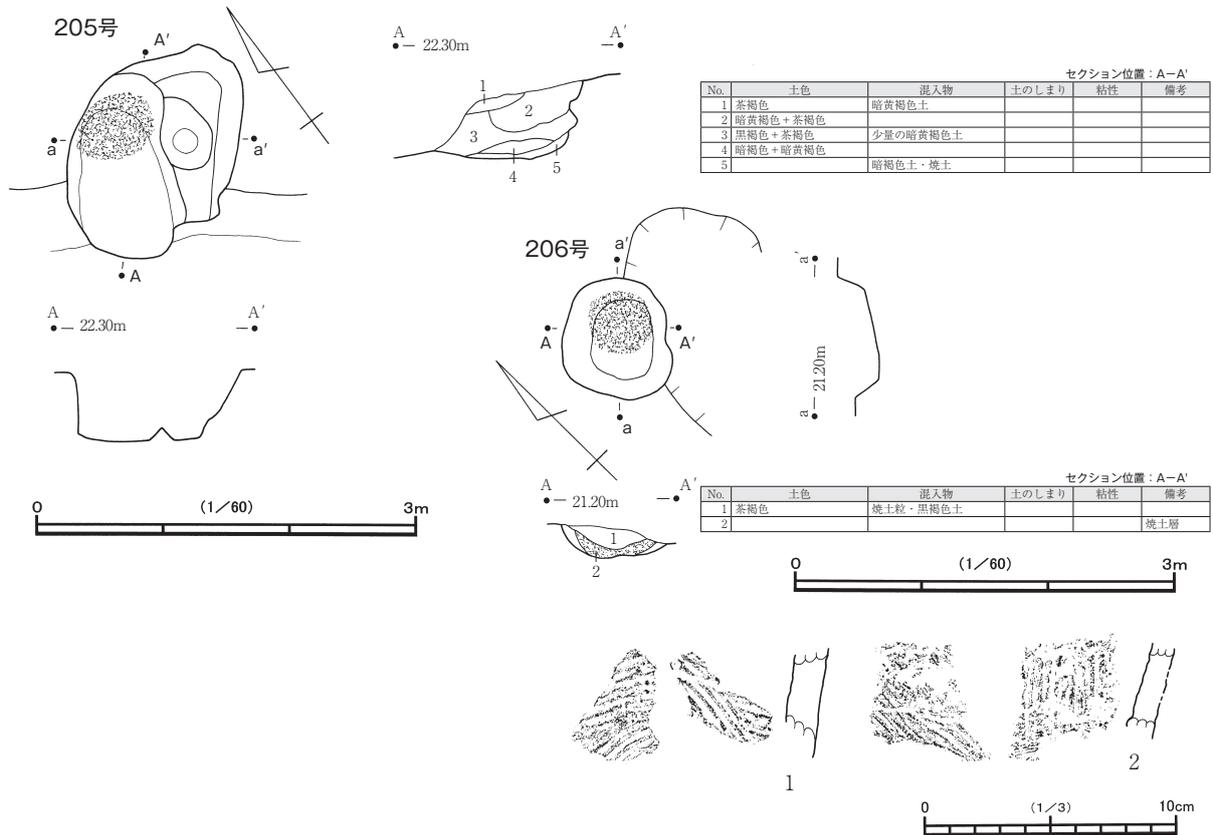
【規模ほか】 長軸3.13m・短軸0.62m・深さ23cm。形状は竪穴状。燃焼面2箇所。北側は調査区外（第348図）。

【覆土】 暗褐色土・黒褐色土などを主体とする。ローム粒・焼土などを含む。

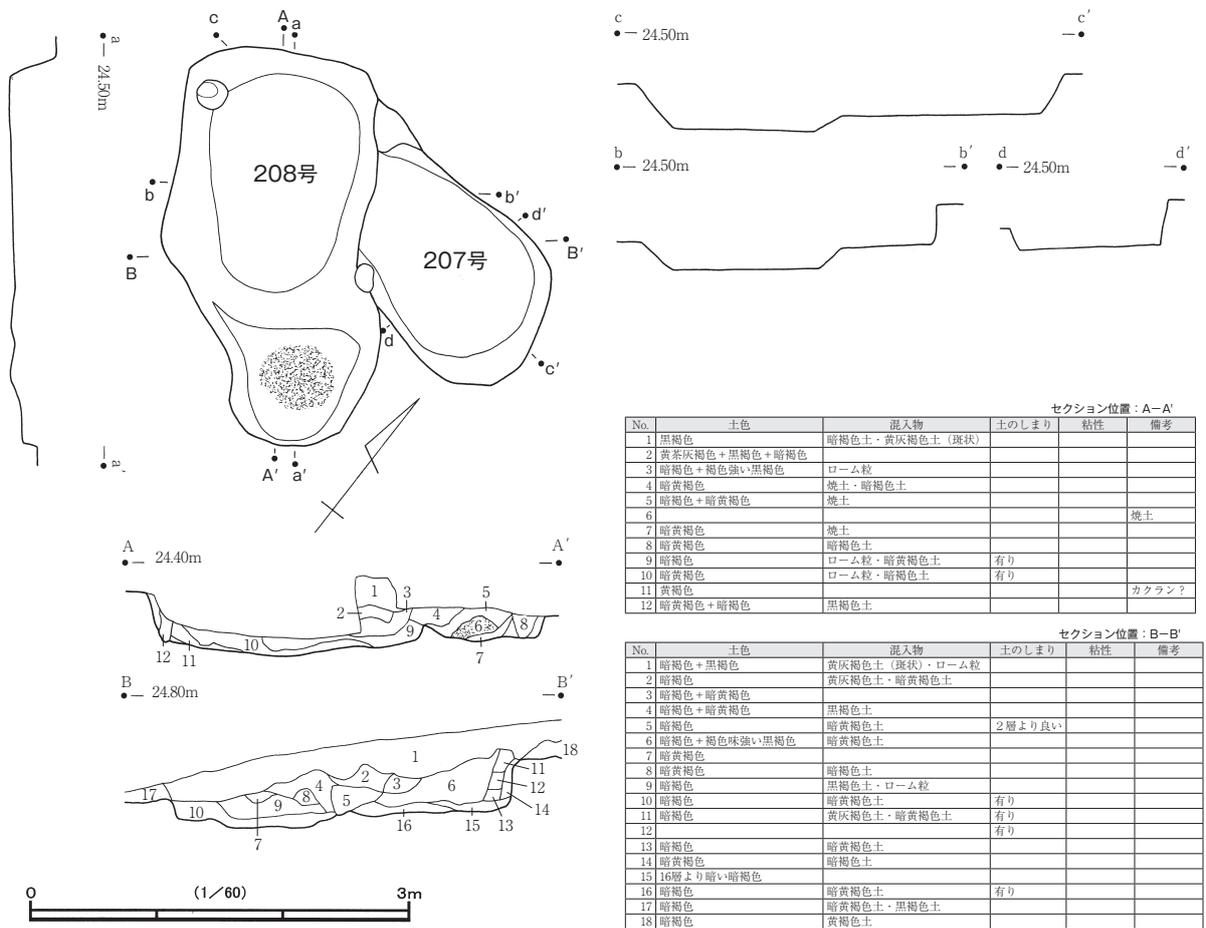
出土遺物がないため遺構の詳細時期は不明。

210号遺構

【検出位置】 セ73区D5-G・K



第345図 205・206号遺構実測図および出土遺物実測図

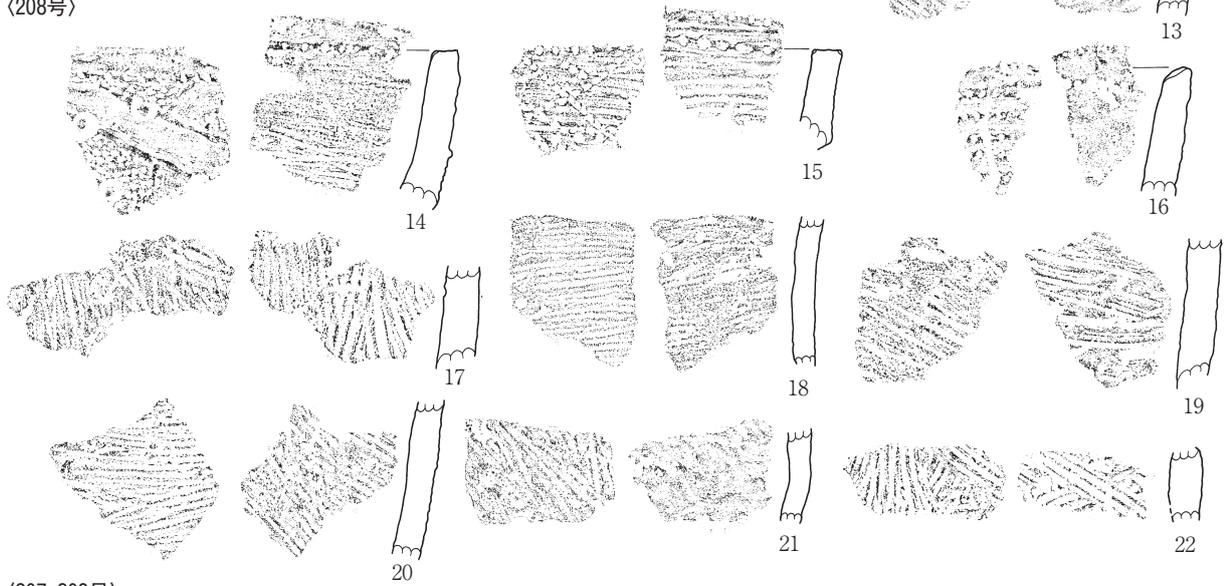


第346図 207・208号遺構実測図

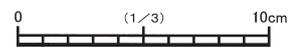
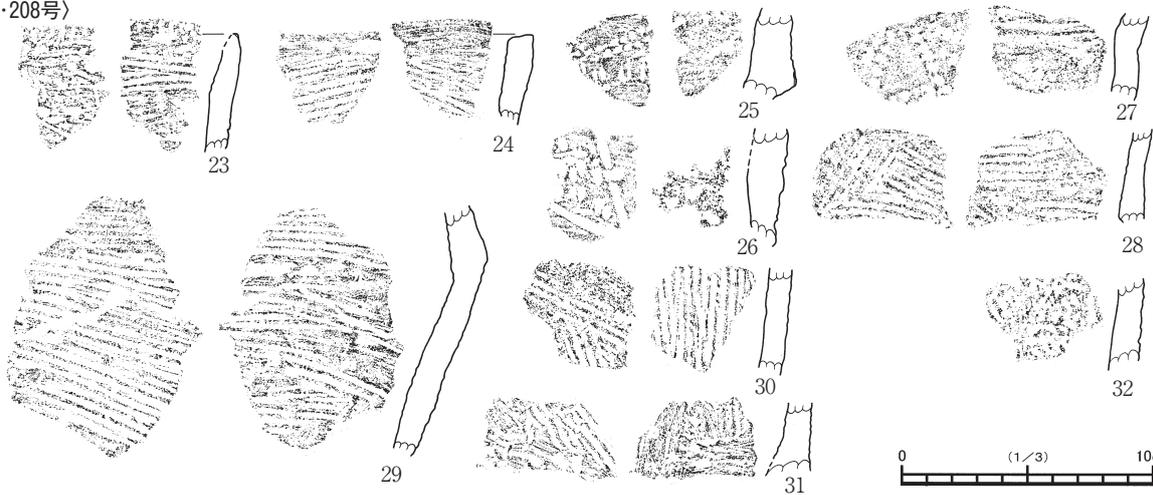
<207号>



<208号>



<207·208号>



第347图 207·208号遺構出土遺物実測図

【種別】 土坑

【規模ほか】 長軸1.57m・短軸1.53m・深さ72cm。形状は方形（第348図）。

【覆土】 暗褐色土・暗黄褐色土などを主体とする。ローム粒・焼土などを含む。

【出土遺物】 6点・664gの礫が出土している。このうちすべてに被熱のあとがみられる。石器は、黒曜石の剥片1点がある。土器は、88点・2,324g出土している。取り上げ方法は、平面・垂直位置を記録した点あげ、一括扱いの両方がある。遺物は遺構の西側、覆土上層中から出土している。そのすべてが条痕文系のものであることから、当該時期を210号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、点あげしたものを第348図1～3に、覆土一括扱いのものを第348図4～7・第349図8～21に示した。条痕文系深鉢形土器の口縁部および胴部破片である。1は緩やかな波状となる深鉢形土器の口縁部で、横位の隆帯がめぐり、口唇部には縦位のキザミが施される。外面には斜・横方向に、内面には斜方向に条痕文がみられる。8には外面に縄文がみられる。

211号遺構

【検出位置】 セ73区D5-G・K

【種別】 土坑

【規模ほか】 長軸4.49m・短軸3.24m・深さ46cm。形状は不整形。燃焼面不明（第348図）。

【覆土】 暗褐色土・黒褐色土などを主体とする。ローム粒などを含む。

【重複関係】 南側を古墳周溝との重複により欠失する。また西側で210号遺構と、東側で209号遺構と重複する。

【出土遺物】 覆土一括扱いで取り上げた1点・14gの土器が出土している。この土器が条痕文系のものであることから、当該時期を211号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 第349図22は条痕文系深鉢形土器の胴部破片である。

212号遺構

【検出位置】 セ73区D5-J

【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸2.18m・短軸1.33m・深さ65cm。主軸方向81°。燃焼面1箇所（第350図）。

【覆土】 暗褐色土・黒褐色土などを主体とし焼土を含む。

【重複関係】 南側で213号遺構と重複する。

出土遺物がないため遺構の詳細時期は不明。

213号遺構

【検出位置】 セ73区D5-N

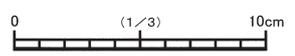
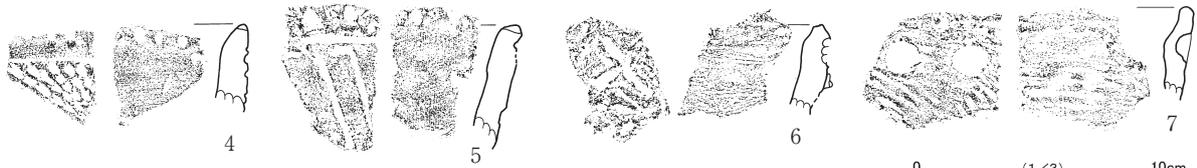
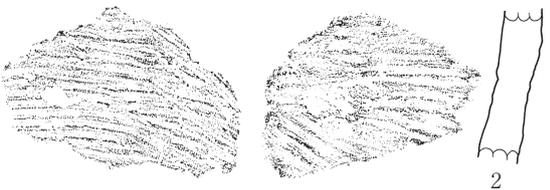
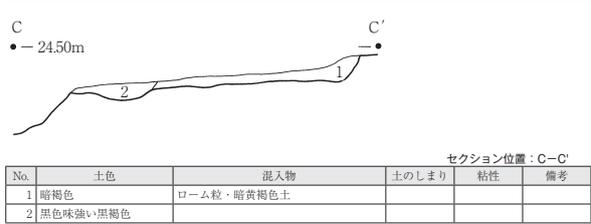
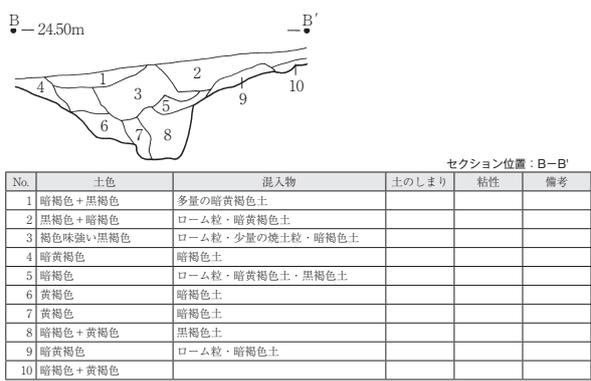
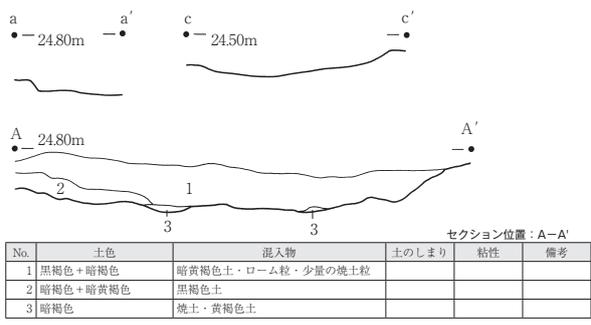
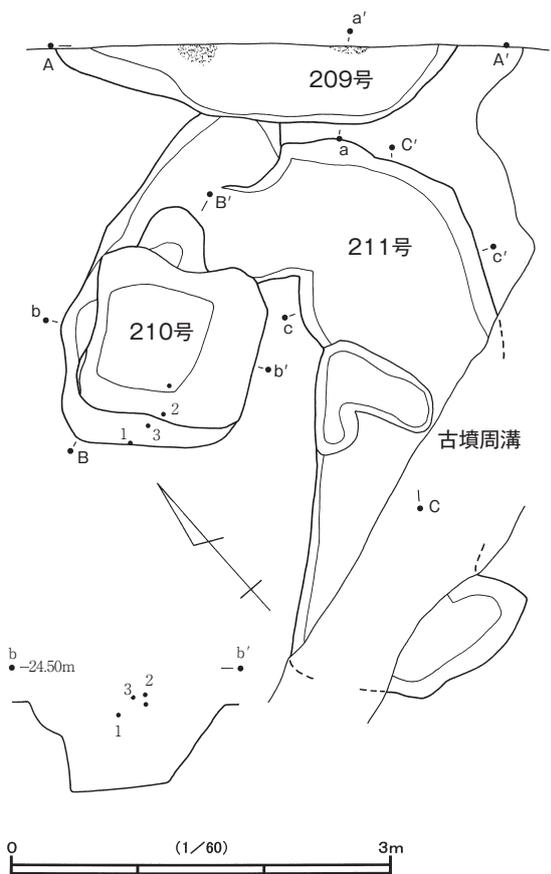
【種別】 土坑

【規模ほか】 長軸1.20m・短軸0.82m・深さ87cm。形状は方形（第350図）。

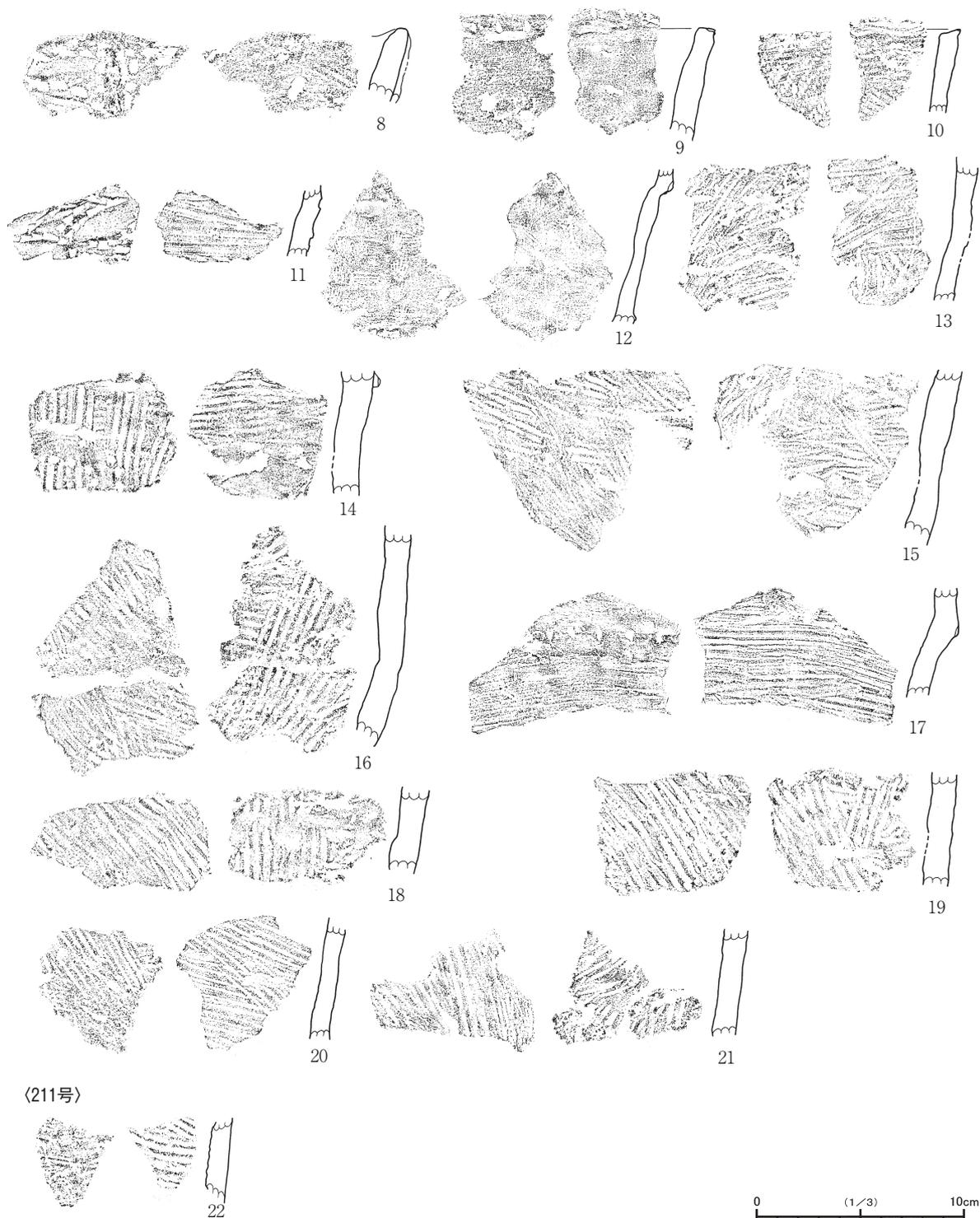
【覆土】 暗褐色土・黒褐色土などを主体とする。ローム粒・焼土粒を含む。

【出土遺物】 土器は、63点・876g出土している。取り上げ方法は、覆土一括扱いのもののみである。うちわけは、条痕文系・羽状縄文系などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系のもので全体のおよそ97%あり、当該時期を213号遺構の帰属時期とみる。

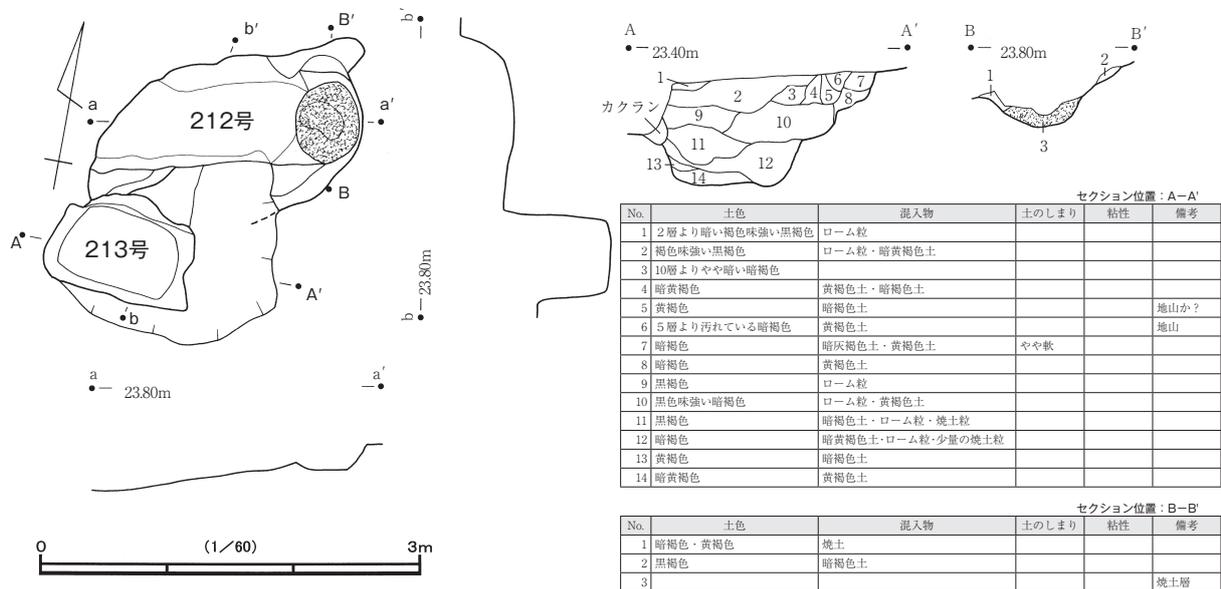
【遺物説明】 出土土器のうち、主なものを第350図1～13に示した。1～12は条痕文系深鉢形土器の



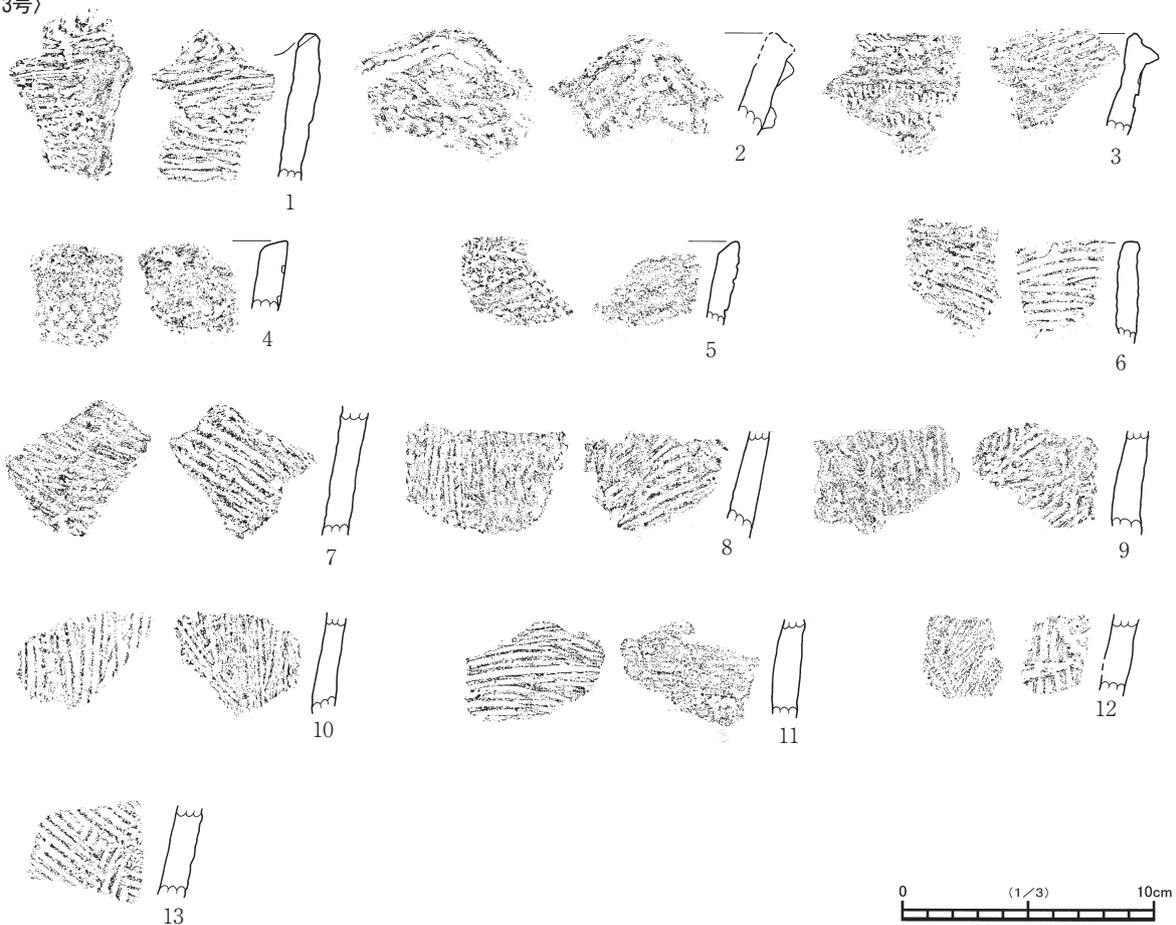
第348図 209・210・211号遺構実測図・遺物出土状況図および出土遺物実測図(1)



第349图 209・210・211号遺構出土遺物実測図(2)



〈213号〉



第350図 212・213号遺構実測図および出土遺物実測図

口縁部および胴部破片である。13は羽状縄文系・関山式深鉢形土器の胴部破片である。

214号遺構

【検出位置】 セ73区D5-K・0

【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸3.05m・短軸2.30m・深さ63cm。燃焼面2箇所。形状はアメーバ状（第351図）。

【覆土】 暗褐色土・黒褐色土を主体とする。焼土粒を含む。

【出土遺物】 土器は、62点・1,096g出土している。取り上げ方法は、覆土一括扱いのもののみである。うちわけは、条痕文系、一部に縄文を施す条痕・縄文などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系のもので全体のおよそ95%あり、当該時期を214号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、主なものを第351図1～19に示した。条痕文系深鉢形土器の口縁部および胴部破片である。1は波状口縁をなす深鉢形土器で、浅い凹線による曲線文に囲まれた箇所に刺突文を充填、口唇部前後面には刺突がめぐる。波頂部中心に縦方向に刺突文を付す隆帯を縦位に配置する。7・10～12は外面に縄文が施される。

215号遺構

【検出位置】 セ28区J6-04

【種別】 竪穴状遺構

【規模ほか】 長軸3.16m・短軸2.93m・深さ107cm（第352図）。

【覆土】 黒褐色土・暗褐色土などを主体とする。一部に貝層がみられる。貝層は遺構覆土の全体的に4箇所、長軸314・短軸186・厚さ54cmほどの規模で形成されていた。遺構基底面からやや浮いた位置に形成。

【出土遺物】 17点・801gの礫および礫石器が出土している。このうち78.2%に被熱のあとがみられる。石器は、2点出土している。うちわけは、石核1点・石皿1点である。土器は、22点・449g出土している。取り上げ方法は、平面・垂直位置を記録した点あげ、一括扱いの両方がある。そのすべてが条痕文系のものであることから、当該時期を215号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、点あげしたものを第352図1に、覆土一括扱いのものを第352図2～6に示した。2は条痕文系深鉢形土器の口縁部、1・3～5は胴部、6は尖底となる底部の破片である。出土石器を第352図7・8に示した。7は最大長40mmを測る珪質頁岩製の石核である。8はスコリア質安山岩製の石皿破片である。

216号遺構

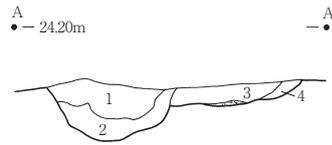
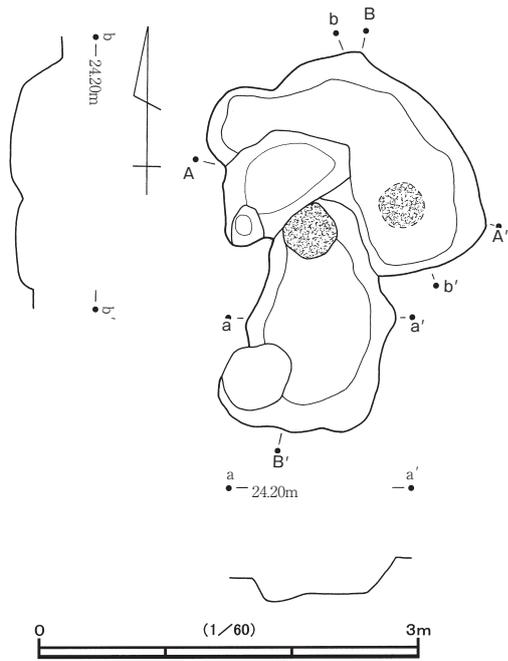
【検出位置】 セ28区K7-14・15

【種別】 落ち込み

【規模ほか】 長軸2.46m・短軸2.26m・深さ17cm。形状はイチジク状（第353図）。

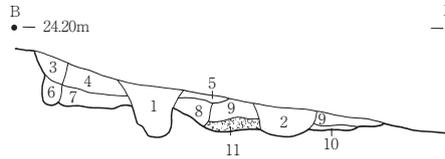
【出土遺物】 22点・782gの礫が出土している。このうちすべてに被熱のあとがみられる。土器は、21点・219g出土している。取り上げ方法は、覆土一括扱いのもののみである。うちわけは、条痕文系・羽状縄文系などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系のもので全体のおよそ86%あり、当該時期を216号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、主なものを第353図1～6に示した。1～5は条痕文系深鉢形土器の



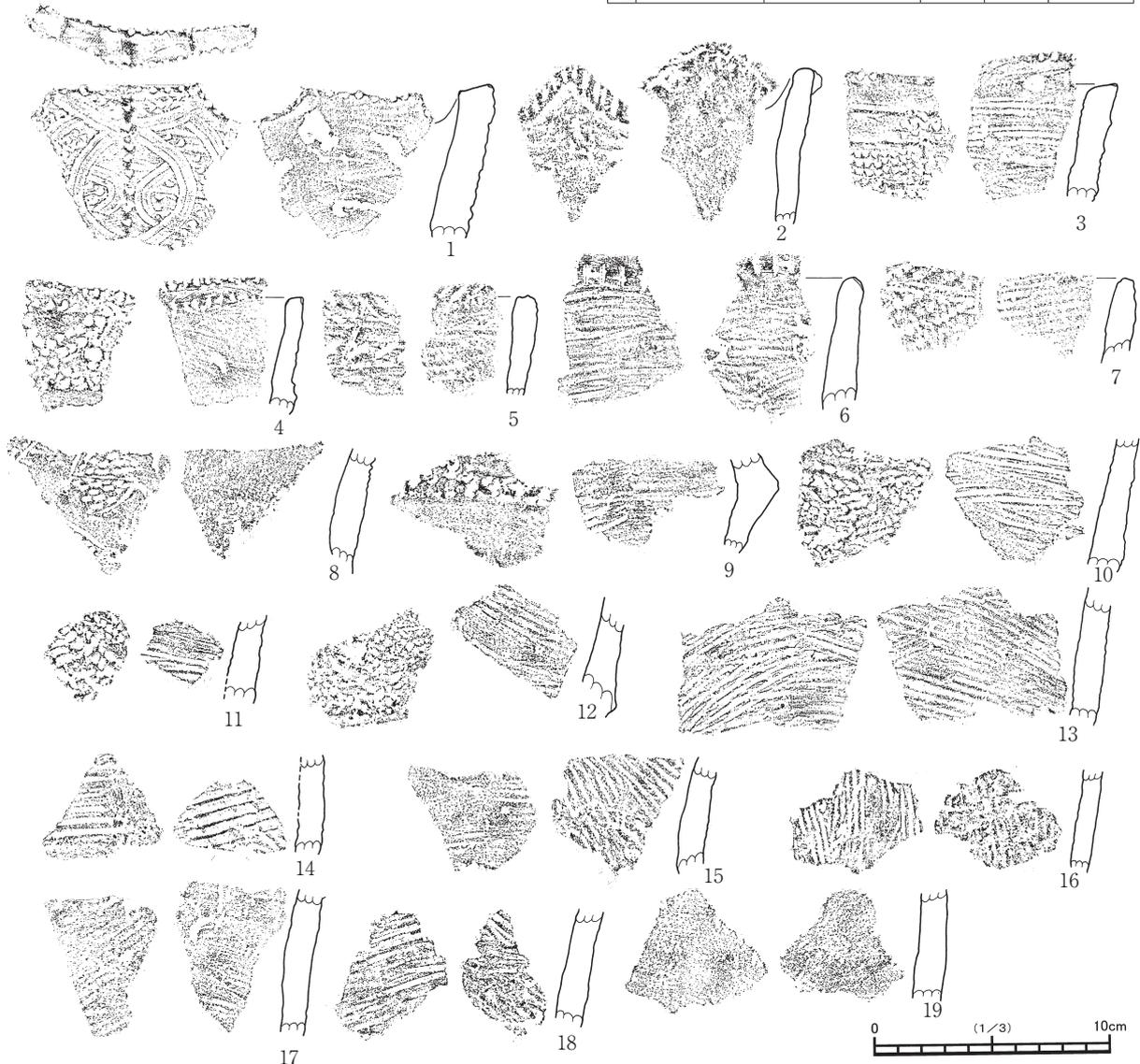
セクション位置：A-A'

No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	暗褐色	黒褐色土・黄褐色土			
2	黄褐色	暗褐色土			
3	黒褐色	暗褐色土			弱い焼面有り
4	暗褐色	黄褐色土			

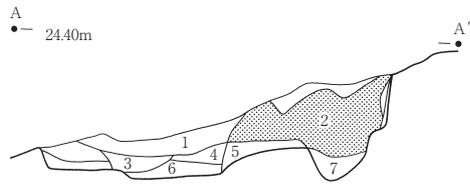
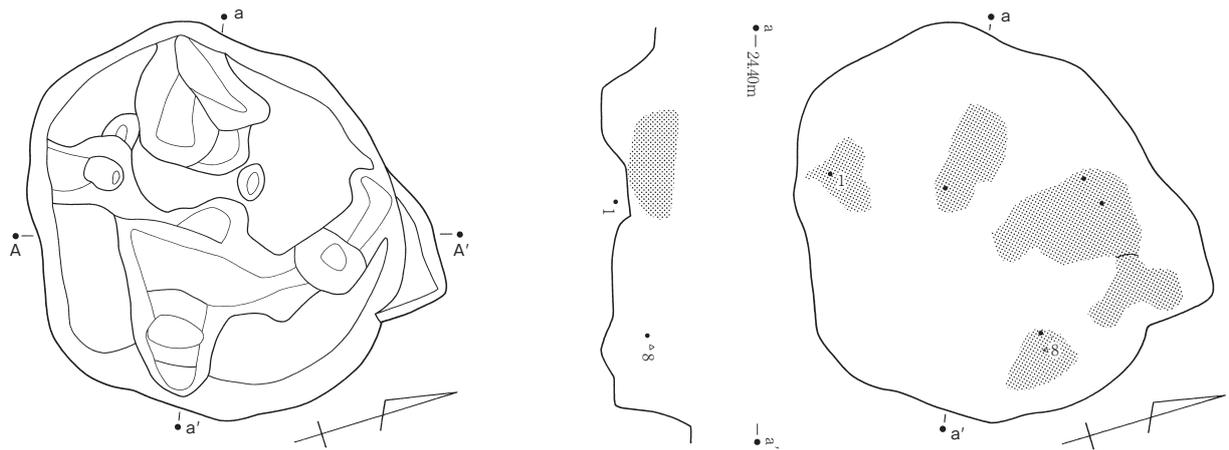


セクション位置：B-B'

No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	灰褐色	黄褐色土・暗褐色土	軟		カクラン
2	灰褐色+茶褐色	焼土粒	軟		カクラン
3	黒褐色	黄褐色土・暗褐色土			古いカクラン
4	茶褐色	ローム粒・極く少量の焼土粒			
5	灰褐色				
6	黒褐色				
7	茶褐色味強い黒褐色	ローム粒・暗褐色土			
8	暗褐色	焼土・灰褐色土・黒褐色土			古いカクラン?
9	褐色味強い黒褐色	焼土			
10	暗褐色	焼土			
11					焼土



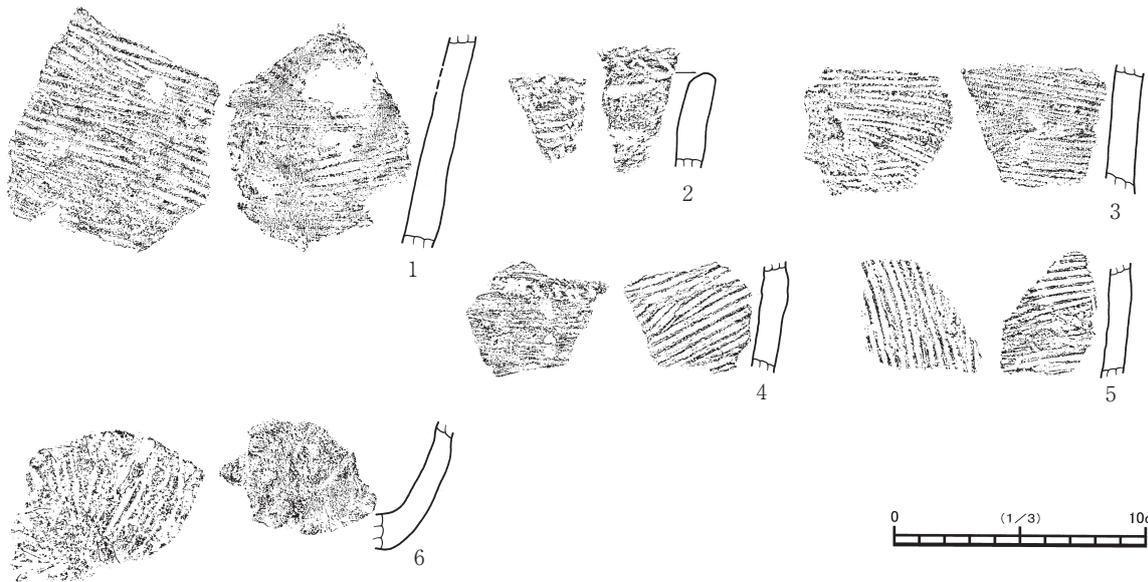
第351図 214号遺構実測図および出土遺物実測図



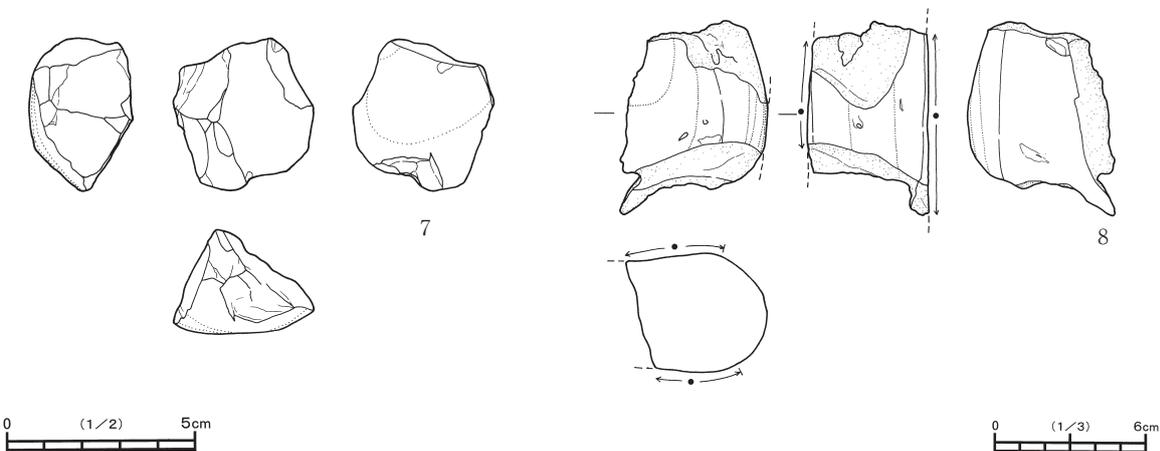
セクション位置：A-A'

No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	黒褐色	多量のブロック			
2					混貝土層
3	黒褐色				
4	暗褐色				
5	暗褐色	多量のローム粒・ロームブロック			
6	暗茶褐色				
7	暗茶色	ローム粒・ロームブロック			

0 (1/60) 3m



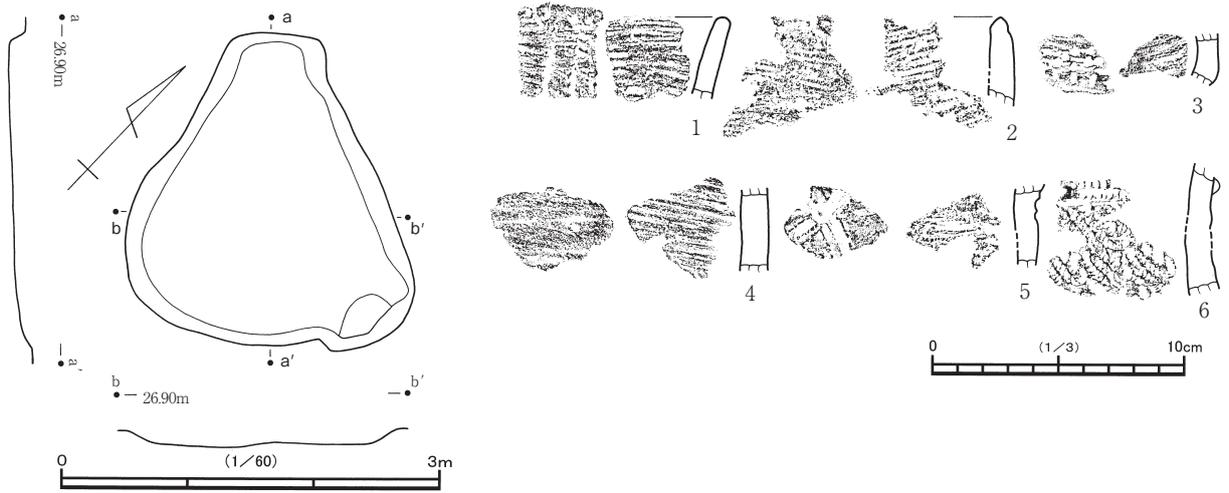
0 (1/3) 10cm



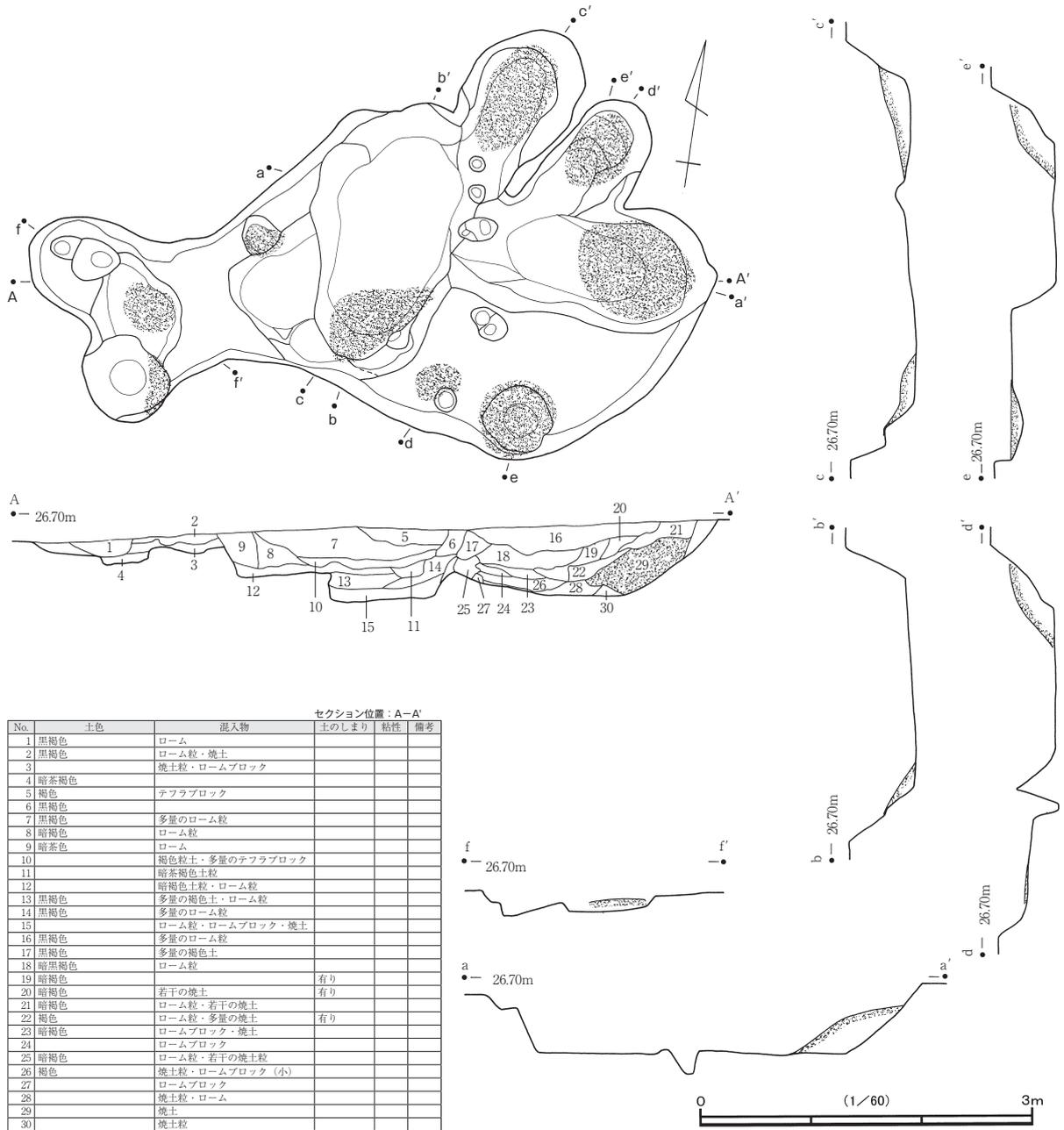
0 (1/2) 5cm

0 (1/3) 6cm

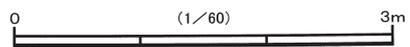
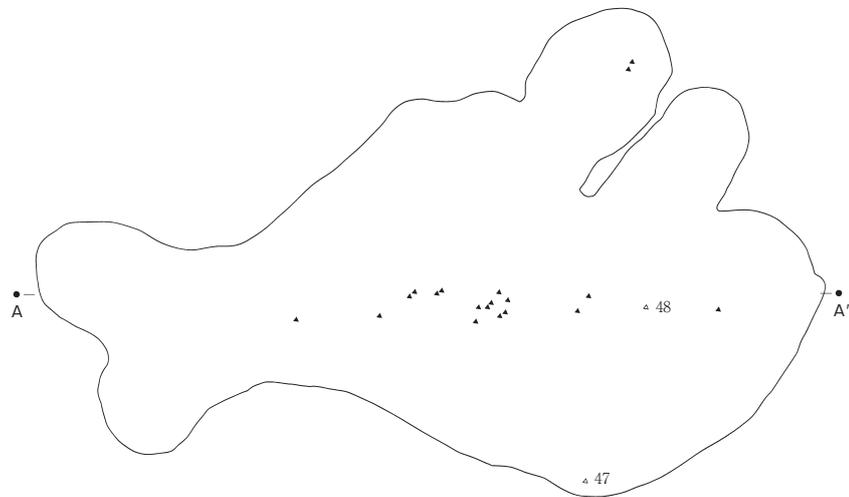
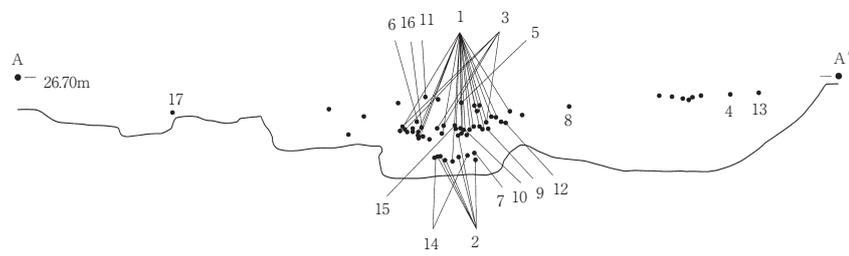
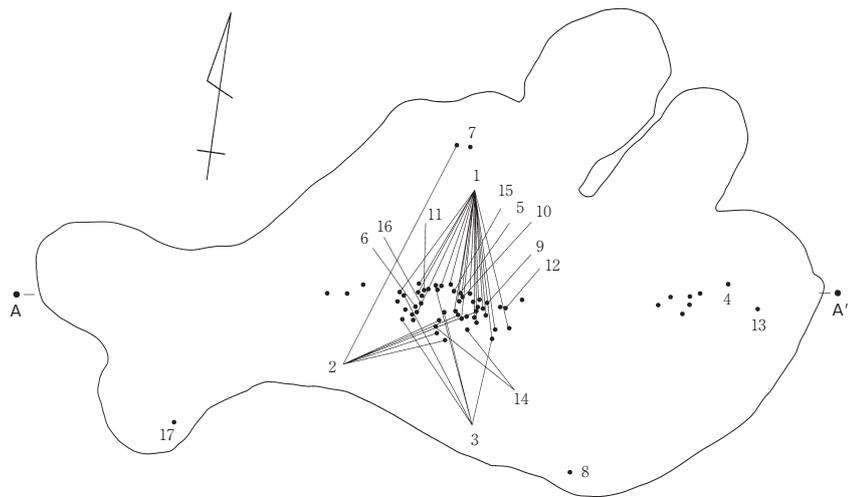
第352図 215号遺構実測図・遺物出土状況図および出土遺物実測図



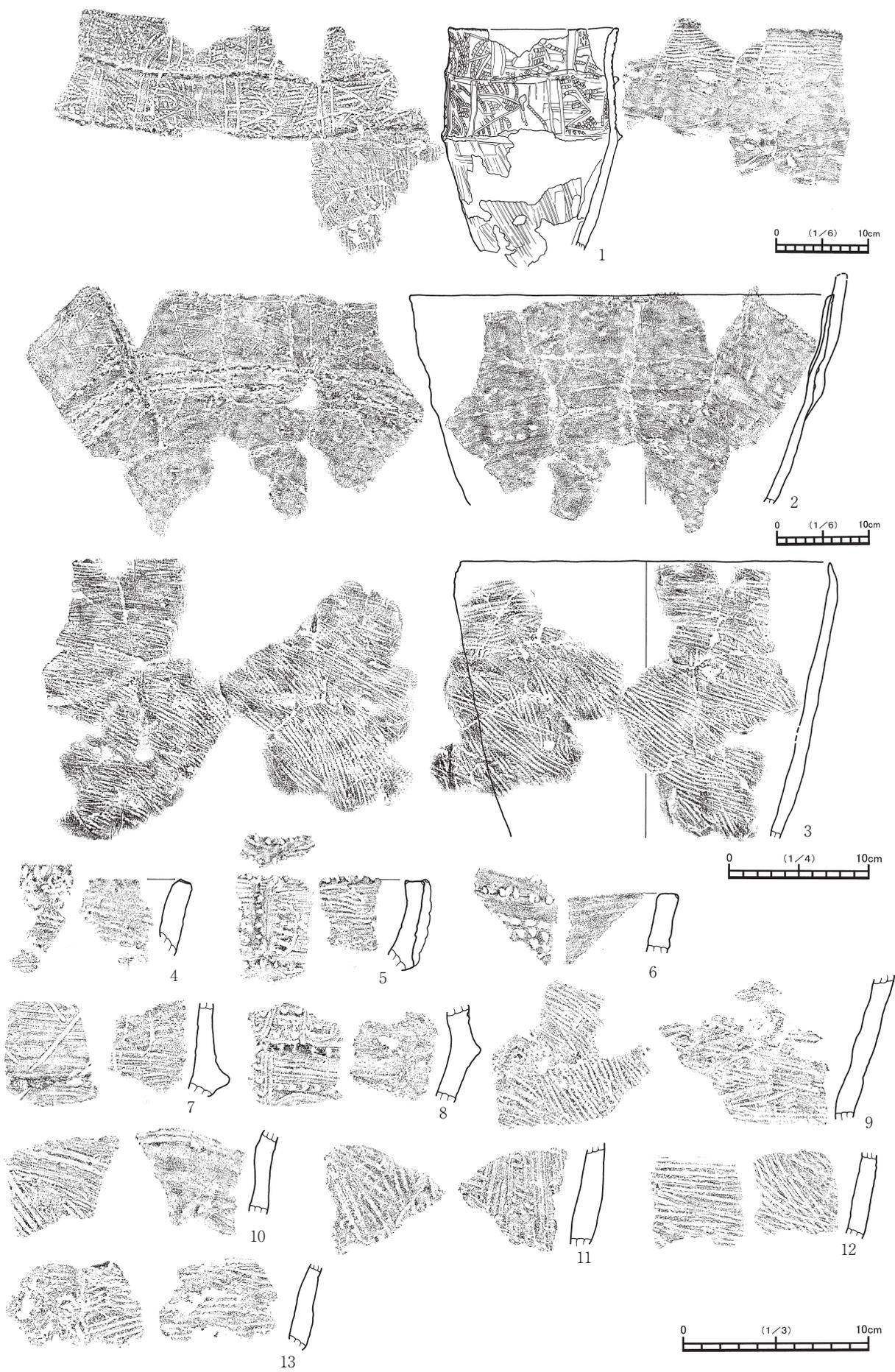
第353図 216号遺構実測図および出土遺物実測図



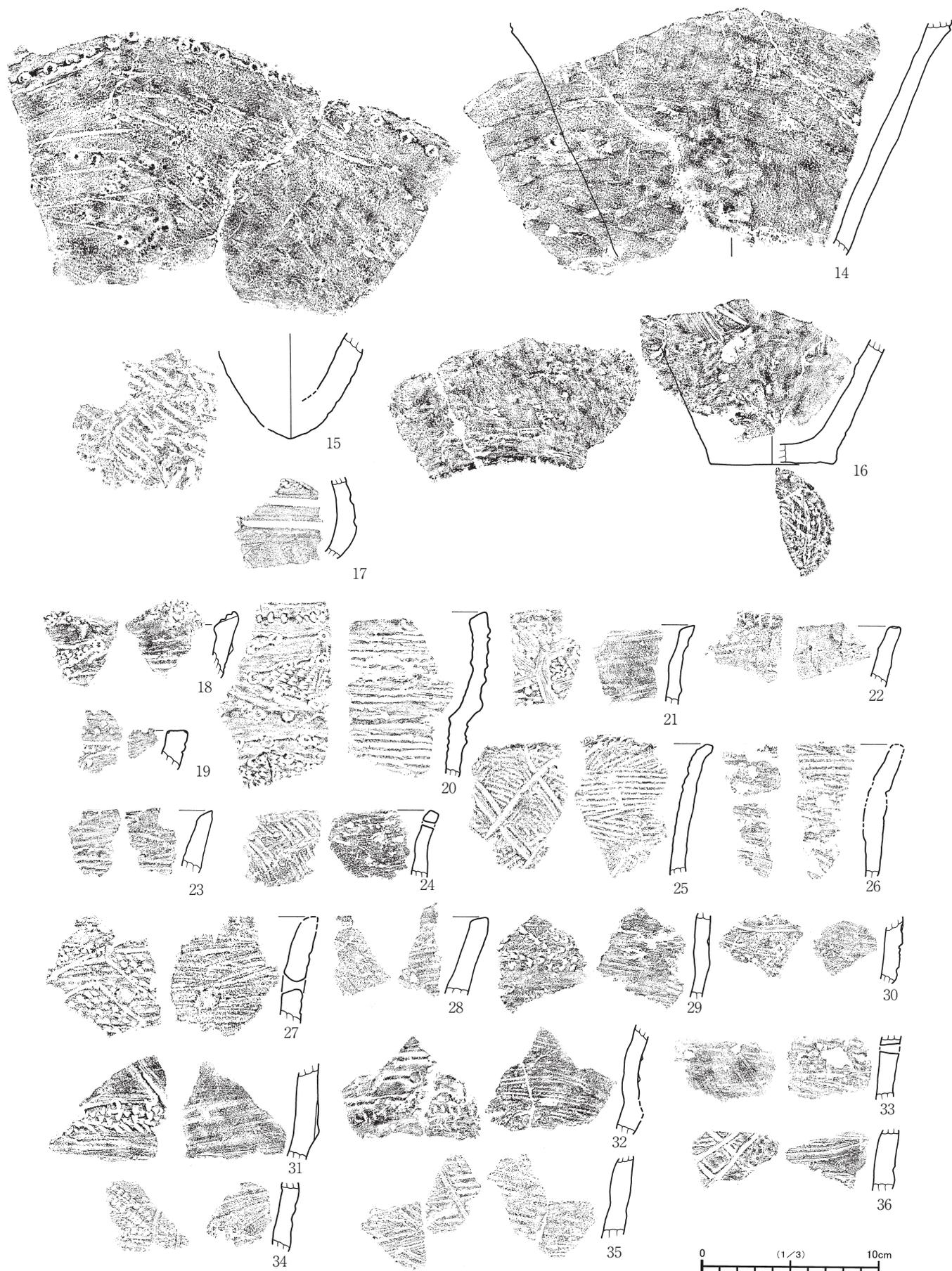
第354図 217号遺構実測図



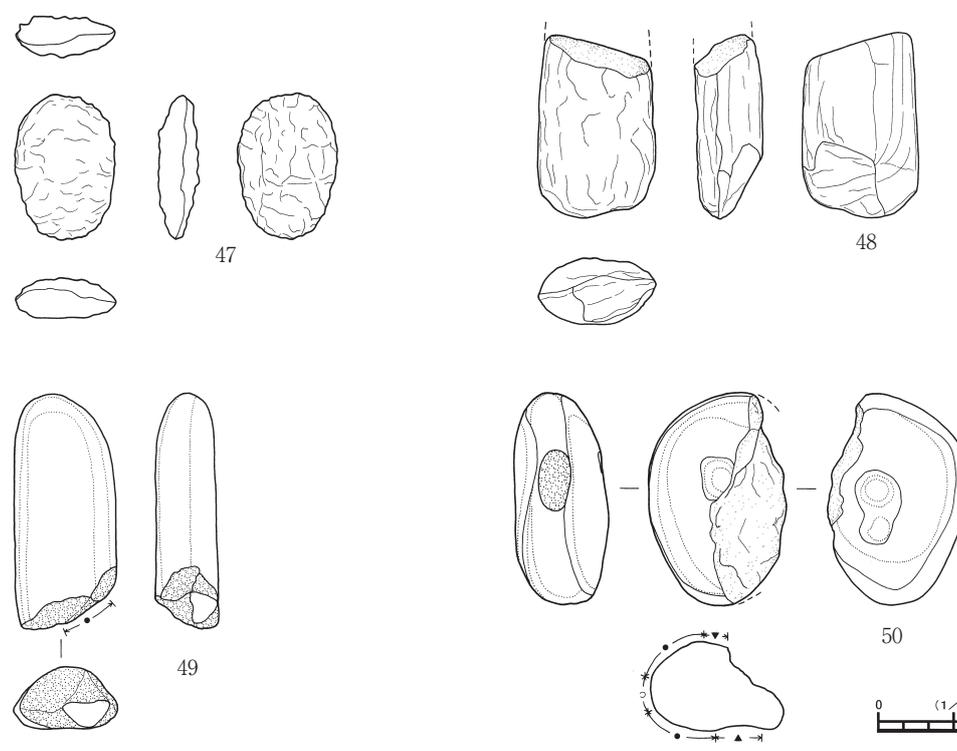
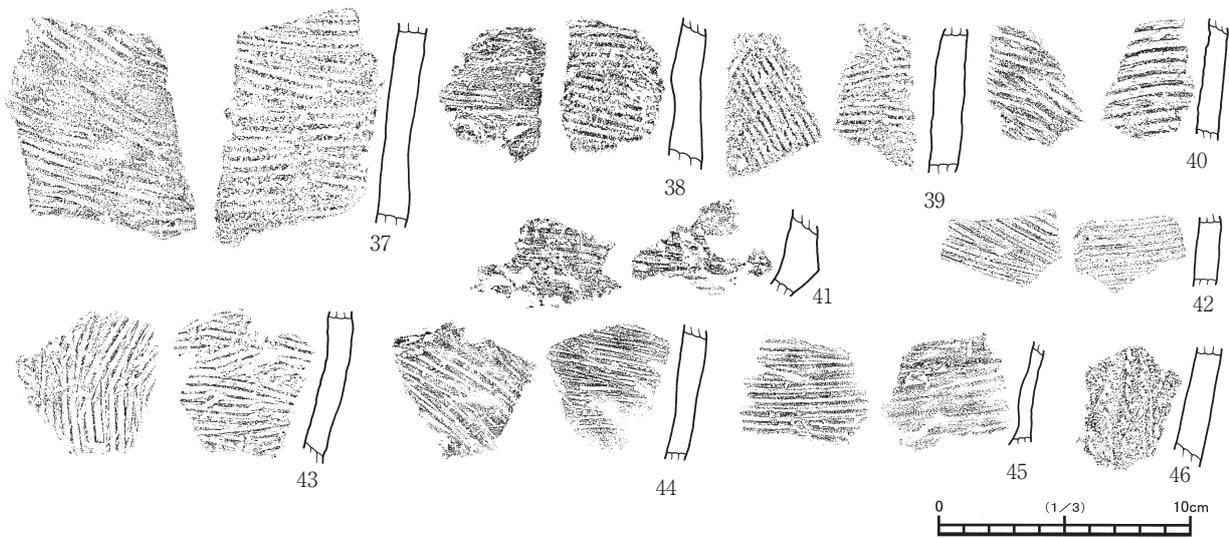
第355図 217号遺構遺物出土状況図



第356图 217号遺構出土遺物実測図(1)



第357图 217号遺構出土遺物実測図(2)



第358図 217号遺構出土遺物実測図(3)

口縁部および胴部破片である。6は羽状縄文系深鉢形土器の胴部破片である。

217号遺構

【検出位置】 セ28区I7-01・02

【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸6.13m・短軸3.87m・深さ70cm。燃焼面9箇所。形状はアメーバ状（第354図）。

【覆土】 黒褐色土・暗褐色土などを主体とする。ロームブロック・ローム粒、焼土粒を含む層が多い。

【出土遺物】 310点・15,967gの礫および礫石器が出土している。このうち96.8%に被熱のあとがみ

られる。石器は、5点出土している。うちわけは、打製石斧2点、磨石・敲石1点、凹石1点、石核1点、このほか黒曜石の剥片1点がある。土器は、318点・7,437g出土している。取り上げ方法は、平面・垂直位置を記録した点あげ、一括扱いの両方がある。遺物は覆土の上層からまとまって出土している。土器のうちわけは、撚糸文系・条痕文系・称名寺式などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系のもので全体の97.9%あり、当該時期を217号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、点あげしたものを第356図1～13・第357図14～17に、一括扱いのものを第357図18～36・第358図37～46に示した。1～6・18～28は条痕文系深鉢形土器の口縁部、7～14・29～45は胴部、15・16は底部の破片である。1は推定口径179mm・現存器高240mmを測る平縁の小型深鉢形土器で、文様は横位・斜位の押し引き沈線文を主体とするもの。文様帯は刺突文を付した二条の横位隆帯によって区分される。口唇部には刺突がめぐる。2は推定口径410mm・現存器高241mmを測るものである。文様は沈線による三角形・菱形の区画内を刺突文で充填、要所に円形文を施す。文様帯を区画する横位隆帯上には円形文が配される。また口縁部から縦位の隆帯もみられ、この部分の口縁は波状となる。3は推定口径264mm・現存器高199mmを測る平縁の深鉢形土器で、内外面とも横・斜方向に条痕文を施す。14は現存器高132mm・胴部最大径246mmを測る胴部破片で、横位の微隆帯上に円形文がめぐる。表裏面ともに条痕文は明瞭でないが、内面にはナデ痕が顕著である。15は尖底の底部である。外面には斜方向の条痕文がみられる。16は現存器高71mm・推定底径68mmを測る平底の底部である。底面にも条痕文がある。17は称名寺式の深鉢形土器胴部とみられる。46は撚糸文系深鉢形土器の胴部破片である。

出土石器のうち主なものを第358図47～50に示した。47・48は堇青石ホルンフェルス・黒雲母片岩製の打製石斧とみられるものである。49は砂岩製の磨石・敲石である。下端面に敲打痕・摩耗痕がある。50は輝石安山岩製の凹石で、側面には敲打痕があり、また表裏面には摩耗痕がある。多機能をもった石器とみられる。

218号遺構

【検出位置】 セ28区I7-03・04・07

【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸3.18m・短軸2.98m・深さ47cm。燃烧面1箇所（第359図）。

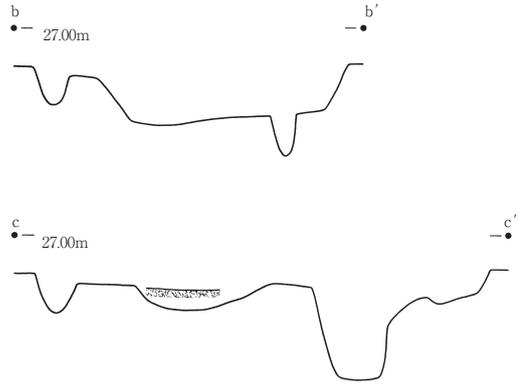
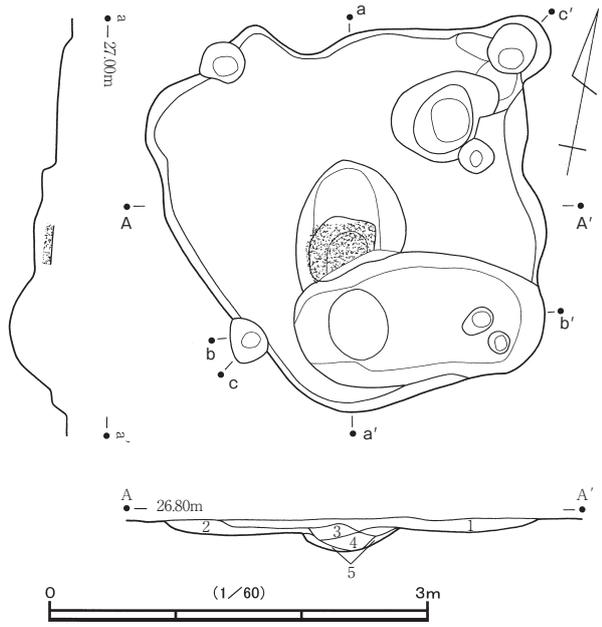
【覆土】 暗茶褐色土・暗褐色土などを主体とする。

【その他】 周囲に竪穴状の掘り込みがある。

【出土遺物】 52点・2,004gの礫および礫石器が出土している。このうち92.6%に被熱のあとがみられる。石器は、3点出土している。うちわけは、石鏃1点・楔形石器1点・磨石1点である。土器は、115点・1,340g出土している。取り上げ方法は、覆土一括扱いのもののみである。うちわけは、条痕文系・羽状縄文系などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系のもので全体のおよそ97%あり、当該時期を218号遺構の帰属時期とみる。

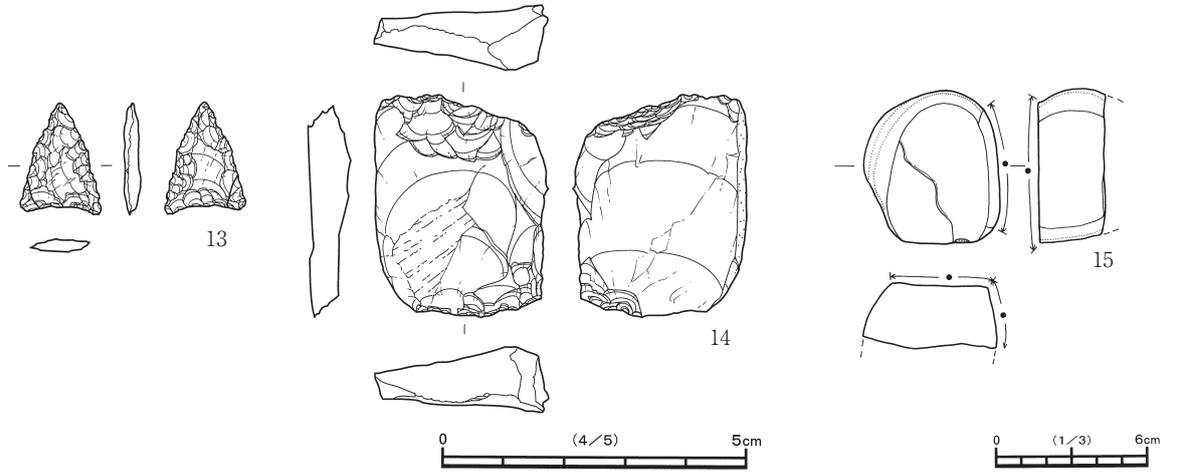
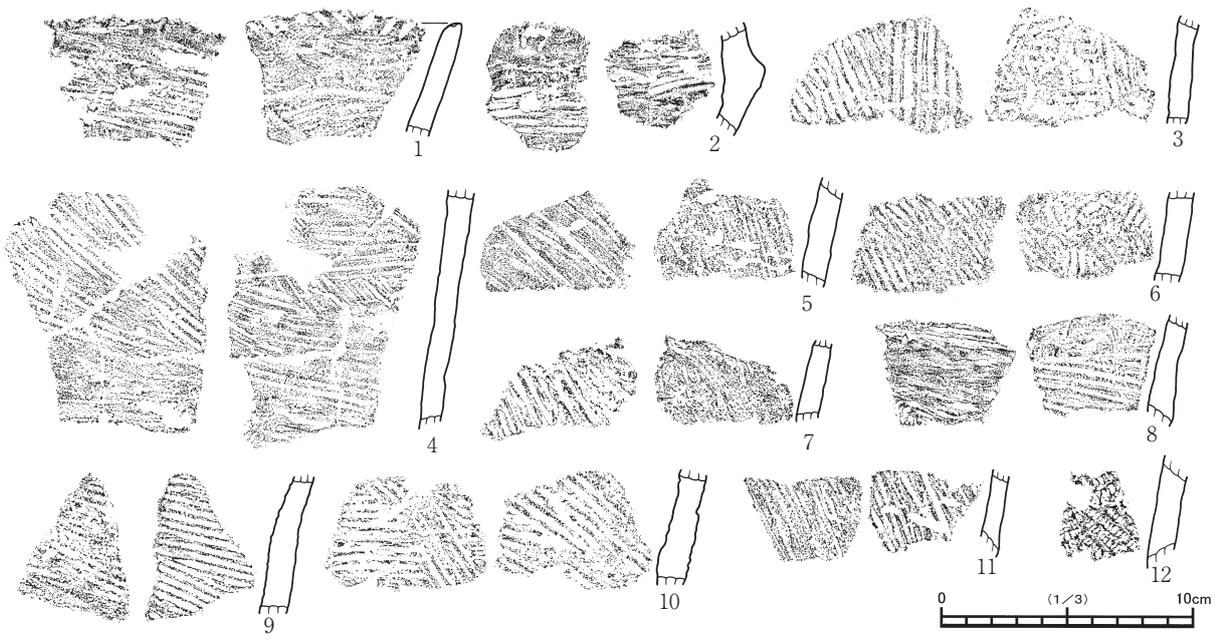
【遺物説明】 出土土器のうち、主なものを第359図1～12に示した。1～11は条痕文系深鉢形土器の口縁部および胴部破片である。12は羽状縄文系深鉢形土器の胴部破片である。

出土石器を第359図13～15に示した。13は最大長18.1mmを測る頁岩製の石鏃である。14は最大長36.4mmを測る珪質頁岩製の楔形石器である。15は砂岩製の磨石である。

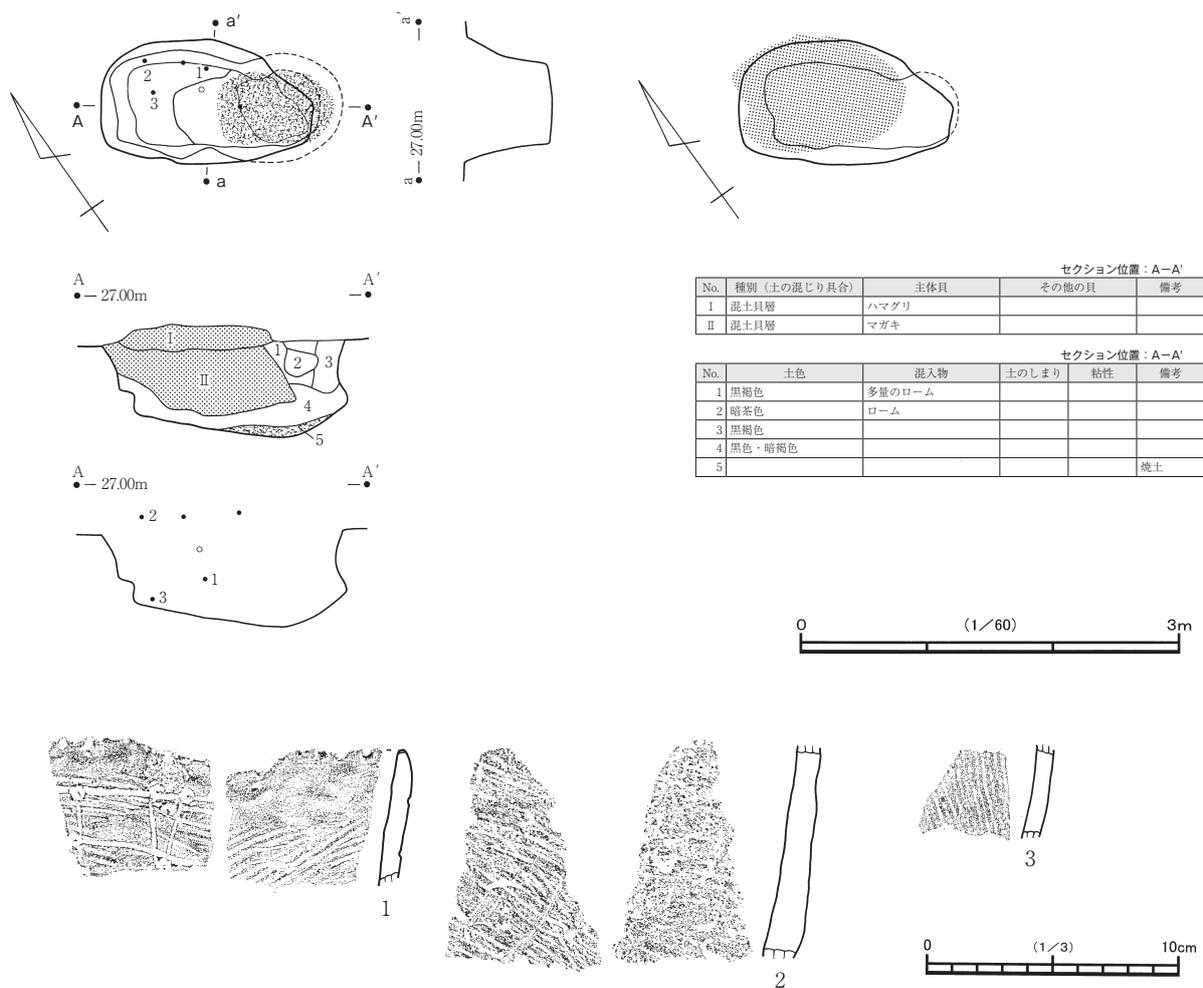


セクション位置：A-A'

No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	暗茶褐色				
2	暗褐色				
3	褐色	多量の焼土粒			
4	3よりやや暗い褐色				
5	暗褐色				



第359図 218号遺構実測図および出土遺物実測図



第360図 219号遺構実測図・遺物出土状況図および出土遺物実測図

219号遺構

【検出位置】 セ28区G8-15

【種別】 炉穴

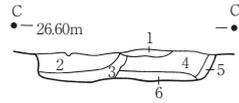
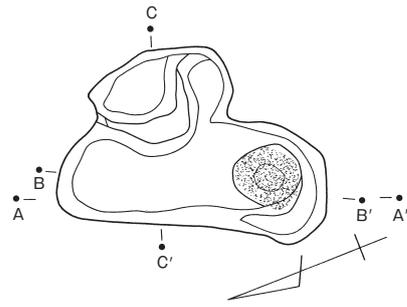
【規模ほか】 長軸1.89m・短軸1.01m・深さ78cm。主軸方向125°。燃烧面1箇所（第360図）。

【覆土】 黒褐色土・暗褐色土などを主体とする。一部に貝層がみられる。貝層は遺構覆土の北半部分に、長軸140・短軸94・厚さ71cmほどの規模で形成されていた。遺構基底面からやや浮いた位置に形成されている。

【出土遺物】 土器は、5点・148g出土している。取り上げ方法は、平面・垂直位置を記録した点あげのみである。遺物は、覆土の上層から下層まで幅広く出土している。土器のうちわけは、撚糸文系・条痕文系などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系のもので全体のおよそ92%あり、当該時期を219号遺構の帰属時期とみる。

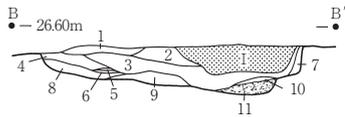
【遺物説明】 出土土器のうち、主なものを第360図1～3に示した。1・2は条痕文系深鉢形土器の口縁部および胴部の破片である。3は撚糸文系深鉢形土器の胴部破片である。

220号遺構



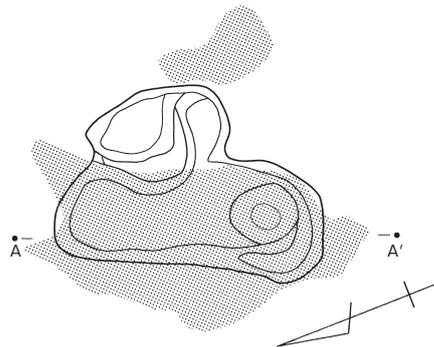
セクション位置：C-C'

No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	黒褐色	ローム (人為的か)			
2	黒褐色	ローム粒			
3	黒褐色	多量の焼土			
4	黒褐色	若干のローム			崩落した土
5	黒褐色	ローム			
6	黒褐色	ローム・焼土粒			



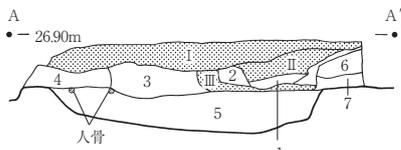
セクション位置：B-B'

No.	種別 (土の混じり具合)	主体貝	その他の貝	備考
1	混土貝層	ハマグリ・マガキ		



セクション位置：B-B'

No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	黒褐色	ロームブロック (人為的か)			
2	黒褐色	若干のロームブロック			
3	黒褐色	若干のロームブロック			
4	黒褐色				
5	黒褐色	ローム			
6	黒褐色	多量の焼土			
7	黒褐色	ローム			
8	黒褐色	若干のローム			
9	黒褐色	ロームブロック・若干の貝殻			
10	黒褐色				
11		焼土・灰			焼土

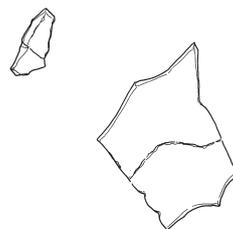
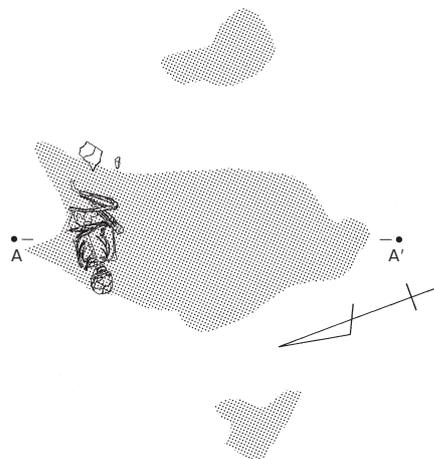
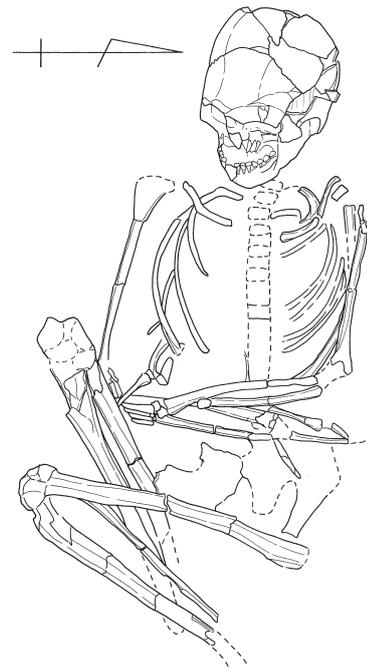


セクション位置：A-A'

No.	種別 (土の混じり具合)	主体貝	その他の貝	備考
I	混土貝層～純貝層			
II	混土貝層	マガキ		
III	混土貝層			

セクション位置：A-A'

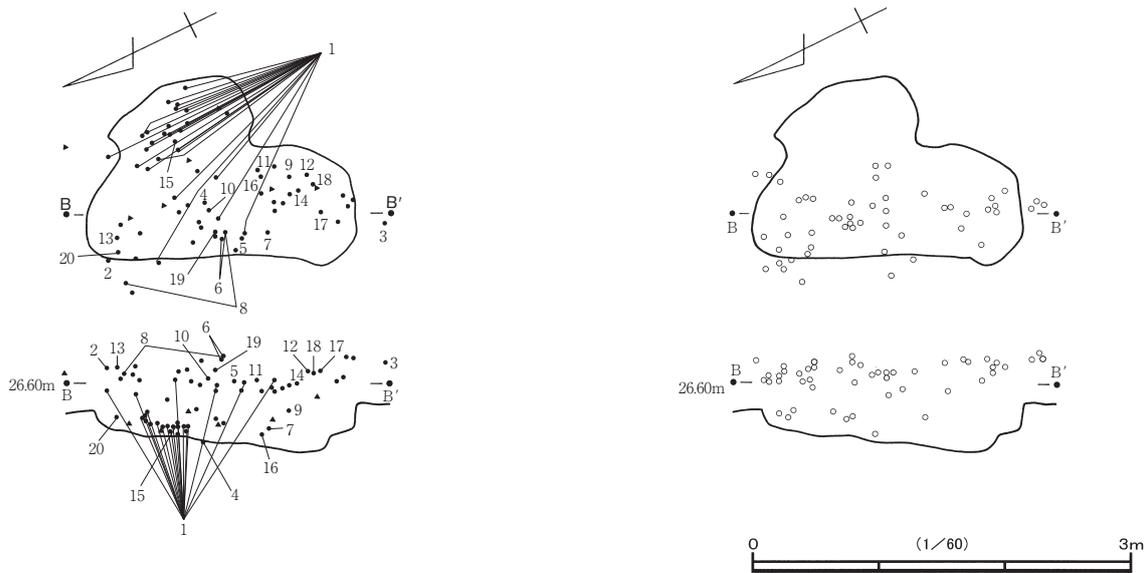
No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1		若干の貝			灰
2	暗褐色				
3	暗褐色	ロームブロック			
4	暗褐色				
5					人骨
6	黒色				
7	暗褐色				



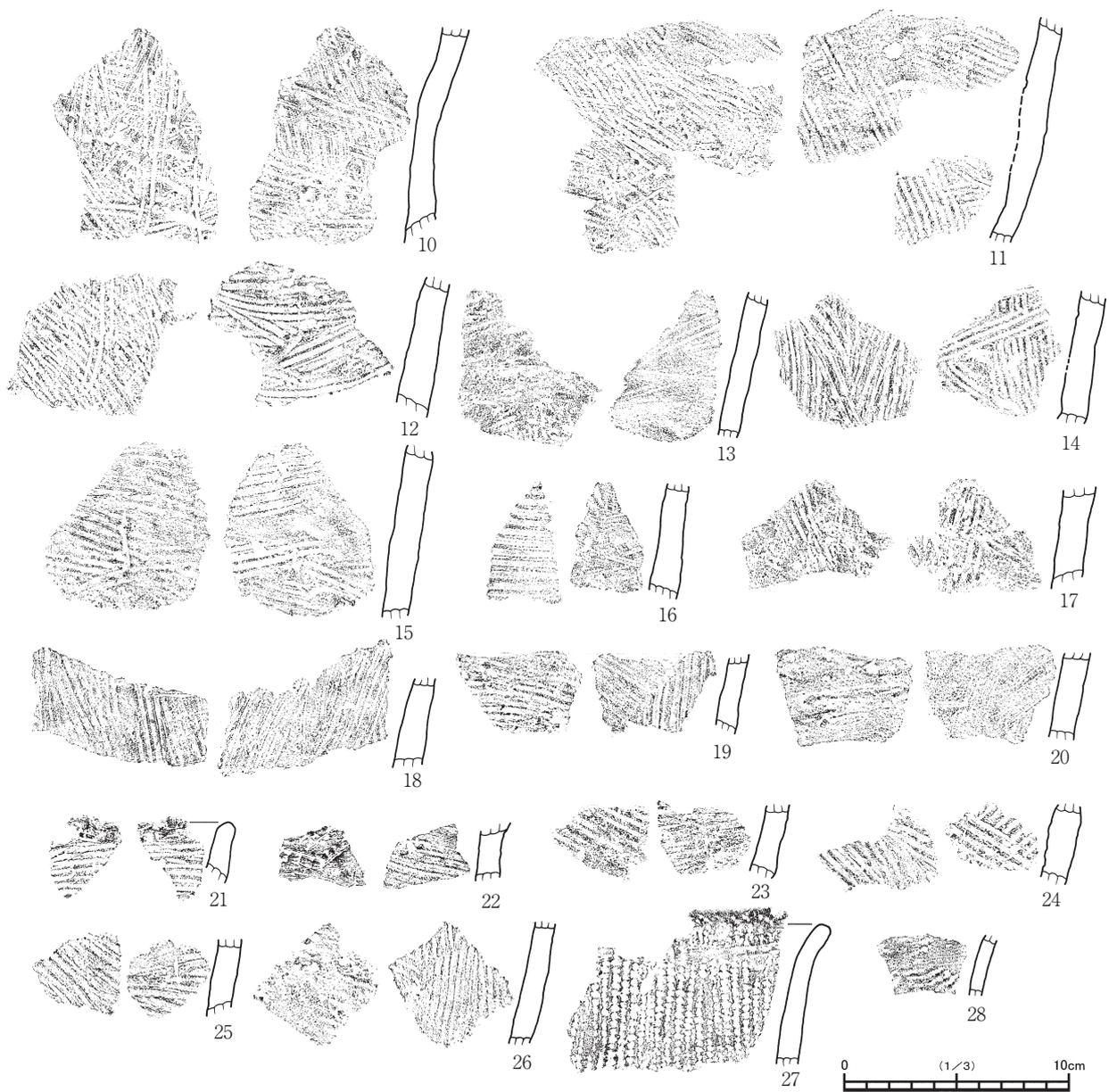
0 (1/60) 3m

0 (1/10) 50cm

第361図 220号遺構実測図および1号人骨出土状況図



第362図 220号遺構遺物出土状況図および出土遺物実測図(1)



第363図 220号遺構出土遺物実測図(2)

【検出位置】 セ28区G8-12

【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸2.10m・短軸1.42m・深さ40cm。燃焼面1箇所（第361図）。

【覆土】 黒褐色土・暗褐色土などを主体とする。ロームブロック・焼土・灰などを含む層もみられる。一部に貝層がみられる。貝層は遺構をほぼ全体的に覆い、さらにその東西に2箇所、計3箇所からなる。長軸364・短軸274・厚さ38cmほどの規模で形成されていた。

【その他】 人骨が覆土中層より1体検出されている。検出位置は、遺構覆土上部に堆積した貝層の直下にあたる。頭位方向は西側、両手・両足を強く曲げた屈葬の姿勢をとる。体全体がすっぽりと貝層に覆われていたためか、検出時点では人骨の保存状況は比較的良好とみられた。図版109にみるよ

うに、人骨の頭部位置には貝がブロック状に検出されており、この部分を意識し意図的に被せたようにも見える。本遺構下部は大部分が土層であることから、遺構がある程度埋まった後、やや窪地状になった箇所に入骨を埋葬し、その直後に貝で覆ったものとみられる。

【出土遺物】 10点・783gの礫が出土している。このうちすべてに被熱のあとがみられる。石器は、珪質頁岩の剥片1点である。土器は、28点・1,052g出土している。取り上げ方法は、平面・垂直位置を記録した点あげ、一括扱いの両方がある。遺物の分布は遺構全域にわたり、覆土上層から下層まで幅広く出土している。また、土器や礫のほかにも貝層中や貝層下部から獣骨類が多く検出されている。土器のうちわけは、撚糸文系・条痕文系などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系のもので全体の91.1%あり、当該時期を220号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、点あげしたものを第362図1～9・第363図10～20に、覆土一括扱いのものを第363図21～28に示した。1～9・21は条痕文系深鉢形土器の口縁部、10～20・22～26は胴部の破片である。1は口径368mm・現存器高392mmを測る平縁の土器である。底部を欠くが、尖底となるとみられる。口縁下に一条の横位隆帯がめぐり、外面には横・斜方向に、内面には横・縦・斜方向に条痕文がみられる。27は撚糸文系深鉢形土器の口縁部、28は胴部破片である。

221号遺構

【検出位置】 セ28区G9-09・13

【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸5.30m・短軸3.93m・深さ86cm。燃焼面5箇所。燃焼面は、遺構の外側を向くように放射状に位置している（第364図）。

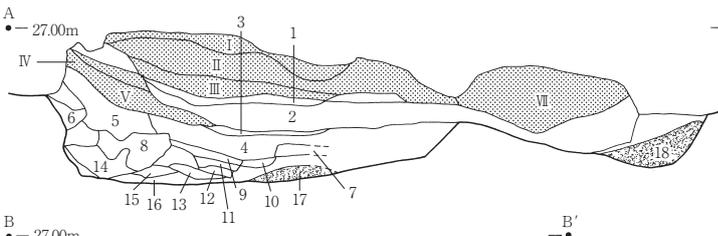
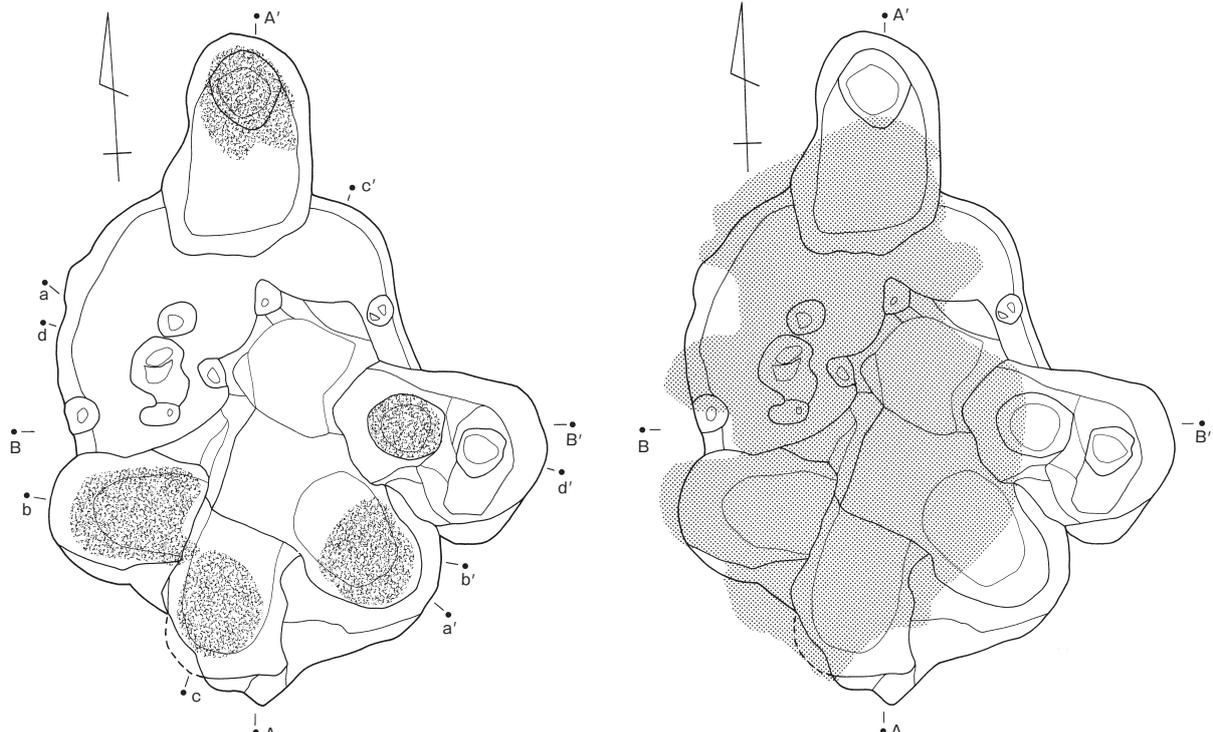
【覆土】 黒色土・暗褐色土などを主体とする。ロームブロック・ローム粒、焼土を多く含む。一部に貝層がみられる。貝層は遺構覆土のほぼ全体的に、長軸452・短軸288・厚さ65cmほどの規模で形成されていた。貝層は遺構覆土の上部を覆っていた。

【その他】 周囲に竪穴状の掘り込みがある。

【出土遺物】 77点・5,661gの礫および礫石器が出土している。このうち78.1%に被熱のあとがみられる。石器は、4点出土している。うちわけは、石鏃1点・砥石1点・磨石1点・敲石1点、このほかチャートの剥片1点がある。土器は、183点・5,616g出土している。取り上げ方法は、平面・垂直位置を記録した点あげ、一括扱いの両方がある。遺物の分布は遺構のほぼ全域にわたり、覆土上層からまとまって出土している。また、土器や礫のほかにも貝層中や貝層下部から獣骨類が多く検出されている。土器のうちわけは、撚糸文系・条痕文系などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系のもので全体のおよそ98%あり、当該時期を221号遺構の帰属時期とみる。

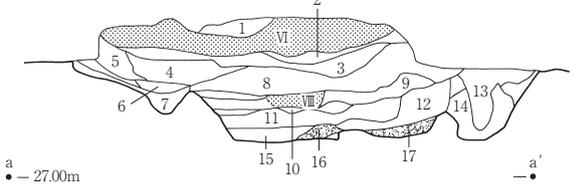
【遺物説明】 出土土器のうち、点あげしたものを第366図1～20・第367図21～32・第368図33～35に、覆土一括扱いのものを第368図36～54に示した。1～7・36～43は条痕文系深鉢形土器の口縁部、8～31・44～53は胴部、32・33は底部の破片である。全体的に文様をもつ土器が少ない。32は現存器高77mm・推定底径70mmを測る底部である。34・35・54は撚糸文系深鉢形土器の胴部破片である。出土石器を第368図55～58に示した。55は最大長21.4mmを測る黒曜石製の石鏃である。56は堇青石ホルンフェルス製の砥石である。57は砂岩製の磨石である。58は頁岩製の敲石である。

222号遺構



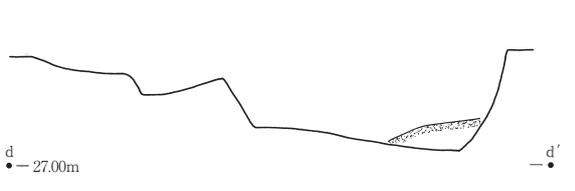
セクション位置：A-A'・B-B'

No.	種別 (土の混じり具合)	主体貝	その他の貝	備考
I	混貝土層			
II	混貝土層	ハマグリ		
III	純貝層	マガキ		
IV	混貝土層	シオフキ		
V	混貝土層	マテガイ		
VI	純貝層			
VII	純貝層			
VIII	混貝土層			



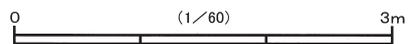
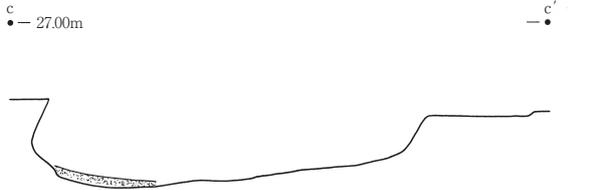
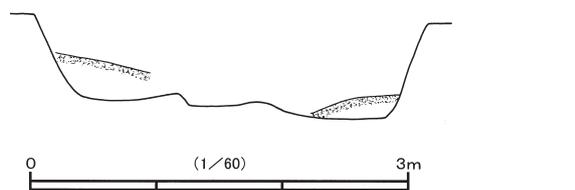
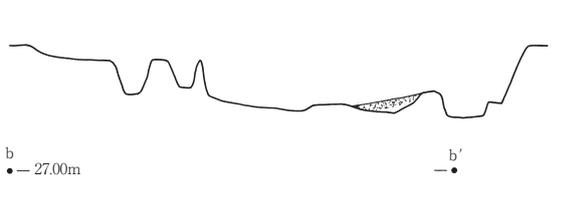
セクション位置：A-A'

No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1		ロームブロック・ローム粒			
2	暗黒褐色	ローム粒・若干のブロック			
3	黒褐色	ロームブロック			(床)
4	黒色				
5	暗黒褐色				
6	暗茶色				
7	暗褐色				
8		ロームブロック・ローム・黒色土ブロック			
9	黒色				
10		ロームブロック			
11	黒色	ロームブロック			
12	黒色	ロームブロック			
13		ロームブロック・焼土			
14	黒色				
15	黒色	ロームブロック			
16		ロームブロック・焼土			焼土
17					焼土
18					焼土

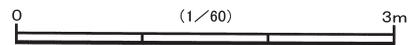
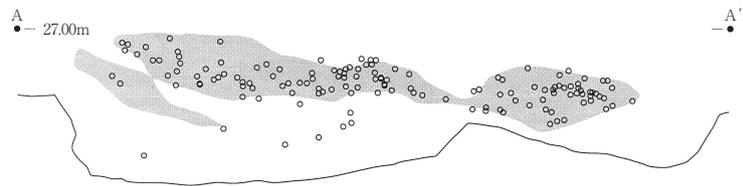
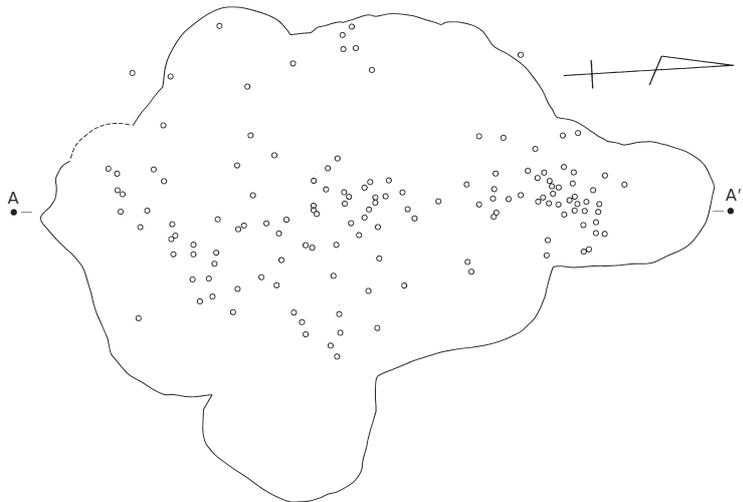
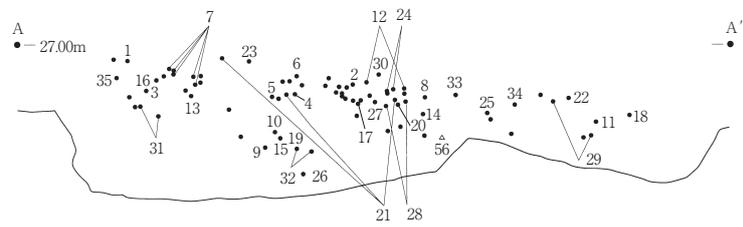


セクション位置：B-B'

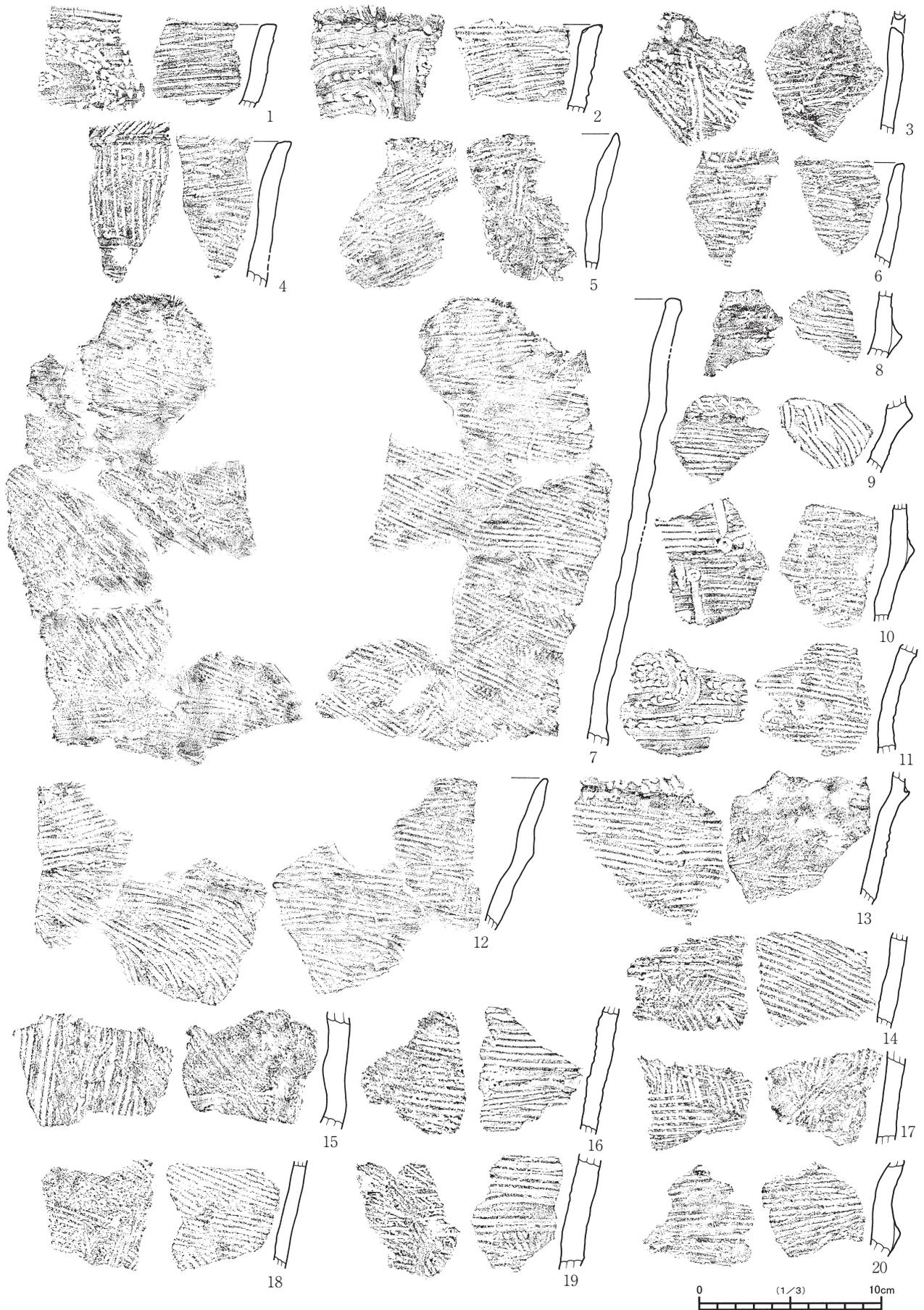
No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	黒褐色				
2		ローム			
3		ロームブロック			
4	暗黒褐色				
5	黒褐色	ローム			
6	黒色				
7	暗黄色				
8	黒褐色				
9		ロームブロック・ローム			
10					焼土・灰
11	暗褐色	多量のローム粒			
12	暗褐色	多量のローム粒			
13	暗黄茶色				
14	暗茶色				
15	黒色	多量のローム			
16	黒色				焼土
17					焼土



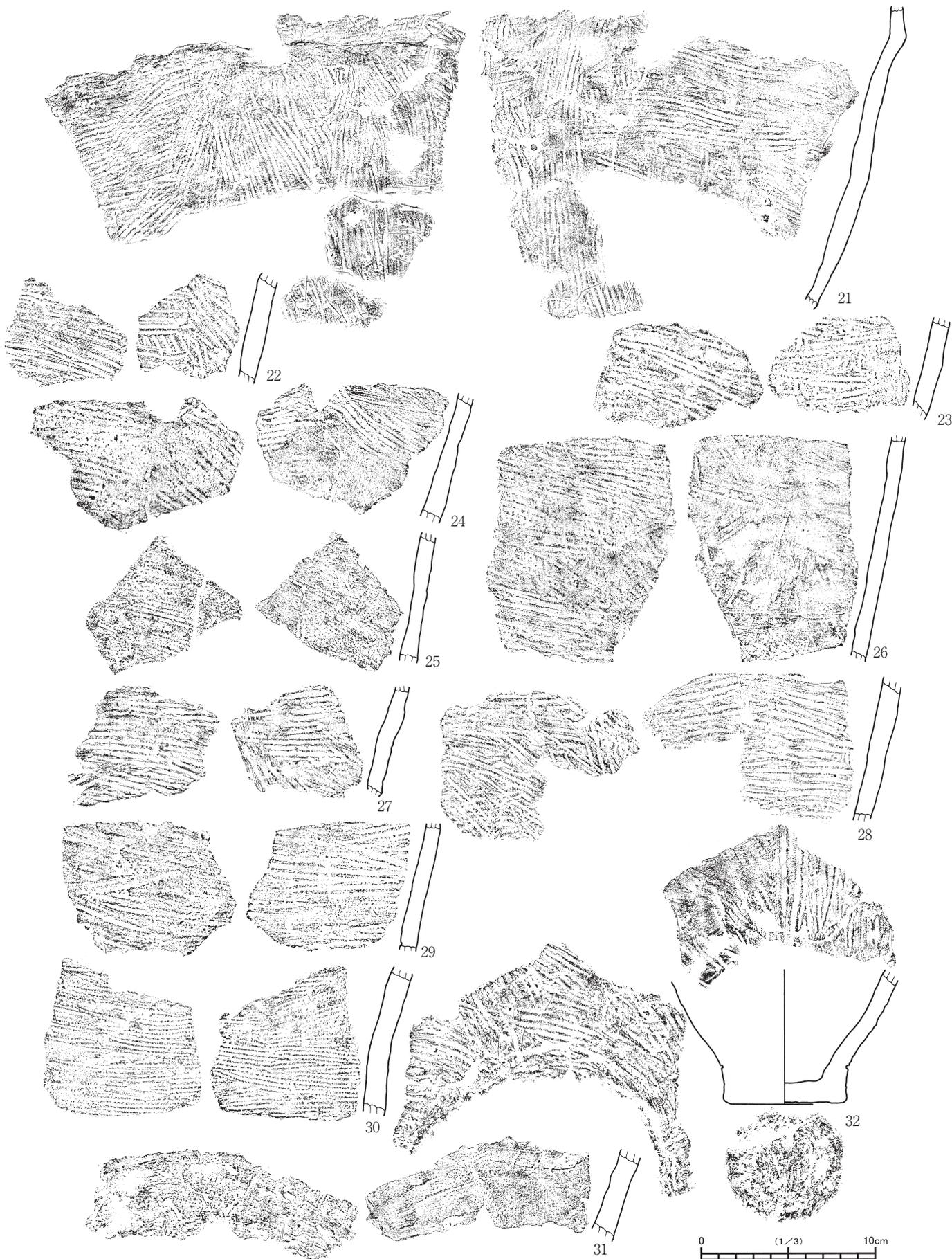
第364図 221号遺構実測図



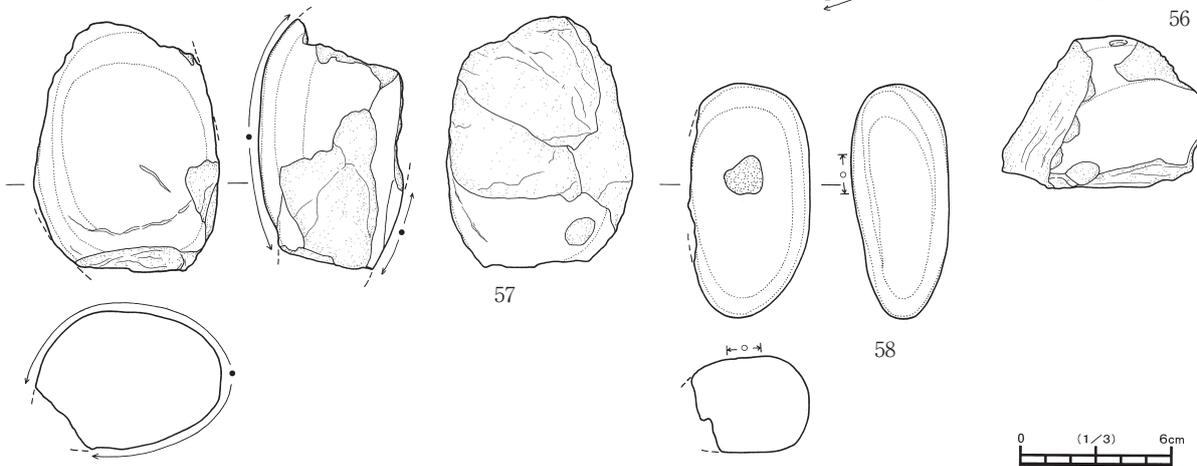
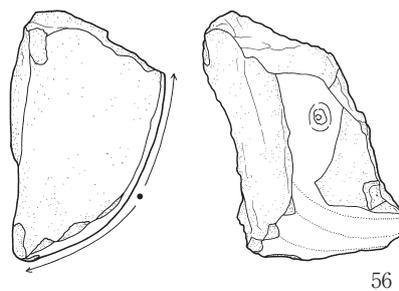
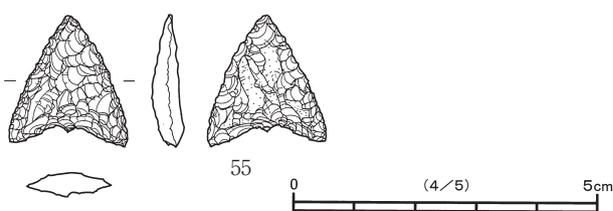
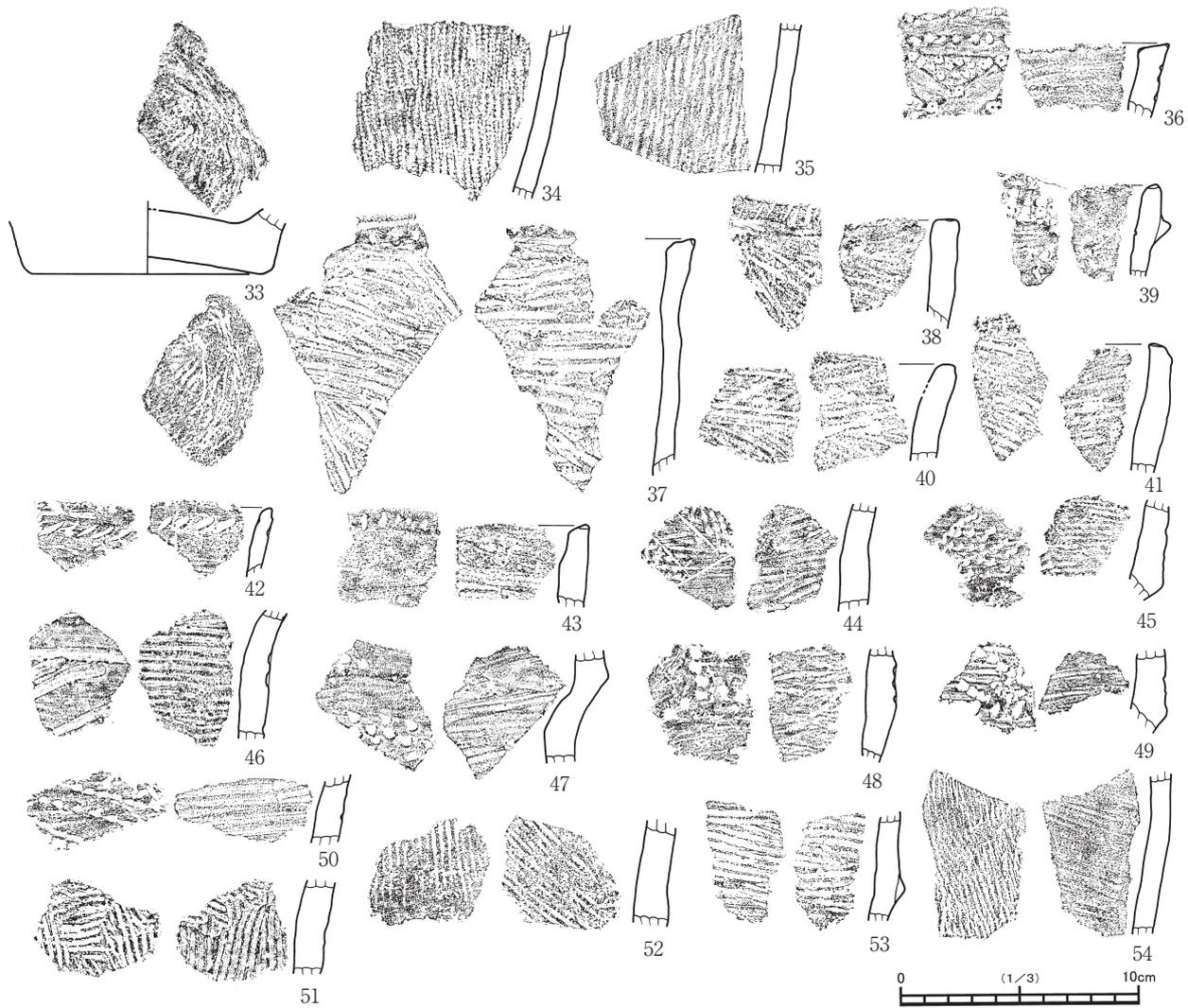
第365図 221号遺構遺物出土状況図



第366图 221号遺構出土遺物実測図(1)



第367图 221号遺構出土遺物実測図(2)



第368图 221号遺構出土遺物実測図(3)

【検出位置】 セ28区G9-10

【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸4.11m・短軸2.51m・深さ81cm。燃焼面2箇所（第369図）。

【覆土】 黒色土・暗褐色土などを主体とする。ロームブロック・ローム粒を多く含む。

【その他】 周囲に竪穴状の掘り込みがある。

【出土遺物】 1点・57gの被熱した礫が出土している。石器は、2点出土している。うちわけは、R F 1点・楔形石器1点、このほか珪質頁岩・凝灰質砂岩の剥片2点がある。土器は、63点・2,147g出土している。取り上げ方法は、平面・垂直位置を記録した点あげ、一括扱いの両方がある。遺物は南側の燃焼面上部からややまとまって出土している。土器のうちわけは、撚糸文系・条痕文系などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系のもので全体の97.9%あり、当該時期を222号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、点あげしたものを第369図1・第370図2～4に、一括扱いのものを第370図5～20に示した。1・2・5～9は条痕文系深鉢形土器の口縁部、3・4・10～18は胴部破片である。1は、口縁部が緩やかな波状となる深鉢形土器で、文様は連続する押し引き沈線によって菱形・三角形を構成し、要所に円形文を配したもの。文様帯は二条の横位隆帯で区切られ、波頂部下には縦位の隆帯がみられる。また口唇部前後面には刺突がめぐる。4・19・20は撚糸文系深鉢形土器の胴部破片である。出土石器を第370図21に示した。最大長18.1mmを測る黒曜石製のR Fである。

223号遺構

【検出位置】 セ28区G9-06・07・10・11

【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸5.33m・短軸5.10m・深さ52cm。燃焼面7箇所。形状はアメーバ状（第371図）。

【覆土】 黒褐色土・暗褐色土などを主体とする。

【出土遺物】 79点・4,529gの礫および礫石器が出土している。このうち84.8%に被熱のあとがみられる。石器は、磨石2点が出土している。土器は、26点・543g出土している。取り上げ方法は、覆土一括扱いのもののみである。うちわけは、撚糸文系・条痕文系などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系のもので全体のおよそ97%あり、当該時期を223号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、主なものを第371図1～10に示した。1～9は条痕文系深鉢形土器の口縁部および胴部破片である。10は撚糸文系深鉢形土器の胴部破片である。

出土石器を第371図11・12に示した。いずれも磨石で、石材は輝石安山岩・スコリア質安山岩製である。

224号遺構

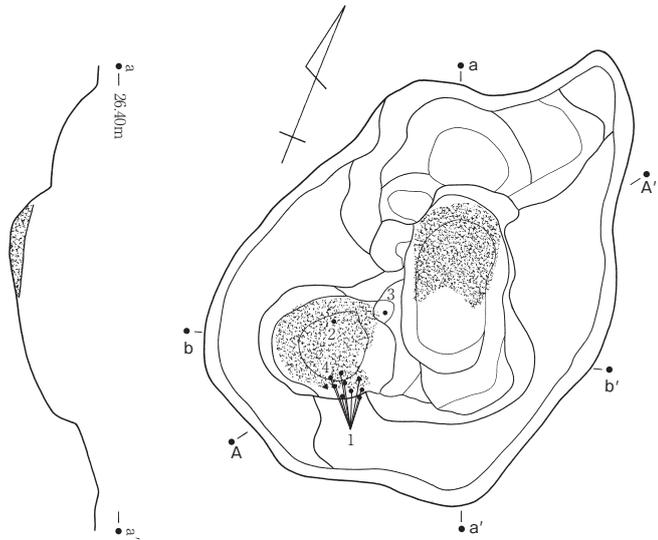
【検出位置】 セ28区G9-08

【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸2.25m・短軸1.80m・深さ50cm。燃焼面3箇所。形状はアメーバ状（第372図）。

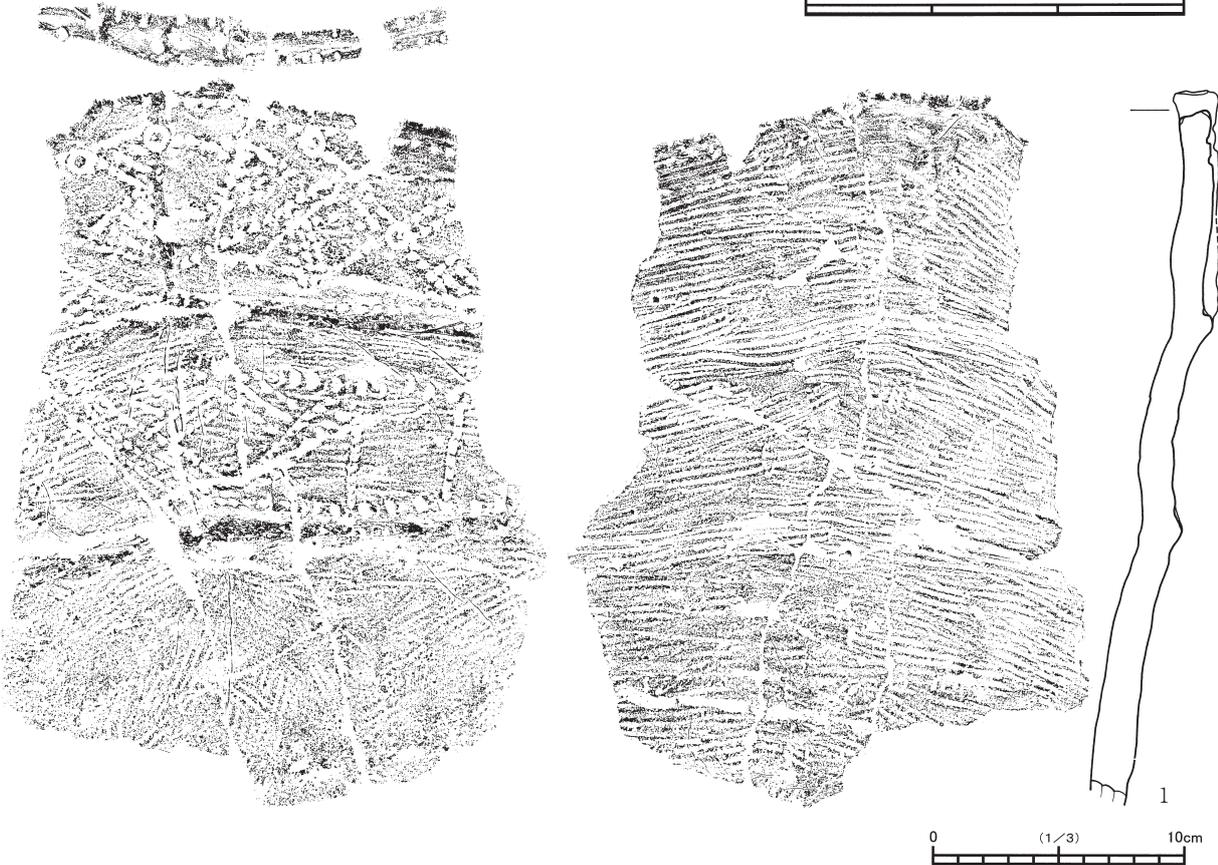
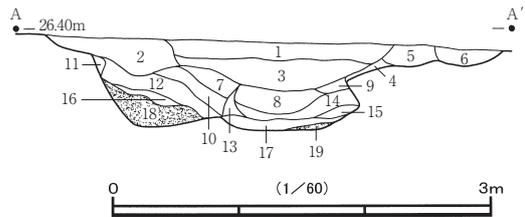
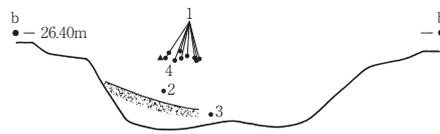
【覆土】 暗黒褐色土・黒褐色土などを主体とする。ローム粒・焼土粒を含む層が多い。

【出土遺物】 土器は、103点・2,395g出土している。取り上げ方法は、覆土一括扱いのもののみである。うちわけは、撚糸文系・撚糸文系（無文）・条痕文系などである。このうち主体を占めるのは、

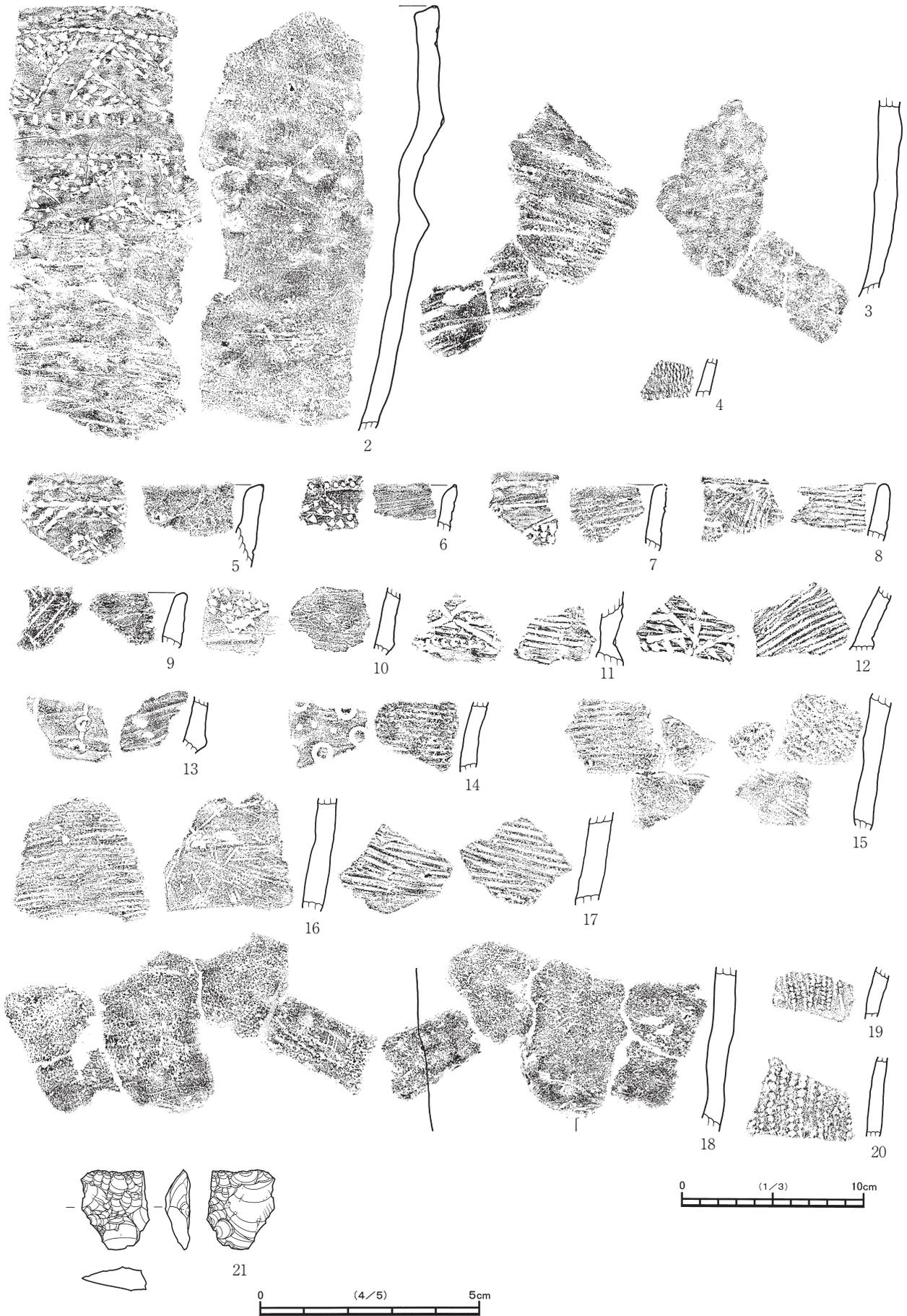


セクション位置：A-A'

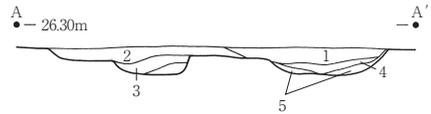
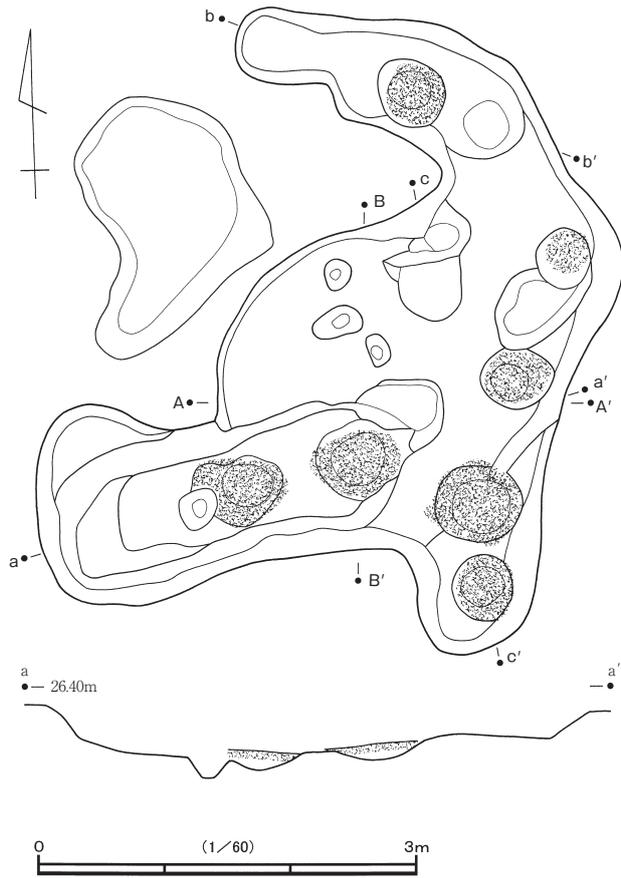
No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	暗黒褐色	多量のローム粒			
2	黒色	多量のローム粒			
3	黒色	多量のローム粒			
4	暗茶色				
5	暗褐色	ローム粒・ブロック			
6	黒褐色				
7	暗褐色	多量のローム粒			
8	黒色	多量のローム粒・若干のロームブロック			
9	暗茶色	ロームブロック・ローム粒			
10	暗黒褐色	多量のローム粒			
11	暗褐色				
12	黒色	多量のローム粒・若干のロームブロック・焼土			
13		ロームブロック			
14	黒色	多量のローム粒・ロームブロック・若干の焼土			
15	暗茶色	焼土粒			
16	暗赤褐色				
17		焼土・ローム粒・ロームブロック			
18					焼土
19					焼土



第369図 222号遺構実測図・遺物出土状況図および出土遺物実測図(1)

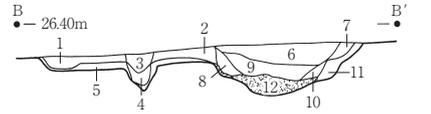


第370图 222号遺構出土遺物実測図(2)



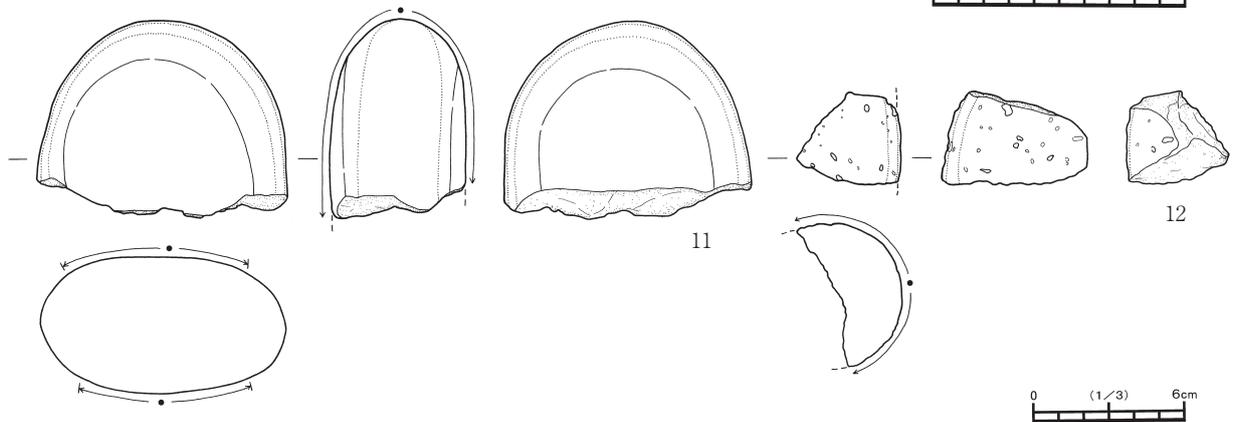
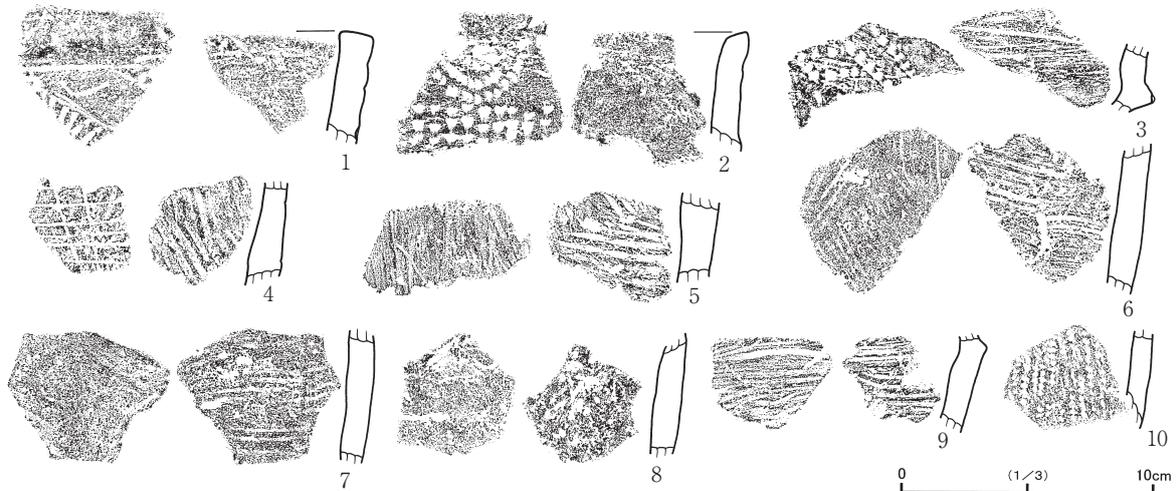
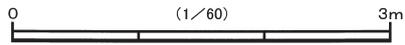
セクション位置：A-A'

No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	黒褐色				
2	暗褐色				
3	暗茶色	ローズ			
4	暗褐色				
5	暗褐色	多量の焼土粒			

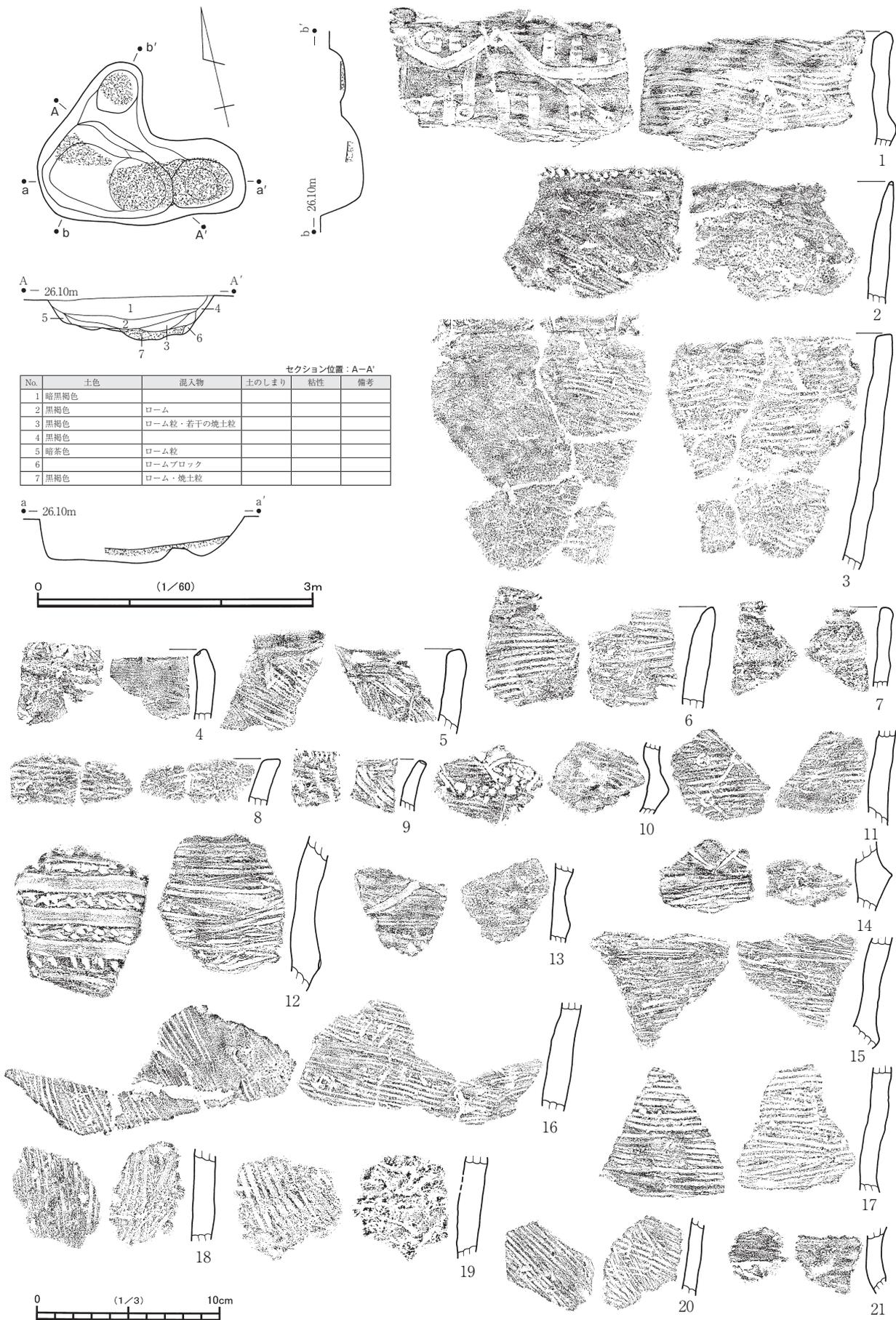


セクション位置：B-B'

No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	黒褐色				
2	暗褐色	多量の褐色土			
3	黒褐色				
4	暗茶色				
5	暗茶色	ローズ			
6	黒褐色				
7	黒褐色				
8	暗褐色				
9	黒褐色	若干の焼土粒			
10	暗赤褐色				
11	暗黒茶褐色				
12					焼土



第371図 223号遺構実測図および出土遺物実測図



第372図 224号遺構実測図および出土遺物実測図(1)

条痕文系のもので全体の85.1%あり、当該時期を224号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、主なものを第372図1～21・第373図22～33に示した。1～9は条痕文系深鉢形土器の口縁部、10～21は胴部破片である。22・23は捺糸文系深鉢形土器の口縁部、24～33は胴部破片である。

225号遺構

【検出位置】 セ28区H8-02・06

【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸2.20m・短軸1.72m・深さ69cm。主軸方向41°。燃焼面2箇所（第374図）。

【覆土】 暗黒褐色土・黒色土などを主体とする。多量のロームブロックを含む。

【重複関係】 南側で226号遺構と重複する。

【出土遺物】 40点・3,593gの礫が出土している。このうち94.4%に被熱のあとがみられる。土器は、163点・4,581g出土している。取り上げ方法は、平面・垂直位置を記録した点あげ、一括扱いの両方がある。遺物は燃焼面の上部からまとまって出土している。土器のうちわけは、捺糸文系・条痕文系などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系のもので全体の99.2%あり、当該時期を225号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、点あげしたものを第375図1～11・第376図12～14に、覆土一括扱いのものを第376図15～37に示した。1は推定口径212mm・器高309mm・底径102mmを測る小型の深鉢形土器である。文様は、幅広の浅い沈線による菱形基調の区画内に無節の縄文を充填。同様の施文具による円形文も施される。文様帯は二条の横位隆帯によって区分される。また口唇部前後面には浅い刺突がめぐる。底面はやや丸底である。2～8・15～26は条痕文系深鉢形土器の口縁部、9～13・27～35は胴部破片である。14は捺糸文系深鉢形土器の口縁部、36・37は胴部破片である。

226号遺構

【検出位置】 セ28区H8-06

【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸3.33m・短軸2.22m・深さ63cm。燃焼面3箇所（第374図）。

【出土遺物】 2点・377gの被熱のあとがみられる礫が出土している。土器は、19点・201g出土している。取り上げ方法は、覆土一括扱いのもののみである。そのすべてが条痕文系のものであることから、当該時期を226号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、主なものを第376図38に示した。条痕文系深鉢形土器の口縁部破片である。

227号遺構

【検出位置】 セ28区H8-05・06

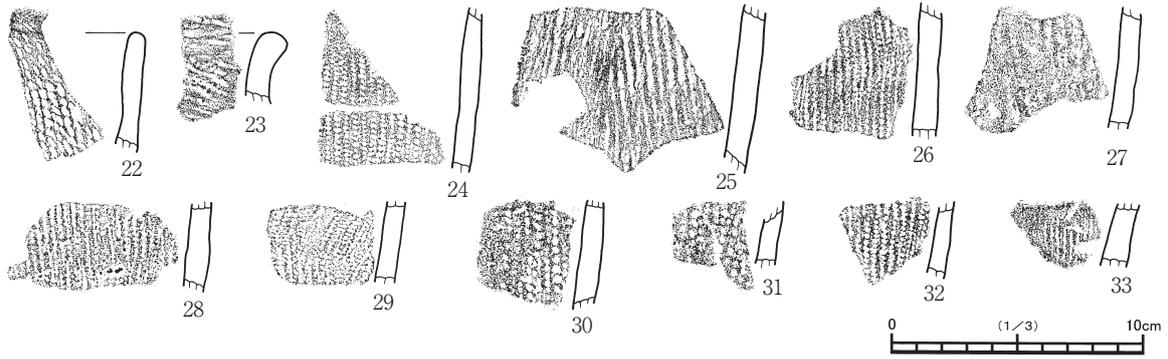
【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸2.28m・短軸1.29m・深さ45cm。主軸方向16°。燃焼面1箇所（第374図）。

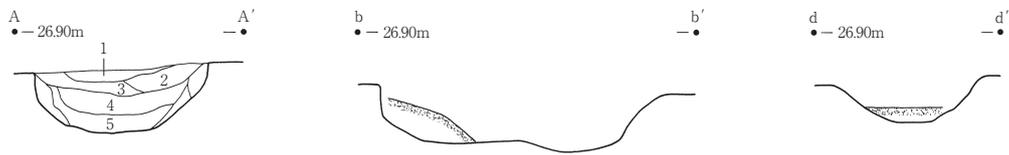
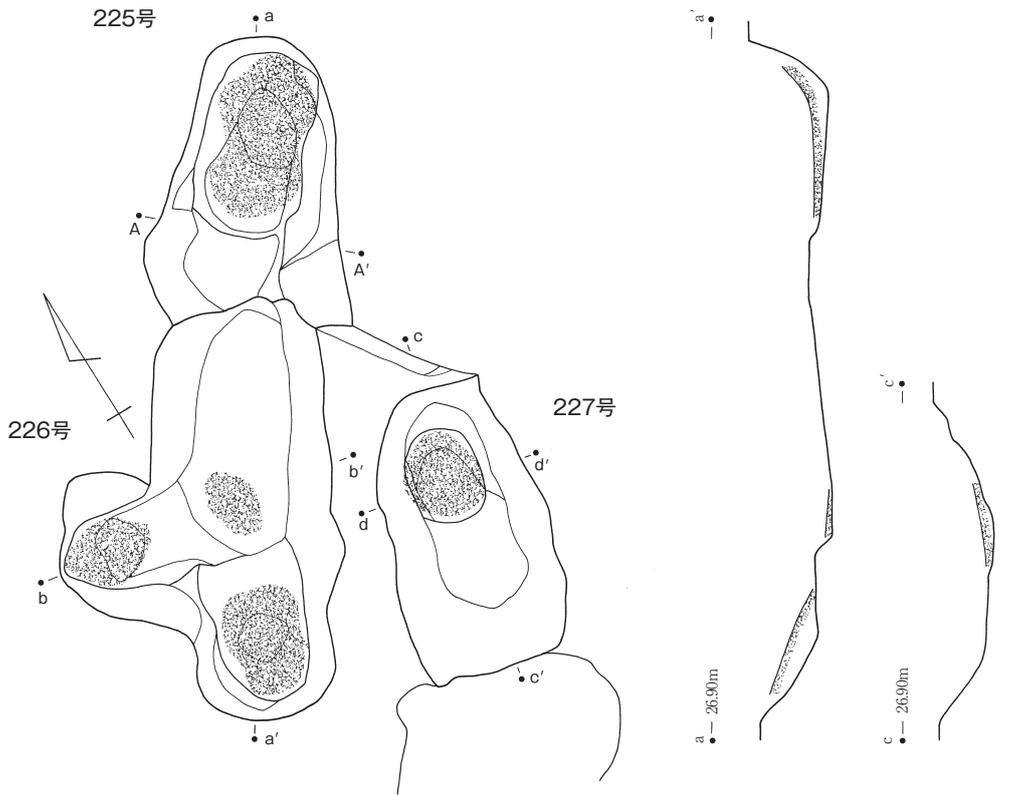
出土遺物がないため遺構の詳細時期は不明。

228号遺構

【検出位置】 セ28区H8-02・03・06・07

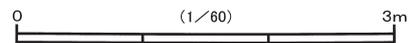


第373図 224号遺構出土遺物実測図(2)



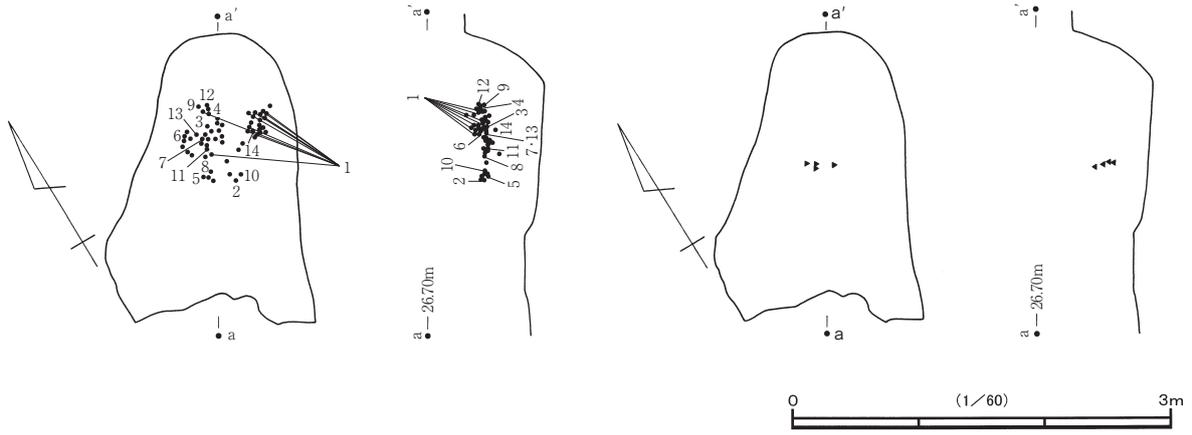
セクション位置：A-A'

No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	黒色				
2	黒色	多量のローム			
3	暗黒褐色	多量のローム・若干のロームブロック			
4	暗黒褐色	多量のローム			
5	暗褐色	ローム粒・ロームブロック			

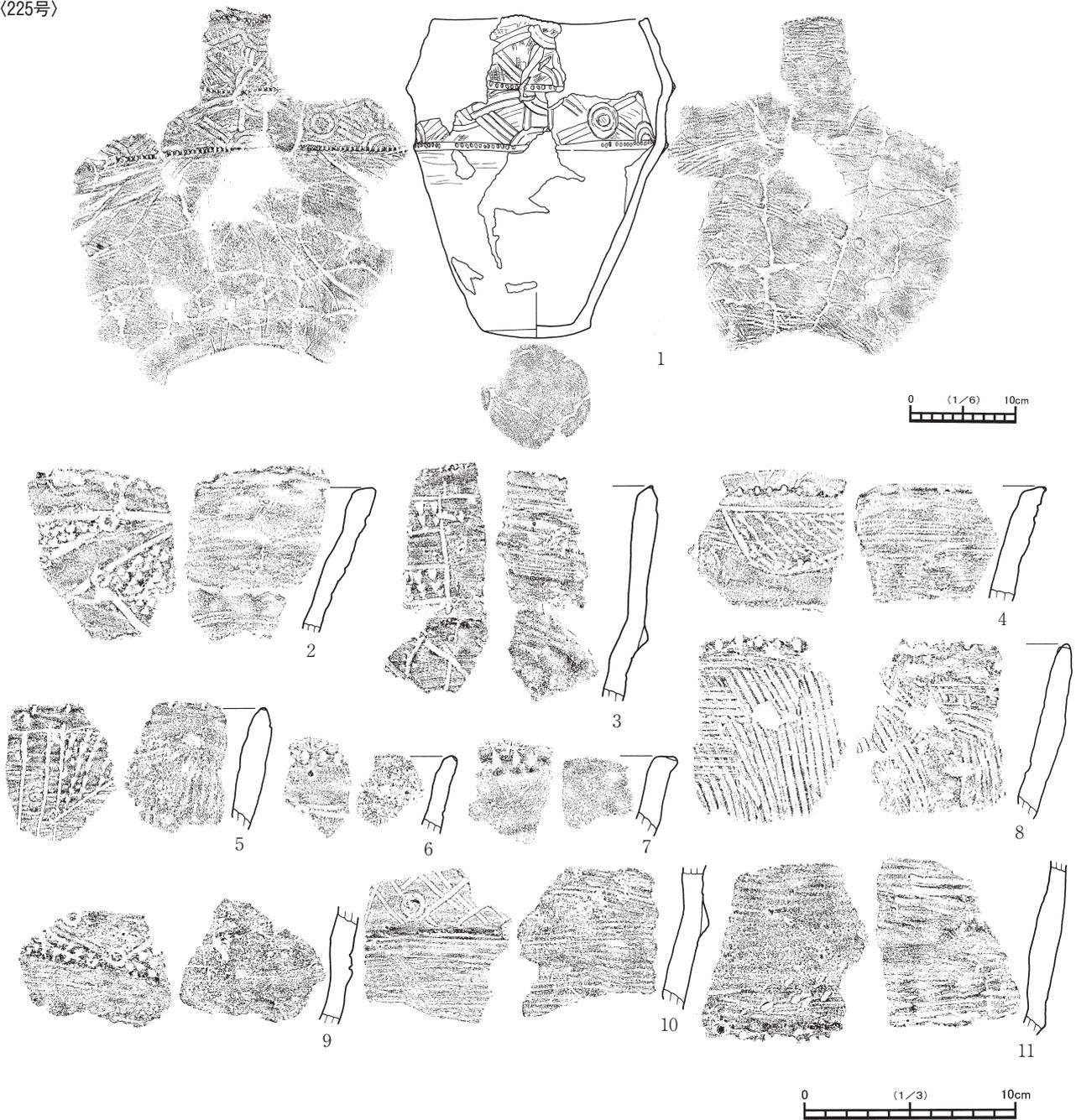


第374図 225・226・227号遺構実測図

225号

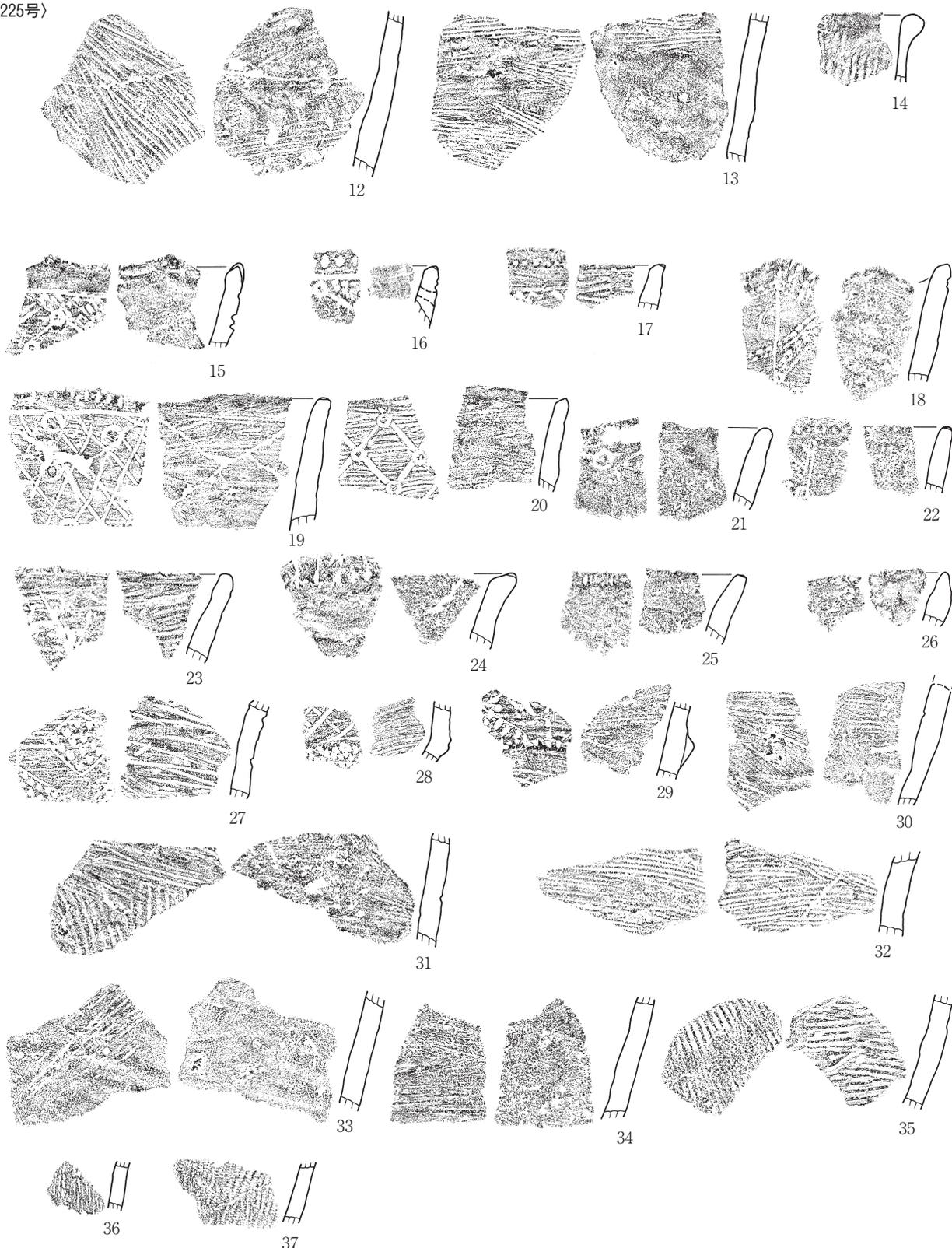


〈225号〉

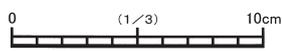
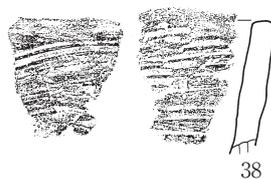


第375図 225号遺構遺物出土状況図および出土遺物実測図(1)

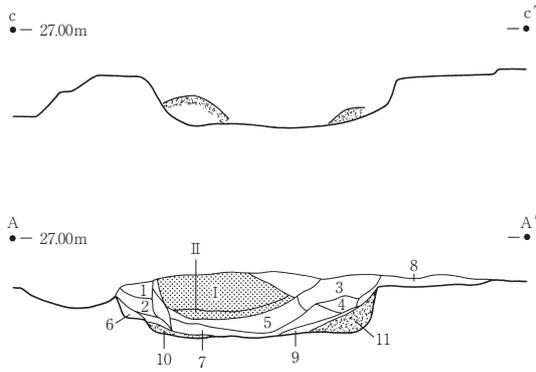
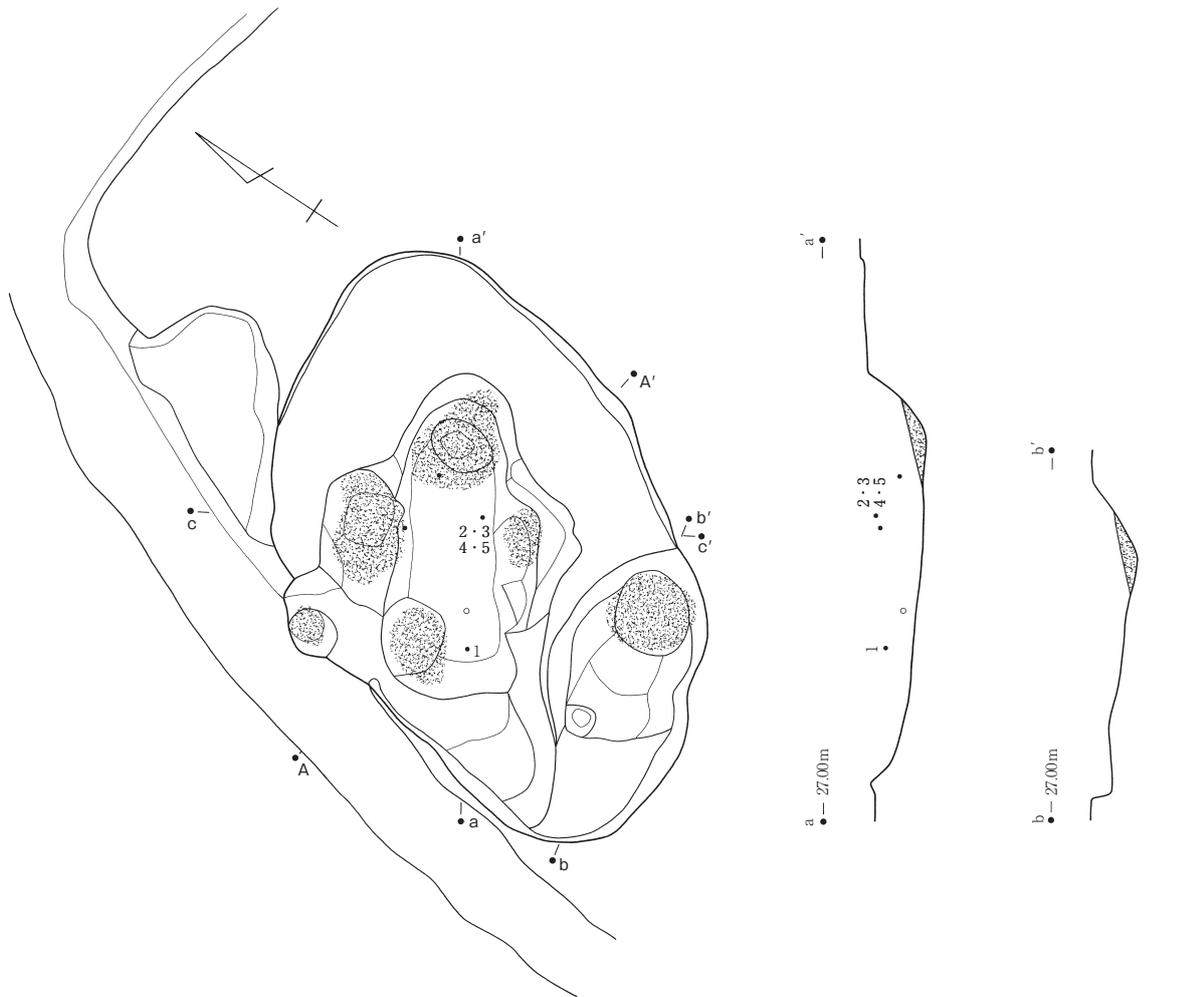
〈225号〉



〈226号〉



第376图 225号遺構出土遺物実測図(2)・226号遺構出土遺物実測図

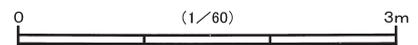


セクション位置：A-A'

No.	種別（土の混じり具合）	主体貝	その他の貝	備考
I	純貝層			
II	純貝層	マテガイ		

セクション位置：A-A'

No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	黒褐色				
2	暗褐色				
3	黒褐色				
4	黒褐色				
5	黒色	若干のローム			
6	暗茶色				
7	暗茶褐色	若干の焼土・ローム粒			
8	暗褐色				
9	暗黄褐色				
10					焼土
11					焼土



第377図 228号遺構実測図・遺物出土状況図



第378図 228号遺構出土遺物実測図

【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸4.85m・短軸3.00m・深さ47cm。燃焼面6箇所（第377図）。

【覆土】 黒褐色土・黒色土などを主体とする。一部に貝層がみられる。貝層は遺構覆土の中心部よりの西側部分に、長軸136・短軸92・厚さ37cmほどの規模で形成されていた。貝層は遺構覆土の上層に堆積したものである。

【その他】 周囲に竪穴状の掘り込みがある。

【出土遺物】 102点・3,199gの礫が出土している。このうち99.7%に被熱のあとがみられる。石器

は軽石1点、このほか黒曜石の剥片3点がある。土器は、82点・1,929g出土している。取り上げ方法は、平面・垂直位置を記録した点あげ、覆土一括扱いの両方がある。遺物は遺構の中心部、基底面より浮いた覆土中層あたりから出土している。土器のうちわけは、撚糸文系・条痕文系などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系のもので全体の96.1%あり、当該時期を228号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、点あげしたものを第378図1～5に、覆土一括扱いのものを第378図6～21に示した。1～3・6～13は条痕文系深鉢形土器の口縁部、4・14～18は胴部の破片である。5・19～21は撚糸文系深鉢形土器の胴部破片である。

229号遺構

【検出位置】 セ28区H8-06・07

【種別】 土坑

【規模ほか】 長軸2.50m・短軸1.37m・深さ39cm。形状は不整形（第379図）。

【覆土】 黒褐色土・暗黄色土などを主体とする。

【重複関係】 古墳周溝との重複により遺構南側が欠失する。

【出土遺物】 26点・1,502gの礫および礫石器が出土している。このうち73.3%に被熱のあとがみられる。石器は、敲石1点・磨石1点出土している。土器は、50点・965g出土している。取り上げ方法は、平面・垂直位置を記録した点あげ、一括扱いの両方がある。うちわけは、撚糸文系・条痕文系などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系のもので全体の99.3%あり、当該時期を229号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、点あげしたものを第379図1～3に、覆土一括扱いのものを第379図4～9・第380図10～12に示した。1・2・4・5は条痕文系深鉢形土器の口縁部、3・6～9は胴部、10・11は底部の破片である。1は波状口縁をもつ深鉢形土器で、刺突文を付す縦位・横位の隆帯をもち、連続刺突文を菱形状に配したものを主文様とする。また口唇部前後面には刺突がめぐる。12は撚糸文系深鉢形土器の胴部破片である。出土石器を第380図13・14に示した。13は最大長75mmを測る砂岩製の敲石である。14は砂岩製の磨石である。

230号遺構

【検出位置】 セ28区H8-06・10

【種別】 土坑

【規模ほか】 長軸2.35m・短軸1.54m・深さ15cm。形状は隅丸方形（第379図）。

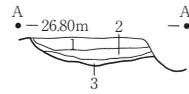
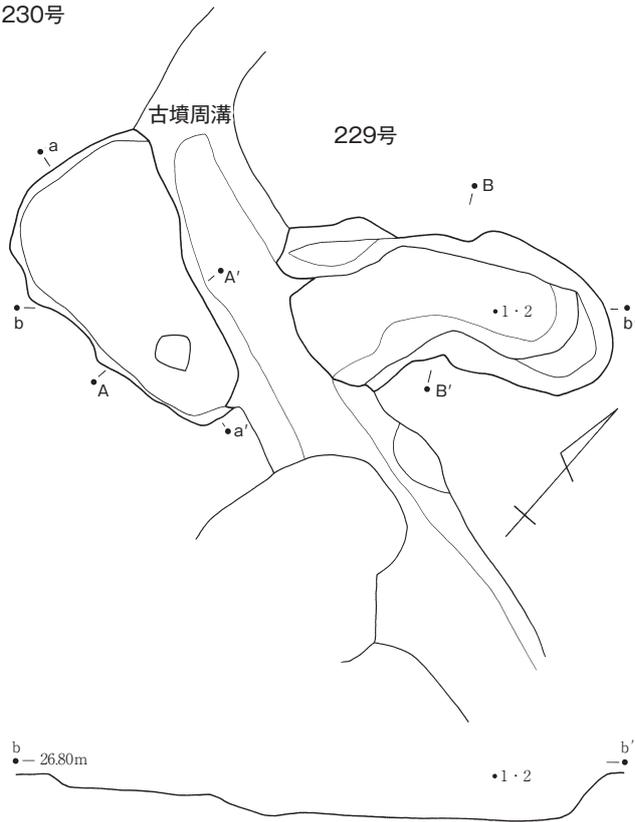
【覆土】 暗褐色土・暗茶色土などを主体とする。ローム粒・ロームブロックを含む。

【重複関係】 古墳周溝との重複により遺構北側が欠失する。

【出土遺物】 4点・34gの礫が出土している。このうちすべてに被熱のあとがみられる。土器は、26点・349g出土している。取り上げ方法は、覆土一括扱いのもののみである。うちわけは、撚糸文系・条痕文系・羽状縄文系などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系のもので全体のおよそ85%あり、当該時期を230号遺構の帰属時期とみる。

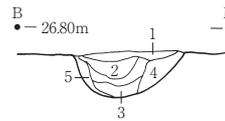
【遺物説明】 出土土器のうち、主なものを第380図15～18に示した。15・16は条痕文系深鉢形土器の胴部破片、17は撚糸文系深鉢形土器の胴部破片、18は羽状縄文系深鉢形土器の胴部破片である。

230号



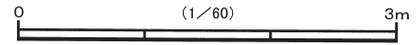
セクション位置：A-A'

No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	暗褐色				
2	暗褐色	多量のローム粒			
3	暗茶色	ローム粒・ロームブロック			

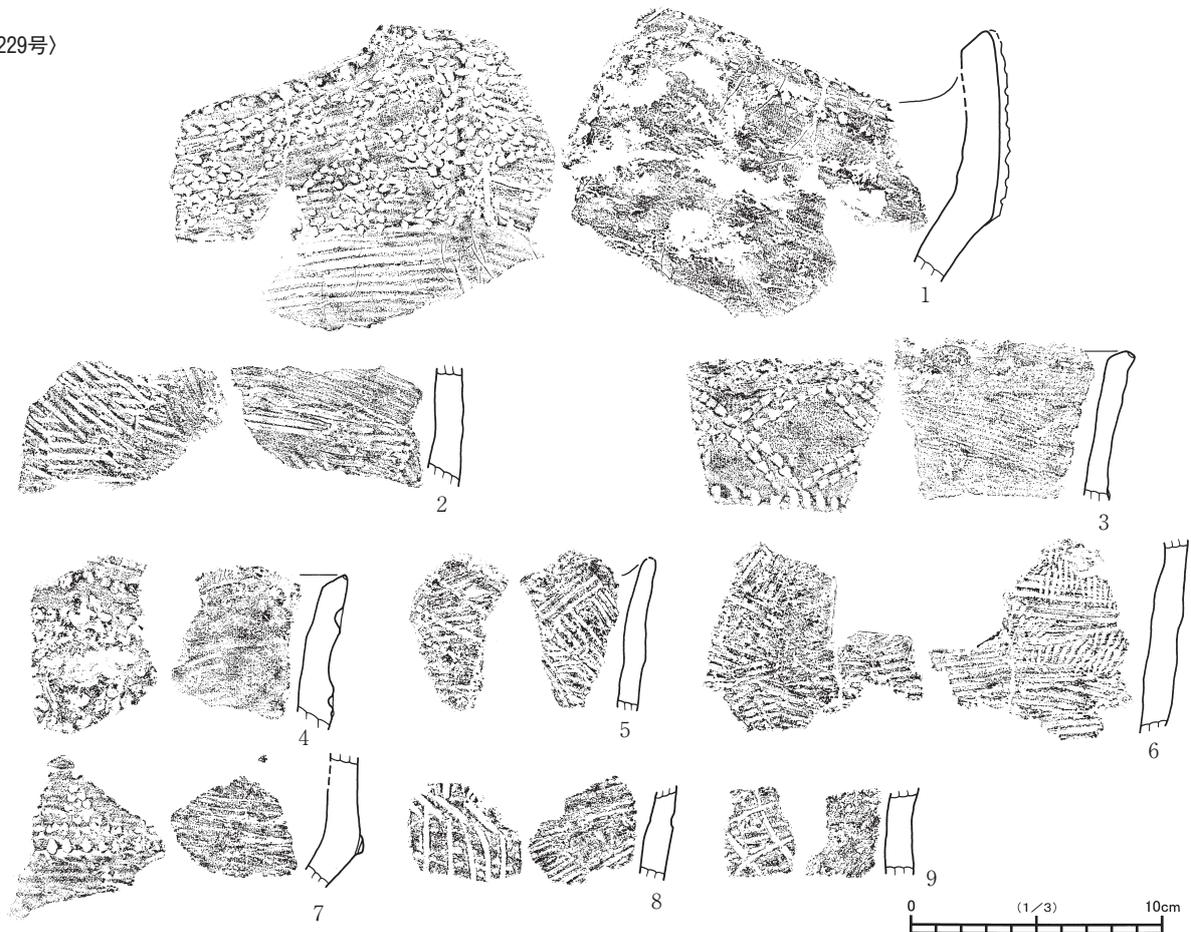


セクション位置：B-B'

No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	黒褐色				
2	黒褐色				
3	暗褐色		良い		
4	暗黄色				
5	暗黄色				



(229号)



第379図 229・230号遺構実測図および229号遺構出土遺物実測図(1)

231号遺構

【検出位置】 セ28区H8-07・11

【種別】 土坑

【規模ほか】 長軸2.09m・短軸1.60m・深さ64cm。形状は楕円形（第381図）。

出土遺物がないため遺構の詳細時期は不明。

232号遺構

【検出位置】 セ28区H8-10

【種別】 土坑

【規模ほか】 長軸1.43m・短軸1.01m・深さ41cm。形状は方形。底面はやや袋状（第381図）。

【覆土】 黒色土・暗褐色土などを主体とする。ローム粒を含む層が多い。

【出土遺物】 5点・29gの礫が出土している。このうちすべてに被熱のあとがみられる。土器は、88点・1,499g出土している。取り上げ方法は、覆土一括扱いのもののみである。うちわけは、条痕文系、一部に縄文を施す条痕・縄文などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系のもので全体のおよそ99%あり、当該時期を232号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、主なものを第382図1～17に示した。1～4は条痕文系深鉢形土器の口縁部、5～17は胴部の破片である。4は外面に縄文が施される。

233号遺構

【検出位置】 セ28区H8-10

【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸3.50m・短軸3.30m・深さ57cm。燃焼面1箇所。形状はアメーバ状（第383図）。

【覆土】 暗褐色土・暗黒褐色土などを主体とする。ロームブロック・ローム粒・焼土粒を含む層が多い。

【出土遺物】 57点・2,931gの礫が出土している。このうち99.6%に被熱のあとがみられる。石器は、2点出土している。うちわけは、石鏃1点・楔形石器1点、このほか黒曜石の剥片1点がある。土器は、211点・3,367g出土している。取り上げ方法は、覆土一括扱いのもののみである。うちわけは、撚糸文系・条痕文系・羽状縄文系などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系のもので全体のおよそ97%あり、当該時期を233号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、主なものを第384図1～30・第385図31～35に示した。1～6は条痕文系深鉢形土器の口縁部、7～30は胴部の破片である。31は撚糸文系深鉢形土器の口縁部、32～34は胴部の破片である。35は羽状縄文系・関山式深鉢形土器の胴部破片である。出土石器のうち主なものを、第385図36に示した。最大長24.4mmを測る頁岩製の石鏃である。

234号遺構

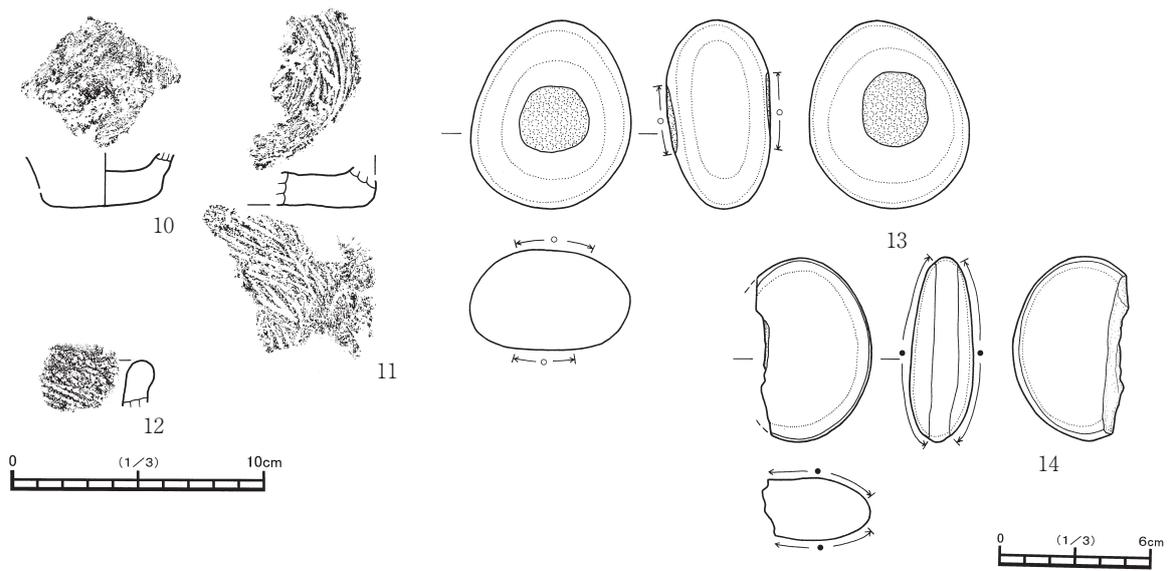
【検出位置】 セ28区H18-14

【種別】 炉穴

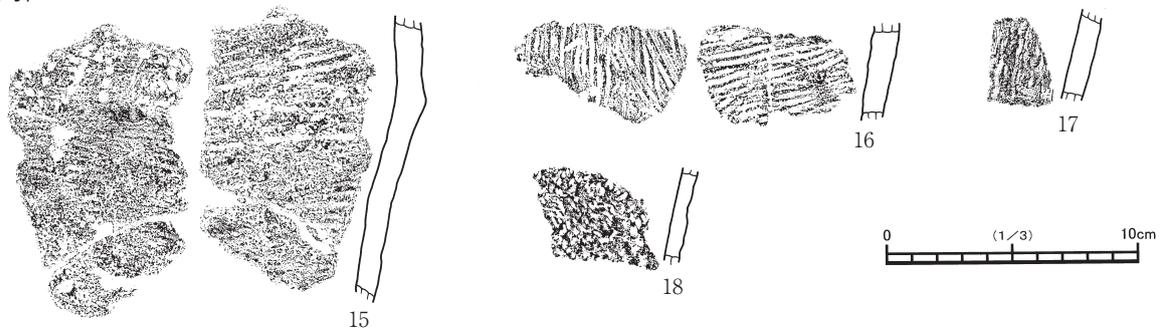
【規模ほか】 長軸1.65m・短軸1.06m・深さ54cm。燃焼面2箇所（第386図）。

【重複関係】 古墳周溝との重複により一部が欠失する。また、東側で235号遺構と重複する。

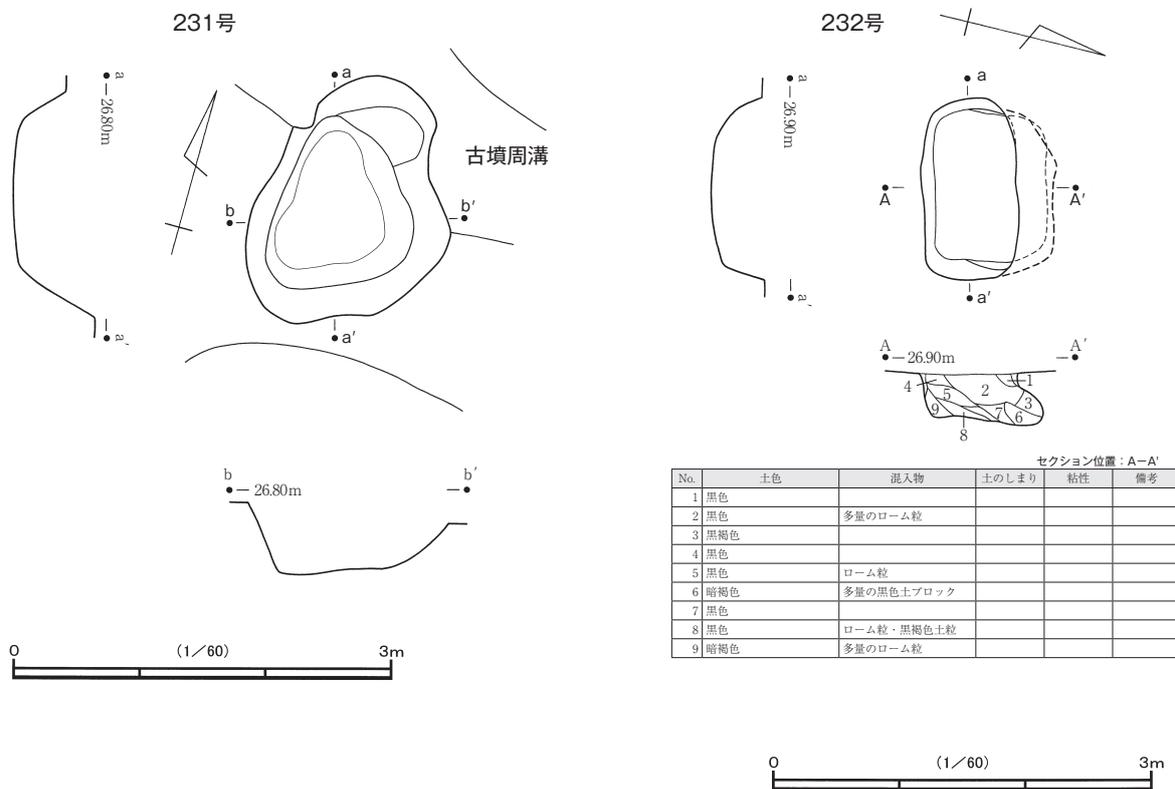
【出土遺物】 25点・1,313gの礫が出土している。このうちすべてに被熱のあとがみられる。土器は、96点・1,671g出土している。取り上げ方法は、覆土一括扱いのもののみである。うちわけは、



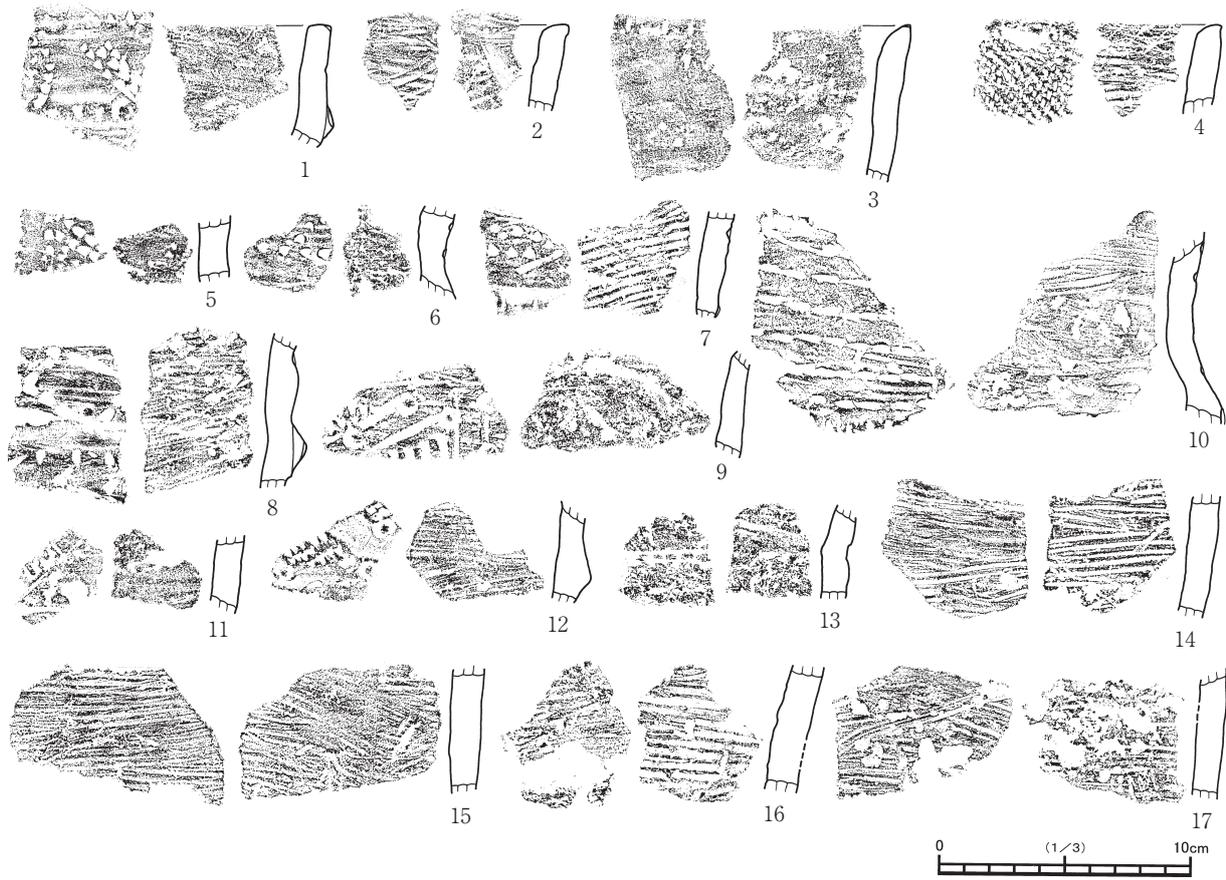
(230号)



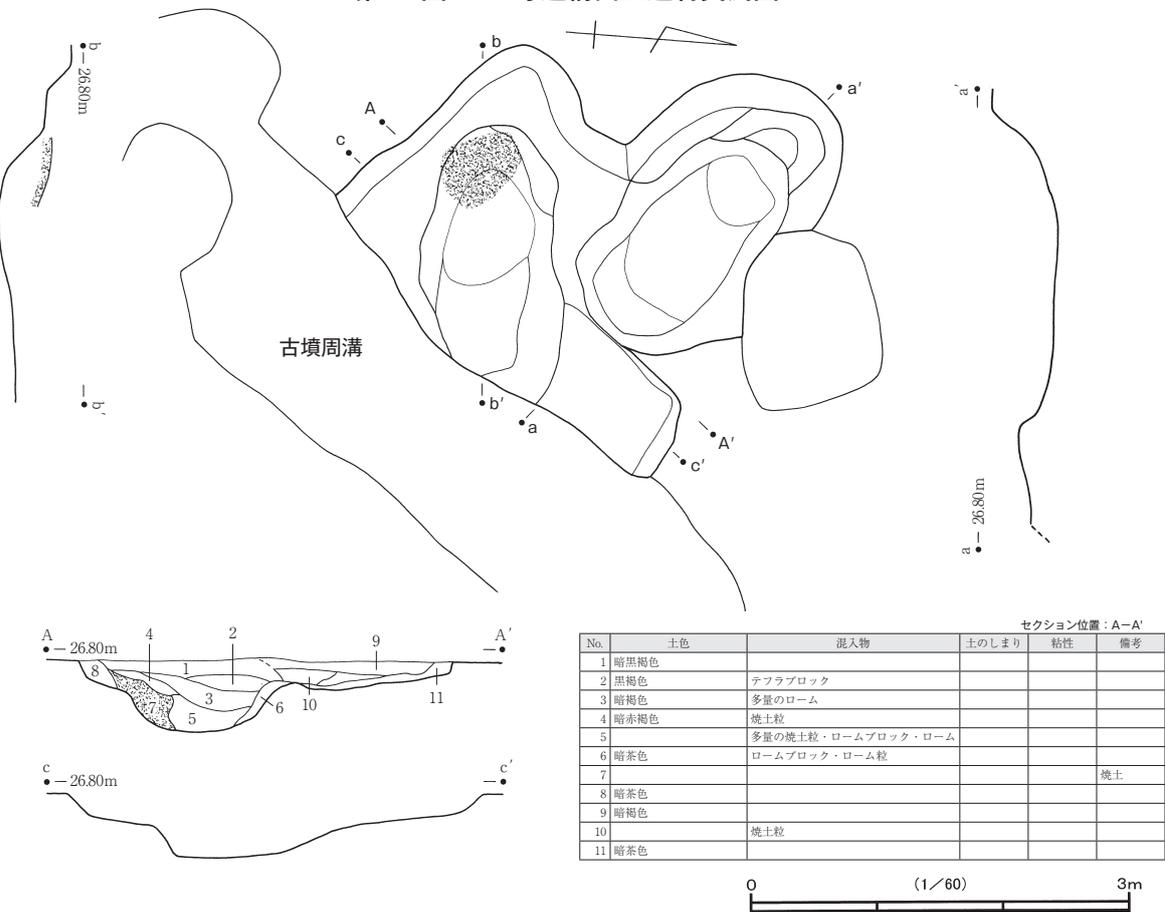
第380図 229号遺構出土遺物実測図(2)・230号遺構出土遺物実測図



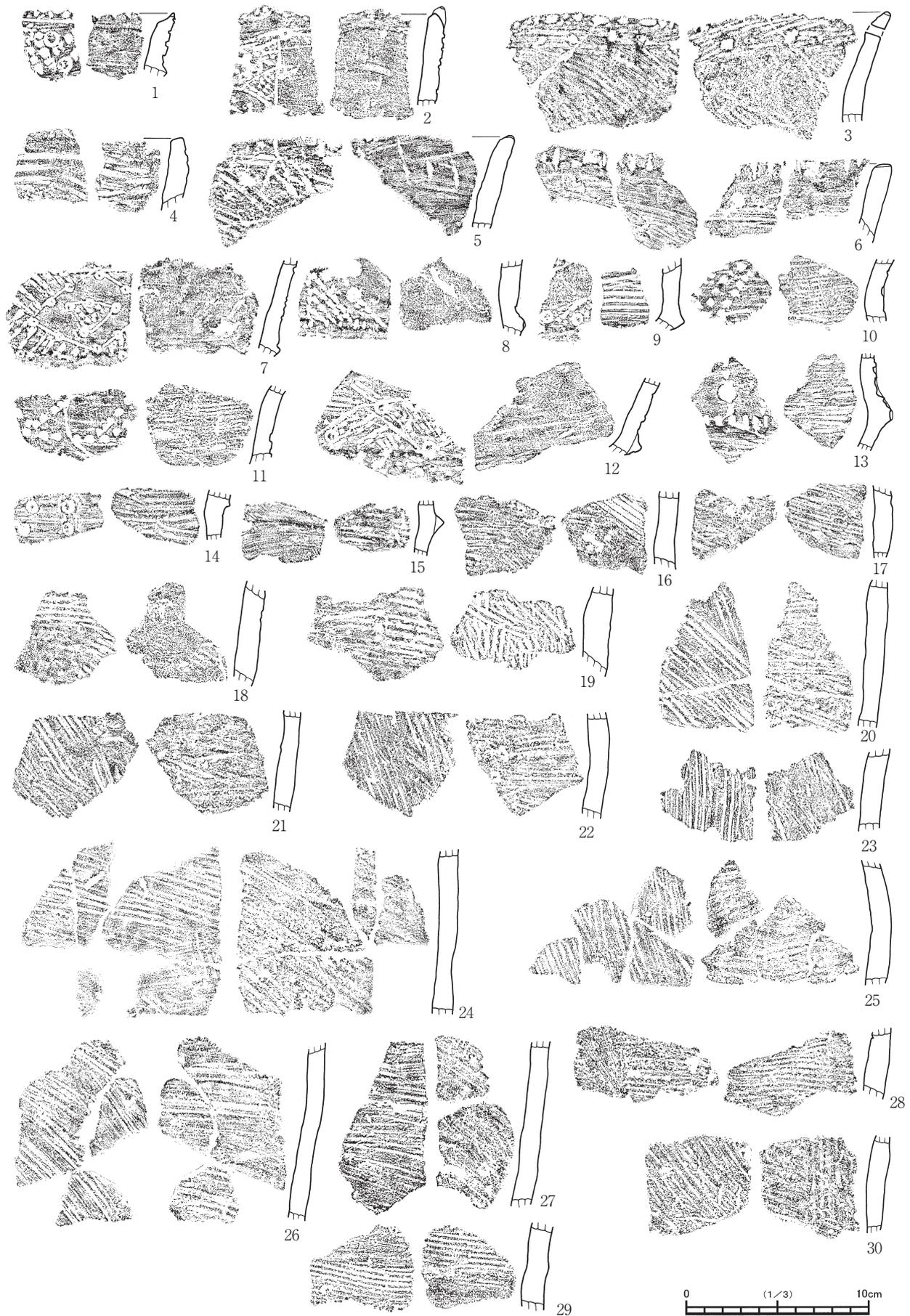
第381図 231号遺構実測図、232号遺構実測図



第382図 232号遺構出土遺物実測図



第383図 233号遺構実測図



第384图 233号遺構出土遺物実測図(1)

撚糸文系・条痕文系などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系のもので全体のおよそ98%あり、当該時期を234号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、主なものを第387図1～13に示した。1～4は条痕文系深鉢形土器の口縁部、5～11は胴部の破片である。12・13は撚糸文系深鉢形土器の胴部破片である。

235号遺構

【検出位置】 セ28区H8-14・15

【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸2.40m・短軸2.38m・深さ95cm。燃焼面3箇所（第386図）。

【覆土】 黒褐色土・暗茶褐色土などを主体とする。ロームブロック・ローム粒を含む層が多い。

【出土遺物】 69点・2,999gの礫が出土している。このうち99.9%に被熱のあとがみられる。土器は、157点・2,341g出土している。取り上げ方法は、覆土一括扱いのもののみである。うちわけは、撚糸文系・条痕文系などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系のもので全体のおよそ99%あり、当該時期を235号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、主なものを第387図14～31・第388図32～36に示した。14～20は条痕文系深鉢形土器の口縁部、21～35は胴部、36は底部の破片である。

236号遺構

【検出位置】 セ28区H8-03・04・07・08

【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸2.87m・短軸1.58m・深さ58cm。燃焼面1箇所。主軸方向207°。南西側に煙道の一部が残存する（第389・390図）。

【覆土】 暗黒褐色土・暗茶色土などを主体とする。一部に貝層がみられる。貝層は遺構覆土の北東部分に、長軸34・短軸18・厚さ22cmほどの規模で形成されていた。覆土上層に堆積したもの。

【出土遺物】 15点・279gの礫が出土している。このうちすべてに被熱のあとがみられる。土器は、37点・561g出土している。取り上げ方法は、平面・垂直位置を記録した点あげ、一括扱いの両方がある。うちわけは、撚糸文系・条痕文系などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系のもので全体の87.3%あり、当該時期を236号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、点あげしたものを第391図1～3に、覆土一括扱いのものを第391図4～13に示した。4は条痕文系深鉢形土器の口縁部、1～3・5～7は胴部破片である。8～10は撚糸文系深鉢形土器の口縁部、11～13は胴部破片である。

237号遺構

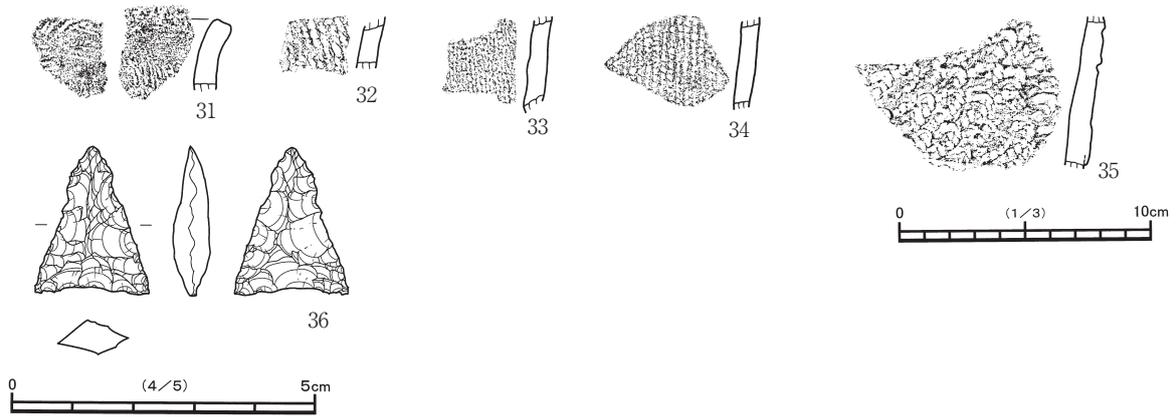
【検出位置】 セ28区H8-08、H9-05

【種別】 炉穴

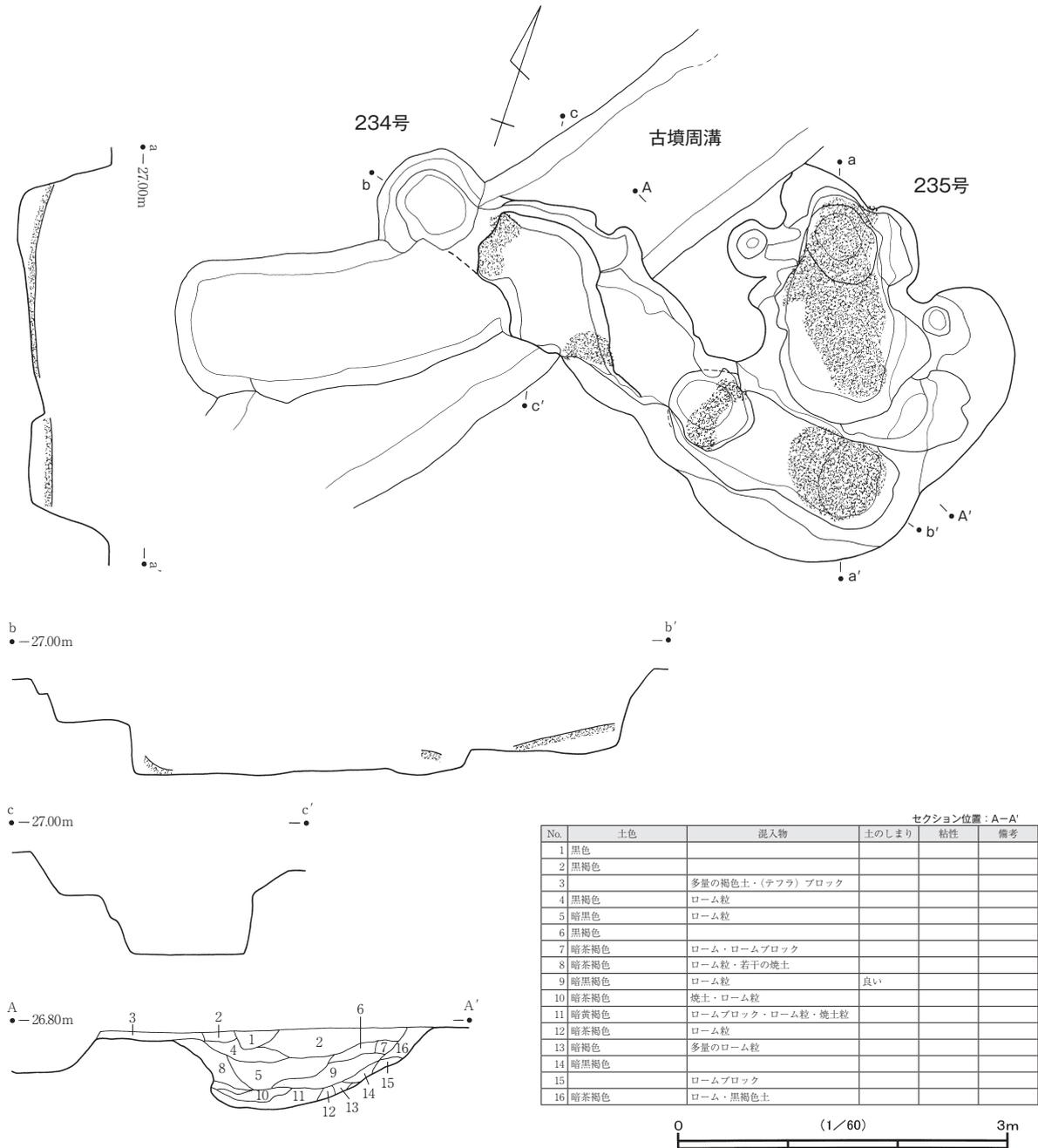
【規模ほか】 長軸5.90m・短軸3.27m・深さ83cm。燃焼面3箇所。形状はアメーバ状（第389図）。

【覆土】 黒褐色土・暗黒褐色土などを主体とする。ロームブロックを含むものが多い。一部に貝層がみられる。貝層は遺構覆土の東部分に、長軸170・短軸110・厚さ54cmほどの規模で形成されていた。貝層は遺構覆土上部に堆積している。

【出土遺物】 354点・16,403gの礫および礫石器が出土している。このうち90.5%に被熱のあとがみ

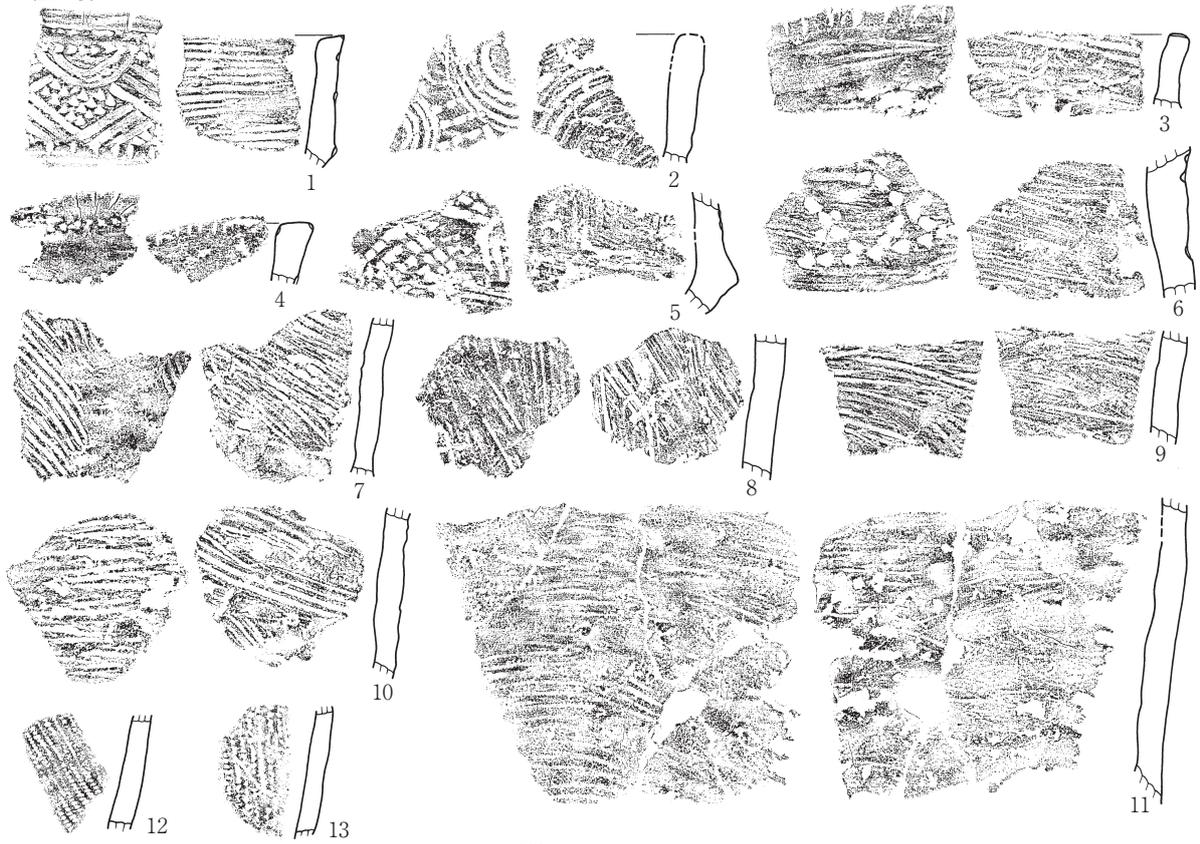


第385図 233号遺構出土遺物実測図(2)

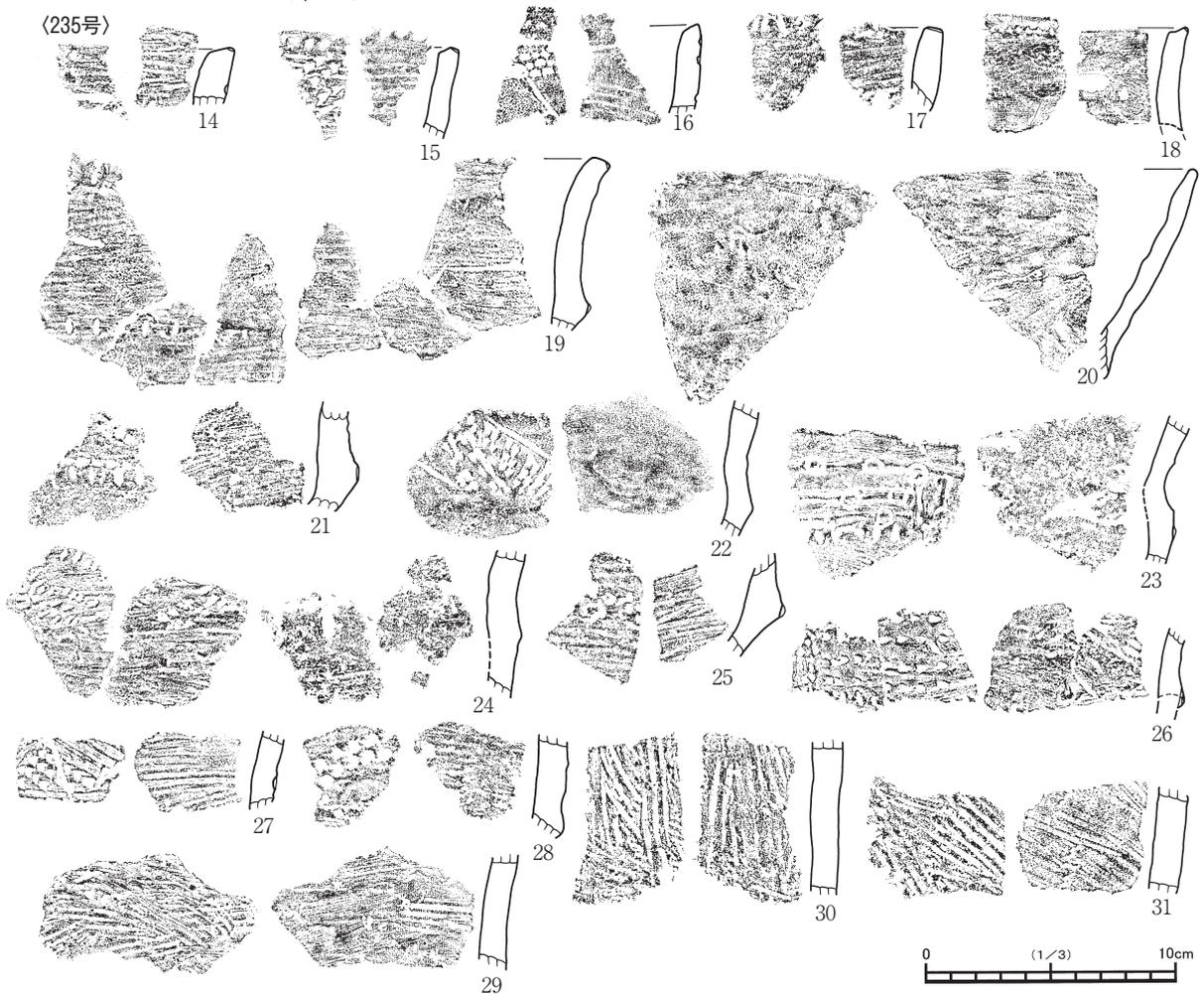


第386図 234・235号遺構実測図

〈234号〉



〈235号〉



第387图 234号遺構出土遺物実測図・235号遺構出土遺物実測図(1)

られる。石器は、8点出土している。うちわけは、石鏃3点、UF1点、磨石・敲石4点、このほか黒曜石の剥片4点がある。土器は、443点・8,072g出土している。取り上げ方法は、平面・垂直位置を記録した点あげ、一括扱いの両方がある。遺物はほぼ遺構全体に分布し、覆土上層から下層まで幅広く出土している。また、貝層中からは獣骨が多く出土している。土器のうちわけは、撚糸文系・撚糸文系（無文）・条痕文系などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系のもので全体の93.7%あり、当該時期を237号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、点あげしたものを第392図1～9・第393図10～17に、覆土一括扱いのものを第393図18～30・第394図31～60・第395図61～78・第396図79～102に示した。1～5・7・10・18～46は条痕文系深鉢形土器の口縁部、6・8・9・11～17・47～76は胴部、77・78は底部の破片である。79～88は撚糸文系深鉢形土器の口縁部、89～102は胴部の破片である。

出土石器を第396図103～110に示した。103は最大長21.0mmを測る黒曜石製の石鏃である。104は最大長17.1mmを測るチャート製の石鏃である。105は現存最大長13.5mmを測る黒曜石製の石鏃である。106は最大長25.7mmを測る黒曜石製のUFである。107は砂岩製の磨石・敲石、108は輝石安山岩製の磨石・敲石、109は最大長81mmを測る砂岩製の磨石・敲石、110は輝石安山岩製の磨石・敲石である。

238号遺構

【検出位置】 セ28区H8-07・08・11・12

【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸3.52m・短軸2.45m・深さ44cm。燃烧面2箇所（第389図）。

【覆土】 黒褐色土・暗茶色土などを主体とする。

【その他】 周囲に竪穴状の掘り込みがある。

【重複関係】 南側で古墳周溝と重複するため一部欠失。また北側で236号・237号遺構と重複する。

【出土遺物】 57点・2,992gの礫が出土している。このうちすべてに被熱のあとがみられる。石器は、2点出土している。うちわけは、有舌尖頭器1点・石核1点である。土器は、91点・1,636g出土している。取り上げ方法は、平面・垂直位置を記録した点あげ、一括扱いの両方がある。うちわけは、撚糸文系・条痕文系・羽状縄文系などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系のもので全体のおよそ82%あり、当該時期を238号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、点あげしたものを第397図1～5に、覆土一括扱いのものを第397図6～18に示した。1・2・6・7は条痕文系深鉢形土器の口縁部、3～5・8は胴部、9は底部の破片である。10・11は撚糸文系深鉢形土器の口縁部、12～17は胴部の破片である。18は羽状縄文系・関山式深鉢形土器の胴部破片である。出土石器のうち主なものを第397図19に示した。残存最大長41.9mmを測る頁岩製の有舌尖頭器である。先端部と基部の一部を欠く。

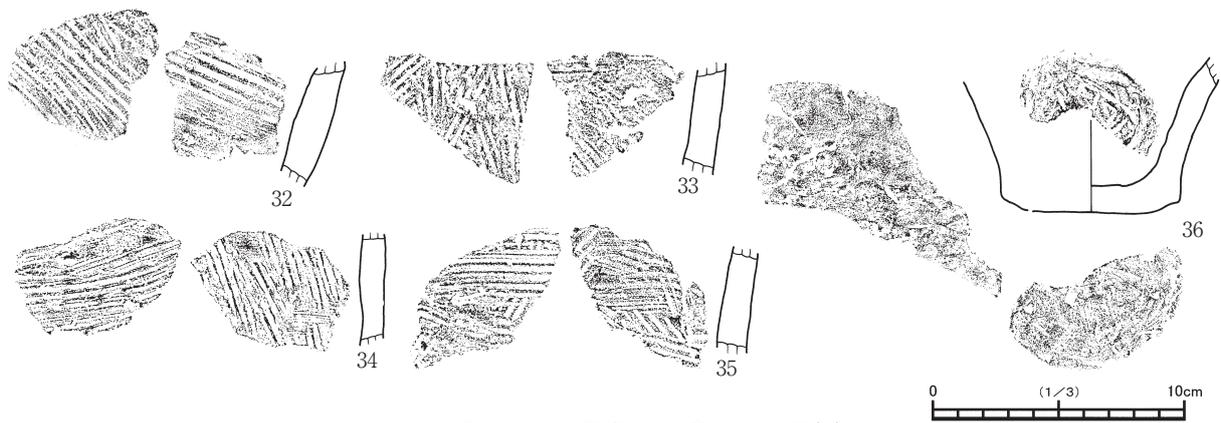
239号遺構

【検出位置】 セ28区H8-04、H9-01

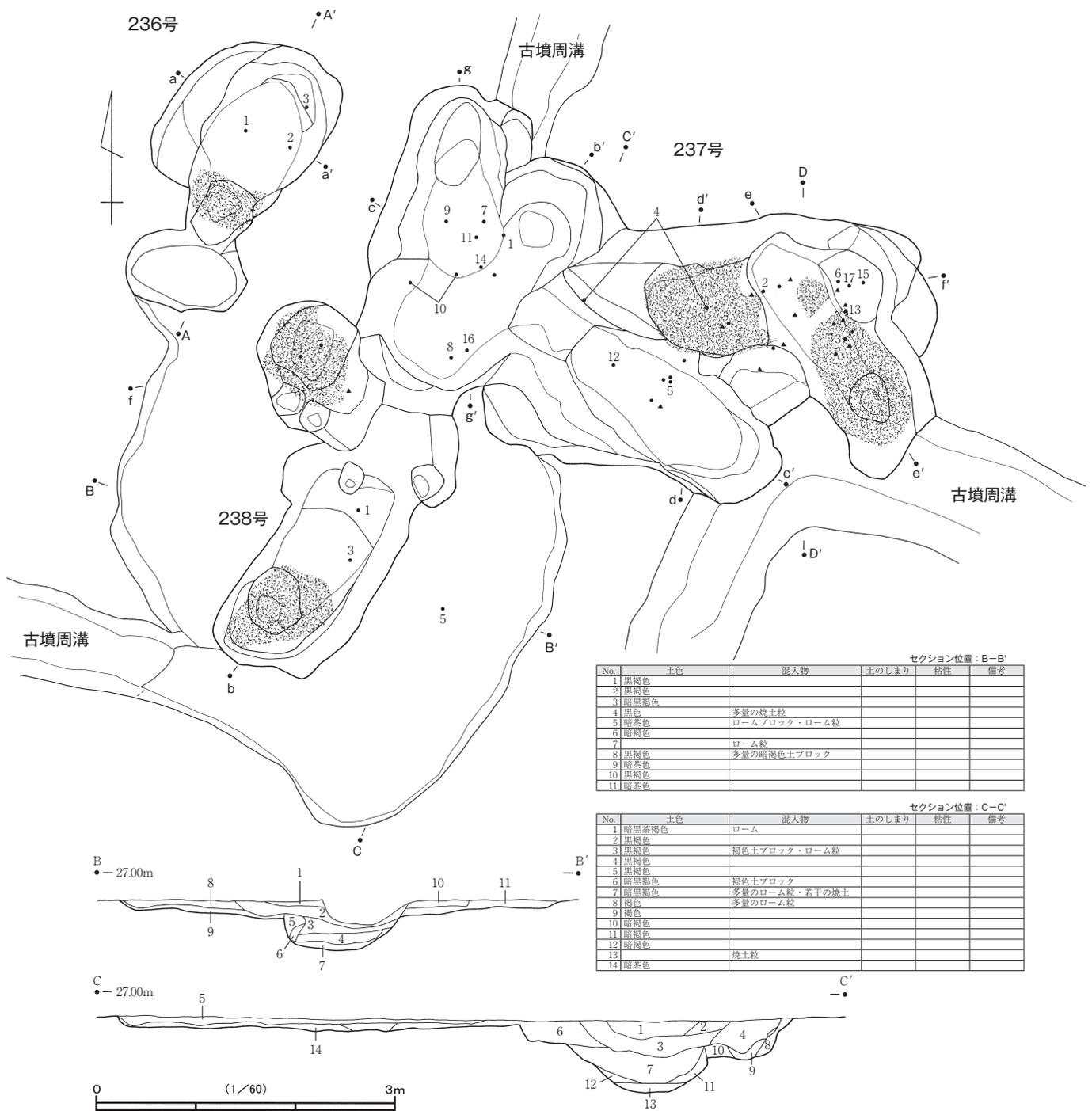
【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸3.36m・短軸2.26m・深さ83cm。燃烧面4箇所。形状はアメーバ状（第398図）。

【覆土】 黒色土・暗黒褐色土などを主体とする。ロームブロック・ローム粒・焼土粒を含む層が多い。一部に貝層がみられる。貝層は遺構覆土のほぼ全体的に、長軸290・短軸164・厚さ66cmほどの規模で



第388図 235号遺構出土遺物実測図(2)



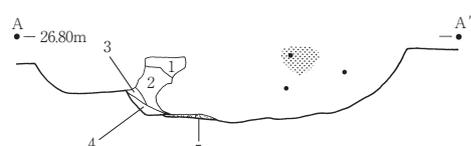
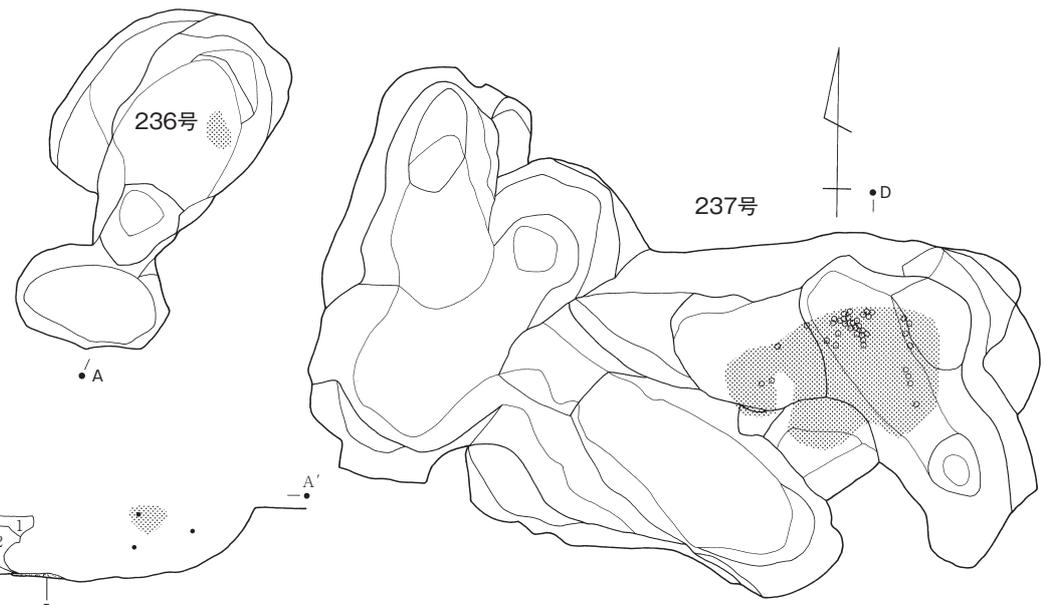
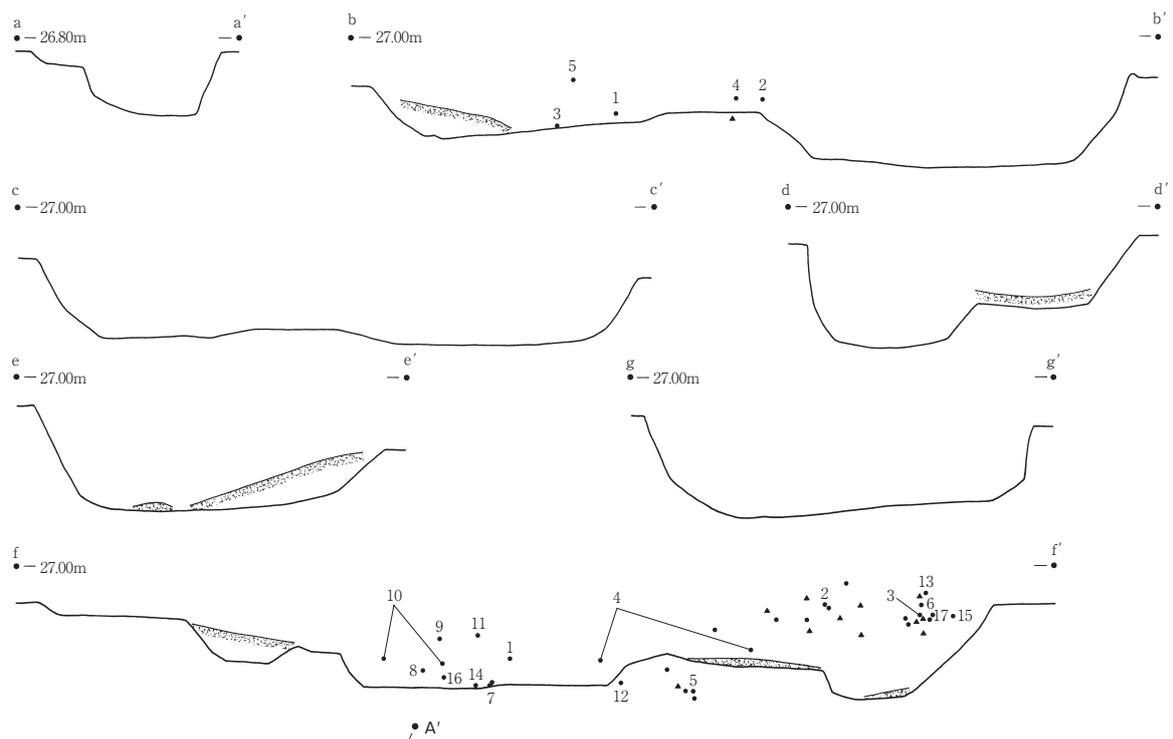
セクション位置：B-B'

No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	黒褐色				
2	黒褐色				
3	暗黒褐色				
4	黒色	多量の焼土粒			
5	暗茶色	ロームブロック・ローム粒			
6	暗褐色				
7		ローム粒			
8	黒褐色	多量の暗褐色土ブロック			
9	暗茶色				
10	黒褐色				
11	暗茶色				

セクション位置：C-C'

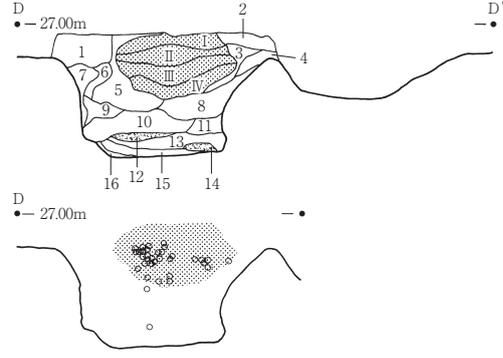
No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	暗黒茶褐色	ローム			
2	黒褐色				
3	暗黒褐色				
4	黒褐色	褐色土ブロック・ローム粒			
5	黒褐色				
6	暗黒褐色	褐色土ブロック			
7	暗黒褐色	多量のローム粒・若干の焼土			
8	褐色	多量のローム粒			
9	暗褐色				
10	暗褐色				
11	暗褐色				
12	暗褐色				
13		焼土粒			
14	暗茶色				

第389図 236・237・238号遺構実測図および遺物出土状況図(1)



セクション位置：A-A'

No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	暗茶色				燻道覆土
2	暗黒褐色				燻道覆土
3		ローム粒			
4	暗黒褐色	焼土粒			焼土
5					

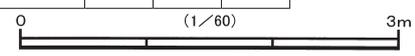


セクション位置：D-D'

No.	種別 (土の混じり具合)	主体貝	その他の貝	備考
I	混土貝層			
II	純貝層	ハマグリ		
III	純貝層	マテガイ		
IV	混貝土層			

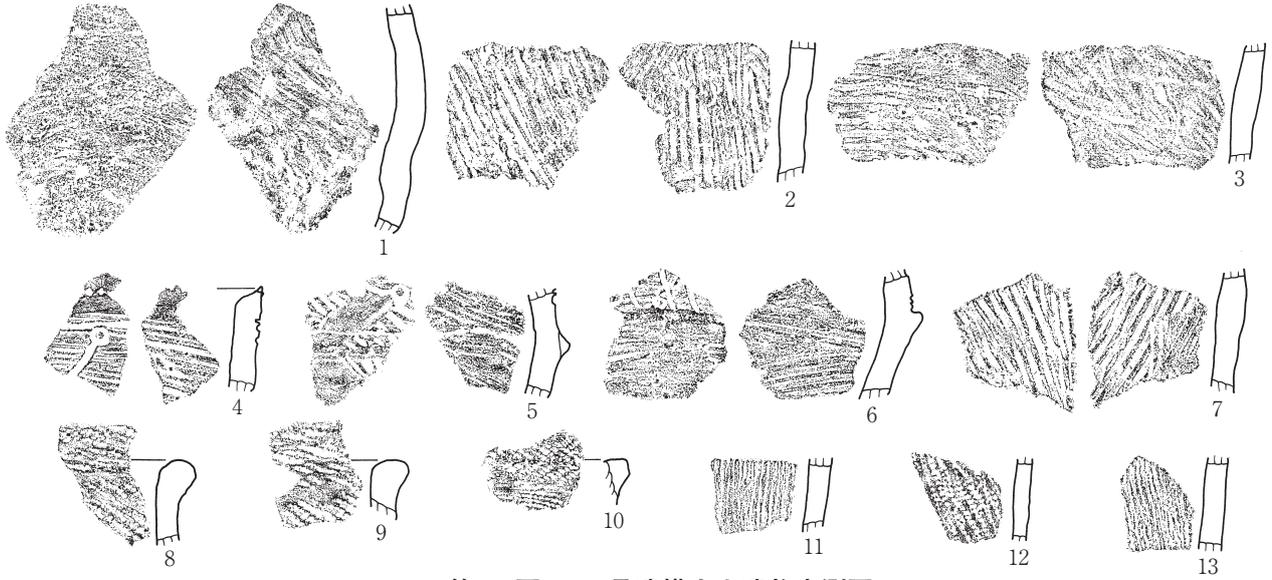
セクション位置：D-D'

No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	黒色				
2	暗黒褐色				
3	暗黒褐色				
4	暗黒褐色				
5	暗黒褐色				
6	暗褐色				
7	暗黒茶褐色				
8	黒褐色	ローム粒・ロームブロック			
9	暗褐色	ロームブロック			
10	黒褐色	ロームブロック・ローム粒			
11	黒褐色	多量のロームブロック			
12					焼土
13	黒褐色				焼土
14					焼土・灰
15					焼土・灰
16	黒褐色				



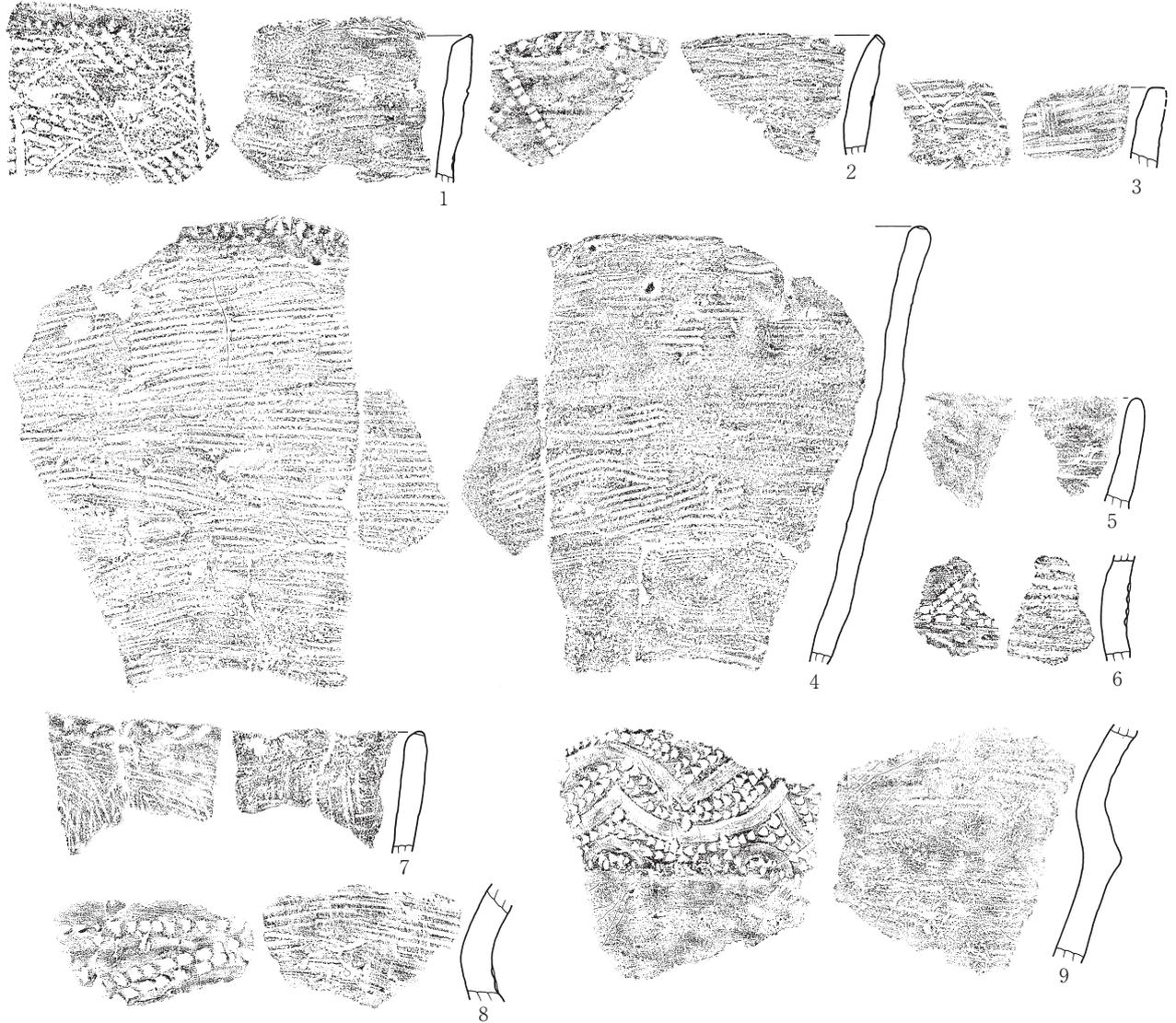
第390図 236・237・238号遺構実測図および遺物出土状況図(2)

〈236号〉

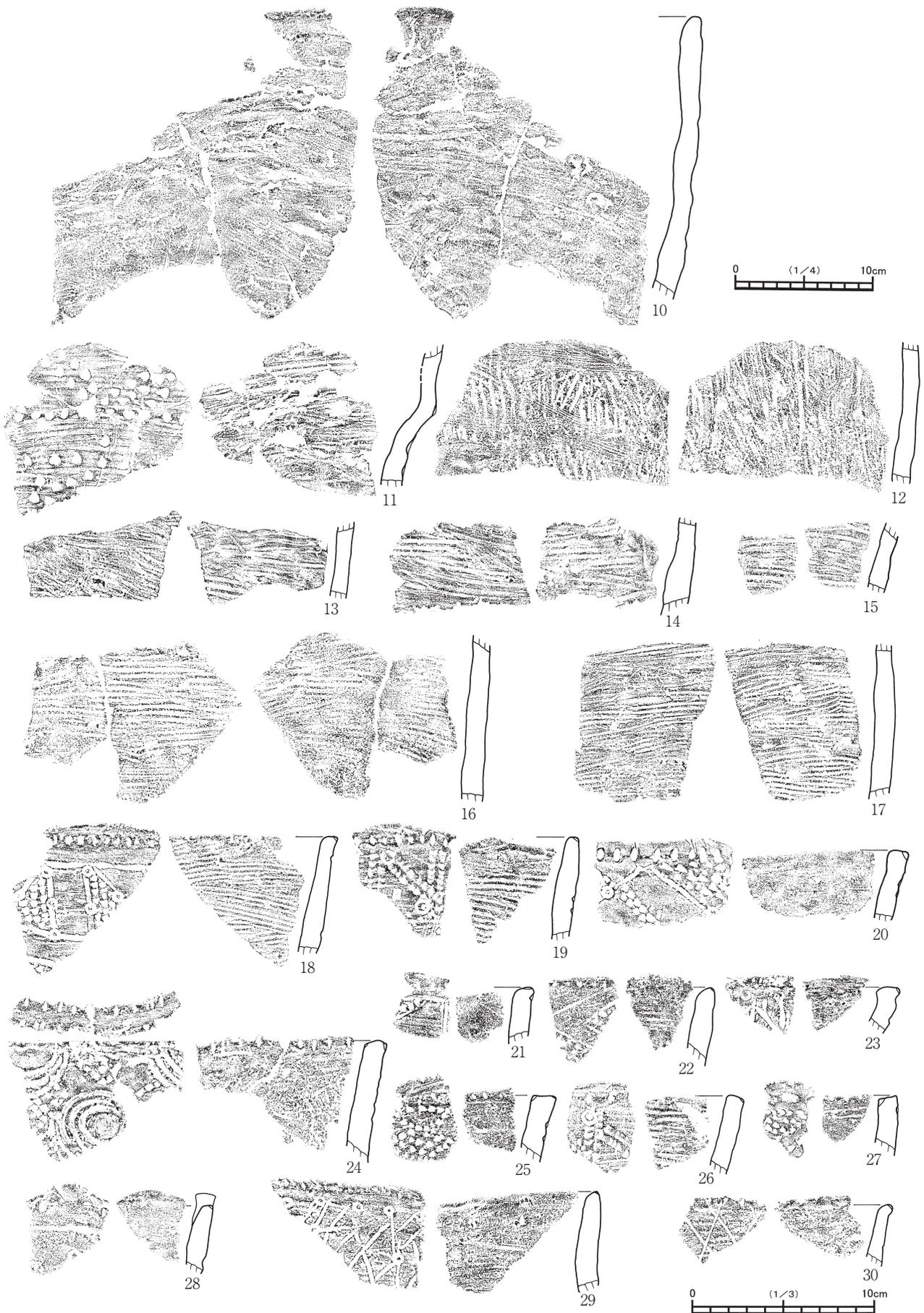


第391图 236号遺構出土遺物実測図

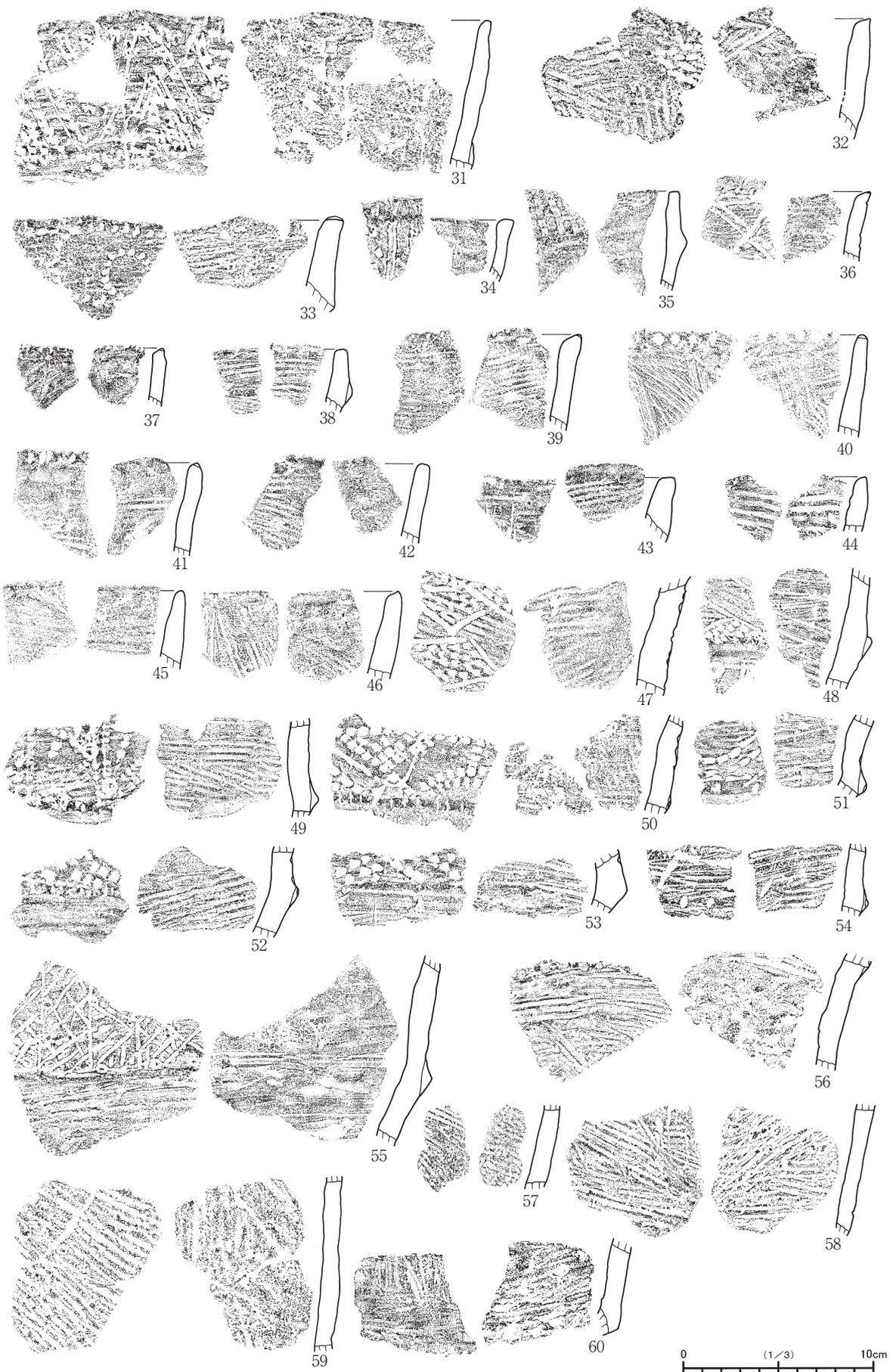
〈237号〉



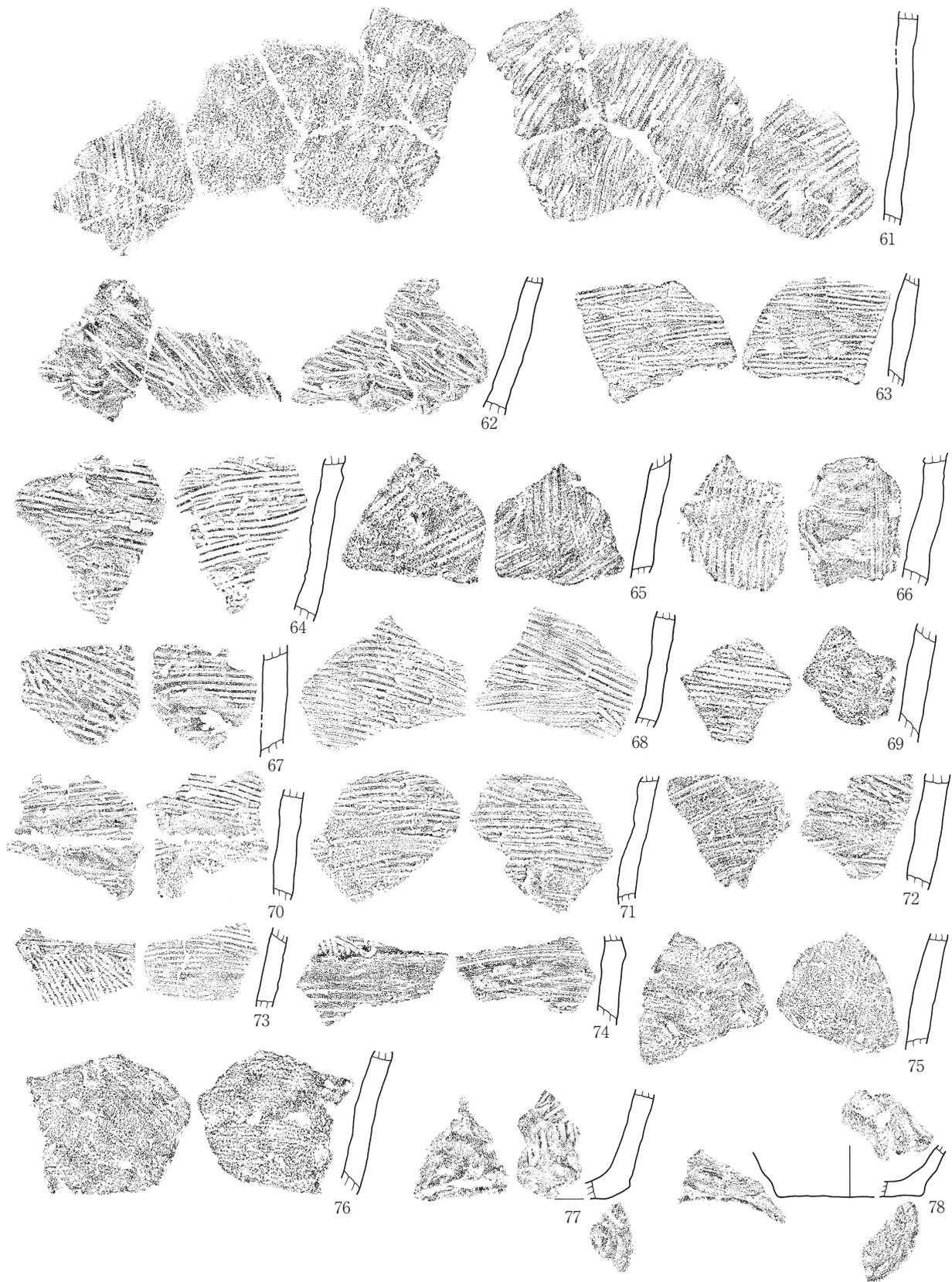
第392图 237号遺構出土遺物実測図(1)



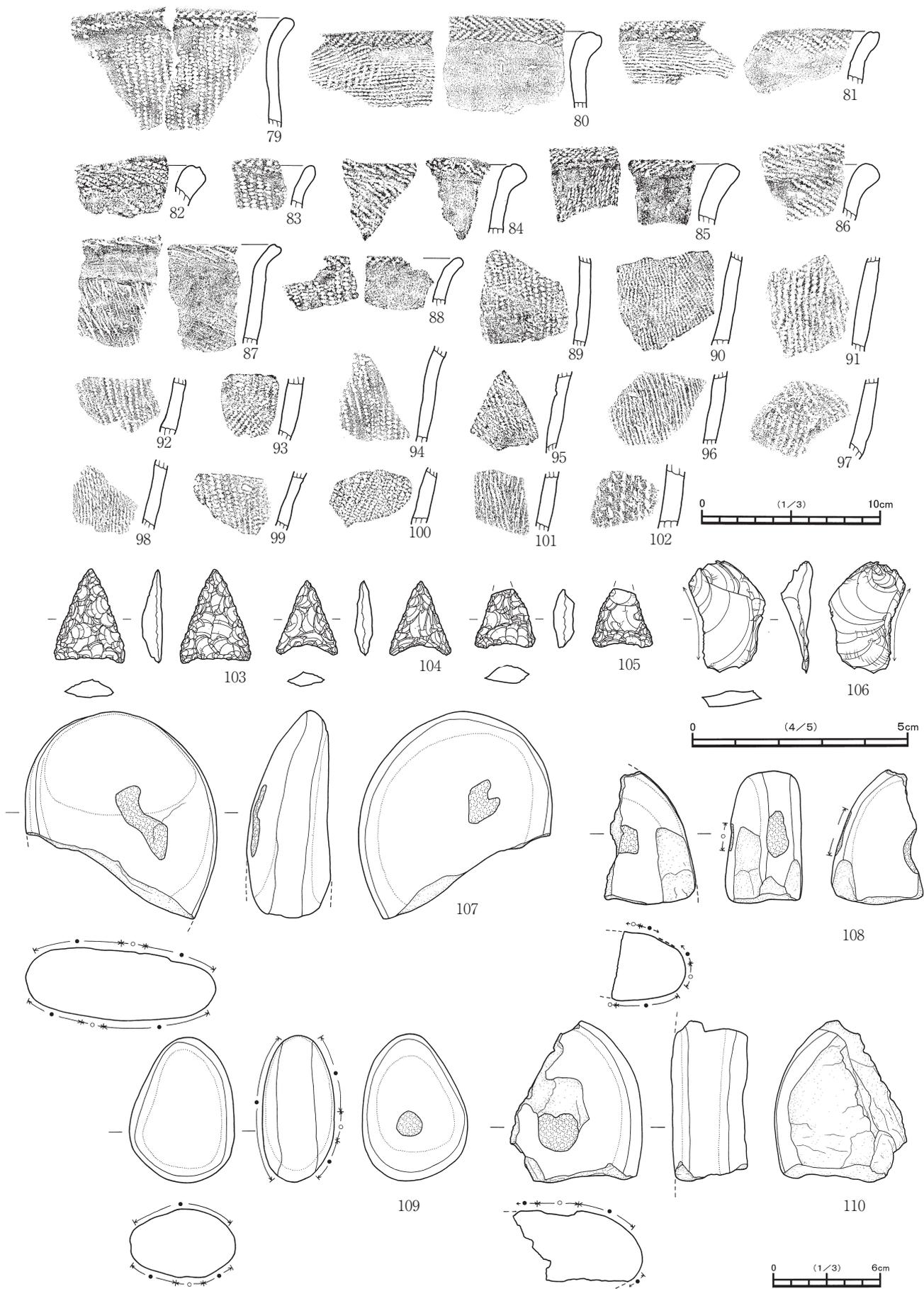
第393图 237号遺構出土遺物実測図(2)



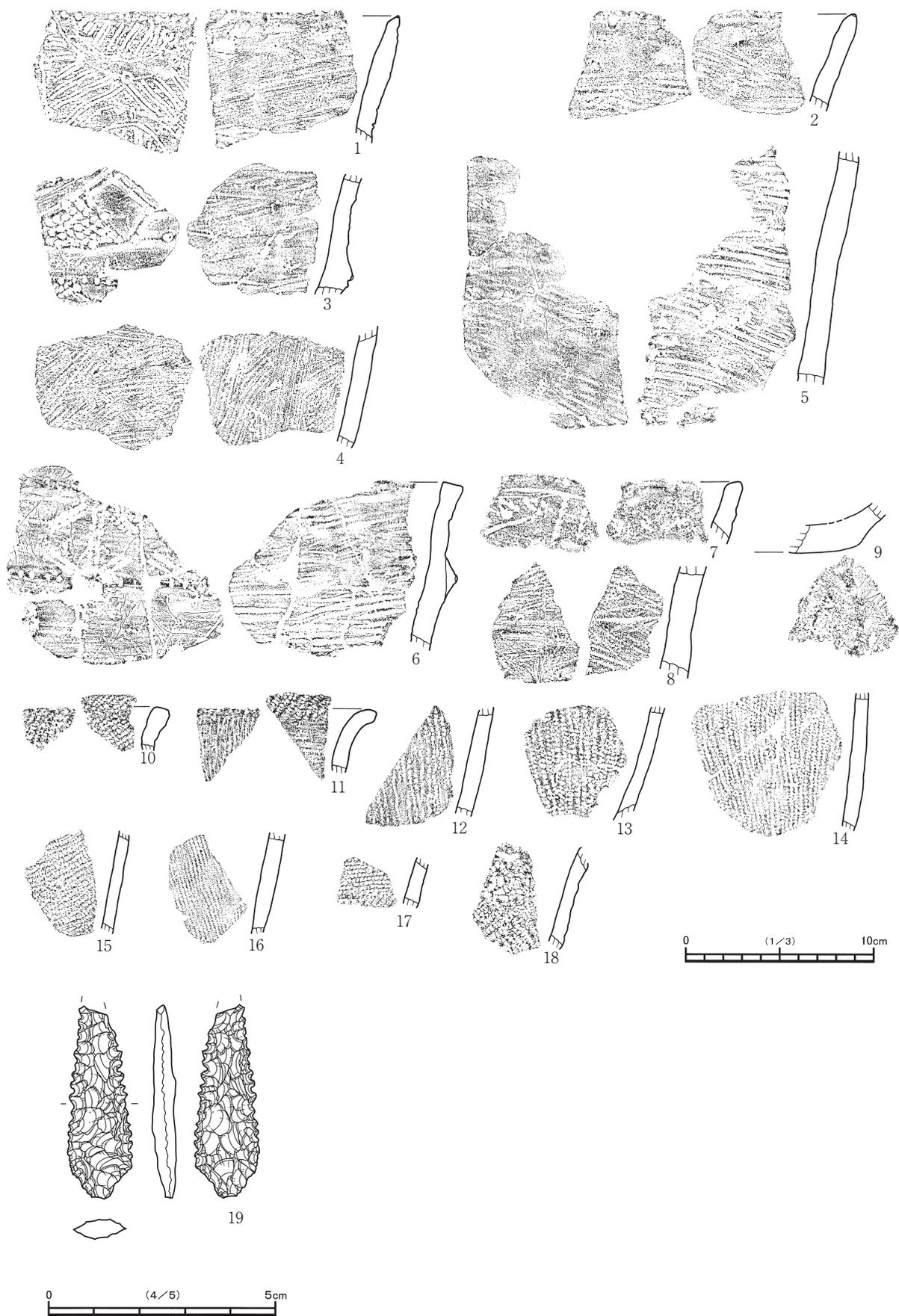
第394图 237号遺構出土遺物実測図(3)



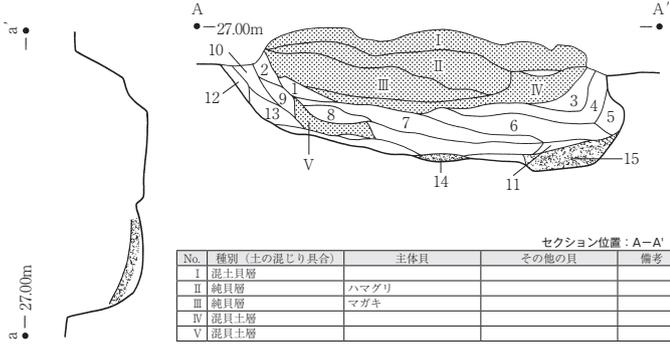
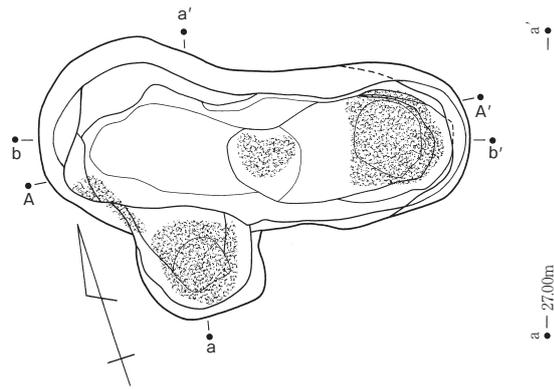
第395图 237号遺構出土遺物実測図(4)



第396图 237号遺構出土遺物実測図(5)

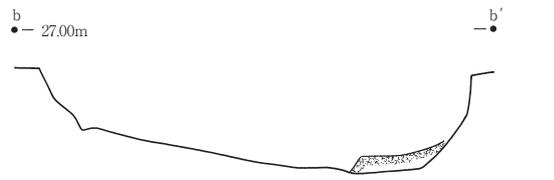


第397图 238号遺構出土遺物実測図



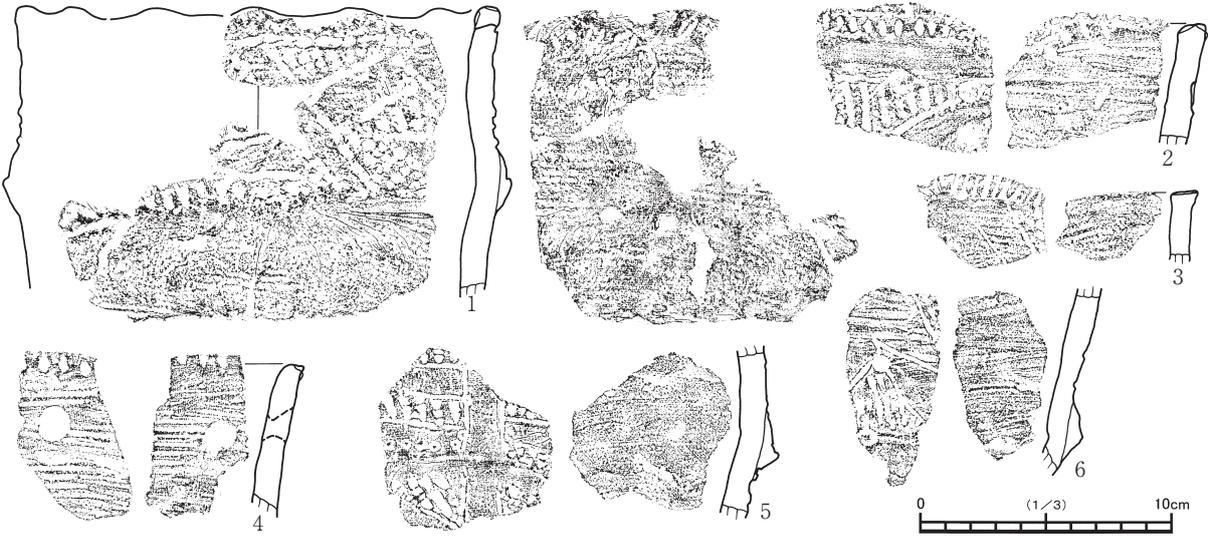
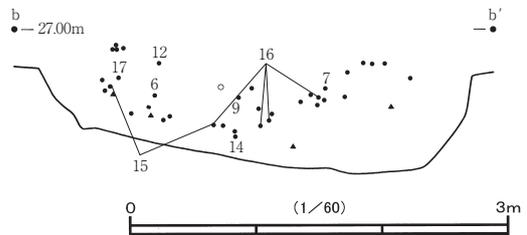
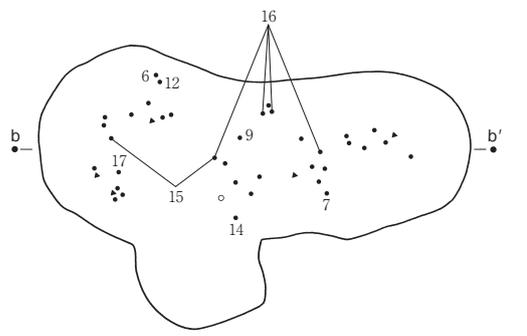
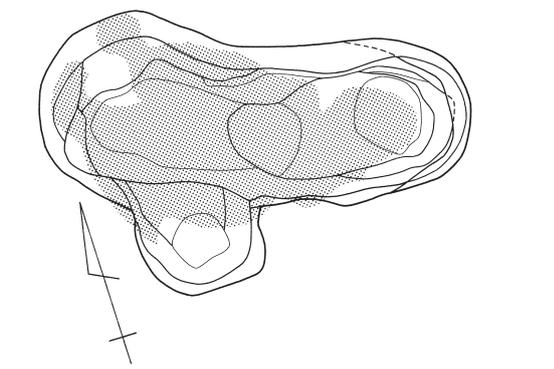
セクション位置：A-A'

No.	種別（土の混じり具合）	主体貝	その他の貝	備考
I	混貝層			
II	純貝層	ハマグリ		
III	純貝層	マガキ		
IV	混貝層			
V	混貝層			

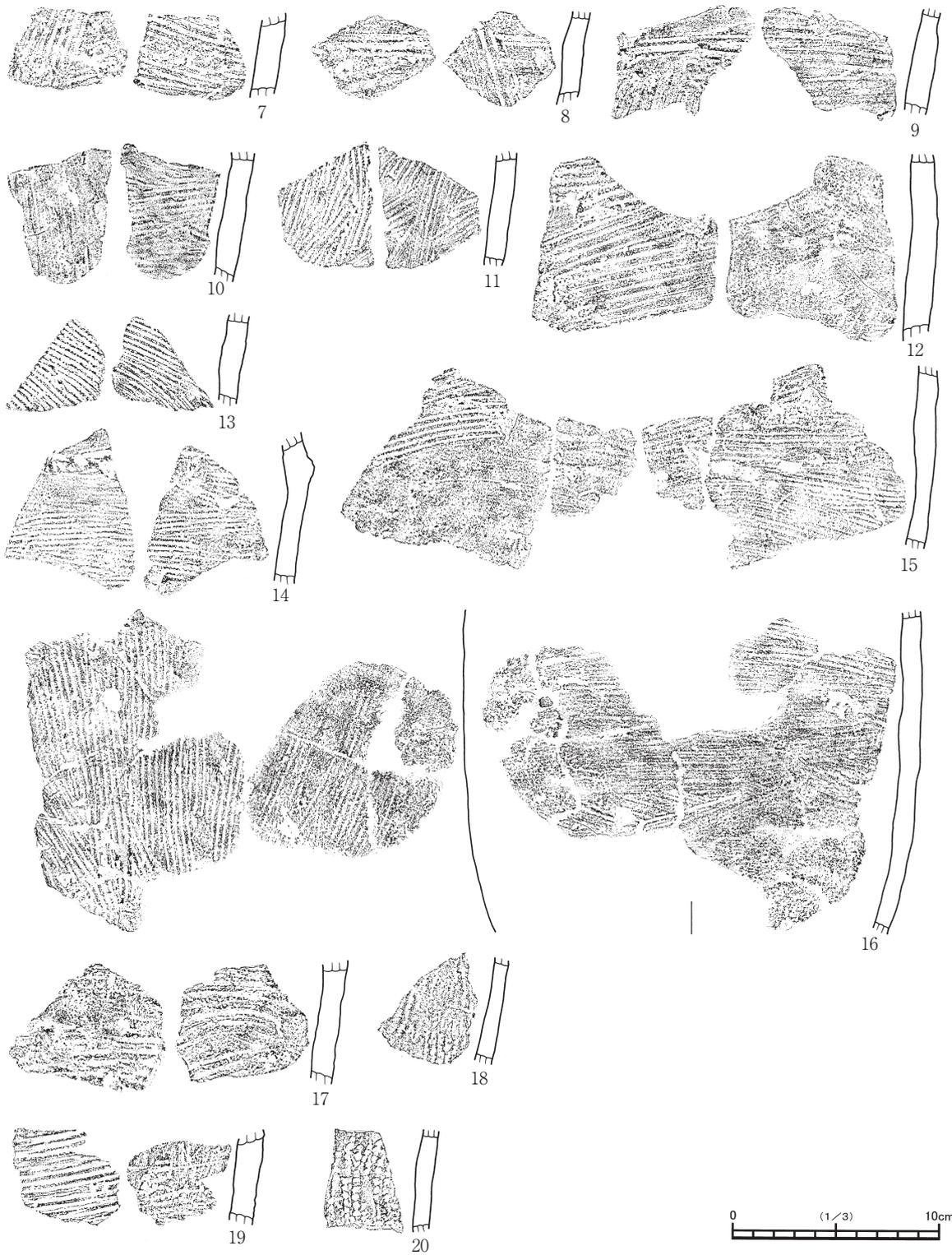


セクション位置：A-A'

No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	暗黒褐色	ローム粒			
2	黒褐色	若干の焼土			
3	黒色				
4	黒色	若干の褐色土ブロック			
5	褐色	多量のローム粒			
6	黒色				
7	黒色	多量のローム粒・若干のロームブロック・焼土粒			
8	褐色	焼土粒・ローム粒・若干の貝			
9	黒色	焼土粒			
10	黒褐色	焼土粒			
11		焼土			
12	暗褐色				
13	暗黒褐色	多量の褐色土・ローム粒・焼土粒			焼土
14					
15					焼土



第398図 239号遺構実測図・遺物出土状況図および出土遺物実測図(1)



第399图 239号遺構出土遺物実測図(2)

形成されていた。貝層は遺構覆土上部に堆積している。

【出土遺物】 21点・2,115gの礫および礫石器が出土している。このうち94%に被熱のあとがみられる。石器は、玉髓の原石1点出土している。土器は、50点・1,448g出土している。取り上げ方法は、平面・垂直位置を記録した点あげ、一括扱いの両方がある。遺物は遺構のほぼ全体に分布し、覆土の上層から下層まで広く出土している。土器のうちわけは、撚糸文系・条痕文系などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系のもので全体の96.1%あり、当該時期を239号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、点あげしたものを第398図1～6・第399図7～18に、覆土一括扱いのものを第399図19・20に示した。1～4は条痕文系深鉢形土器の口縁部、5～17は胴部破片である。1は推定口径186mm・現存器高115mmを測る緩やかな波状口縁をもつ深鉢形土器である。文様は押し引き沈線を菱形に配し要所に円形文を付すものを主とし、文様帯は横位の隆帯で区画する。また口唇部の前後面には縦位のキザミをめぐるせる。18・20は撚糸文系深鉢形土器の胴部破片である。

240号遺構

【検出位置】 セ28区H9-05・06

【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸2.66m・短軸1.46m・深さ35cm。燃焼面1箇所（第400図）。

【覆土】 黒色土・暗茶褐色土などを主体とする。一部に貝層がみられる。貝層は遺構覆土の北西2箇所、長軸86・短軸34・厚さ12cmほどの規模で形成されていた。

重複関係 南側で241号遺構と重複する。

【出土遺物】 3点・90gの被熱のあとがみられる礫が出土している。土器は、37点・496g出土している。取り上げ方法は、覆土一括扱いのもののみである。うちわけは、撚糸文系・条痕文系などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系のもので全体のおよそ85%あり、当該時期を240号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、主なものを第401図1～7に示した。1・2は条痕文系深鉢形土器の胴部、3～7は撚糸文系深鉢形土器の胴部破片である。

241号遺構

【検出位置】 セ28区H9-05

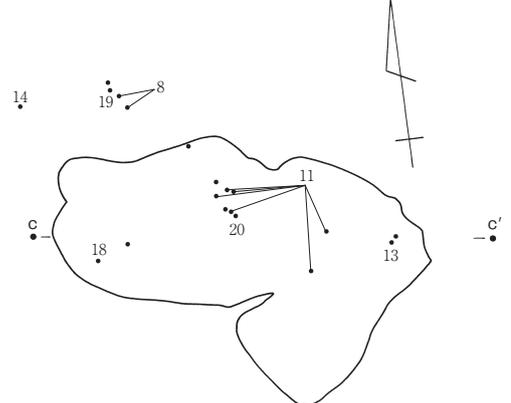
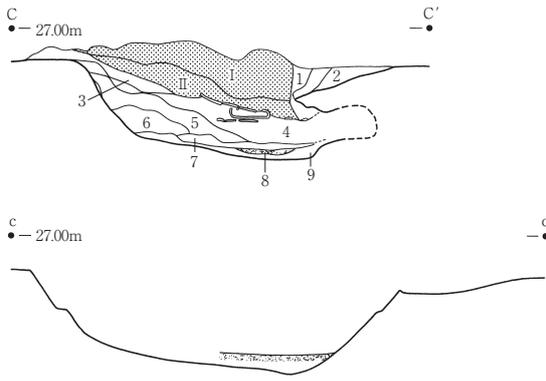
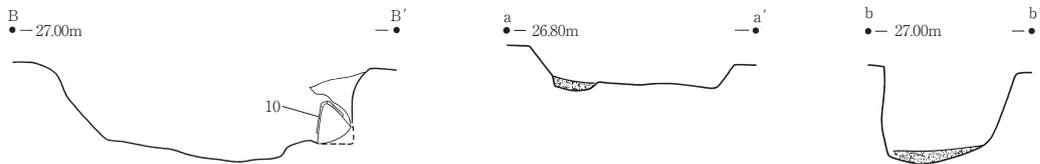
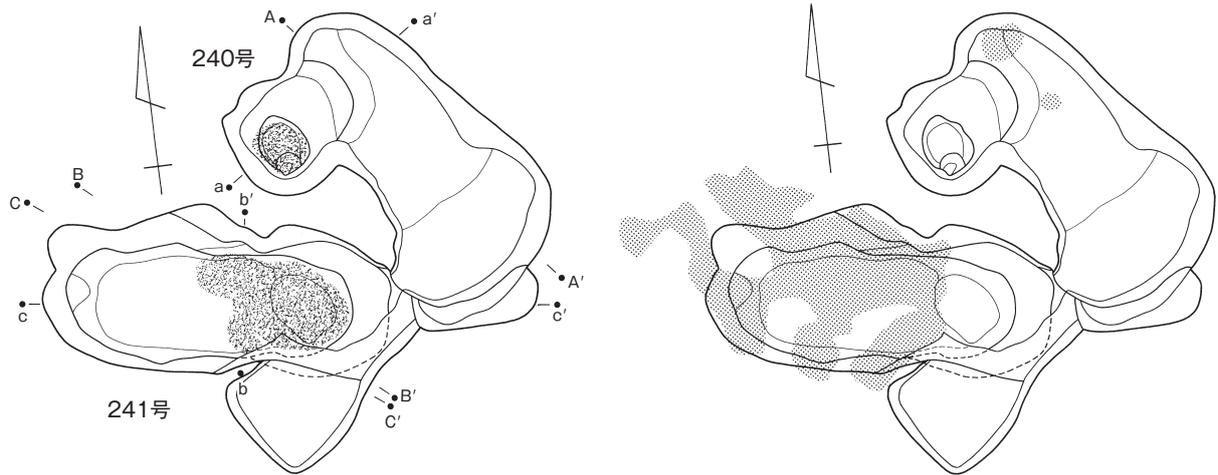
【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸2.77m・短軸1.33m・深さ83cm。燃焼面1箇所。主軸方向100°（第400図）。

【覆土】 黒色土・黒褐色土などを主体とする。ロームブロック・ローム粒・焼土粒を含む層が多い。一部に貝層がみられる。貝層は遺構覆土の西半部分に、長軸270・短軸194・厚さ50cmほどの規模で形成されていた。貝層は遺構覆土上部に堆積している。

【その他】 本遺構は、炉穴の天上部・煙道の一部が残存していた（C-C'断面参照）。燃焼面・煙道は西側に位置する。煙道入口に遺構基底面に接するように口縁部を下に向け倒立させた状態で10の深鉢形土器が出土している（B-B'断面参照）。

【出土遺物】 4点・296gの礫が出土している。このうち45.3%に被熱のあとがみられる。土器は、144点・8,702g出土している。取り上げ方法は、平面・垂直位置を記録した点あげ、一括扱いの両方

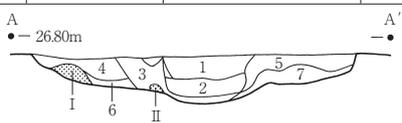


セクション位置：C-C'

No.	種別（土の混じり具合）	主体貝	その他の貝	備考
I	混土貝層	ハマグリ		
II	混土貝層	マガキ		

セクション位置：C-C'

No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	黒色				
2	暗褐色				
3	暗黒褐色	多量の焼土			
4	黒色				
5	黒褐色	多量のローム粒・焼土粒			
6		ロームブロック・黒色土ブロック			
7	暗黄色	ローム・黒色土粒			
8		焼土粒			
9	黒色	ローム粒・焼土粒			

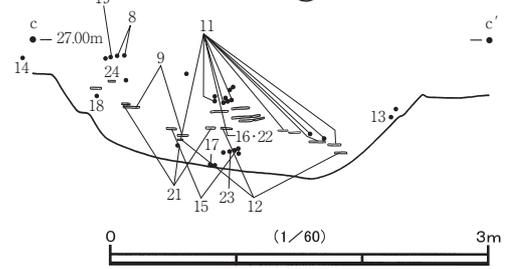
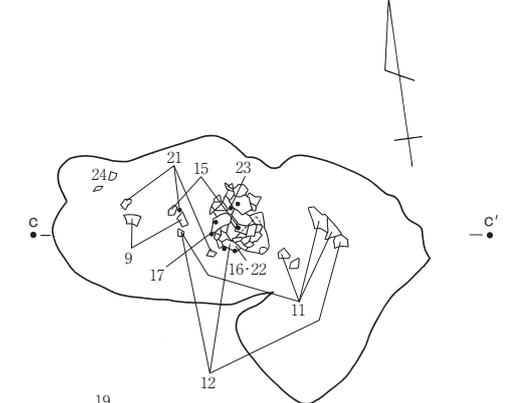


セクション位置：A-A'

No.	種別（土の混じり具合）	主体貝	その他の貝	備考
I	混貝土層			
II	混貝土層			

セクション位置：A-A'

No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	暗黒色				
2	黒色				
3	黒色		軟		
4	黒色				
5	暗褐色				
6	暗茶褐色				
7	暗茶褐色				

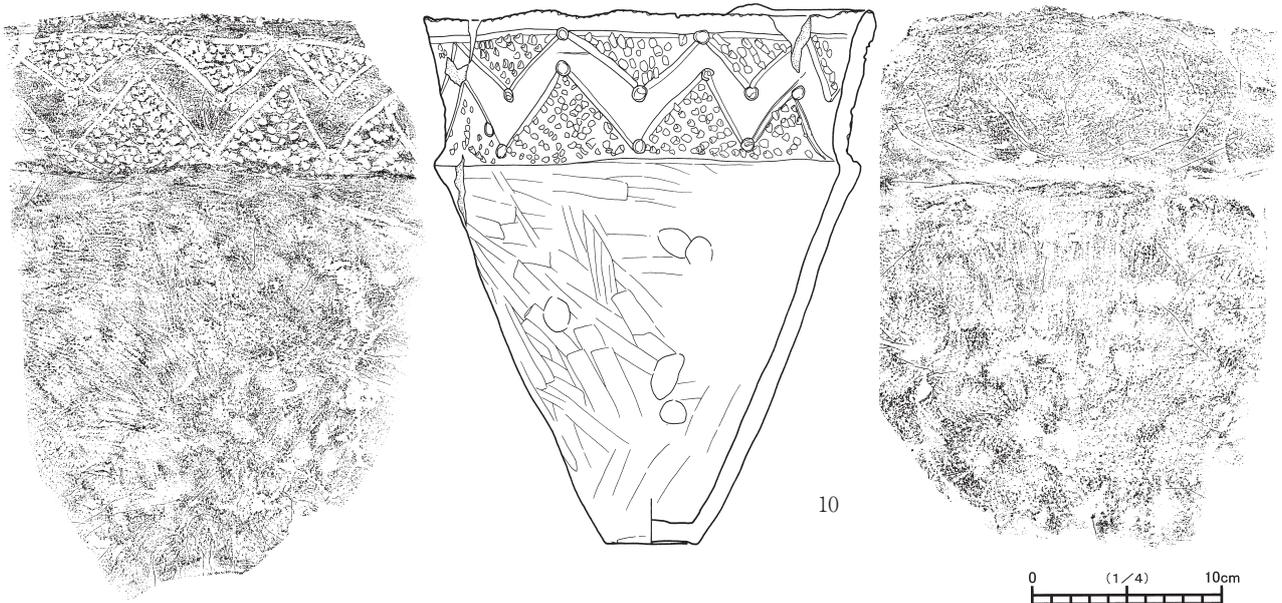
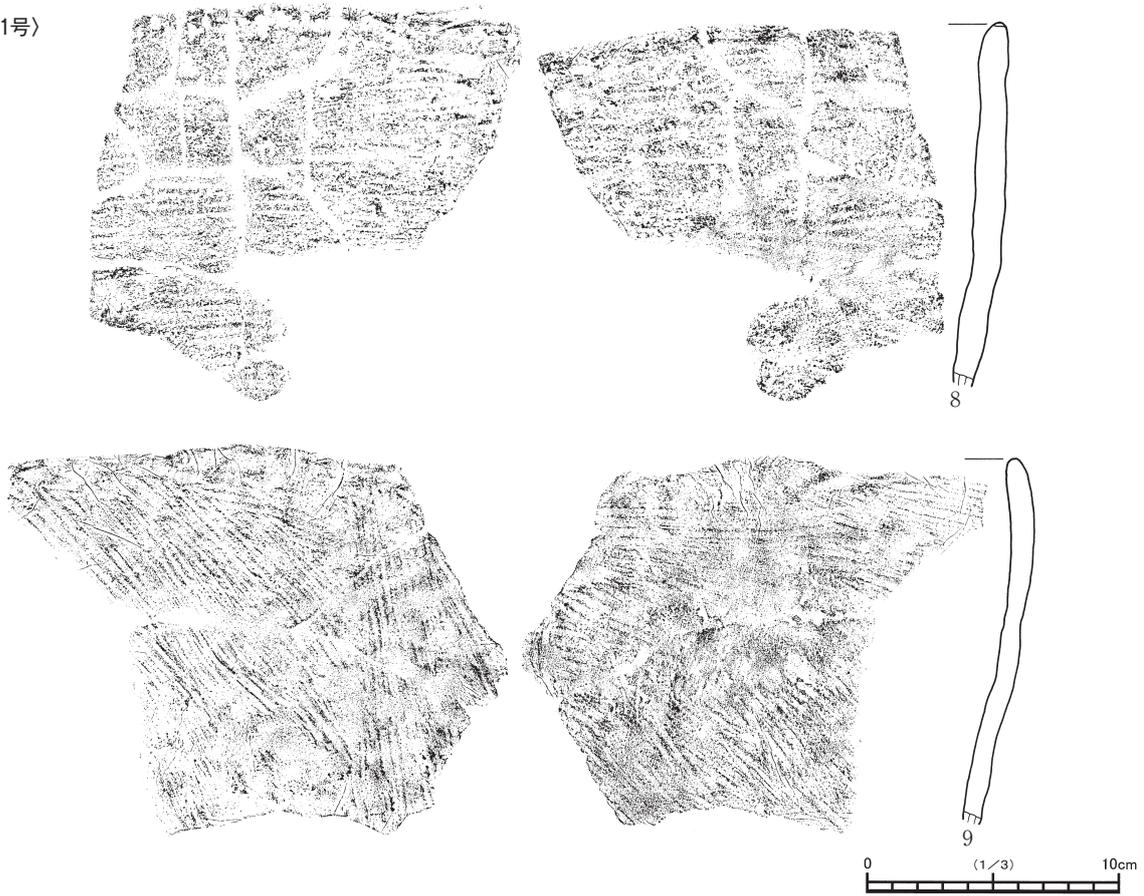


第400図 240・241号遺構実測図・遺物出土状況図

〈240号〉



〈241号〉



第401图 240号遺構出土遺物実測図・241号遺構出土遺物実測図(1)



第402图 241号遺構出土遺物実測図(2)

がある。遺物は遺構の中央部に分布し、覆土上層から中層にまとまって出土している。土器のうちわけは、捺糸文系・条痕文系などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系で全体の99.2%あり、当該時期を241号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、点あげしたものを第401図8～10・第402図11～16・第403図17～24に、覆土一括扱いのものを第403図25～31に示した。8・9・13・25は条痕文系深鉢形土器の口縁部、14～20は胴部、21は底部の破片である。10は口径232mm・器高286mm・底径48mmを測る平縁の深鉢形土器である。浅い沈線区画内に刺突文を充填、交点に円形文を配す文様を構成し、無文部は鋸歯状をなす。また口唇部には浅い刺突がめぐる。11は口径322mm・器高350mmを測る平縁の深鉢形土器で、底部は尖底である。輪積み痕をのこし、内面は指ナデ痕が顕著にみられる。12は推定口径226mm・現存器高291mmを測る平縁の深鉢形土器である。口唇部にキザミがあるほかは文様はなく、外面は横・斜方向に、内面は横・斜・縦方向に条痕を施す。器形はかなり歪である。22～24、26～31は捺糸文系深鉢形土器の胴部破片である。

242号遺構

【検出位置】 セ28区H9-05・09

【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸3.31m・短軸2.86m・深さ45cm。燃焼面1箇所（第405図）。

【覆土】 黒褐色土・暗褐色土などを主体とする。一部に貝層がみられる。貝層は遺構覆土の中心部よりの南側部分に、長軸100・短軸92・厚さ18cmほどの規模で形成されていた。貝層は遺構基底面から堆積している。

【重複関係】 南側で243号遺構と重複する。

【その他】 周囲に竪穴状の掘り込みがある。

出土遺物がないため遺構の詳細時期は不明。

243号遺構

【検出位置】 セ28区H9-09・13

【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸3.03m・短軸1.67m・深さ31cm。燃焼面4箇所（第405図）。

【覆土】 暗茶褐色土・茶褐色土などを主体とする。

【出土遺物】 16点・1,130gの礫および礫石器が出土している。このうち98.5%に被熱のあとがみられる。石器は、石核1点が出土している。土器は、82点・1,999g出土している。取り上げ方法は、平面・垂直位置を記録した点あげ、一括扱いの両方がある。遺物は遺構基底面よりやや浮いた地点から出土している。土器のうちわけは、捺糸文系・条痕文系などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系のもので全体の95.5%あり、当該時期を243号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、点あげしたものを第406図1～3に、覆土一括扱いのものを第406図4～19に示した。4～8は条痕文系深鉢形土器の口縁部、1～3・9～14は胴部、15・16は底部の破片である。17～19は捺糸文系深鉢形土器の胴部破片である。

244号遺構

【検出位置】 セ28区H9-09

【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸2.33m・短軸1.65m・深さ65cm。燃焼面2箇所。形状はアメーバ状（第405図）。

【覆土】 黒褐色土・暗褐色土などを主体とする。ロームブロック・ローム粒を含む層が多い。

【出土遺物】 7点・723gの礫および礫石器が出土している。このうち96.4%に被熱のあとがみられる。石器は、楔状石器1点出土している。土器は、32点・839g出土している。取り上げ方法は、平面・垂直位置を記録した点あげ、一括扱いの両方がある。遺物は遺構覆土の中層から出土している。土器のうちわけは、撚糸文系・条痕文系などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系のもので全体の98.7%あり、当該時期を244号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、点あげしたものを第406図20・21に、覆土一括扱いのものを第407図22～27に示した。20・22・23は条痕文系深鉢形土器の口縁部、21・24は胴部、25・26は底部の破片である。27は撚糸文系深鉢形土器の胴部破片である。出土石器を第407図28に示した。最大長52.7mmを測る堇青石ホルンフェルス製の楔状石器である。

245号遺構

【検出位置】 セ28区H9-09・10

【種別】 土坑

【規模ほか】 長軸2.38m・短軸1.87m・深さ26cm。形状は楕円形（第404図）。

【覆土】 黒褐色土・暗黒褐色土などを主体とする。

【出土遺物】 18点・1,095gの礫および礫石器が出土している。このうち76.6%に被熱のあとがみられる。石器は石核2点、このほか無斑晶ガラス質安山岩の剥片1点が出土している。土器は、17点・340g出土している。取り上げ方法は、平面・垂直位置を記録した点あげ、覆土一括扱いの両方がある。遺物は遺構中央部、基底面付近から出土している。土器のうちわけは、撚糸文系・条痕文系などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系のもので全体の76.2%あり、当該時期を245号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、点あげしたものを第404図4に、一括扱いのものを第404図1～3、5～7に示した。1は条痕文系深鉢形土器の口縁部、2・3は胴部の破片である。4は撚糸文系深鉢形土器の口縁部、5～7は胴部の破片である。

246号遺構

【検出位置】 セ28区H9-05・10・11

【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸3.30m・短軸1.84m・深さ76cm。燃焼面2箇所。形状はアメーバ状（第408図）。

【覆土】 黒褐色土・暗褐色土などを主体とする。ロームブロック・ローム粒を含む層が多い。一部に貝層がみられる。貝層は遺構覆土のほぼ全体的に、長軸312・短軸138・厚さ52cmほどの規模で形成されていた。貝層は覆土中層に堆積している。

【出土遺物】 59点・1,471gの礫および礫石器が出土している。このうち75.8%に被熱のあとがみられる。石器は、5点出土している。うちわけは、石核3点・敲石1点・軽石1点である。土器は、46点・514g出土している。取り上げ方法は、平面・垂直位置を記録した点あげ、一括扱いの両方がある。遺物は遺構の西側、覆土の上層から中層を中心に分布する。土器のうちわけは、撚糸文系・条痕

文系などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系で全体のおよそ92%あり、当該時期を246号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、点あげしたものを第408図1・2、第409図3～8に、覆土一括扱いのものを第409図9～18に示した。1・2・9は条痕文系深鉢形土器の口縁部、3～6・10～14は胴部の破片である。1は推定口径490mm・現存器高182mmを測る平縁の土器で、外面は横・斜・縦方向に、内面は横・斜方向に条痕を施す。7・8・15～17は捺糸文系深鉢形土器の口縁部、18は胴部の破片である。

出土石器のうち主なものを、第409図19・20に示した。19は最大長58.6mmを測るチャート製の石核である。20は最大長67mmを測る無斑晶質安山岩製の敲石である。片側中央部に敲打痕がみられる。

247号遺構

【検出位置】 セ28区H8-11・15

【種別】 土坑

【規模ほか】 長軸1.29m・短軸0.78m・深さ9cm。形状は円形（第410図）。

【重複関係】 古墳周溝と重複するため北側の部分を欠失する。

【出土遺物】 3点・34gの被熱のあとがみられる礫が出土している。土器は、45点・670g出土している。取り上げ方法は、覆土一括扱いのもののみである。そのすべてが条痕文系のものであることから、当該時期を247号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち主なものを第410図1～5に示した。1・2は条痕文系深鉢形土器の口縁部、3～5は胴部の破片である。

248号遺構

【検出位置】 セ28区H8-15

【種別】 土坑

【規模ほか】 長軸1.60m・短軸1.17m・深さ41cm。形状は楕円形。中央部に浅いピットがある（第410図）。

【覆土】 暗褐色土・暗黄褐色土などを主体とする。

【出土遺物】 19点・597gの礫が出土している。このうちすべてに被熱のあとがみられる。土器は、13点・77g出土している。取り上げ方法は、覆土一括扱いのもののみである。そのすべてが条痕文系のものであることから、当該時期を248号遺構の帰属時期とみる。ただし、図示できるような資料はなかった。

249号遺構

【検出位置】 セ28区H8-15

【種別】 土坑

【規模ほか】 長軸1.60m・短軸0.88m・深さ31cm。形状は楕円形。中央部に浅いピットがある（第410図）。

【覆土】 黒褐色土・黄褐色土などを主体とする。

【出土遺物】 8点・241gの礫が出土している。このうちすべてに被熱のあとがみられる。土器は、5点・79g出土している。取り上げ方法は、覆土一括扱いのもののみである。うちわけは、捺糸文系・

条痕文系などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系のもので全体のおよそ86%あり、当該時期を249号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、主なものを第410図6～8に示した。6・7は条痕文系深鉢形土器の胴部、8は捺糸文系深鉢形土器の胴部破片である。

250号遺構

【検出位置】 セ28区H8-16

【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸2.53m・短軸2.36m・深さ92cm。燃焼面2箇所。形状はアメーバ状（第411図）。

【重複関係】 古墳周溝と重複するため北側と西側の一部を欠失する。

【出土遺物】 43点・2,475gの礫が出土している。このうちすべてに被熱のあとがみられる。石器は石鏃1点、このほか黒曜石の剥片1点が出土している。土器は、140点・2,940g出土している。取り上げ方法は、平面・垂直位置を記録した点あげ、一括扱いの両方がある。遺物は遺構の東側中央部、覆土の上層から中層を中心に分布している。土器のうちわけは、捺糸文系・条痕文系などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系のもので全体の99.5%あり、当該時期を250号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、点あげしたものを第411図1～6、第412図7～13に、覆土一括扱いのものを第412図14～18に示した。1・2は条痕文系深鉢形土器の口縁部、3～10・14～17は胴部、11～13は底部の破片である。11は現存器高80mm・底径62mmを測るもので、外面斜方向に、内面斜・縦方向に条痕が施される。底部は平底である。18は捺糸文系深鉢形土器の胴部破片である。出土石器を第412図19に示した。最大長22.8mmを測るチャート製の石鏃である。

251号遺構

【検出位置】 セ28区H9-12・13

【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸3.25m・短軸2.65m・深さ52cm。燃焼面4箇所。形状はアメーバ状（第405図）。

【覆土】 暗褐色土などを主体とする。ローム粒・焼土粒などを含むものがある。

【重複関係】 西側部分で250号遺構と重複。北側に243号遺構が隣接する。

【出土遺物】 46点・1,842gの礫が出土している。このうち97.1%に被熱のあとがみられる。石器は、黒曜石の剥片4点がある。土器は、43点・1,011g出土している。取り上げ方法は、一括扱いのもののみである。そのすべてが条痕文系のものであることから、当該時期を251号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、主なものを第407図29～39に示した。29は条痕文系深鉢形土器の口縁部、30～38は胴部、39は現存器高30mm・推定底径50mmを測る底部破片である。

252号遺構

【検出位置】 セ28区H9-13

【種別】 土坑

【規模ほか】 長軸2.21m・短軸1.33m・深さ16cm。形状は楕円形（第413図）。

【覆土】 暗茶褐色土・茶褐色土などを主体とする。ロームブロック・ローム粒を含む。

【出土遺物】 土器は、10点・168g出土している。取り上げ方法は、一括扱いのもののみである。そのすべてが条痕文系のものであることから、当該時期を252号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、主なものを第413図1に示した。条痕文系深鉢形土器の胴部破片である。外面は横・斜方向に、内面は斜方向に条痕文が施される。

253号遺構

【検出位置】 セ28区H8-16

【種別】 土坑

【規模ほか】 長軸1.31m・短軸0.95m・深さ16cm。形状は楕円形（第415図）。

【覆土】 茶褐色土・黒褐色土などを主体とする。

【出土遺物】 4点・41gの礫が出土している。このうちすべてに被熱のあとがみられる。土器は、8点・86g出土している。取り上げ方法は、一括扱いのもののみである。うちわけは、撚糸文系・条痕文系などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系のもので全体のおよそ94%あり、当該時期を253号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、一括扱いのものを第415図1・2に示した。1は撚糸文系深鉢形土器の口縁部破片、2は条痕文系深鉢形土器の胴部破片である。

254号遺構

【検出位置】 セ28区H8-16

【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸3.04m・短軸0.66m・深さ62cm。燃焼面両端部に2箇所（第411図）。

【覆土】 黒褐色土・暗褐色土などを主体とする。ロームブロック・ローム粒・焼土粒を含む。

【出土遺物】 12点・980gの礫が出土している。このうちすべてに被熱のあとがみられる。石器は、堇青石ホルンフェルスの剥片1点がある。土器は、44点・558g出土している。取り上げ方法は、一括扱いのもののみである。うちわけは、条痕文系・羽状縄文系・撚糸文系などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系のもので全体のおよそ96%あり、当該時期を254号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、主なものを第412図20～24に示した。20～23は条痕文系深鉢形土器の口縁部および胴部破片である。24は羽状縄文系深鉢形土器の口縁部破片である。

255号遺構

【検出位置】 セ28区I8-15・16、I8-03・04

【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸1.98m・短軸1.16m・深さ35cm。主軸方向10°。燃焼面1箇所（第414図）。

【覆土】 黒褐色土・暗黒褐色土などを主体とする。焼土粒を含むものがある。

【出土遺物】 36点・1,268gの礫が出土している。このうちすべてに被熱のあとがみられる。土器は、64点・974g出土している。取り上げ方法は、一括扱いのもののみである。うちわけは、撚糸文系・条痕文系などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系のもので全体の97.7%あり、当該時期を255号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、主なものを第414図1～12に示した。1～9は条痕文系深鉢形土器の口縁部および胴部破片である。1は押し引き沈線による三角形区画内に押し引き沈線を充填、要所に

円形文を施す。10～12は撚糸文系深鉢形土器の口縁部および胴部破片である。

256号遺構

【検出位置】 セ28区I8-04

【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸3.10m・短軸1.90m・深さ32cm。燃焼面2箇所。形状はアメーバ状（第415図）。

【覆土】 暗黒褐色土・暗褐色土などを主体とする。

【重複関係】 古墳周溝との重複により、東側の一部を欠失する。

【出土遺物】 54点・1,591gの礫が出土している。このうちすべてに被熱のあとがみられる。石器は、チャートなどの剥片6点がある。土器は、20点・151g出土している。取り上げ方法は、一括扱いのもののみである。そのすべてが条痕文系のものであることから、当該時期を256号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、一括扱いのものを第415図3・4に示した。いずれも条痕文系深鉢形土器の胴部破片である。

257号遺構

【検出位置】 セ28区I8-03・04

【種別】 土坑

【規模ほか】 長軸1.43m・短軸1.00m・深さ29cm。形状は楕円形（第415図）。

【覆土】 黒褐色土・暗褐色土などを主体とする。

【出土遺物】 16点・324gの礫が出土している。このうちすべてに被熱のあとがみられる。石器は、石鏃1点が出土している。土器は、21点・154g出土している。取り上げ方法は、一括扱いのもののみである。うちわけは、撚糸文系・条痕文系などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系のもので全体のおよそ86%あり、当該時期を257号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、主なものを第415図5～7に示した。5・6は条痕文系深鉢形土器の胴部破片である。7は撚糸文系深鉢形土器の胴部破片である。出土石器を第415図8に示した。最大長31.5mmを測る無斑晶緻密質安山岩製の石鏃である。

258号遺構

【検出位置】 セ28区H9-03

【種別】 炉穴？

【規模ほか】 長軸2.09m・短軸1.83m・深さ43cm。燃焼面は不明（第416図）。

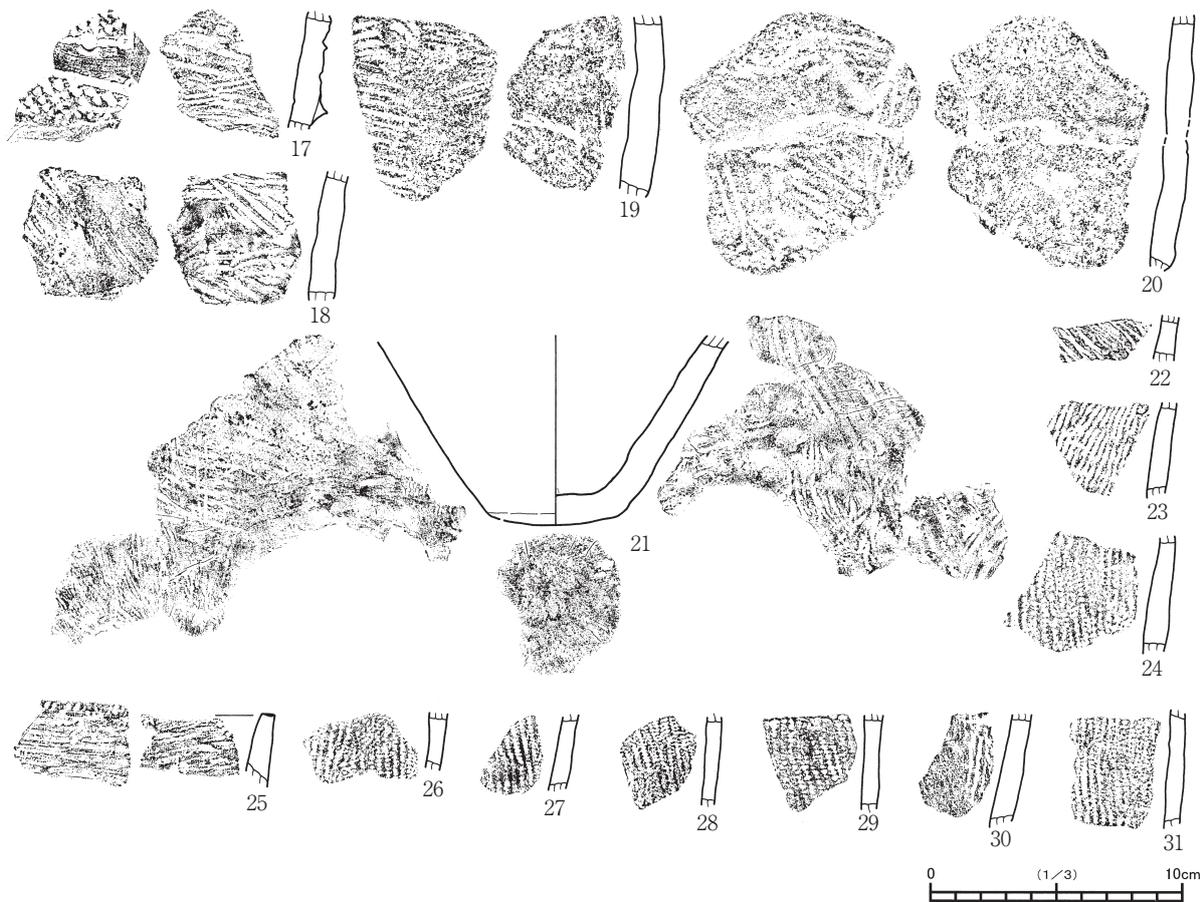
【覆土】 暗黒茶褐色土・暗茶褐色土などを主体とする。

【重複関係】 南側で261号遺構と重複する。

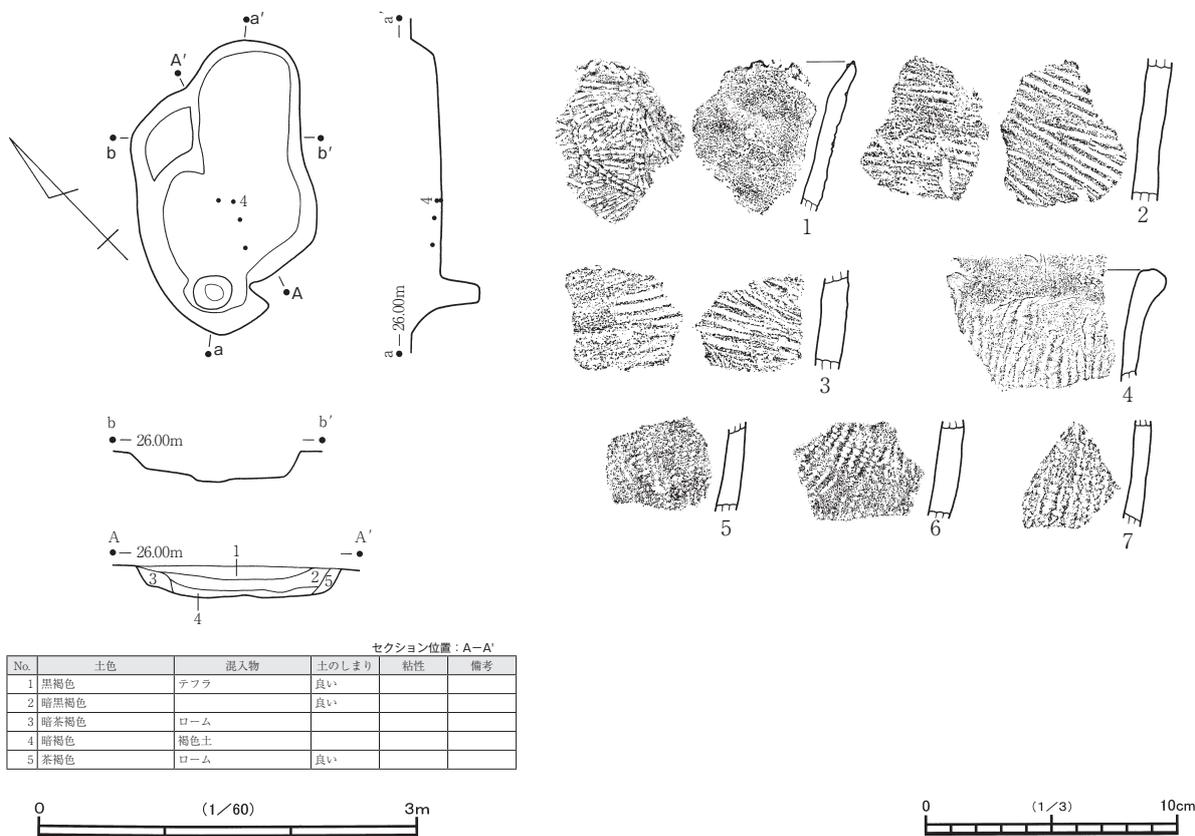
【出土遺物】 16点・657gの礫が出土している。このうちすべてに被熱のあとがみられる。土器は、18点・321g出土している。取り上げ方法は、一括扱いのもののみである。うちわけは、撚糸文系・条痕文系などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系で全体のおよそ96%あり、当該時期を258号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、一括扱いのものを第417図1～3に示した。

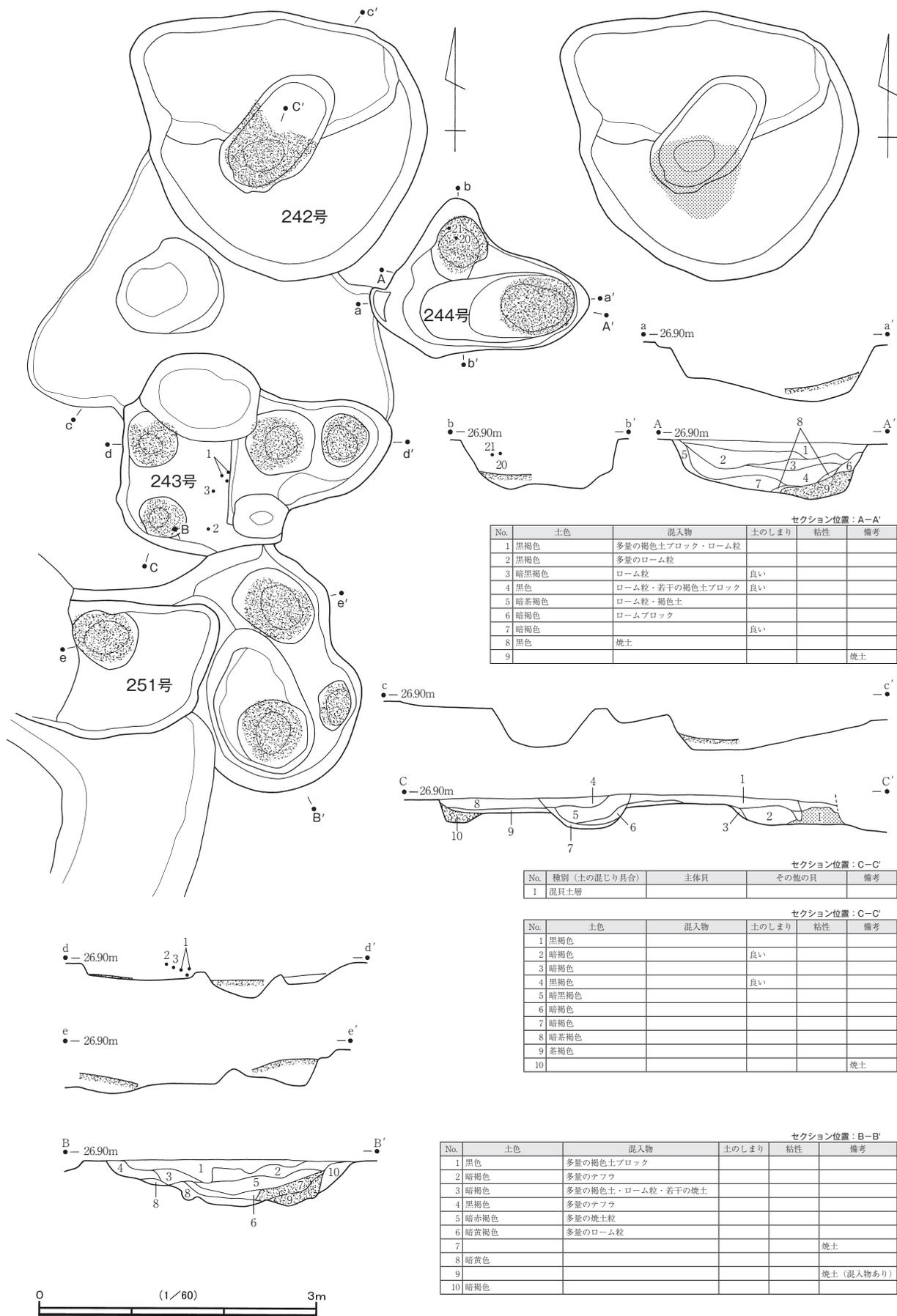
1・2は条痕文系深鉢形土器の胴部破片である。3は撚糸文系深鉢形土器の胴部破片である。



第403図 241号遺構出土遺物実測図(3)



第404図 245号遺構実測図・遺物出土状況図および出土遺物実測図



セクション位置：A-A'

No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	黒褐色	多量の褐色土ブロック・ローム粒			
2	黒褐色	多量のローム粒			
3	暗黒褐色	ローム粒	良い		
4	黒色	ローム粒・若干の褐色土ブロック	良い		
5	暗茶褐色	ローム粒・褐色土			
6	暗褐色	ロームブロック			
7	暗褐色		良い		
8	黒色	焼土			
9					焼土

セクション位置：C-C'

No.	種別（土の混じり具合）	主体具	その他の具	備考
I	混貝土層			

セクション位置：C-C'

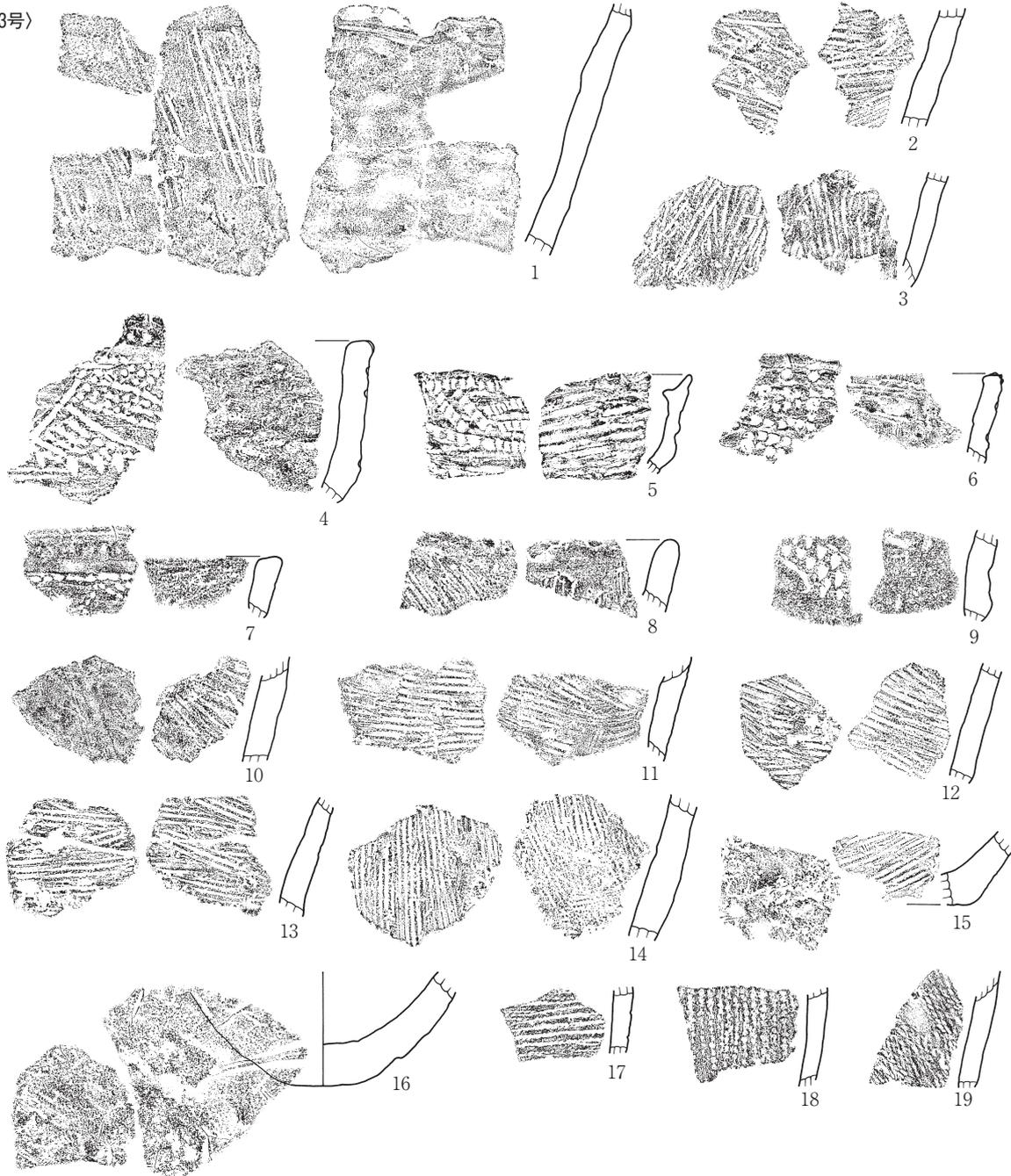
No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	黒褐色				
2	暗褐色		良い		
3	暗褐色				
4	黒褐色		良い		
5	暗黒褐色				
6	暗褐色				
7	暗褐色				
8	暗茶褐色				
9	茶褐色				
10					焼土

セクション位置：B-B'

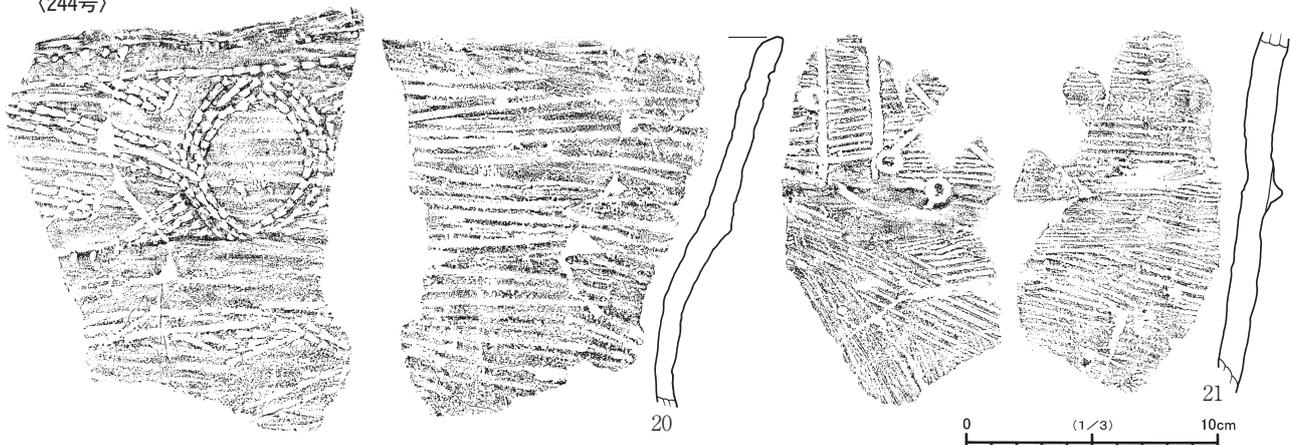
No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	黒色	多量の褐色土ブロック			
2	暗褐色	多量のテフラ			
3	暗褐色	多量の褐色土・ローム粒・若干の焼土			
4	黒褐色	多量のテフラ			
5	暗赤褐色	多量の焼土粒			
6	暗黄褐色	多量のローム粒			
7					焼土
8	暗黄色				
9					焼土（混入物あり）
10	暗褐色				

第405図 242・243・244・251号遺構実測図

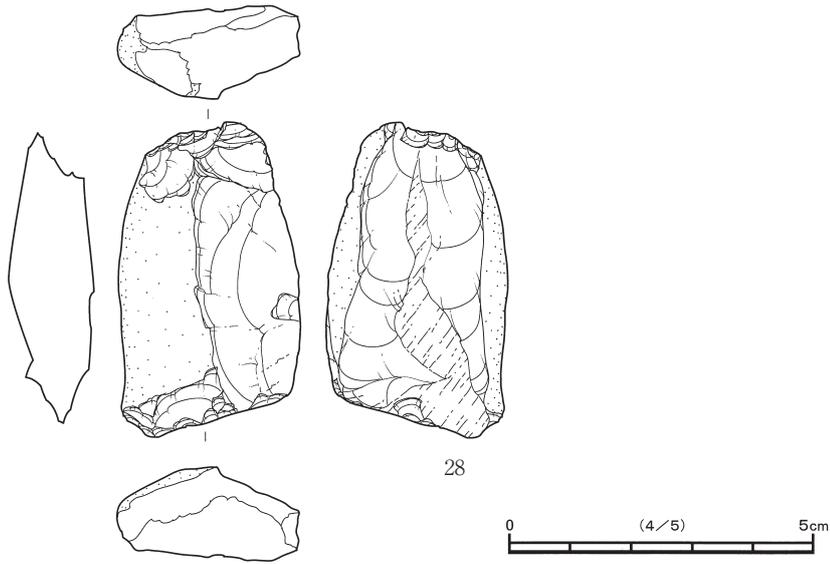
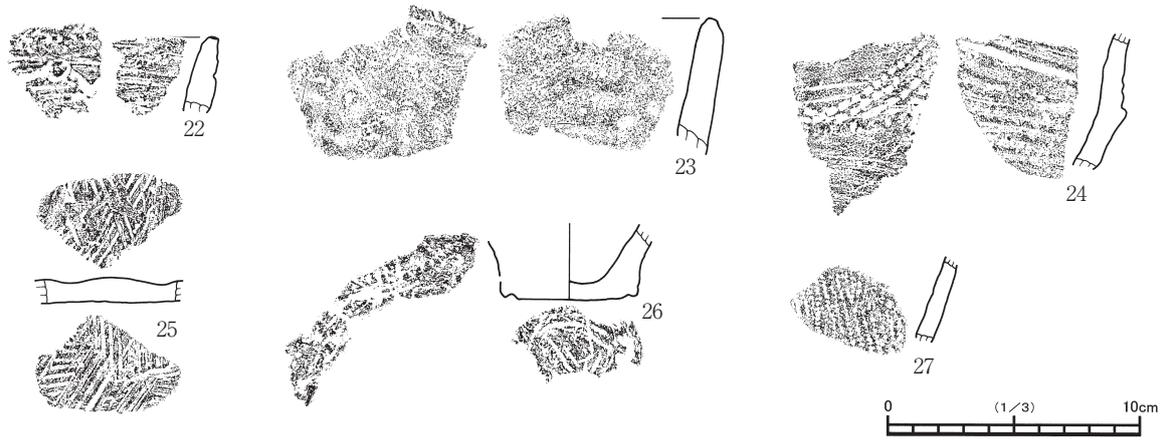
〈243号〉



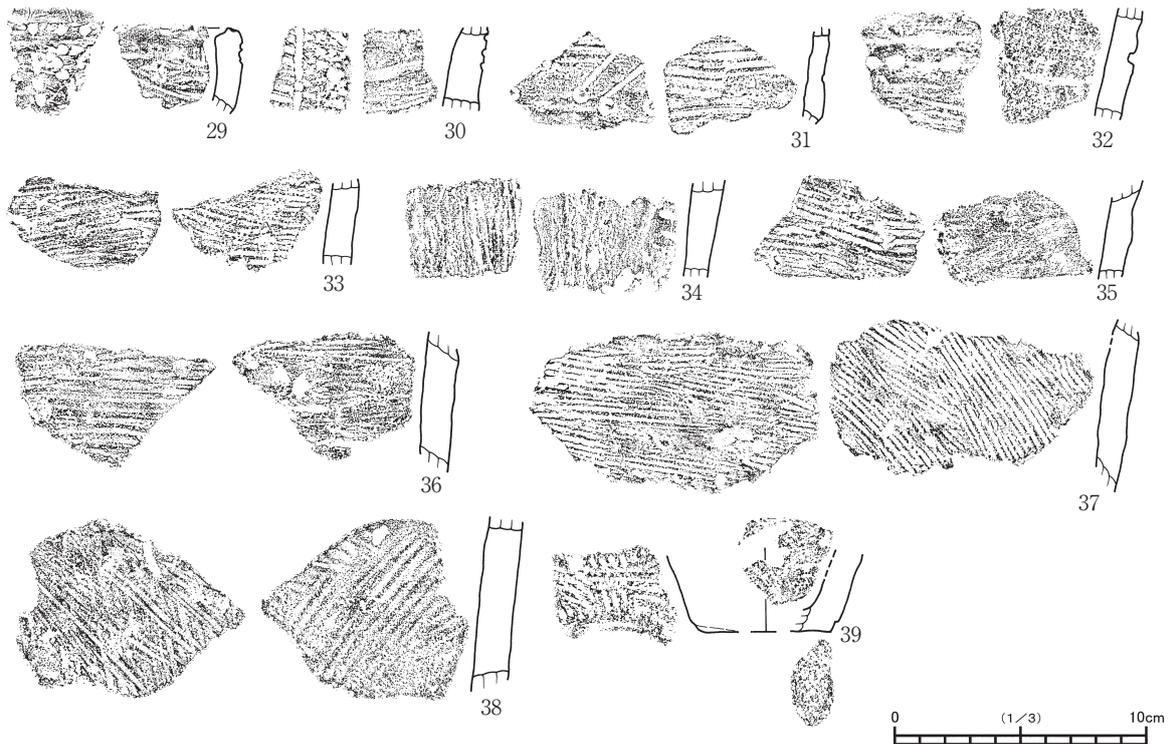
〈244号〉



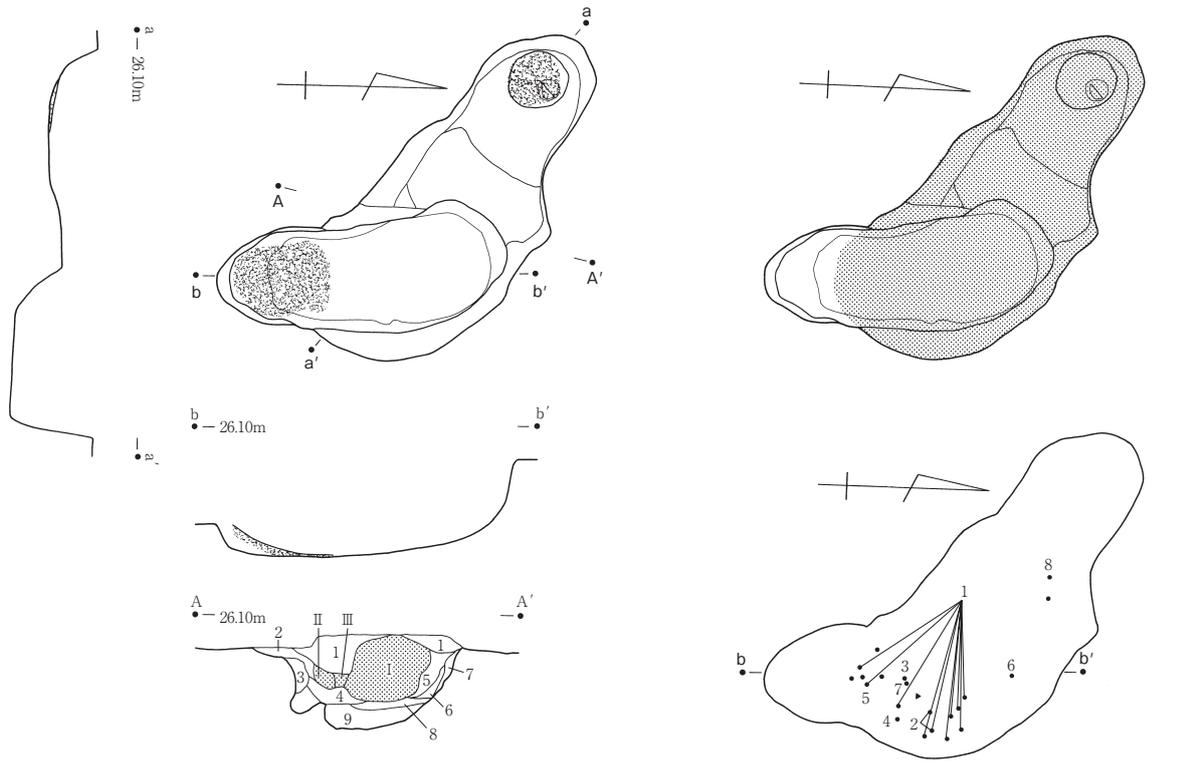
第406图 243号遺構出土遺物実測図・244号遺構出土遺物実測図(1)



〈251号〉



第407图 244号遺構出土遺物実測図(2)・251号遺構出土遺物実測図

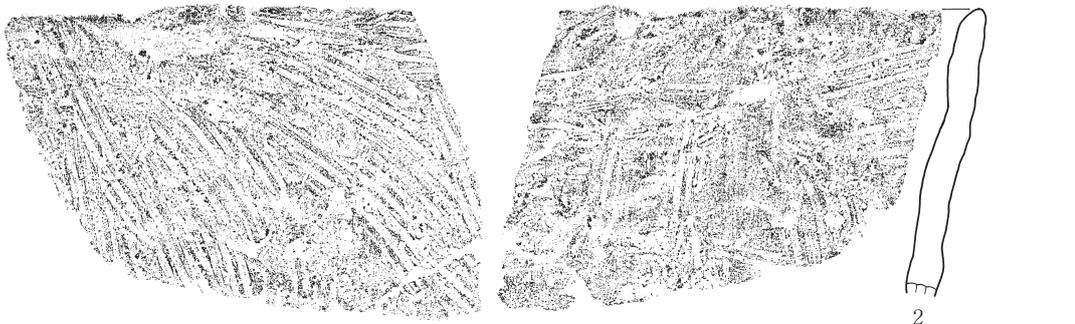
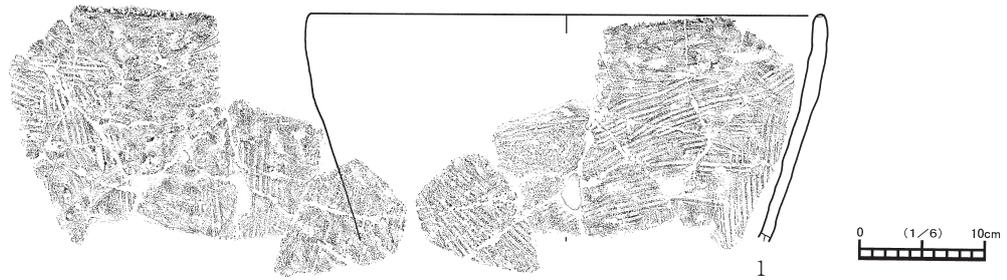
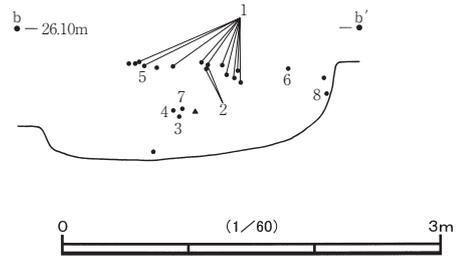


セクション位置：A-A'

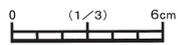
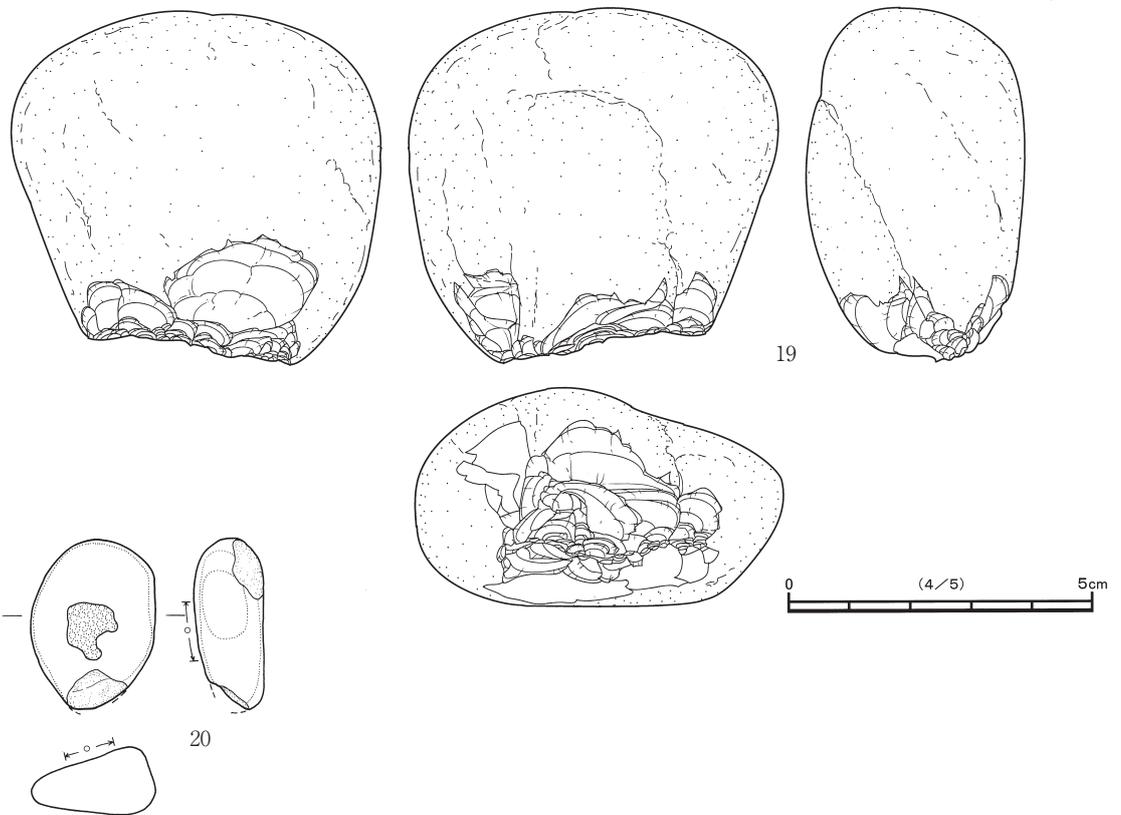
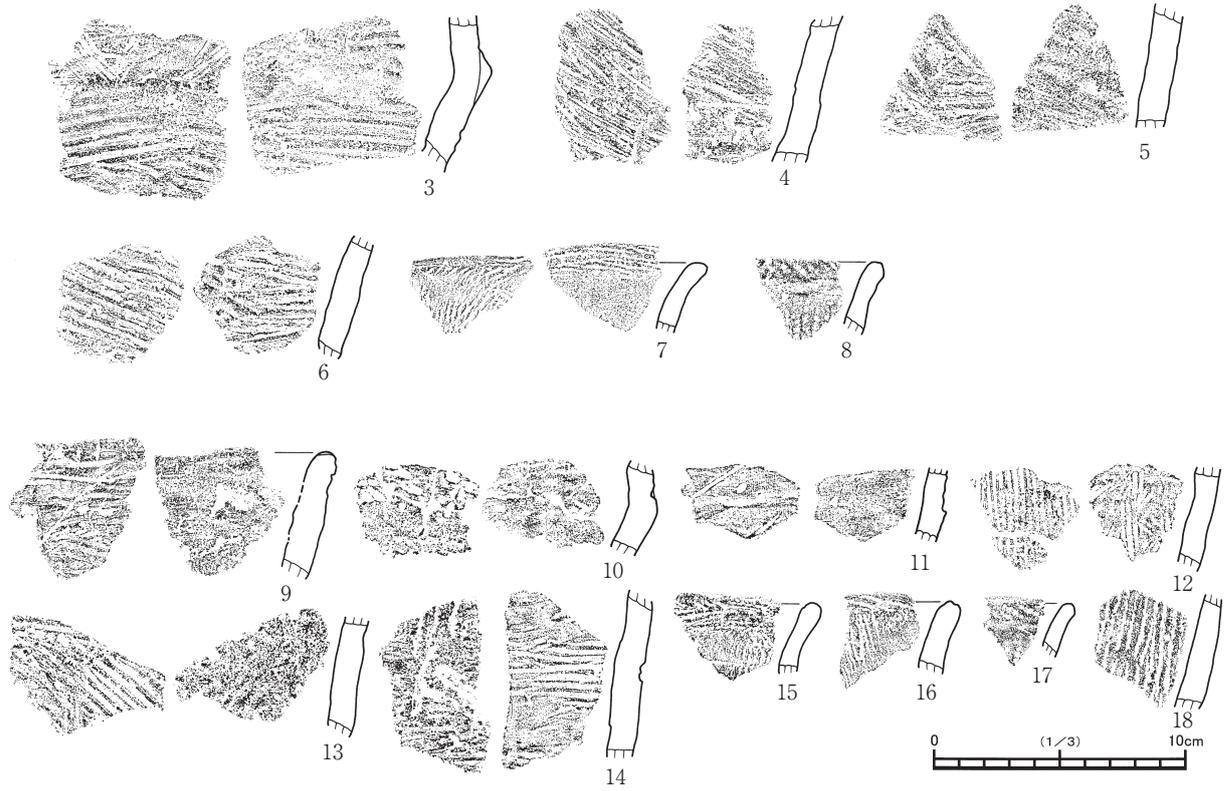
No.	種別（土の混じり具合）	主体貝	その他の貝	備考
I	純貝～混土貝層			
II	混土貝層			
III	混貝土層			

セクション位置：A-A'

No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	黒褐色				
2	黒褐色	若干のローム粒			
3	暗褐色	若干のローム			
4	暗黒褐色				
5	黒褐色	多量のローム			
6	黒褐色				
7	暗褐色				
8		ロームブロック			張り床
9	黒色	多量のローム粒・ロームブロック			

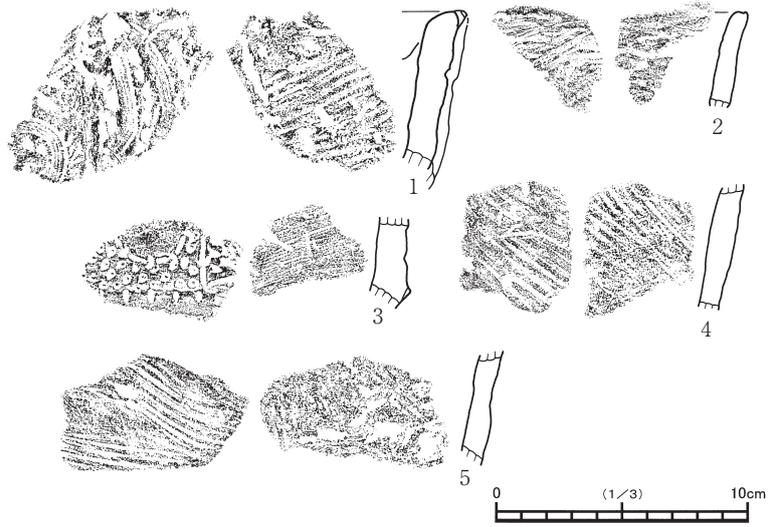
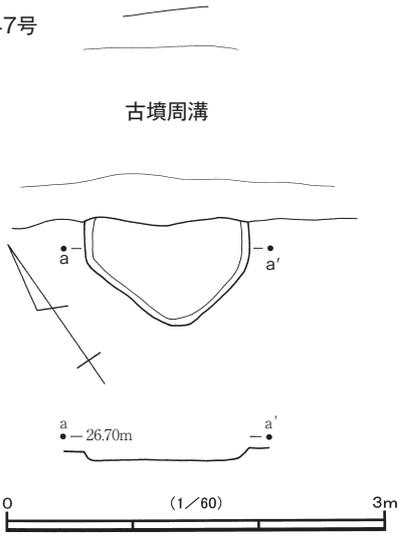


第408図 246号遺構実測図・遺物出土状況図および出土遺物実測図(1)

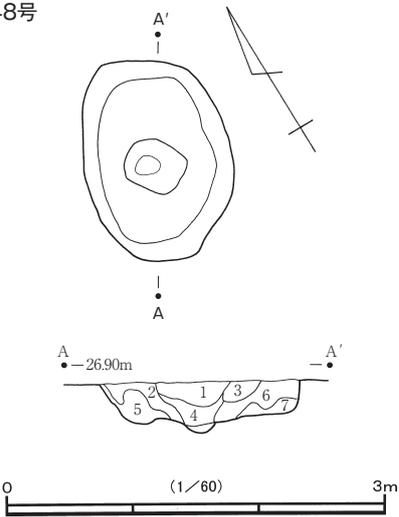


第409图 246号遺構出土遺物実測図(2)

247号



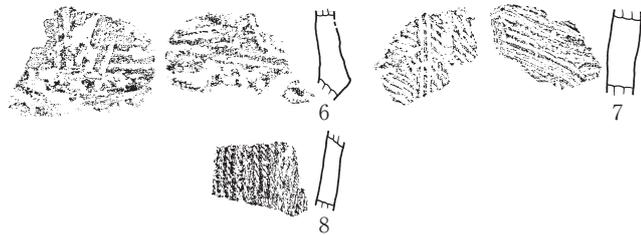
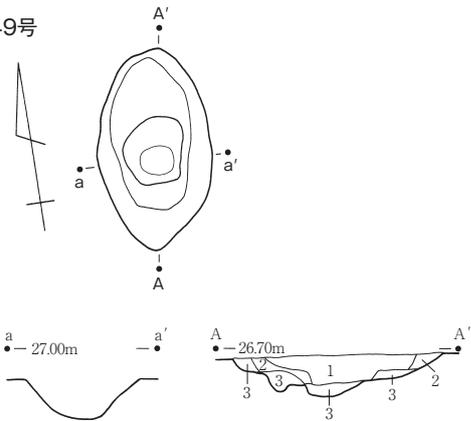
248号



セクション位置：A-A'

No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	黒色	褐色土ブロック			
2	暗褐色				
3		黒色土ブロック・暗褐色土ブロック			
4	黒褐色				
5	暗黄褐色				
6	暗褐色				
7	暗黄褐色				

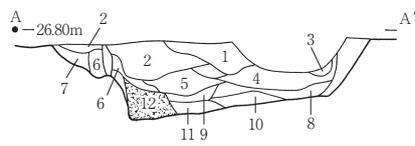
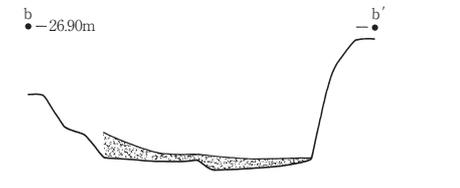
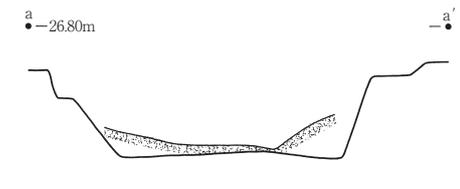
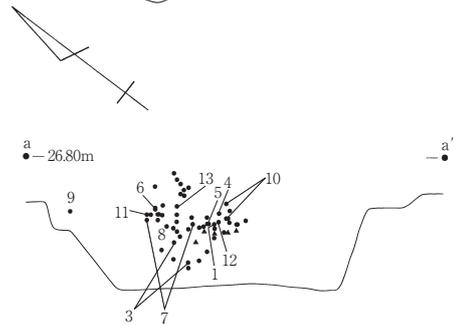
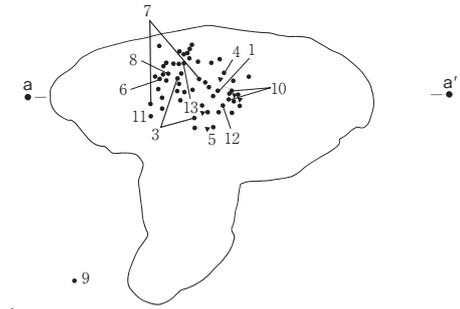
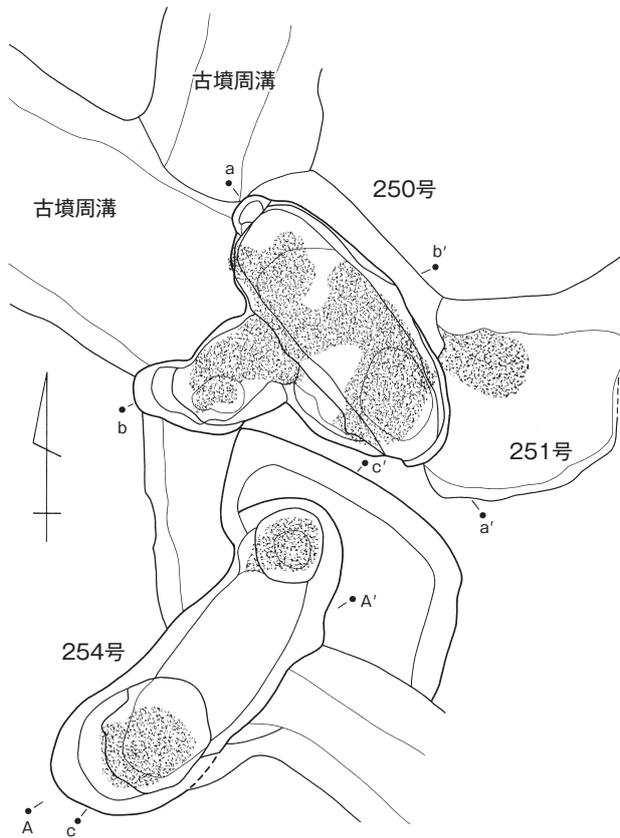
249号



セクション位置：A-A'

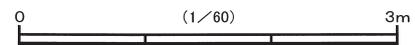
No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	汚い黒褐色				
2	黒褐色	ローム粒			
3	黄褐色				

第410図 247・248・249号遺構実測図および出土遺物実測図

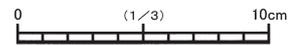
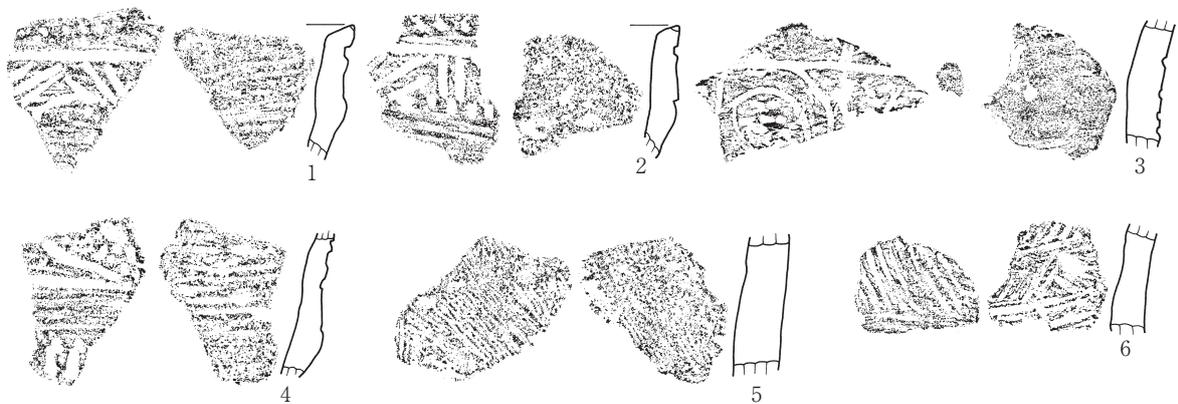


セクション位置：A-A'

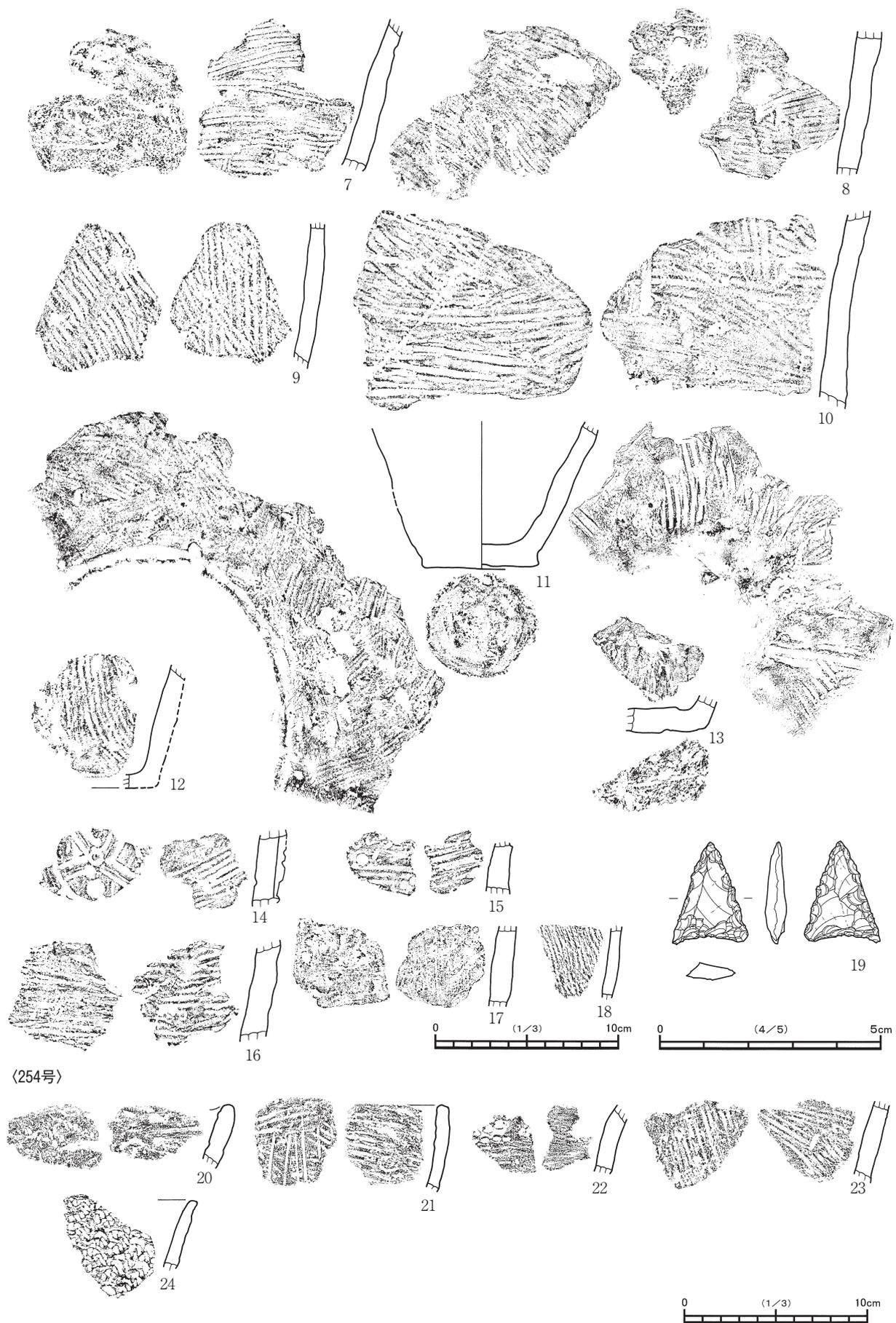
No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	黒色				
2	黒褐色	多量の褐色土ブロック			
3		ロームブロック			
4	暗茶褐色	ローム粒			
5	黒褐色	ローム粒・焼土			
6		ローム			
7	暗茶褐色				
8	暗茶褐色	ローム粒・ロームブロック			
9	黒褐色	焼土			
10	茶褐色	多量の焼土			
11	黒褐色	若干の焼土粒			
12					焼土



(250号)

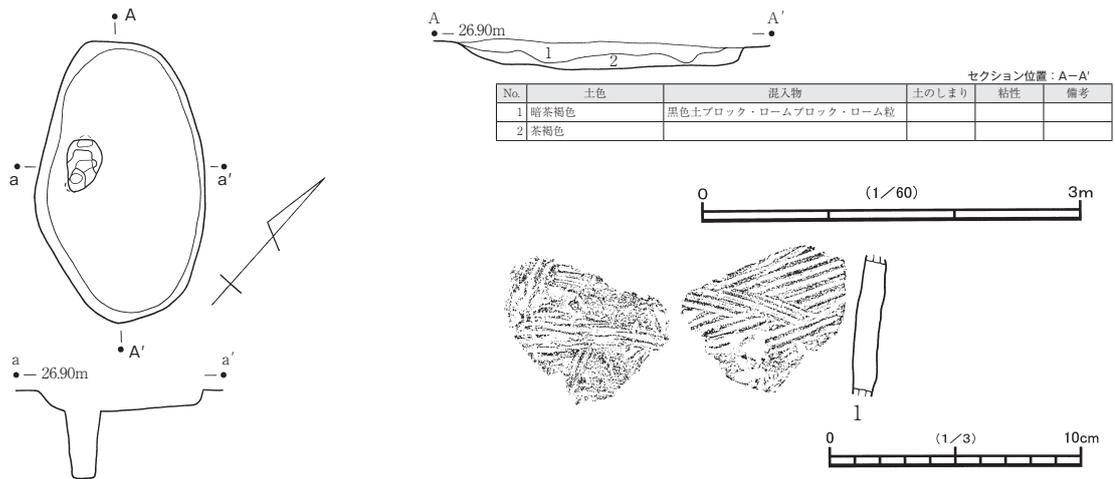


第411図 250・254号遺構実測図・遺物出土状況図および250号遺構出土遺物実測図(1)

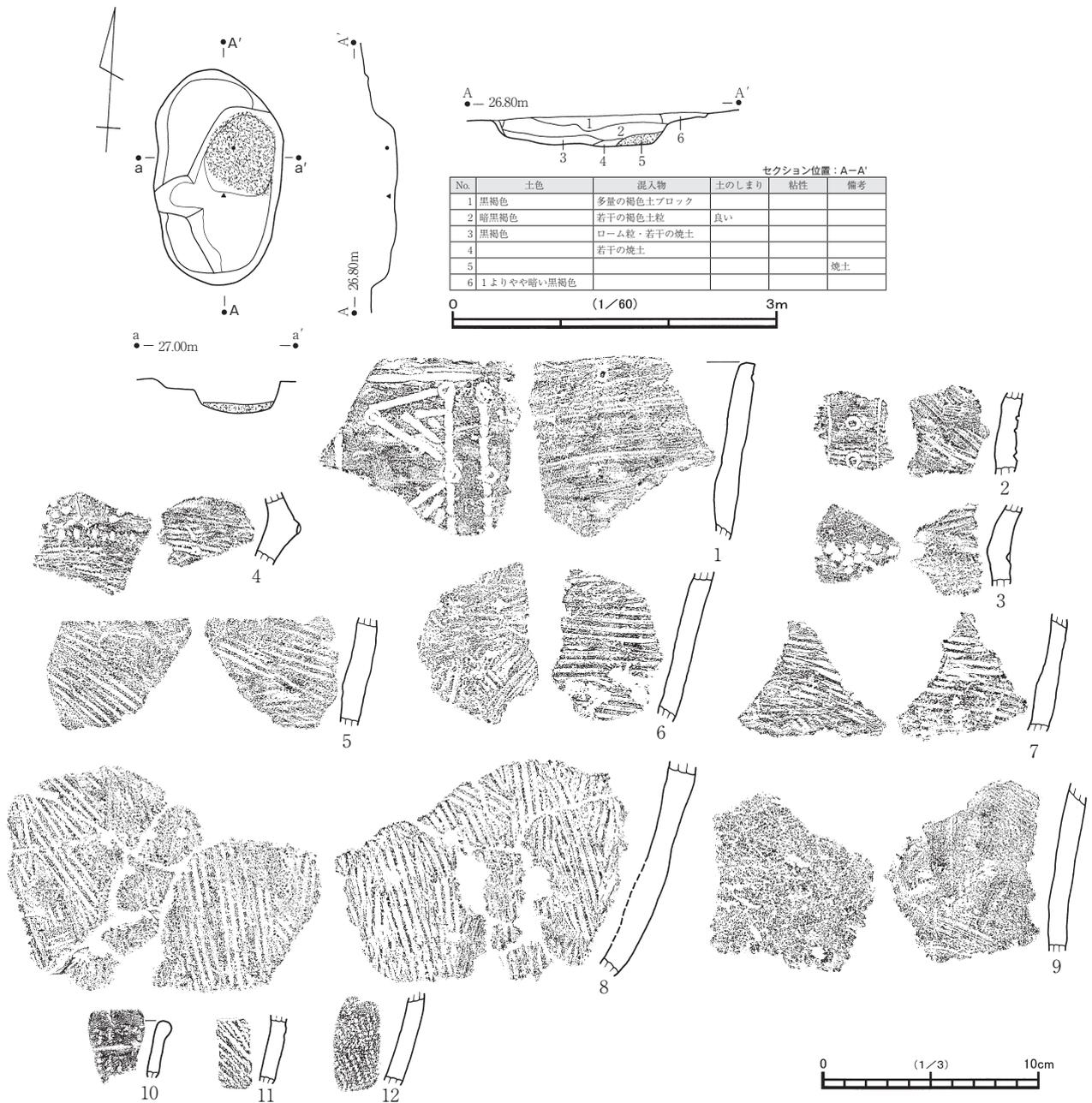


<254号>

第412图 250号遺構出土遺物実測図(2)・254号遺構出土遺物実測図

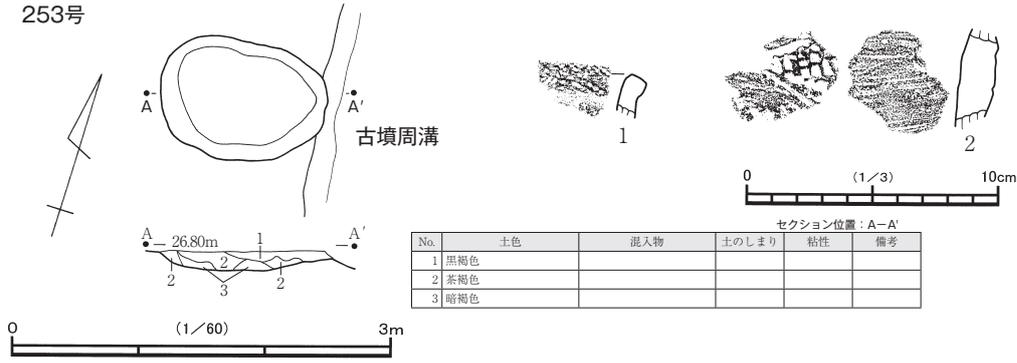


第413図 252号遺構実測図および出土遺物実測図

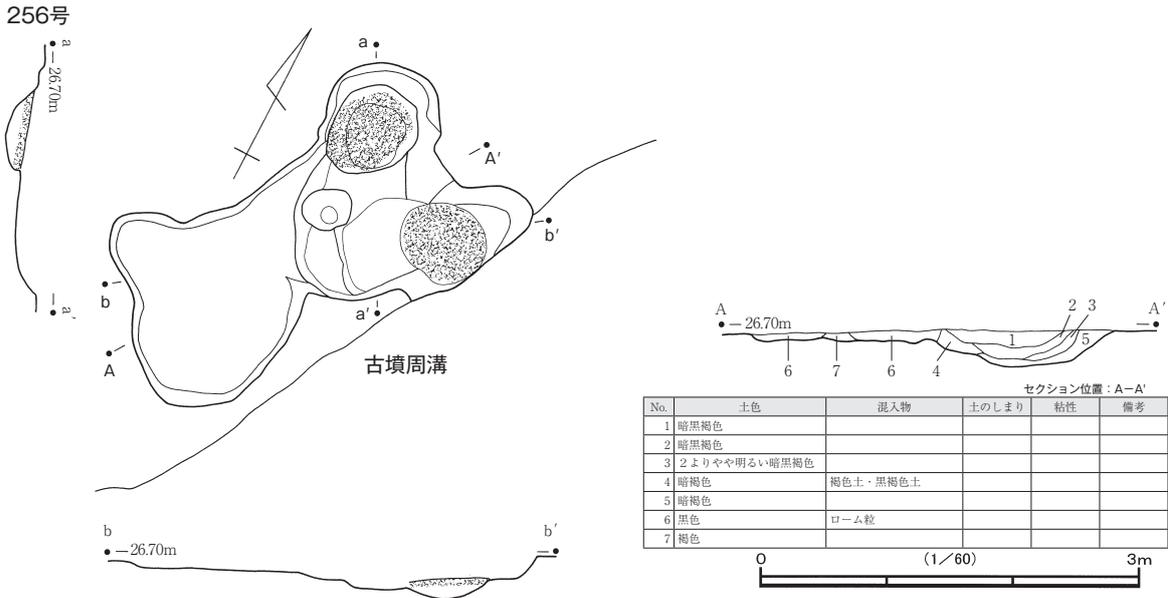


第414図 255号遺構実測図および出土遺物実測図

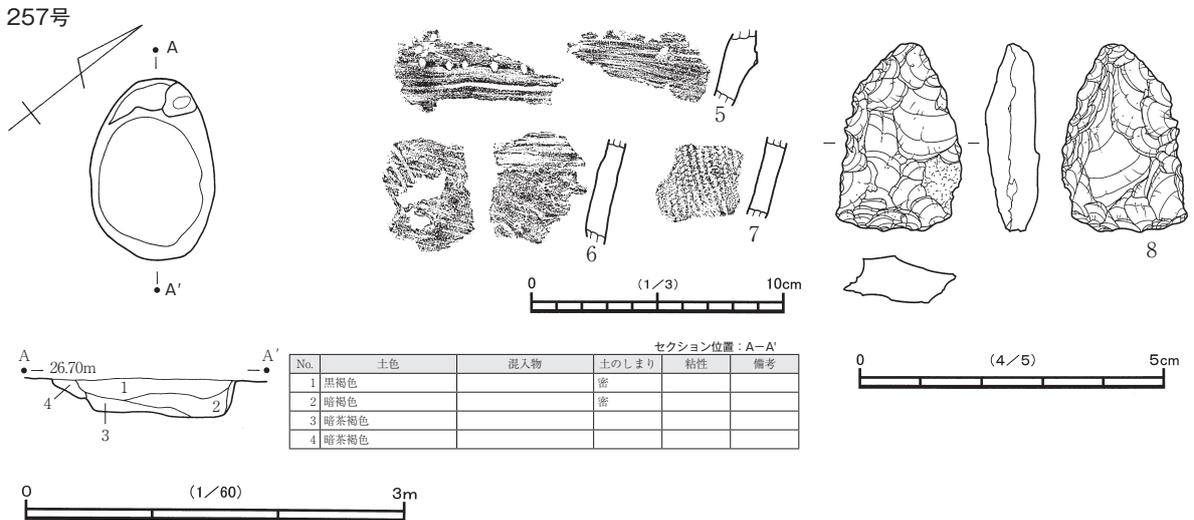
253号



256号



257号



第415図 253・256・257号遺構実測図および出土遺物実測図

259号遺構

【検出位置】 セ28区H9-02・03・06

【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸4.20m・短軸2.86m・深さ48cm。燃焼面は不明（第416図）。

【覆土】 暗黒褐色土・褐色土などを主体とする。一部に貝層がみられる。貝層は遺構覆土の南端部に、長軸85・短軸36・厚さ13cmほどの規模で形成されていた。

【重複関係】 北東側で260・261号遺構と重複する。

【出土遺物】 2点・432gの被熱のあとがみられる礫が出土している。土器は、19点・465g出土している。取り上げ方法は、一括扱いのもののみである。そのすべてが条痕文系であることから、当該時期を259号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、一括扱いのものを第417図4～7に示した。4～7は条痕文系深鉢形土器の口縁部および胴部破片である。

260号遺構

【検出位置】 セ28区H9-03

【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸1.89m・短軸1.85m・深さ47cm。燃焼面6箇所。形状はアメーバ状（第416図）。

【覆土】 黒色土・暗褐色土などを主体とする。

【重複関係】 北側で261号遺構と重複する。ロームブロック・ローム粒などを含む。

【出土遺物】 土器は、18点・515g出土している。取り上げ方法は、平面・垂直位置を記録した点あげ、一括扱いの両方がある。うちわけは、撚糸文系・条痕文系などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系で全体のおよそ96%あり、当該時期を260号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、点あげしたものを第417図8に、一括扱いのものを第417図9～12に示した。8～10は条痕文系深鉢形土器の口縁部および胴部破片、11は底部破片である。12は撚糸文系深鉢形土器の胴部破片である。

261号遺構

【検出位置】 セ28区G9-15、H9-03

【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸5.17m・短軸3.84m・深さ106cm。燃焼面2箇所。形状はアメーバ状（第416図）。

【覆土】 黒褐色土などを主体とする。ロームブロック・ローム粒などを含む。

【重複関係】 南側で260号と、北側で258号遺構と重複する。

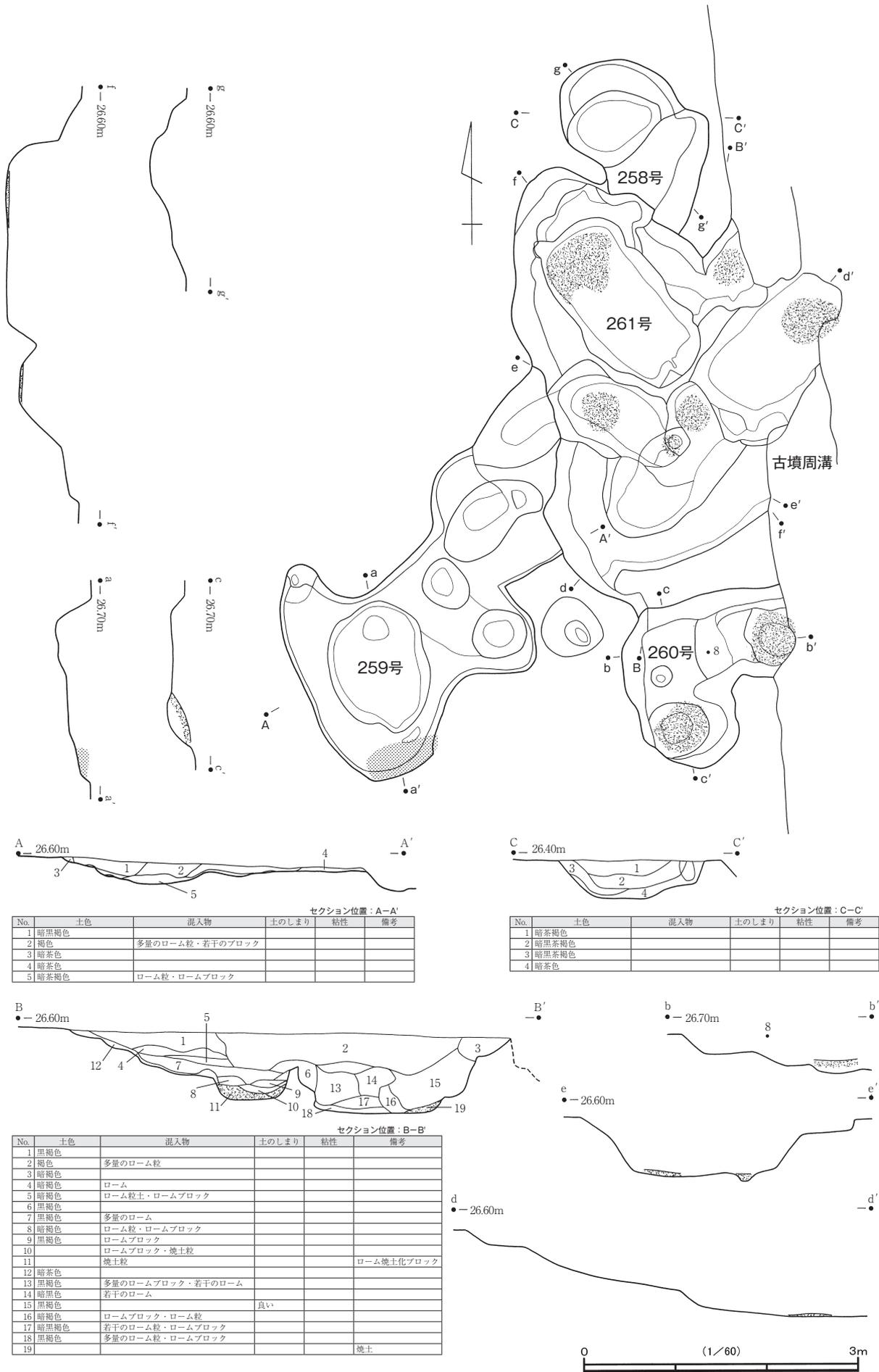
【出土遺物】 66点・3,985gの礫および礫石器が出土している。このうち76.6%に被熱のあとがみられる。石器は、磨石1、磨石・敲石1点が出土している。

【遺物説明】 出土石器を第417図13・14に示した。13は輝石安山岩製の磨石である。14は最大長100mmを測る砂岩製の磨石・敲石である。

262号遺構

【検出位置】 セ28区G9-16、G10-13、H9-04、H10-01

【種別】 炉穴



セクション位置：A-A'

No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	暗黒褐色				
2	褐色	多量のローム粒・若干のブロック			
3	暗茶色				
4	暗茶色				
5	暗茶褐色	ローム粒・ロームブロック			

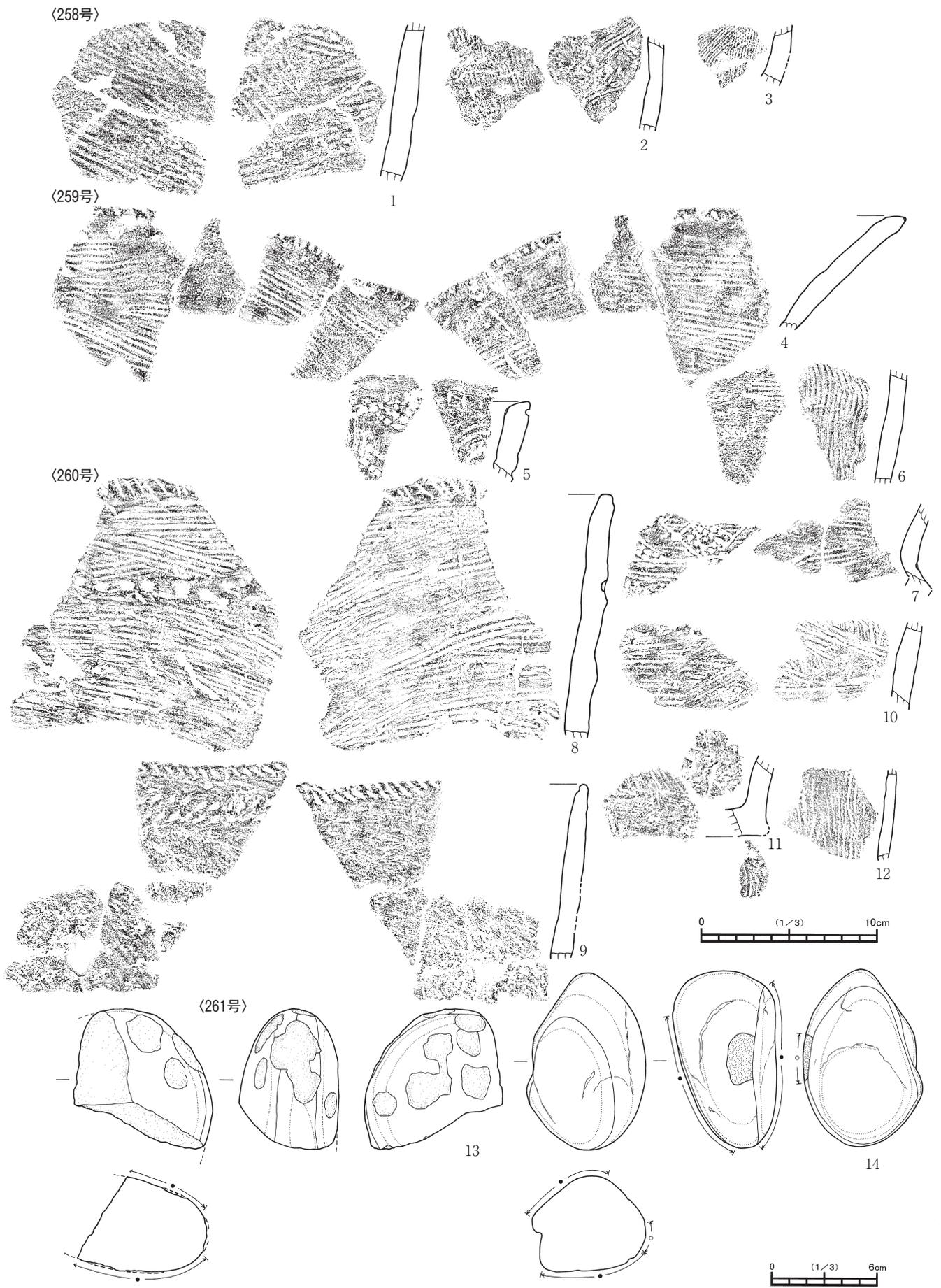
セクション位置：C-C'

No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	暗茶褐色				
2	暗黒茶褐色				
3	暗黒茶褐色				
4	暗茶色				

セクション位置：B-B'

No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	黒褐色				
2	褐色	多量のローム粒			
3	暗褐色				
4	暗褐色	ローム			
5	暗褐色	ローム粒土・ロームブロック			
6	黒褐色				
7	黒褐色	多量のローム			
8	暗褐色	ローム粒・ロームブロック			
9	黒褐色	ロームブロック			
10		ロームブロック・焼土粒			
11		焼土粒			ローム焼土化ブロック
12	暗茶色				
13	黒褐色	多量のロームブロック・若干のローム			
14	暗褐色	若干のローム			
15	黒褐色		良い		
16	暗褐色	ロームブロック・ローム粒			
17	暗黒褐色	若干のローム粒・ロームブロック			
18	黒褐色	多量のローム粒・ロームブロック			
19					焼土

第416図 258・259・260・261号遺構実測図



第417图 258・259・260・261号遺構出土遺物実測図

【規模ほか】 長軸2.30m・短軸2.18m・深さ48cm。燃焼面2箇所。形状は楕円形。2基が北向きに並立する（第418図）。

【重複関係】 南側で264号遺構と重複する。

【出土遺物】 10点・1,306gの礫および礫石器が出土している。このうち35.6%に被熱のあとがみられる。石器は、磨石・敲石1点が出土している。土器は214点・3,778g出土している。取り上げ方法は、平面・垂直位置を記録した点あげ、一括扱いの両方がある。遺物は遺構の覆土上層から出土している。土器のうちわけは、撚糸文系・条痕文系・羽状縄文系などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系のもので全体のおよそ98%あり、当該時期を262号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、点あげしたものを第419図1・2に、覆土一括扱いのものを第419図3～14に示した。2は現存器高94mm・底径84mmを測る条痕文系深鉢形土器の底部である。外面斜方向、内面斜・横方向に条痕を施す。平底でやや上げ底となる。1・3～12は条痕文系深鉢形土器の口縁部および胴部破片である。13は撚糸文系深鉢形土器の胴部破片である。14は羽状縄文系深鉢形土器の胴部破片である。出土石器を第419図15に示した。最大長130mmを測る輝石安山岩製の磨石・敲石である。

263号遺構

【検出位置】 セ28区H9-04

【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸2.53m・短軸1.68m・深さ14cm。燃焼面2箇所。形状はアメーバ状。中央部がカクランにより欠失する（第418図）。

【重複関係】 264号遺構の内部に位置する。

【出土遺物】 64点・2,931gの礫および礫石器が出土している。このうち84%に被熱のあとがみられる。石器は、3点が出土している。うちわけは、敲石1点・石鏃1点・楔状石器1点、このほか黒曜石などの剥片2点がある。土器は、270点・4,700g出土している。取り上げ方法は、平面・垂直位置を記録した点あげ、一括扱いの両方がある。遺物は焼成面付近、遺構基底面から10～20cmほど浮いた位置から出土している。土器のうちわけは、撚糸文系・条痕文系・羽状縄文系・加曾利B式などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系のもので全体の94.1%あり、当該時期を263号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、点あげしたものを第420図1～5に、一括扱いのものを第420図6・7、第421図8～28に示した。1～3、6～26は条痕文系深鉢形土器の口縁部および胴部破片である。1は環状把手をもつ口縁部で、この部分から縦位三条の幅広の押し引き沈線が垂下する。これと直行し同様の沈線が一条めぐる。口唇部の一部に刻みが施される。13は外面に縄文、内面口唇部に絡条体の圧痕、その下部に条痕が施される深鉢形土器の口縁部破片である。4は現存器高72mm・底径54mmを測る深鉢形土器の底部である。内面には縦・斜方向の条痕が顕著に施される。27は現存器高30mm・推定底径77mmを測る深鉢形土器の底部である。28は羽状縄文系深鉢形土器の胴部破片である。5は加曾利B式とみられる深鉢形粗製土器の口縁部破片である。出土石器を第421図29～31に示した。29は最大長104mmを測る輝石安山岩製の敲石である。表裏面中央部と両側縁部に敲打痕がみられる。30は最大長19.9mmを測る頁岩製の石鏃である。31は最大長24.2mmを測るチャート製の楔状石器である。

264号遺構

【検出位置】 セ28区H9-04・08、H10-01・05

【種別】 竪穴状遺構

【規模ほか】 長軸6.18m・短軸6.05m・深さ24cm。南側に壁面を残すが、北側は消滅する。本遺構内部や縁辺部に炉穴が位置することから、あるいはこれらの遺構に伴う竪穴かもしれない（第418図）。

【覆土】 暗褐色土などを主体とする。

【重複関係】 西側が古墳周溝と重複するため欠失する。北側で262号遺構と、南側で265号遺構と重複する。また、中央部がカクランにより一部欠失する。

【出土遺物】 50点・2,441gの礫および礫石器が出土している。このうち84.6%に被熱のあとがみられる。石器は、2点が出土している。うちわけは、RF1点・磨石1点、このほか珪質頁岩の剥片1点がある。土器は、75点・1,285g出土している。取り上げ方法は、平面・垂直位置を記録した点あげ、一括扱いの両方がある。土器のうちわけは、条痕文系・羽状縄文系などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系のもので全体のおよそ97%あり、当該時期を264号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、点あげしたものを第422図1～3に、一括扱いのものを第422図4～17に示した。1～15は条痕文系深鉢形土器の口縁部および胴部破片である。1・2は口縁部直下に二列の連続刺突文を施す波状口縁の深鉢形土器である。15は現存器高137mm・胴部最大径170mmを測る。16は羽状縄文系深鉢形土器の胴部破片である。出土石器を第422図18・19に示した。18は最大長33.0mmを測る黒曜石製のRFである。19は最大長100mmを測る流紋岩質凝灰岩製の磨石である。

265号遺構

【検出位置】 セ28区H9-04・08、H10-01・05

【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸3.88m・短軸1.77m・深さ53cm。燃焼面3箇所。形状はアレーバ状（第418図）。

【覆土】 暗黒褐色土・黒褐色土などを主体とする。ローム粒・焼土粒を含む。

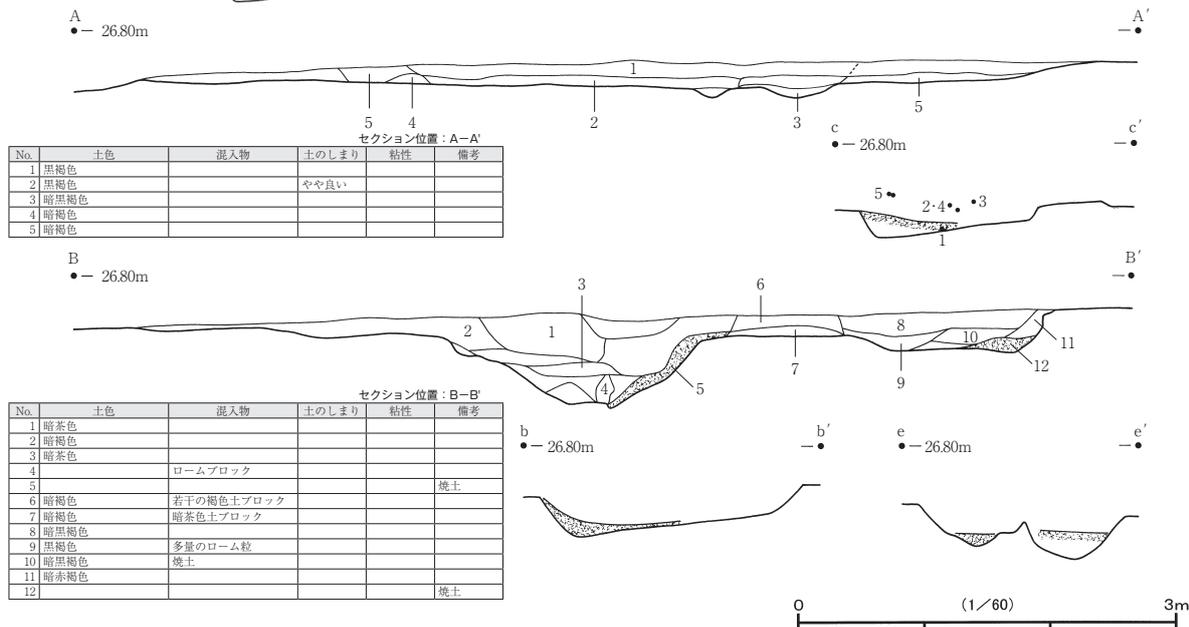
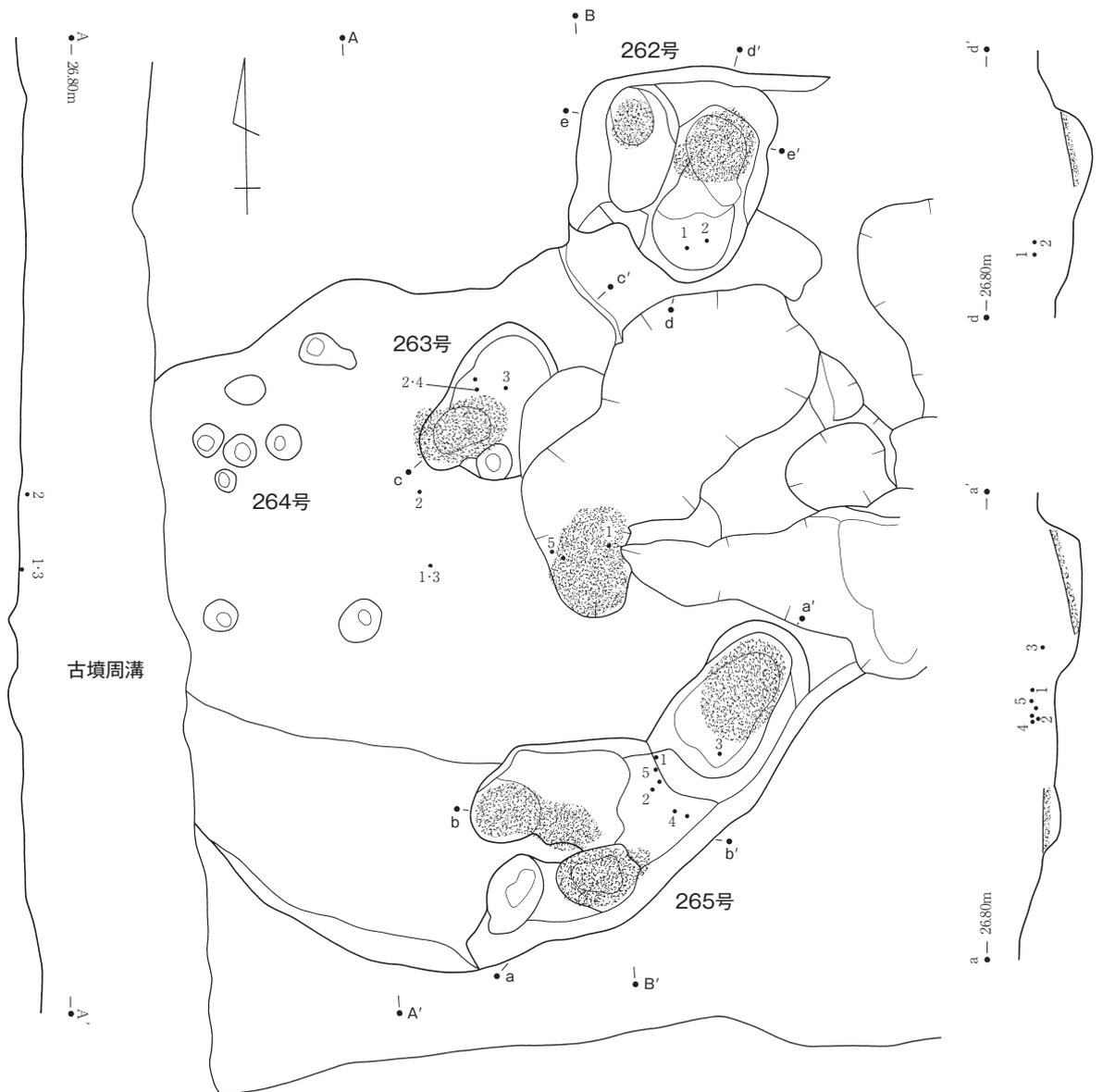
【出土遺物】 147点5,830gの礫および礫石器が出土している。このうち83.8%に被熱のあとがみられる。石器は、5点が出土している。うちわけは、敲石3点・石鏃1点・石核1点、このほか黒曜石・チャートなどの剥片5点がある。土器は、150点・2,737g出土している。取り上げ方法は、平面・垂直位置を記録した点あげ、一括扱いの両方がある。遺物は遺構中央部、基底面からやや浮いた状態で出土している。うちわけは、撚糸文系・条痕文系などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系のもので全体のおよそ98%あり、当該時期を265号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、点あげしたものを第423図1～5に、一括扱いのものを第423図6～20に示した。1～18は条痕文系深鉢形土器の口縁部および胴部破片である。19は底部破片で底面にも条痕が施される。20は撚糸文系深鉢形土器の胴部破片である。出土石器のうち主なものを、第423図21～24に示した。21・24は砂岩製の敲石、22は輝石安山岩製の敲石、23は最大長25.5mmを測る頁岩製の石鏃である。

266号遺構

【検出位置】 セ28区H10-01

【種別】 炉穴



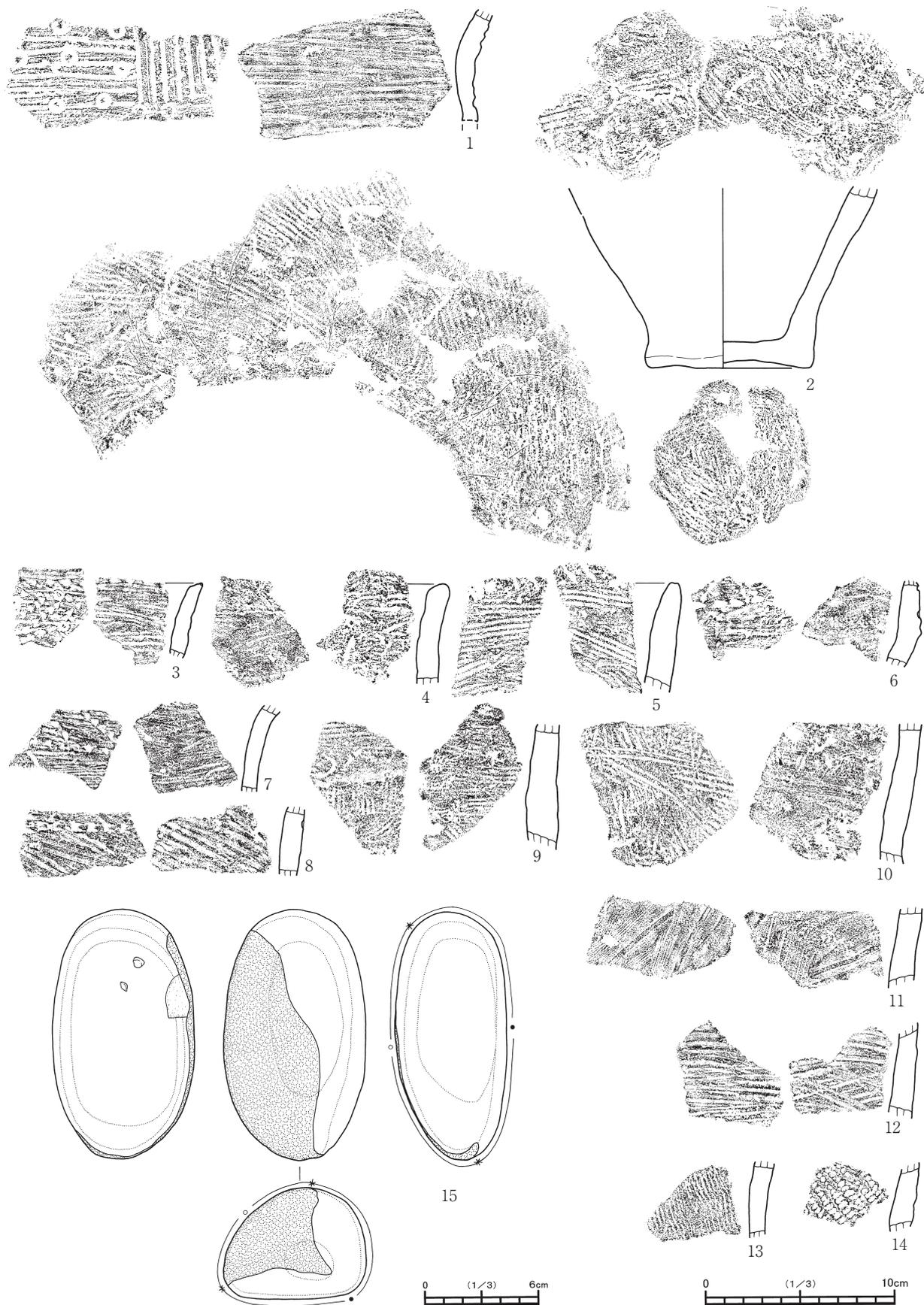
セクション位置：A-A'

No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	黒褐色				
2	黒褐色		やや良い		
3	暗黒褐色				
4	暗褐色				
5	暗褐色				

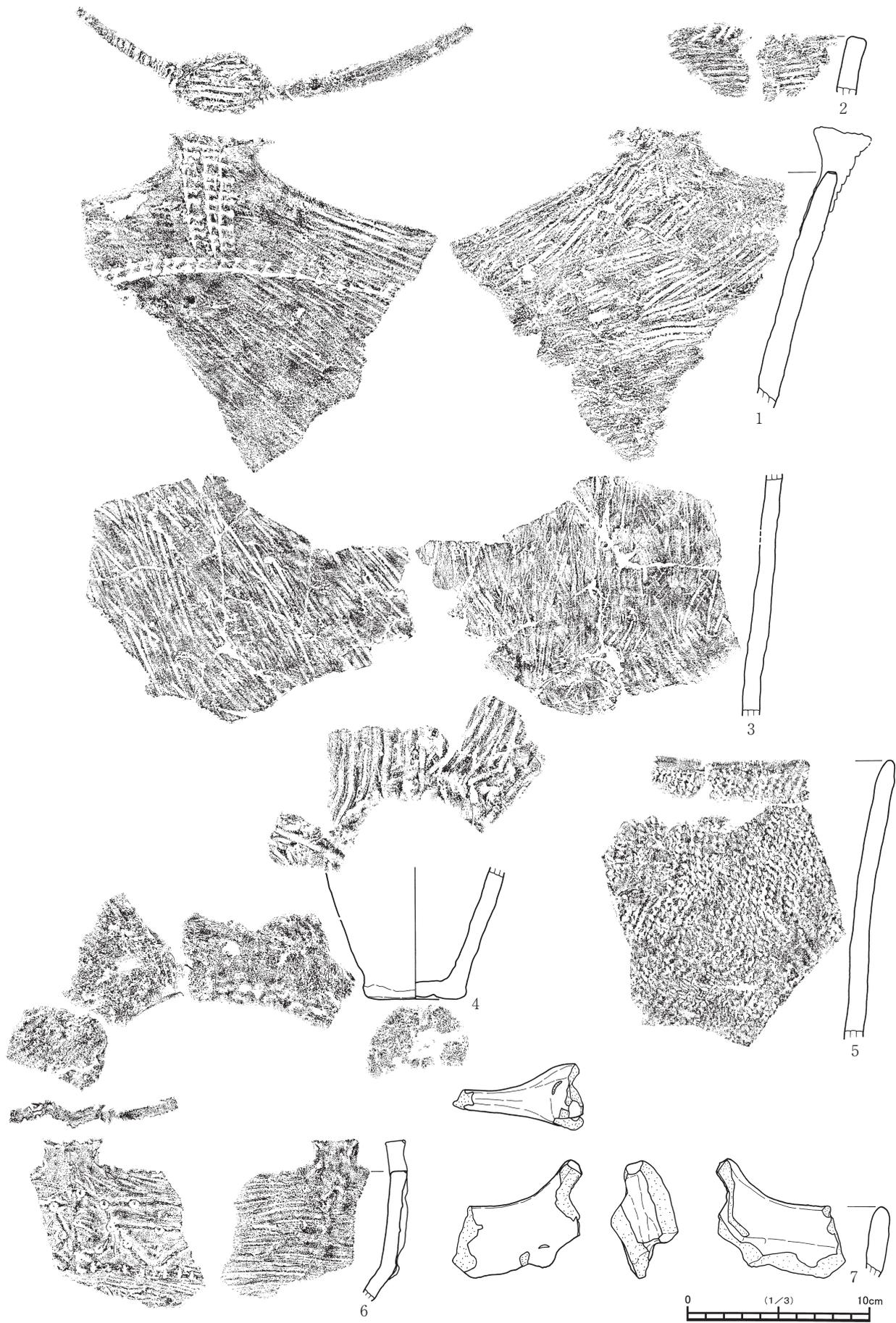
セクション位置：B-B'

No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	暗茶色				
2	暗褐色				
3	暗茶色				
4		ロームブロック			
5					焼土
6	暗褐色	若干の褐色土ブロック			
7	暗褐色	暗茶色土ブロック			
8	暗黒褐色				
9	黒褐色	多量のローム粒			
10	暗黒褐色	焼土			
11	暗赤褐色				
12					焼土

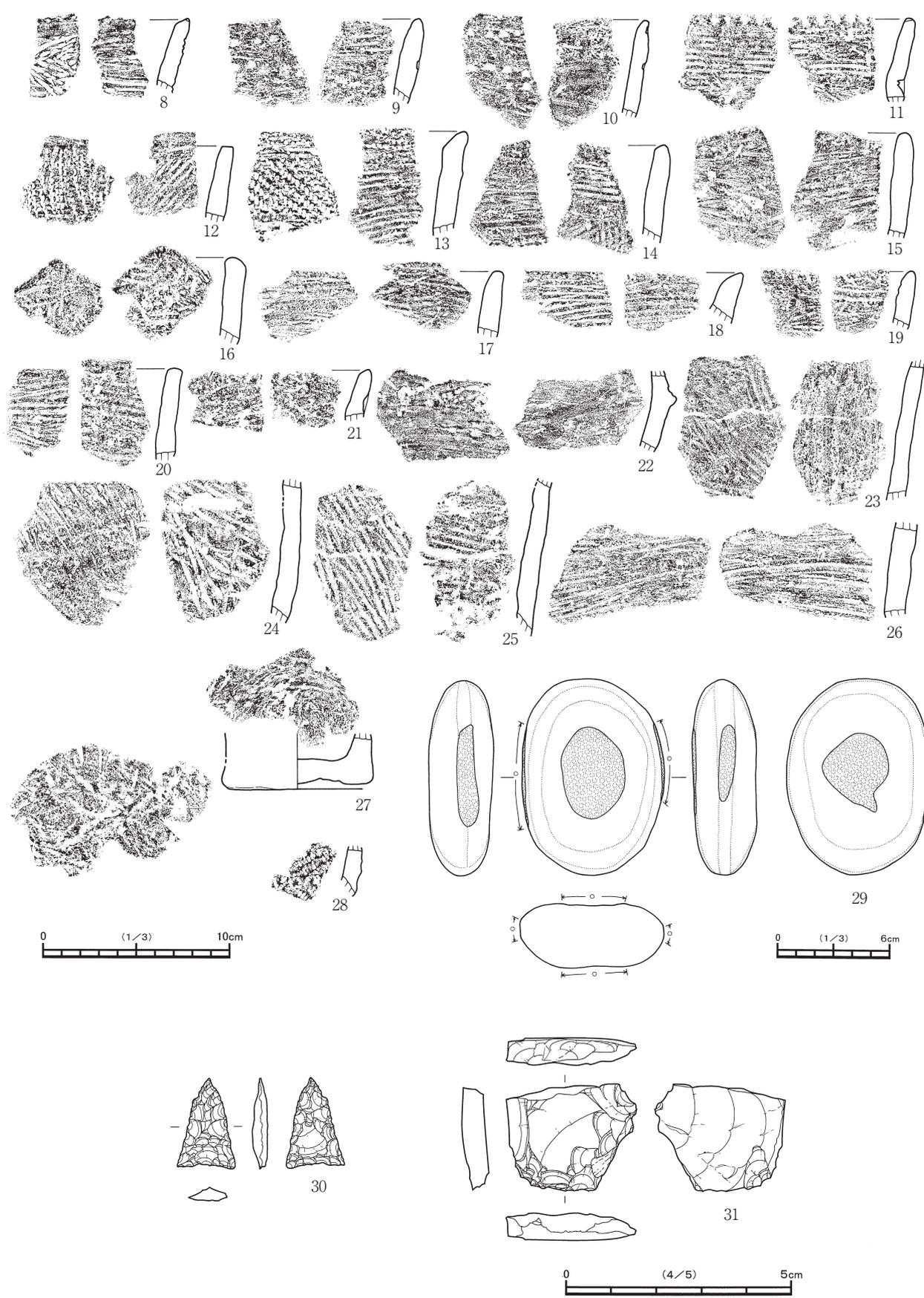
第418図 262・263・264・265号遺構実測図・遺物出土状況図



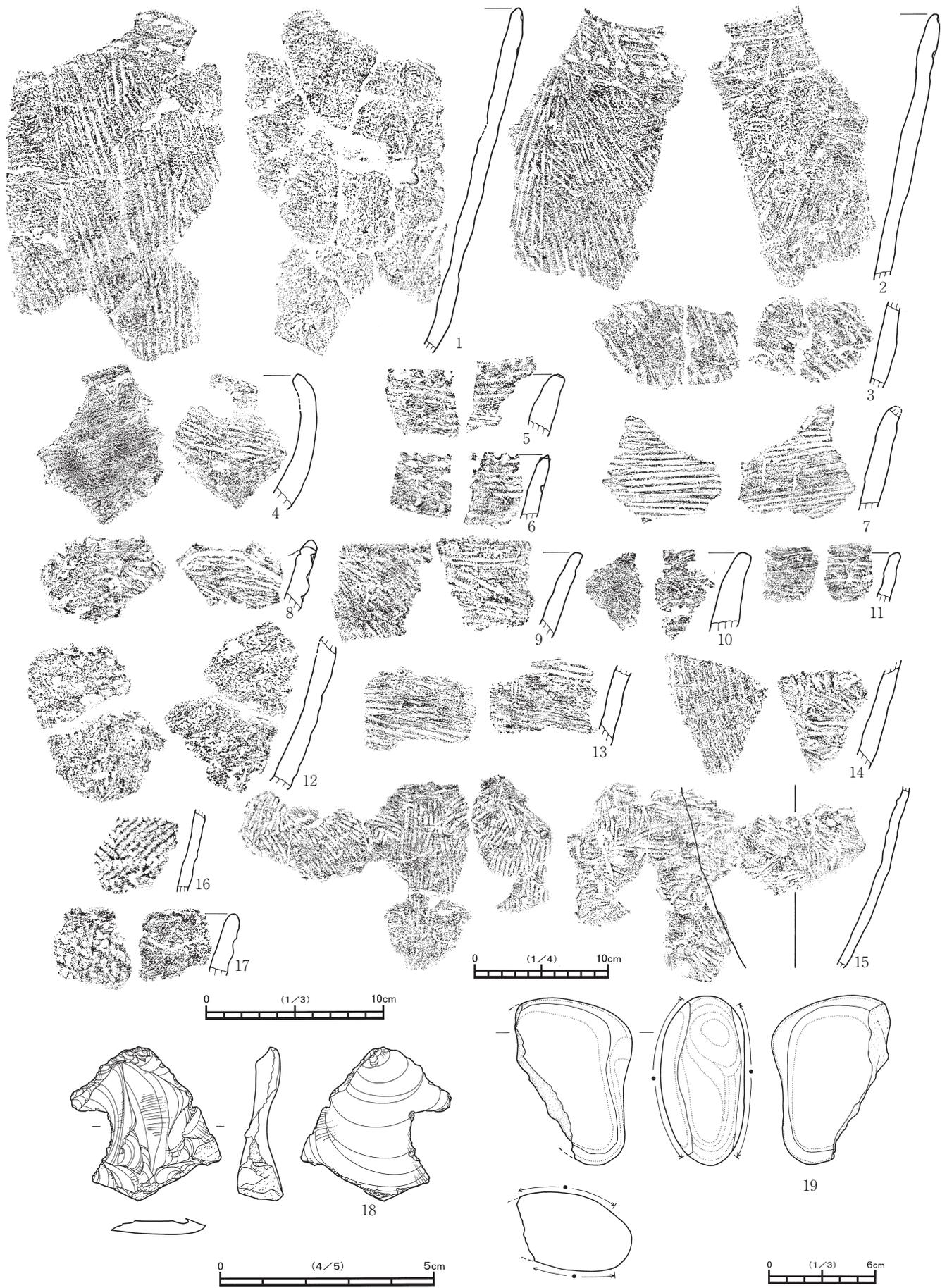
第419图 262号遺構出土遺物実測図



第420图 263号遺構出土遺物実測図(1)



第421图 263号遺構出土遺物実測図(2)



第422图 264号遺構出土遺物実測図



第423图 265号遺構出土遺物実測図

【規模ほか】 長軸3.36m・短軸2.09m・深さ78cm。燃焼面3箇所。形状はアメーバ状（第424図）。

【覆土】 暗黒褐色土・暗褐色土などを主体とする。

【出土遺物】 12点・892gの礫および礫石器が出土している。このうち99.7%に被熱のあとがみられる。石器は、楔形石器1点が出土している。土器は、26点・519g出土している。取り上げ方法は、平面・垂直位置を記録した点あげ、一括扱いの両方がある。うちわけは、撚糸文系・条痕文系などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系のもので全体のおよそ95%あり、当該時期を266号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、点あげしたものを第424図1に、一括扱いのものを第424図2～10に示した。1は現存器高44mm・推定底径76mmを測る条痕文系深鉢形土器の底部である。2～9は条痕文系深鉢形土器の口縁部および胴部破片である。10は撚糸文系深鉢形土器の口縁部破片である。出土石器を第424図11に示した。最大長30.0mmを測る珪質頁岩製の楔形石器である。

267号遺構

【検出位置】 セ28区H10-01

【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸1.00m・短軸0.62m・深さ12cm。燃焼面1箇所（第424図）。

出土遺物がないため遺構の詳細時期は不明。

268号遺構

【検出位置】 セ28区H10-01・02

【種別】 土坑

【規模ほか】 長軸2.46m・短軸1.29m・深さ15cm。形状は楕円形（第425図）。

出土遺物がないため遺構の詳細時期は不明。

269号遺構

【検出位置】 セ28区H9-12

【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸2.37m・短軸2.01m・深さ88cm。燃焼面3箇所。形状は楕円形（第425図）。

【覆土】 暗黒褐色土などを主体とする。一部に貝層がみられる。貝層は遺構覆土の東部に大1箇所、南部に小1箇所、長軸186・短軸88・厚さ46cmほどの規模で形成されていた。

【重複関係】 北側・西側で古墳周溝と重複する。

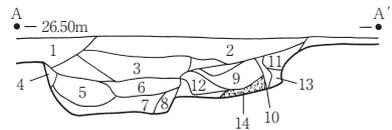
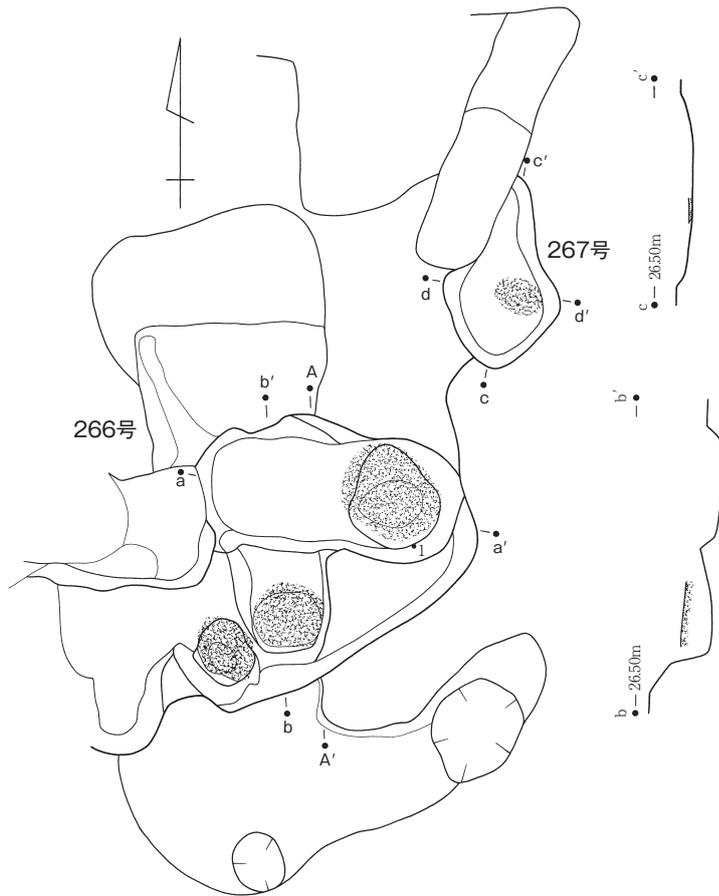
【出土遺物】 土器は、4点・221g出土している。取り上げ方法は、平面・垂直位置を記録した点あげのみである。うちわけは、撚糸文系・条痕文系などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系のもので全体のおよそ91%あり、当該時期を269号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、主なものを第425図1～3に示した。1は条痕文系深鉢形土器の口縁部破片である。2は現存器高67mm・推定底径80mmを測る底部でやや上げ底である。3は撚糸文系深鉢形土器の口縁部破片である。

270号遺構

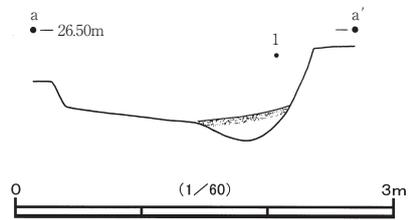
【検出位置】 セ28区I8-03

【種別】 炉穴



セクション位置：A-A'

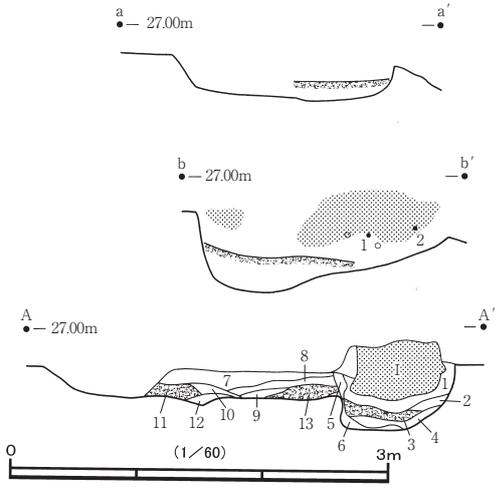
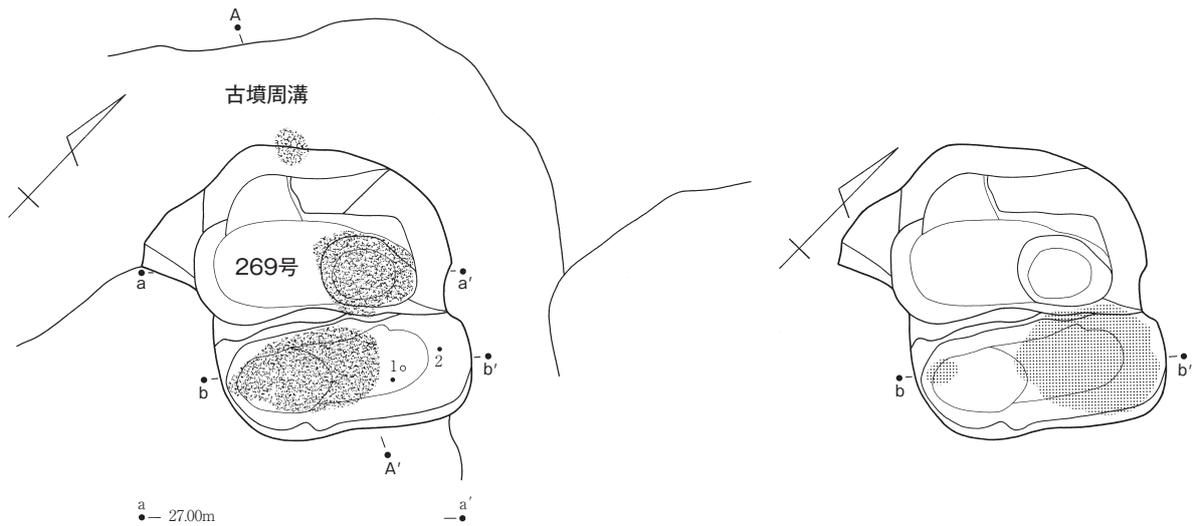
No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	黒褐色	多量の褐色土ブロック			
2	暗黒褐色	若干の暗褐色土ブロック			
3	暗黒褐色				
4	暗褐色				
5	暗黒褐色				
6	暗黒褐色				
7	暗黒褐色	若干の焼土			
8	暗黒褐色	若干のロームブロック			
9	暗褐色				
10	暗褐色	多量のローム粒			
11	暗茶褐色				
12	暗褐色				
13	暗茶褐色				
14					焼土



<266号>



第424図 266・267号遺構実測図および出土遺物実測図

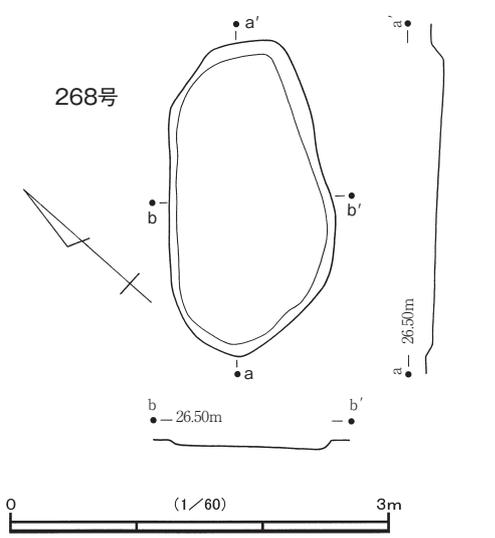
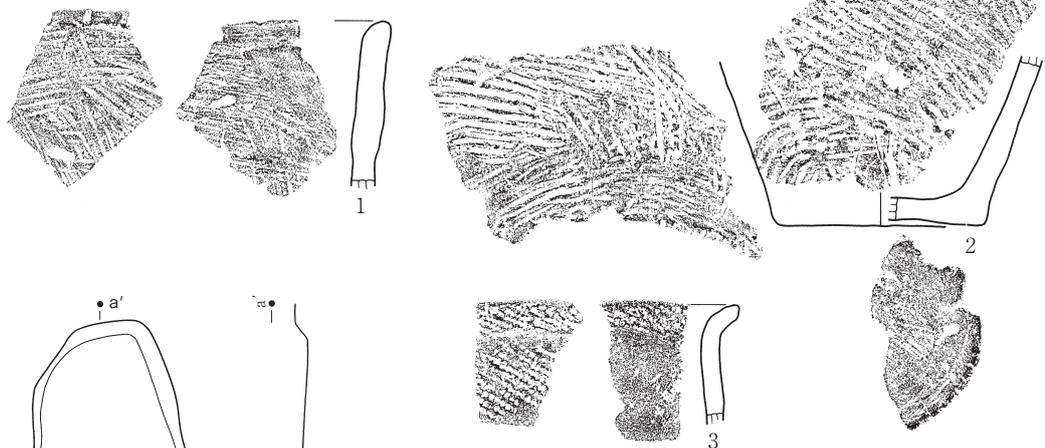


セクション位置：A-A'

No.	種別 (土の混じり具合)	主体貝	その他の貝	備考
I	混土貝層			

セクション位置：A-A'

No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	黒褐色	多量のローム粒・多量の褐色土			
2		ロームブロック・焼土			
3		焼土粒・若干の灰			
4	黒色	焼土粒			
5	暗茶色				
6	暗茶色	ロームブロック			
7	暗黒褐色				
8	暗赤褐色				
9	暗赤褐色				
10	暗黒茶褐色				
11					焼土
12	暗茶色				
13					焼土



第425図 269・268号遺構実測図および出土遺物実測図

【規模ほか】 長軸2.09m・短軸1.36m・深さ39cm。主軸方向 281°。燃焼面1箇所（第426図）。

【覆土】 暗褐色土・暗黒褐色土などを主体とする。ロームブロック・ローム粒・焼土粒などを含む。

【出土遺物】 11点・297gの礫が出土している。このうちすべてに被熱のあとがみられる。土器は、33点・438g出土している。取り上げ方法は、一括扱いのもののみである。うちわけは、撚糸文系・条痕文系などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系のもので全体のおよそ97%あり、当該時期を270号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、主なものを第426図1～4に示した。1・2は条痕文系深鉢形土器の口縁部、3・4は胴部の破片である。

271号遺構

【検出位置】 セ28区I8-07・08

【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸2.48m・短軸1.08m・深さ41cm。主軸方向 324°。燃焼面1箇所（第426図）。

【重複関係】 古墳周溝との重複により遺構中央部および南端部が欠失する。

【出土遺物】 30点・406gの礫および礫石器が出土している。このうちすべてに被熱のあとがみられる。石器は、黒曜石の剥片2点がある。土器は、36点・276g出土している。取り上げ方法は、一括扱いのもののみである。うちわけは、撚糸文系・条痕文系などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系のもので全体のおよそ97%あり、当該時期を271号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、主なものを第426図5に示した。条痕文系深鉢形土器の胴部破片である。

272号遺構

【検出位置】 セ28区I8-05・06

【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸4.43m・短軸2.38m・深さ39cm。燃焼面4箇所。形状はアメーバ状（第426図）。

【覆土】 黒褐色土・暗茶褐色土などを主体とする。ロームブロック・ローム粒・焼土粒などを含む。

【重複関係】 南側で古墳主体部と重複。

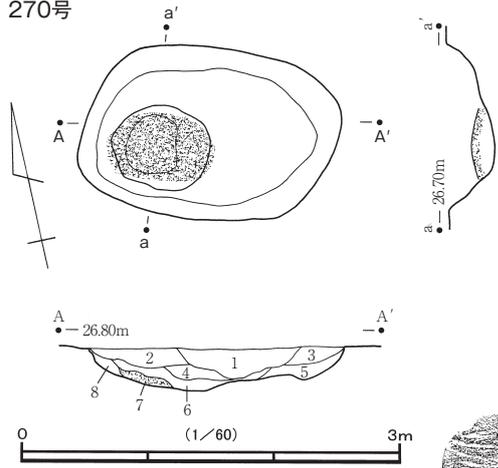
【出土遺物】 48点・2,605gの礫が出土している。このうちすべてに被熱のあとがみられる。土器は、141点・2,005g出土している。取り上げ方法は、平面・垂直位置を記録した点あげ、一括扱いの両方がある。遺物は遺構中央部、覆土中層から下層あたりから出土している。土器のうちわけは、撚糸文系・条痕文系などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系のもので全体のおよそ98%あり、当該時期を272号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、点あげしたものを第427図1～6に、一括扱いのものを第427図7～25に示した。1～18は条痕文系深鉢形土器の口縁部および胴部破片、19は底部破片である。1～3は同一個体で、細い沈線による三角形・菱形区画内を刺突文で充填するもの。文様帯は、上部に浅い刺突を付す二段の横位隆帯で区画される。口唇部前面にキザミがめぐる。20～25は撚糸文系深鉢形土器の口縁部および胴部破片である。

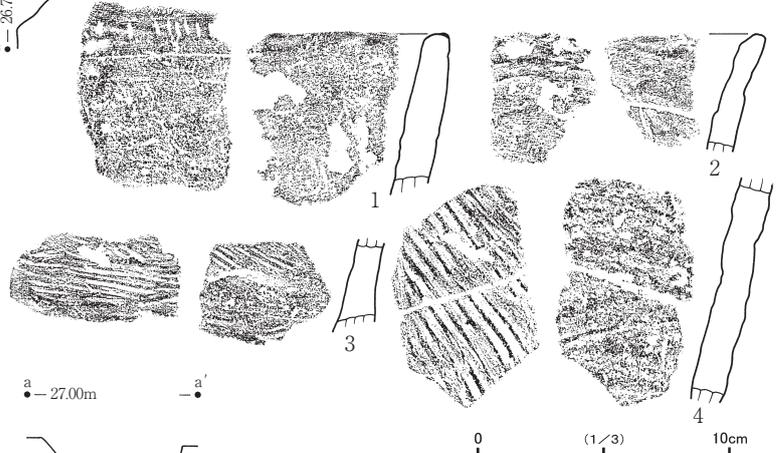
273号遺構

【検出位置】 セ28区I8-05・06

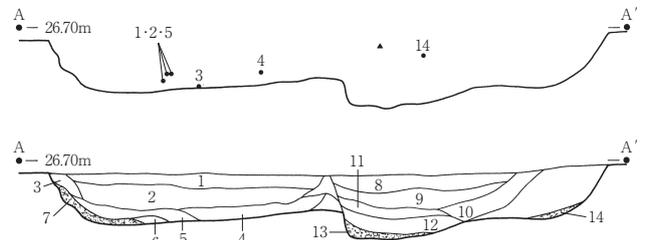
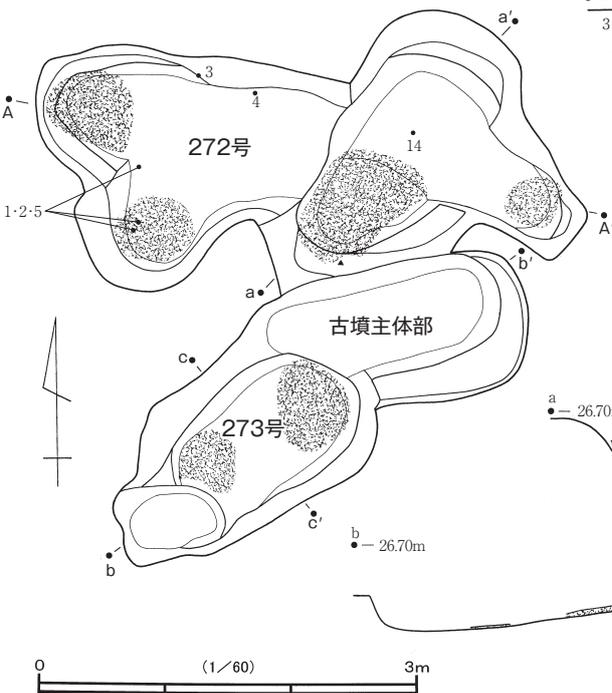
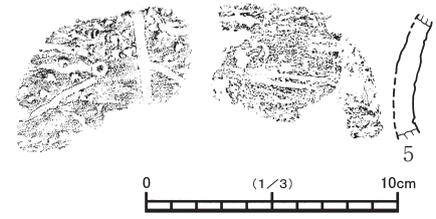
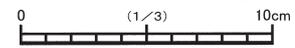
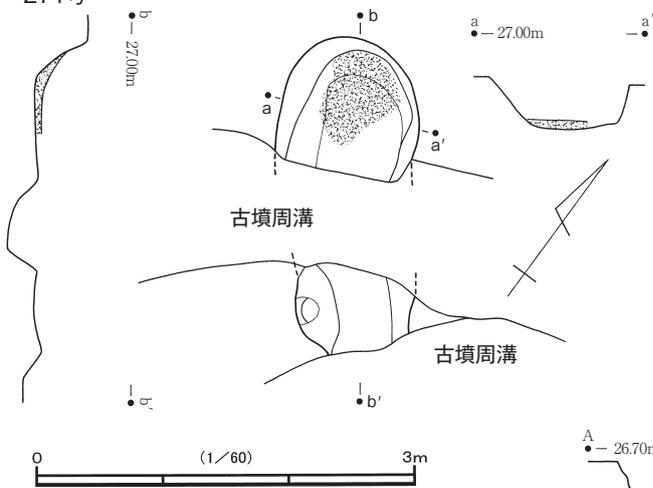
270号



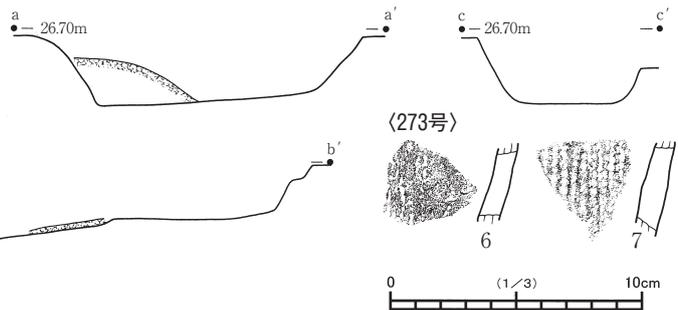
No.	土色	混入物	セクション位置：A-A'		
			土のしまり	粘性	備考
1	暗黒褐色	多量のローム・少量のロームブロック			
2	黒褐色	多量のローム粒・若干の焼土			
3	暗褐色				
4	暗褐色	多量のローム			
5	暗茶褐色	ローム粒			
6	暗褐色	多量のローム粒・焼土			
7		焼土・ローム粒			
8	暗茶褐色	焼いたローム			



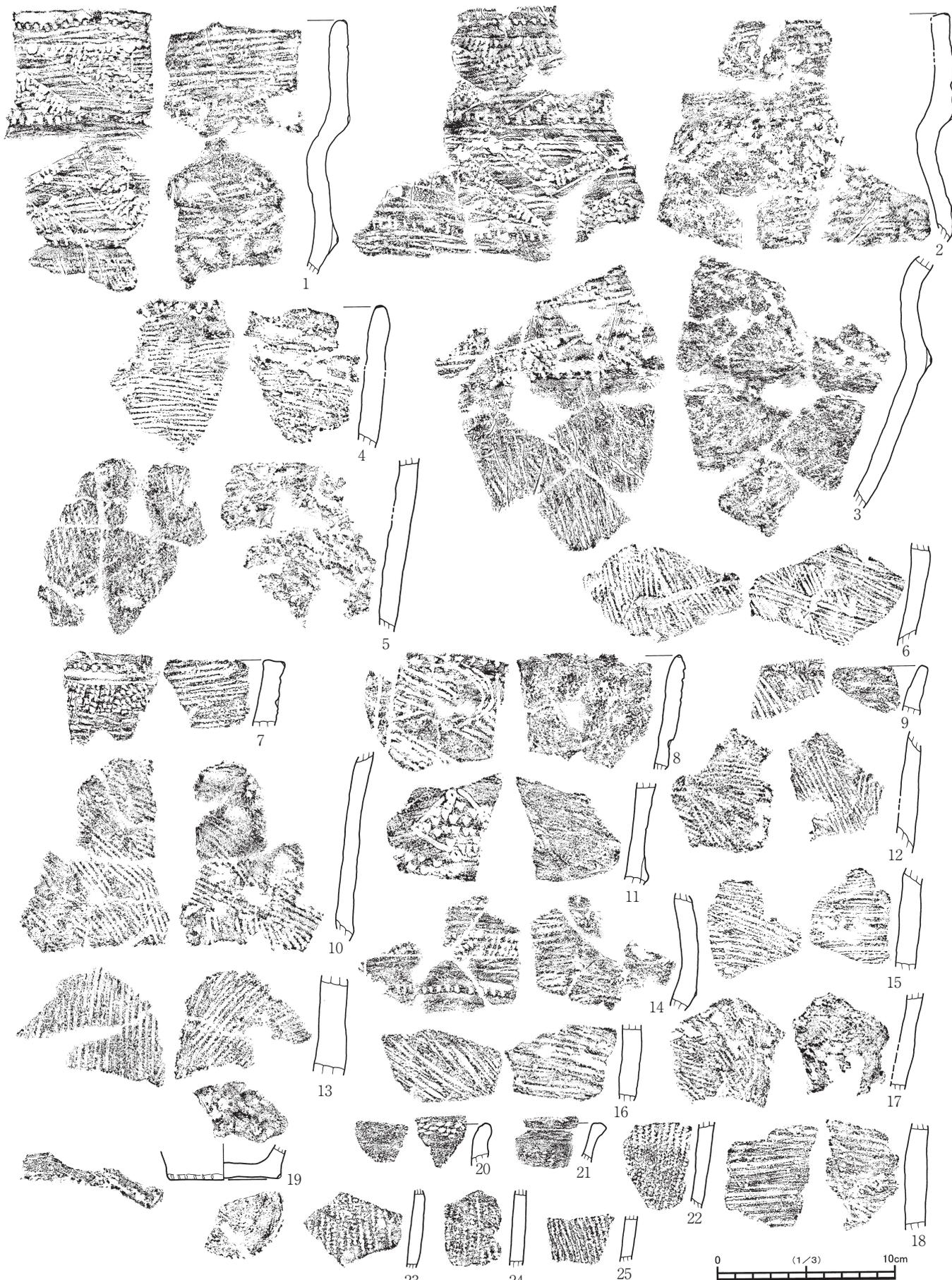
271号



No.	土色	混入物	セクション位置：A-A'		
			土のしまり	粘性	備考
1	黒褐色	若干のローム粒			
2	暗褐色	多量のローム粒			
3	暗茶褐色	ローム粒土			
4	暗茶褐色	ローム粒・ロームブロック・褐色土粒			
5	暗茶褐色	若干の焼土粒			
6	暗茶褐色	多量の焼土粒			
7		焼土粒			
8	黒褐色	若干のローム粒			
9	黒褐色	多量のローム粒			
10	暗茶褐色	多量のローム粒・ロームブロック			
11	暗茶褐色	多量のローム粒・ロームブロック・若干の焼土			
12		焼土粒・ロームブロック			
13					焼土
14					焼土



第426図 270・271・272・273号遺構実測図・遺物出土状況図および出土遺物実測図



第427图 272号遺構出土遺物実測図

【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸2.36m・短軸1.42m・深さ64cm。主軸方向 60°。燃焼面 2箇所（第426図）。

【重複関係】 北側で古墳主体部と重複。

【出土遺物】 1点・32gの被熱した礫が出土している。土器は、13点・159g出土している。取り上げ方法は、一括扱いのもののみである。このうち主体を占めるのは、条痕文系のもので全体のおよそ86%あり、当該時期を273号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器を第426図6・7に示した。撚糸文系深鉢形土器の胴部破片である。条痕文系のものは細片のため、図示できる資料がなかった。

274号遺構

【検出位置】 セ28区I8-06・10

【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸3.04m・短軸1.06m・深さ68cm。主軸方向 174°。燃焼面 1箇所（第428図）。

【覆土】 黒褐色土・暗茶色土などを主体とする。ロームブロック・ローム粒などを含む。一部に貝層がみられる。貝層は遺構覆土の中心部分に、長軸94・短軸52・厚さ16cmほどの規模で形成されていた。

【出土遺物】 12点・639gの礫が出土している。このうちすべてに被熱のあとがみられる。土器は、4点・35g出土している。取り上げ方法は、一括扱いのもののみである。そのすべてが条痕文系であることから、当該時期を274号遺構の帰属時期とみる。ただし、細片ばかりで図示できる資料はなかった。

275号遺構

【検出位置】 セ28区I8-09・13

【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸3.18m・短軸1.81m・深さ49cm。燃焼面 1箇所（第428図）。

【重複関係】 古墳周溝との重複により西側を欠失する。

【出土遺物】 34点・2,501gの礫および礫石器が出土している。このうち77.6%に被熱のあとがみられる。石器は、2点が出土している。うちわけは、磨石1点・敲石1点である。土器は、10点・137g出土している。取り上げ方法は、一括扱いのもののみである。そのすべてが条痕文系のものであることから、当該時期を275号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、主なものを第428図1・2に示した。条痕文系深鉢形土器の口縁部破片である。出土石器を第428図3・4に示した。3は流紋岩質凝灰岩製の磨石、4は砂岩製の敲石である。

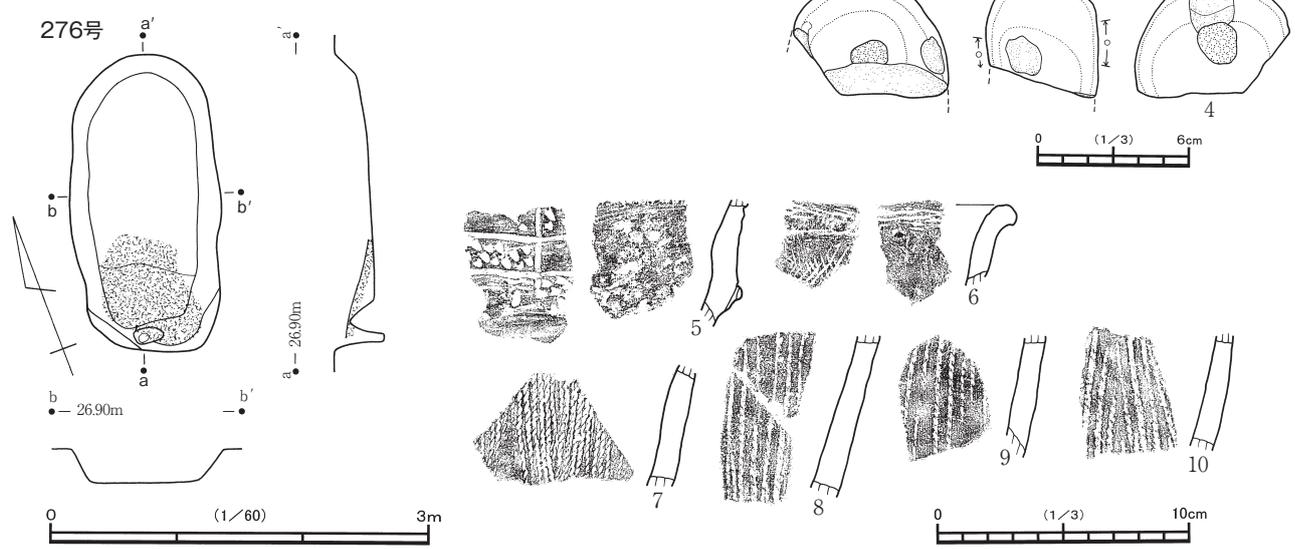
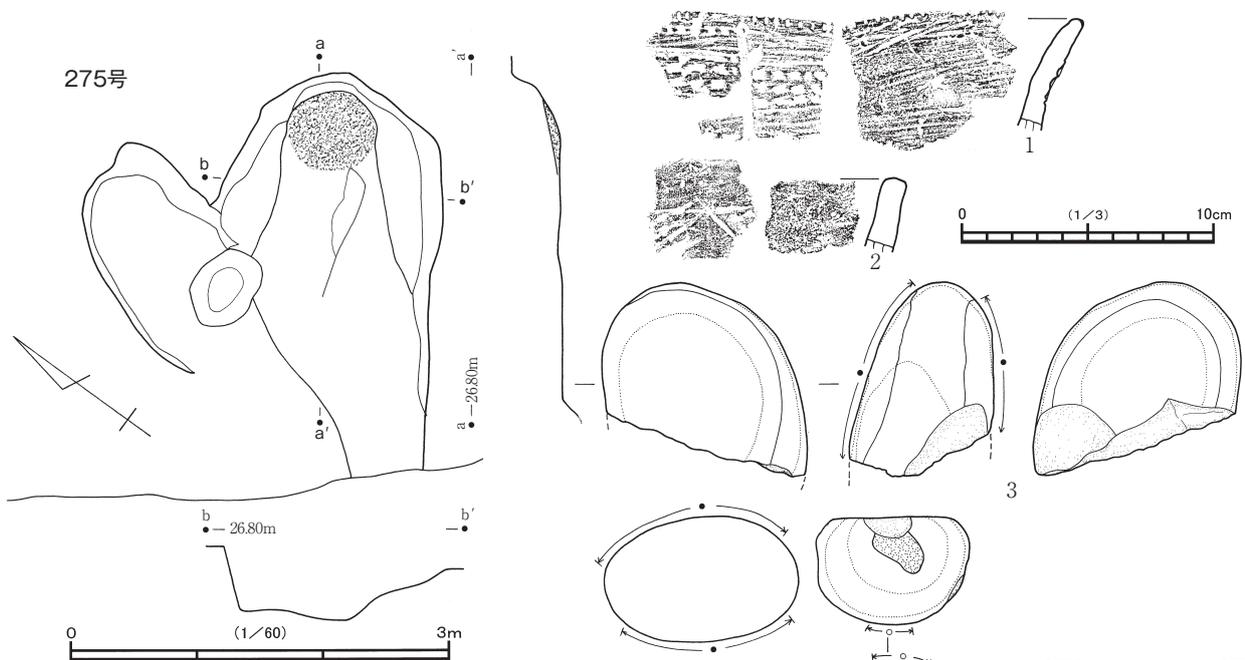
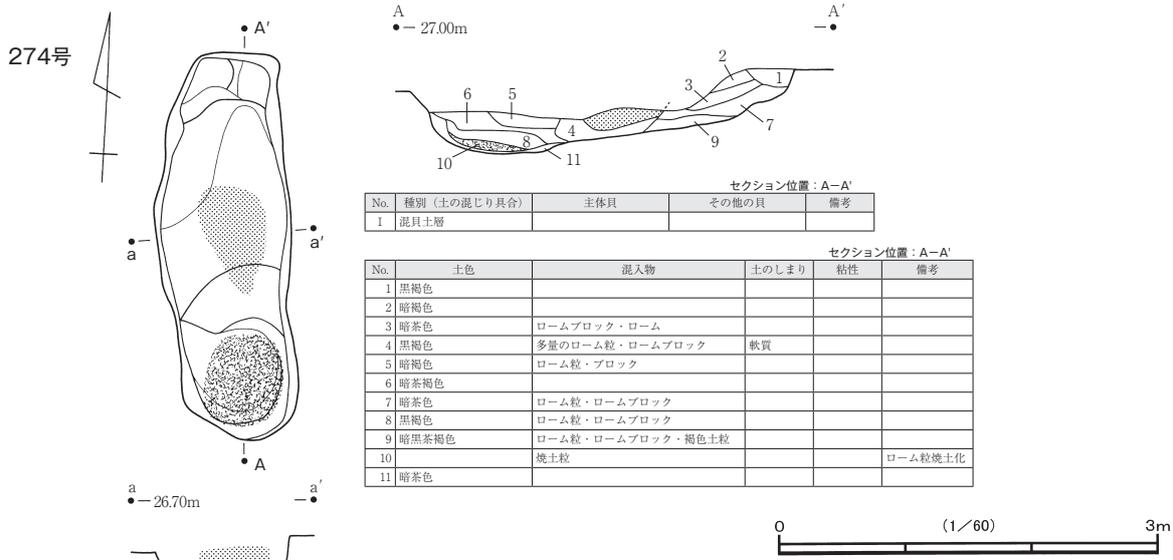
276号遺構

【検出位置】 セ28区I8-10

【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸2.34m・短軸1.18m・深さ32cm。主軸方向 197°。燃焼面 1箇所（第428図）。

【出土遺物】 30点・896gの礫が出土している。このうち88.2%に被熱のあとがみられる。土器は、36点・510g出土している。取り上げ方法は、一括扱いのもののみである。うちわけは、撚糸文系・



第428図 274・275・276号遺構実測図および出土遺物実測図

条痕文系・羽状縄文系などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系のもので全体のおよそ71%あり、当該時期を276号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、主なものを第428図5～10に示した。5は条痕文系深鉢形土器の胴部破片である。6～10は撚糸文系深鉢形土器の口縁部および胴部破片である。

277号遺構

【検出位置】 セ28区I8-07・11

【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸5.05m・短軸3.40m・深さ40cm。燃焼面6箇所。形状はアメーバ状（第429図）。

【覆土】 暗褐色土を主体とする。

【重複関係】 古墳周溝との重複により一部を欠失する。

【出土遺物】 14点・790gの礫および礫石器が出土している。このうち21%に被熱のあとがみられる。石器は、4点が出土している。うちわけは、両極石核1点・敲石1点・磨石2点である。土器は、97点・1,140g出土している。取り上げ方法は、一括扱いのもののみである。うちわけは、撚糸文系・撚糸文系（無文）・条痕文系・羽状縄文系・称名寺式などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系のもので全体の93.2%あり、当該時期を277号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、主なものを第429図1～14に示した。1～11は条痕文系深鉢形土器の口縁部および胴部破片である。12は撚糸文系深鉢形土器の口縁部破片、13は羽状縄文系深鉢形土器の胴部破片、14は称名寺式深鉢形土器の胴部破片とみられる。出土石器を第430図15～18に示した。15は最大長61.8mmを測るチャート製の両極石核である。16は流紋岩質凝灰岩製の敲石である。17・18は砂岩製の磨石である。

278号遺構

【検出位置】 セ28区I8-08・12

【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸1.10m・短軸0.71m・深さ12cm。燃焼面1箇所（第431図）。

【出土遺物】 17点・582gの礫が出土している。このうちすべてに被熱のあとがみられる。土器は、15点・200g出土している。取り上げ方法は、一括扱いのもののみである。そのすべてが条痕文系のものであることから、当該時期を278号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、主なものを第431図1・2に示した。条痕文系深鉢形土器の胴部破片である。

279号遺構

【検出位置】 セ28区I8-11・12

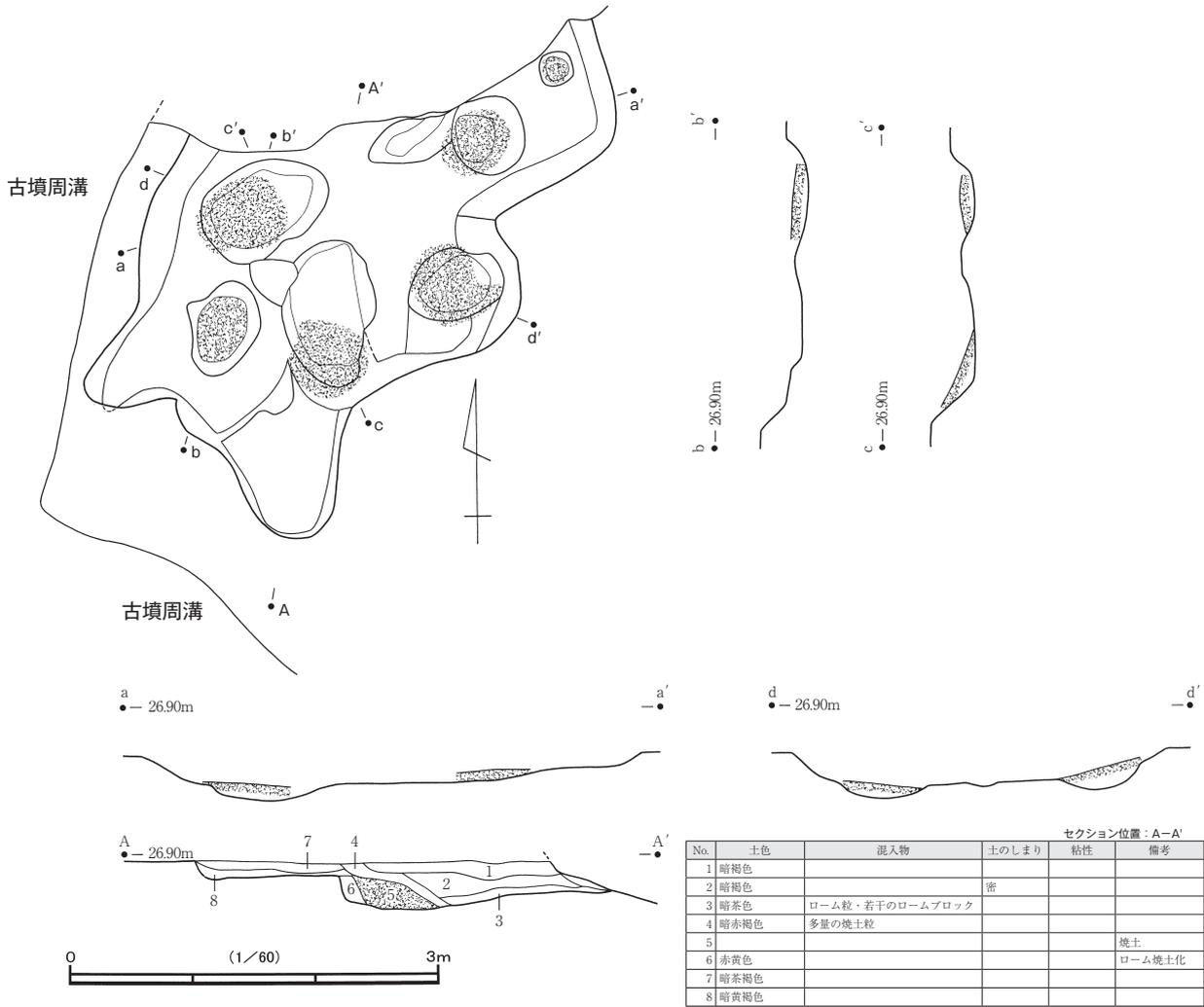
【種別】 土坑

【規模ほか】 長軸2.18m・短軸1.85m・深さ45cm。燃焼面不明（第432図）。

【覆土】 暗茶色土・暗茶褐色土などを主体とする。

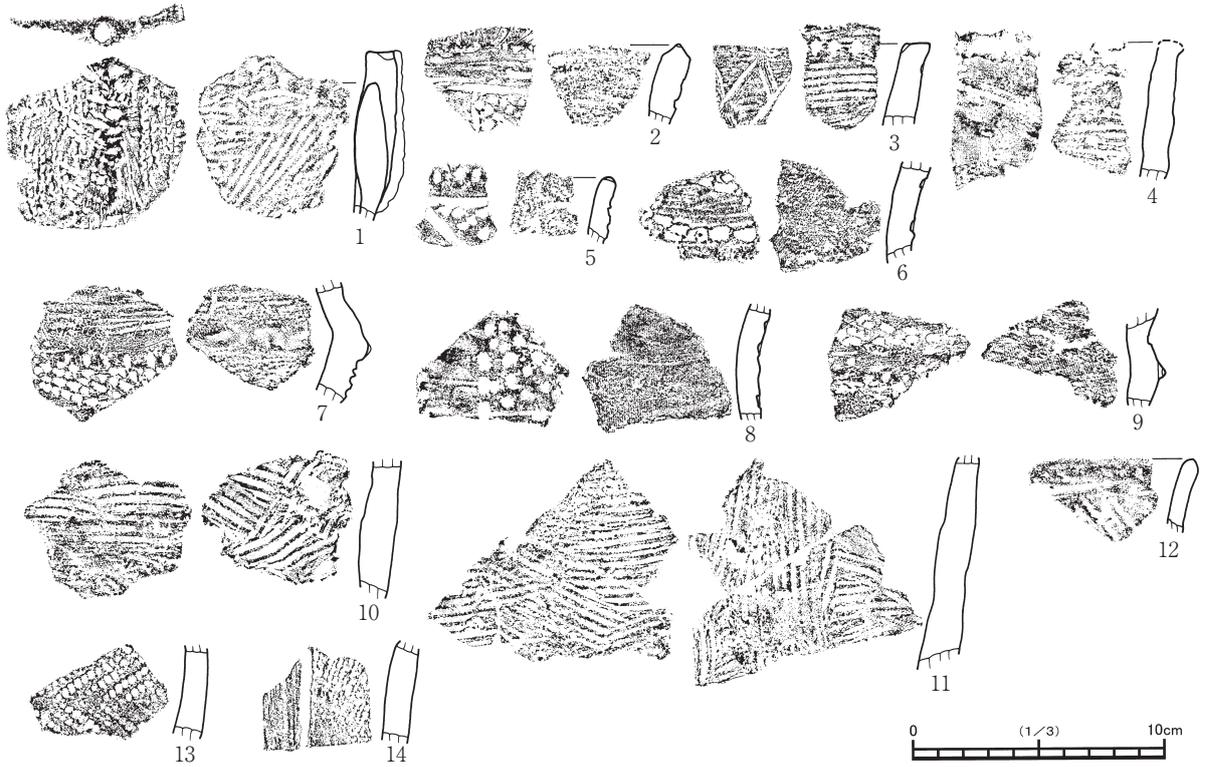
【重複関係】 古墳主体部との重複により東側部分を欠失する。

【出土遺物】 15点・655gの礫および礫石器が出土している。このうち84.1%に被熱のあとがみられる。石器は石核1点、このほか無斑晶質ガラス質安山岩の剥片1点がある。土器は、402点・5,093g

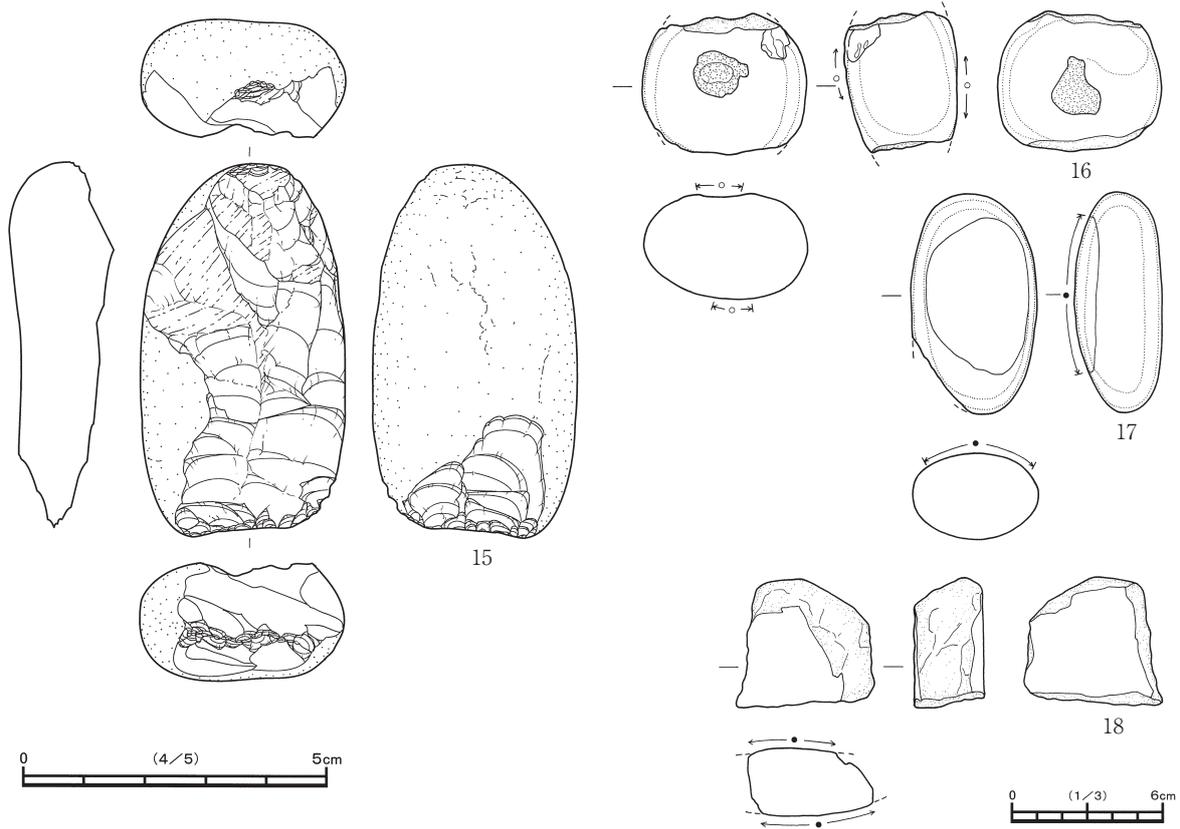


セクション位置：A-A'

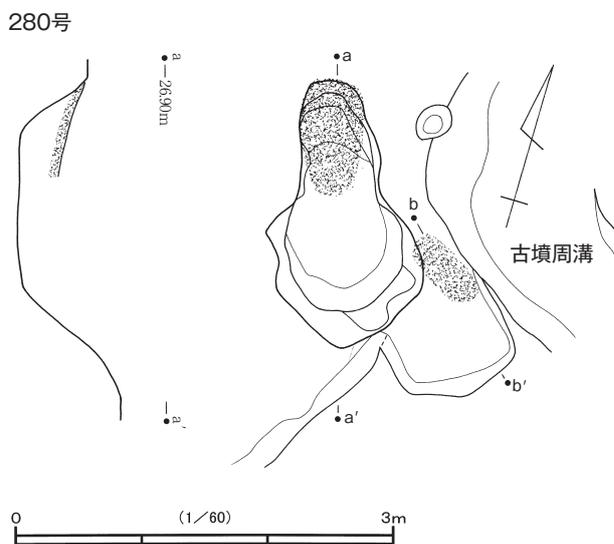
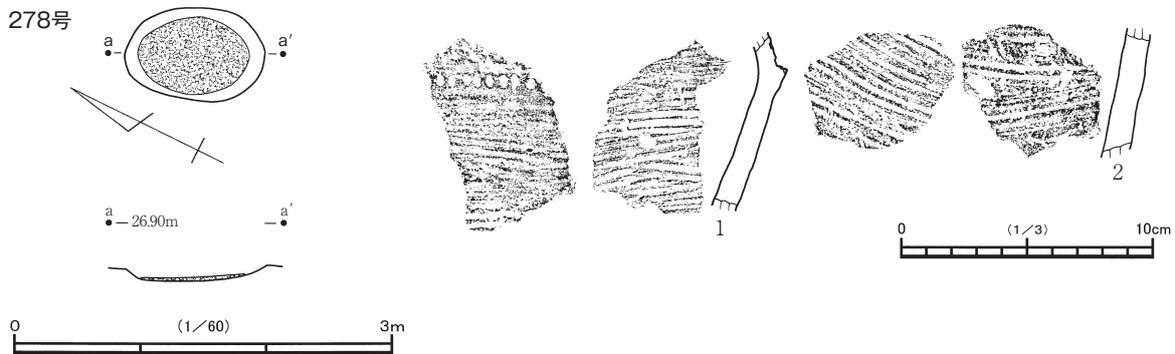
No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	暗褐色		密		
2	暗褐色				
3	暗赤色	ローム粒・若干のロームブロック			
4	暗赤褐色	多量の焼土粒			
5					焼土
6	赤黄色				ローム焼土化
7	暗茶褐色				
8	暗黄褐色				



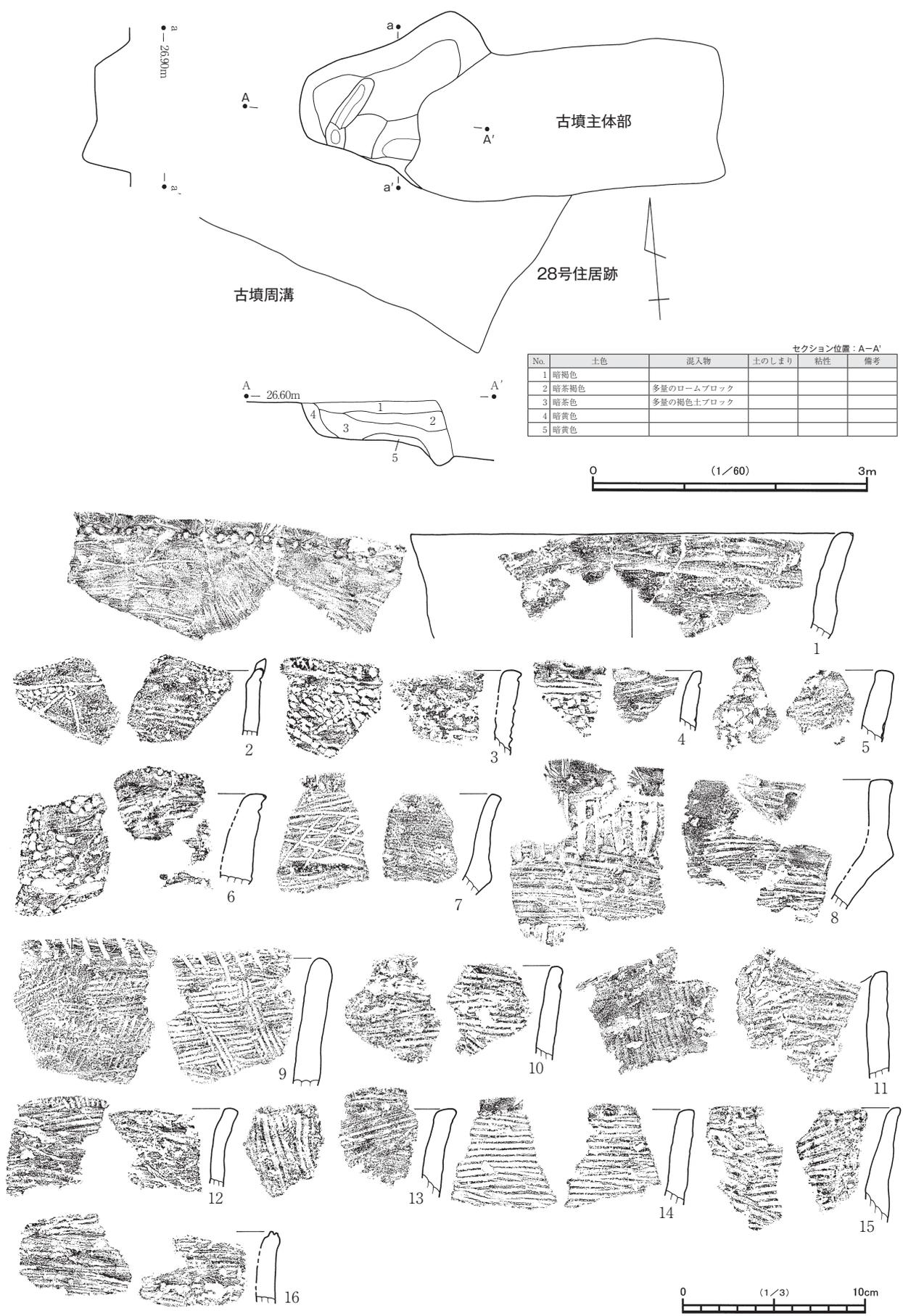
第429図 277号遺構実測図および出土遺物実測図(1)



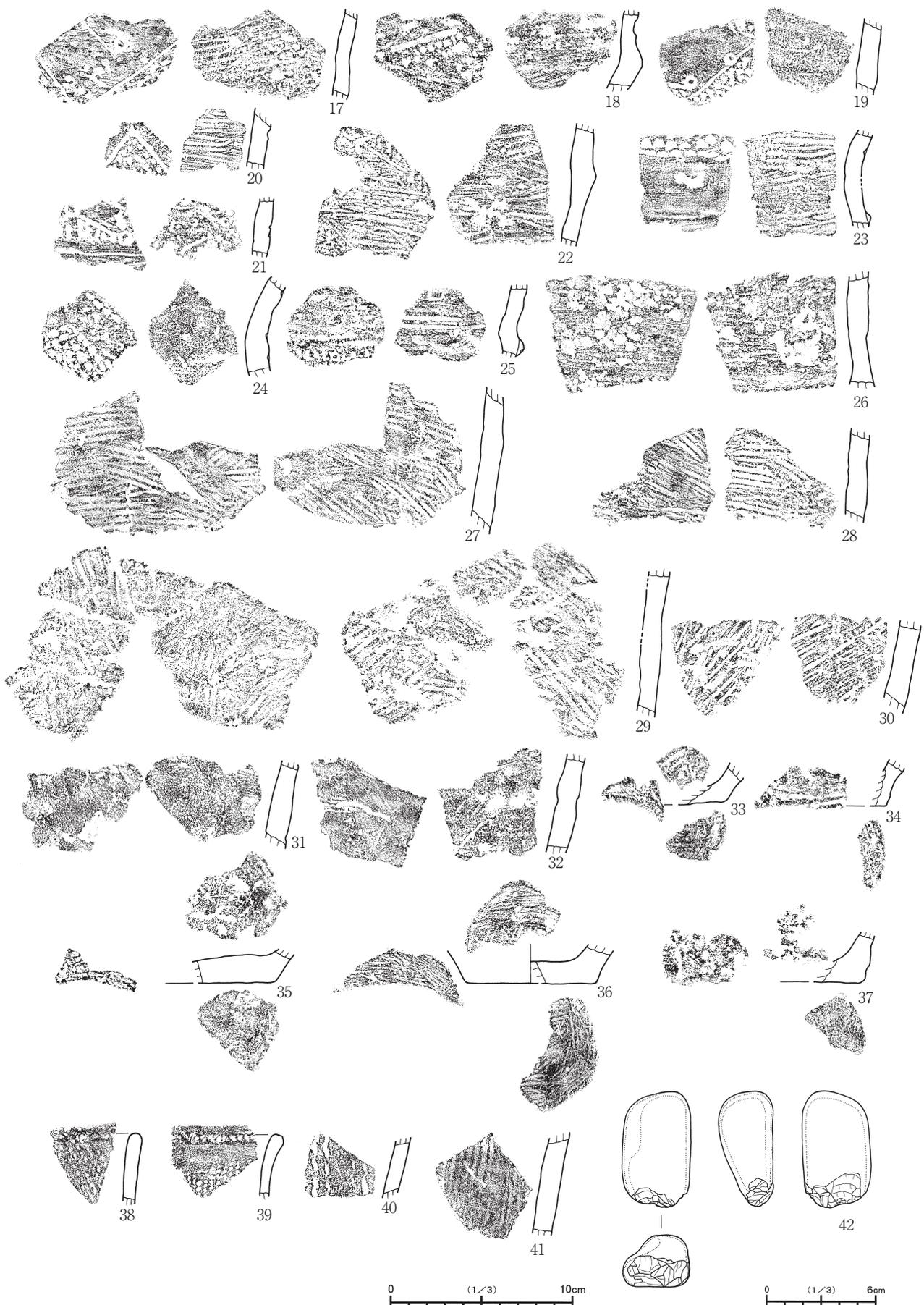
第430図 277号出土遺物実測図(2)



第431図 278・280号遺構実測図および出土遺物実測図



第432図 279号遺構実測図および出土遺物実測図(1)



第433图 279号遺構出土遺物実測図(2)

出土している。取り上げ方法は、一括扱いのもののみである。うちわけは、撚糸文系・撚糸文系（無文）・条痕文系などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系のもので全体のおよそ98%あり、当該時期を279号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、主なものを第432図1～16・第433図17～41に示した。1～32は条痕文系深鉢形土器の口縁部および胴部破片、33～37は底部破片である。1は推定口径240mm・現存器高57mmを測る平縁の土器で、口唇部前面に刺突をめぐらせる。38～41は撚糸文系深鉢形土器の口縁部および胴部破片である。出土石器を第433図42に示した。最大長73mmを測る珪質頁岩製の石核である。

280号遺構

【検出位置】 セ28区I9-08・09

【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸2.73m・短軸1.38m・深さ80cm。燃焼面2箇所。形状はアメーバ状（第431図）。

出土遺物がないため遺構の詳細時期は不明。

281号遺構

【検出位置】 セ28区I9-09・13

【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸2.18m・短軸1.18m・深さ55cm。主軸方向53°。燃焼面1箇所（第434図）。

【覆土】 黒褐色土・暗褐色土などを主体とする。

【重複関係】 古墳周溝と重複のため北側の一部を欠失する。

【出土遺物】 8点・562gの礫が出土している。このうちすべてに被熱のあとがみられる。土器は、13点・486g出土している。取り上げ方法は、一括扱いのもののみである。うちわけは、撚糸文系・条痕文系などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系のもので全体のおよそ91%あり、当該時期を281号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、主なものを第434図1～7に示した。1～5は条痕文系深鉢形土器の口縁部および胴部破片である。6・7は撚糸文系深鉢形土器の胴部破片である。

282号遺構

【検出位置】 セ28区I8-13・14、J8-01・02

【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸2.89m・短軸2.01m・深さ58cm。燃焼面1箇所。形状はアメーバ状（第435図）。

【出土遺物】 14点・1,260gの礫が出土している。このうちすべてに被熱のあとがみられる。土器は、93点・1,586g出土している。取り上げ方法は、一括扱いのもののみである。そのすべてが条痕文系のものであることから、当該時期を282号遺構の帰属時期とみる。

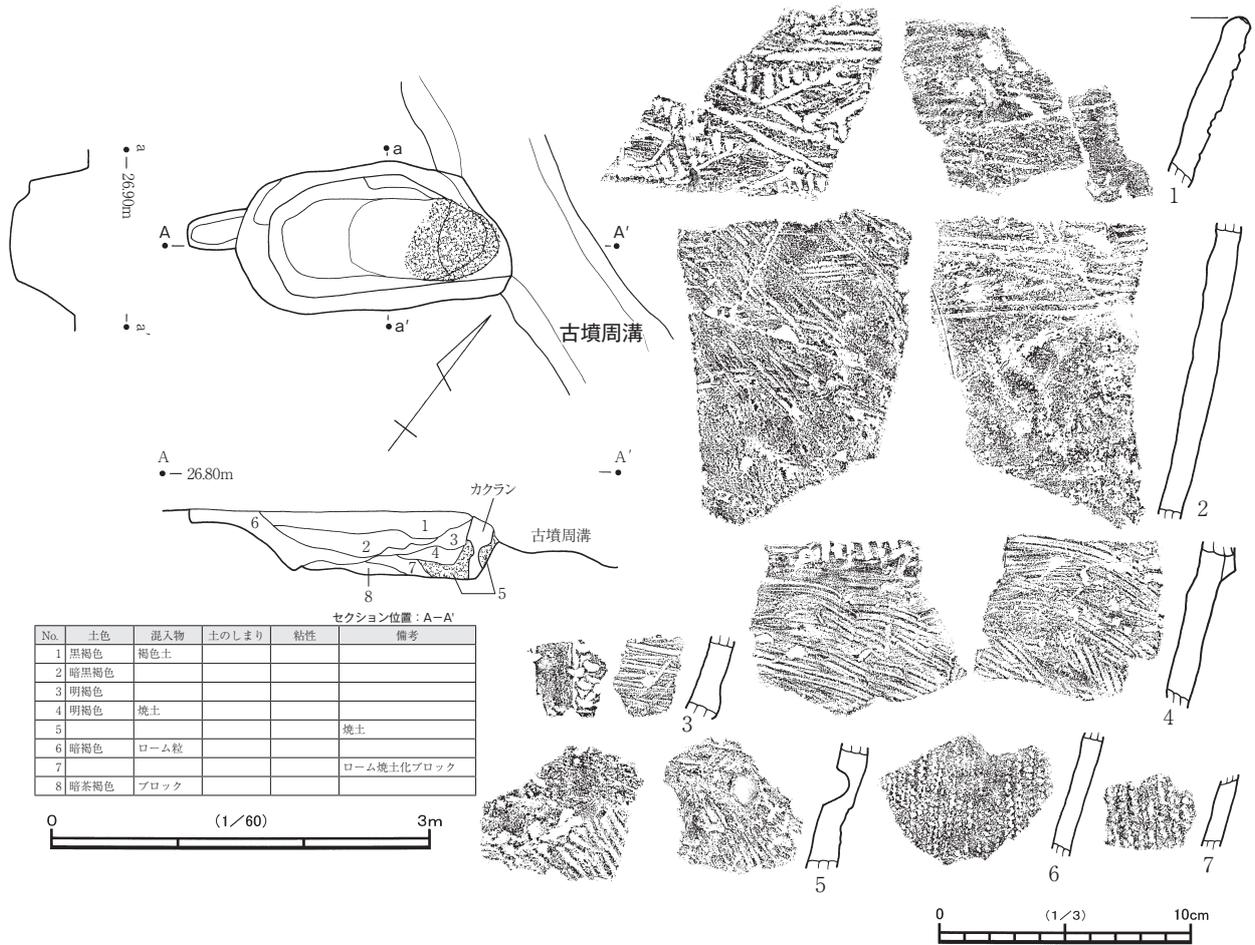
【遺物説明】 出土土器のうち、主なものを第435図1～7に示した。1～3は条痕文系深鉢形土器の口縁部、4～7は胴部の破片である。3は推定口径118mm・現存器高101mmを測る小型の土器である。

283号遺構

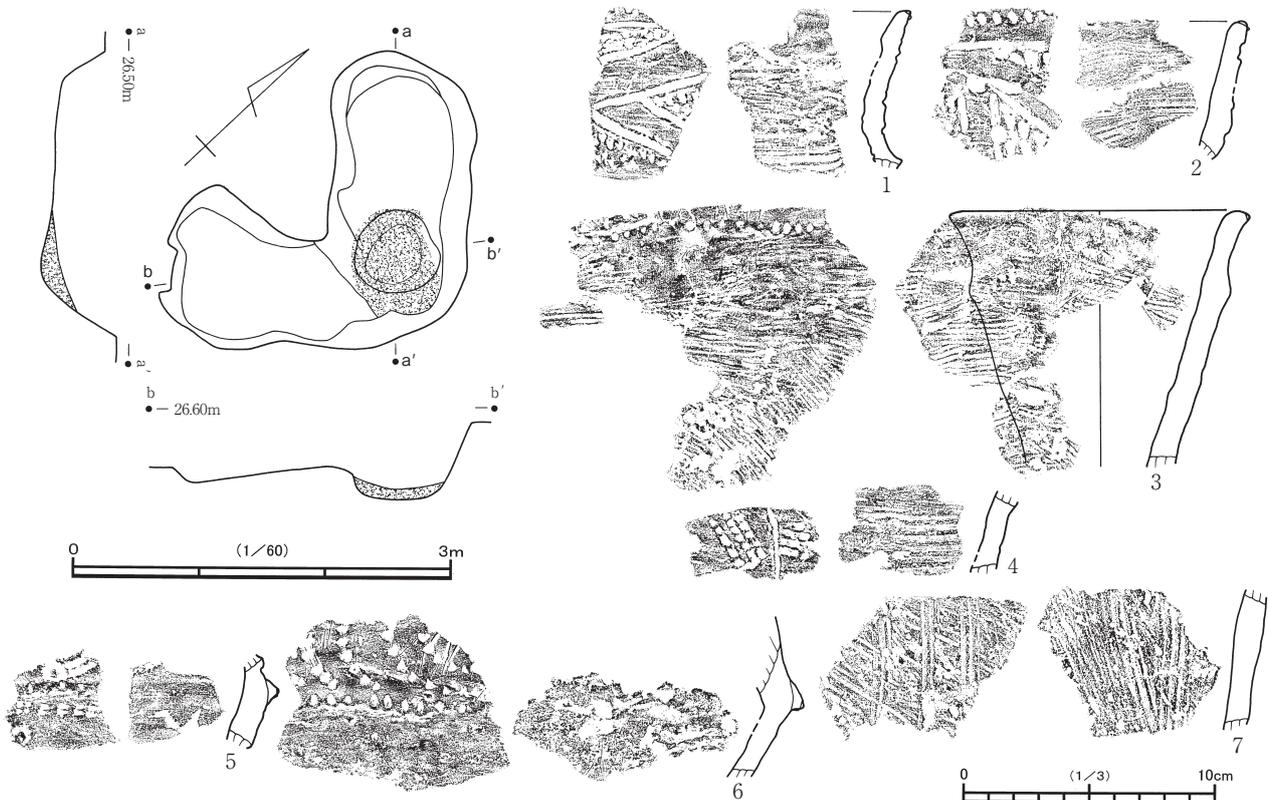
【検出位置】 セ28区I8-14・15、J8-02・03

【種別】 落ち込み

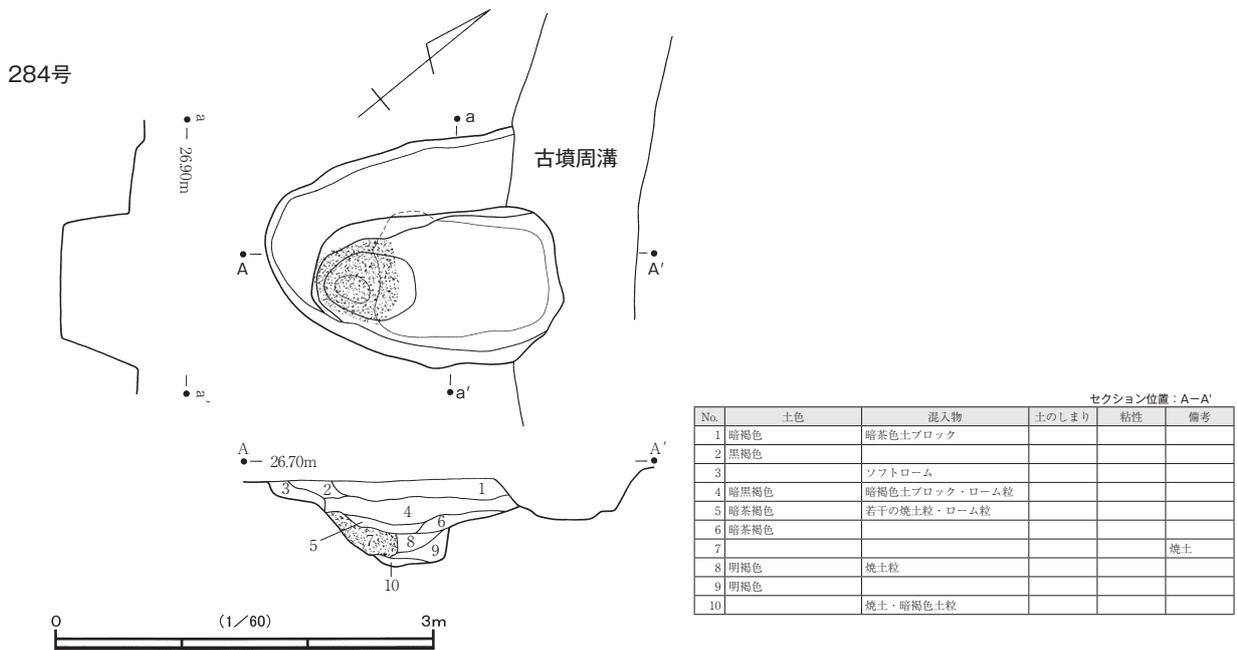
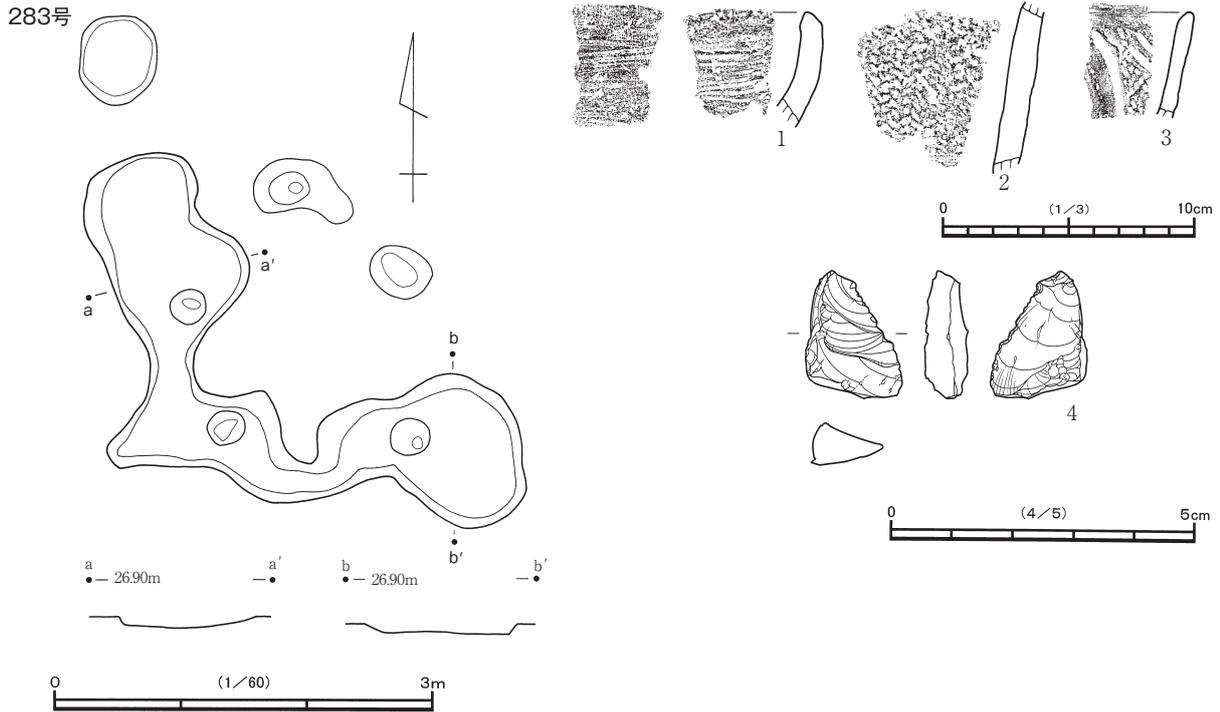
【規模ほか】 長軸4.22m・短軸1.24m・深さ17cm。形状は不整形（第436図）。



第434図 281号遺構実測図および出土遺物実測図



第435図 282号遺構実測図および出土遺物実測図



第436図 283・284号遺構実測図および出土遺物実測図

【出土遺物】 20点・684gの礫が出土している。このうちすべてに被熱のあとがみられる。石器は、2点が出土している。うちわけは、UF 1点・楔形石器1点、このほか堇青石ホルンフェルスの剥片1点がある。土器は、21点・334g出土している。取り上げ方法は、一括扱いのもののみである。うちわけは、条痕文系・羽状縄文系・称名寺式などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系のもので全体のおよそ75%あり、当該時期を283号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、主なものを第436図1～3に示した。1は条痕文系深鉢形土器の口縁部破片である。2は羽状縄文系・関山式深鉢形土器の胴部破片、文様は丸組紐である。3は称名寺式深鉢形土器の口縁部破片である。出土石器を第436図4に示した。最大長22.9mmを測る黒曜石製のUFである。

284号遺構

【検出位置】 セ28区I8-15

【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸2.30m・短軸1.90m・深さ84cm。主軸方向 220°。燃焼面1箇所（第436図）。

【覆土】 暗褐色土・暗黒褐色土などを主体とする。

【重複関係】 古墳周溝と重複するため北側の部分を欠失する。

出土遺物がないため遺構の詳細時期は不明。

285号遺構

【検出位置】 セ28区I8-15・16

【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸2.24m・短軸1.08m・深さ65cm。主軸方向5°。燃焼面1箇所（第437図）。

【重複関係】 古墳周溝との重複により中央部分が欠失する。

【出土遺物】 15点・676gの礫および礫石器が出土している。このうち60.8%に被熱のあとがみられる。石器は、2点が出土している。うちわけは、磨石1点、磨石・敲石1点、このほか黒曜石の剥片5点がある。土器は、171点・1,485g出土している。取り上げ方法は、一括扱いのもののみである。うちわけは、撚糸文系・条痕文系などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系のもので全体のおよそ96%あり、当該時期を285号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、主なものを第438図1～15に示した。1～13は条痕文系深鉢形土器の口縁部および胴部破片である。14・15は撚糸文系深鉢形土器の胴部破片である。出土石器を、第438図16・17に示した。16はスコリア質安山岩の磨石破片である。17は最大長92mmを測るスコリア質安山岩の磨石・敲石である。表裏面および上下端部が摩耗し、表裏面中央部に敲打痕がみられる。

286号遺構

【検出位置】 セ28区J8-03・04

【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸2.05m・短軸0.99m・深さ28cm。主軸方向42°。燃焼面1箇所（第437図）。

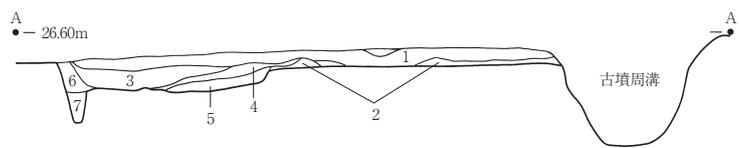
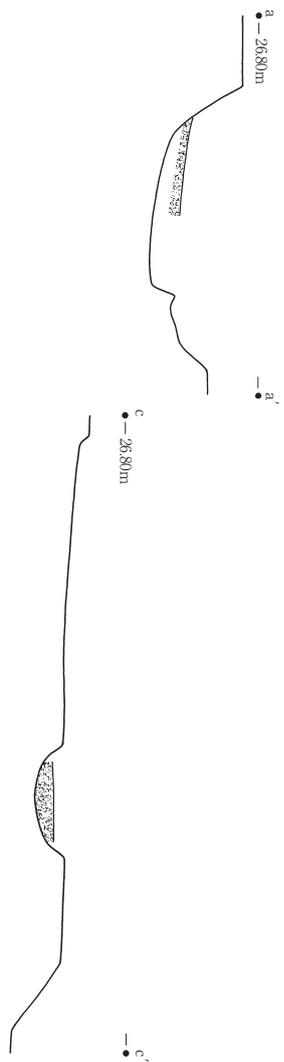
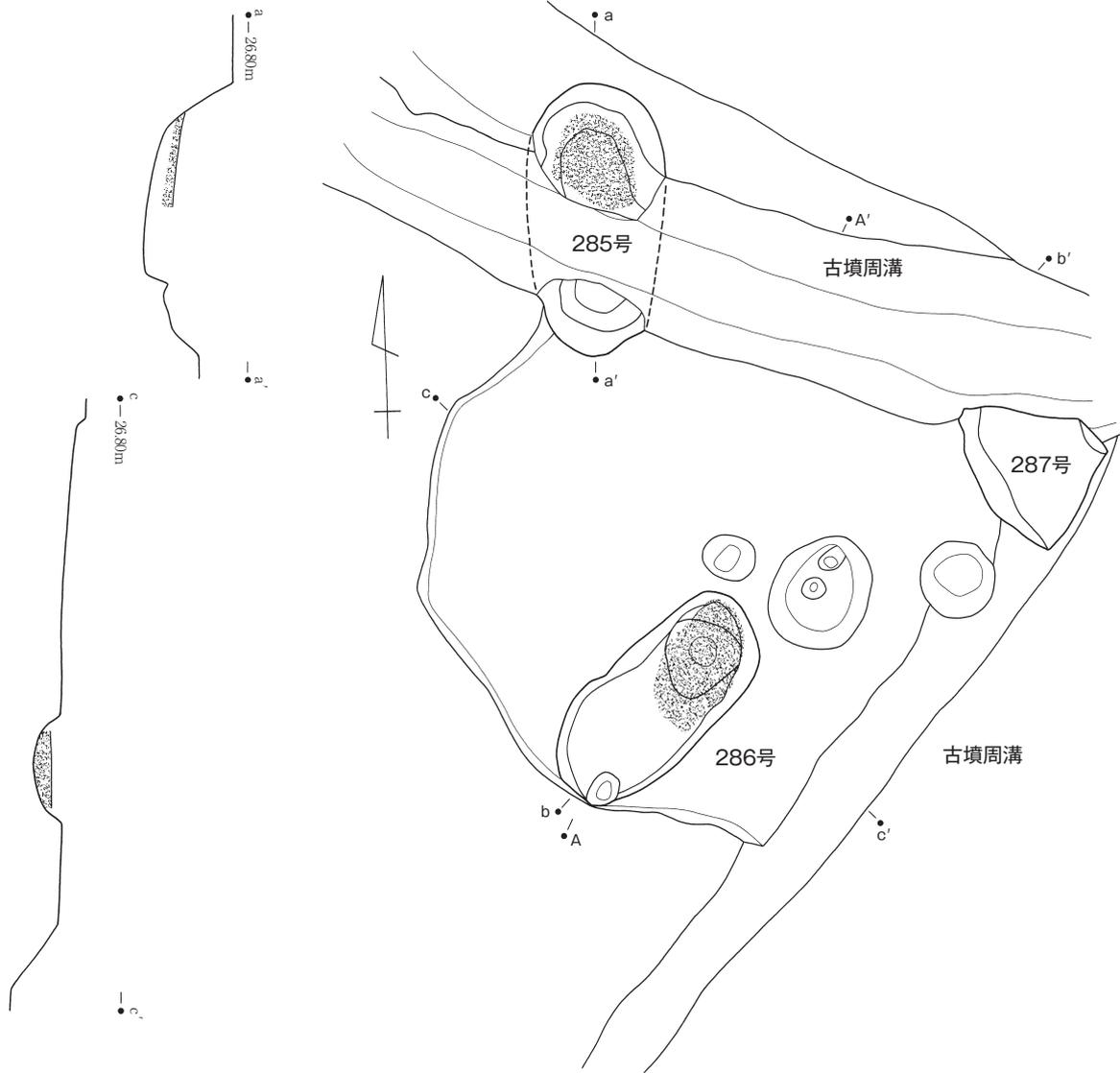
【覆土】 黒褐色土などを主体とする。ロームブロック・ローム粒を含む。

【重複関係】 古墳周溝との重複のため北側および東側を欠失する。

【その他】 周囲に竪穴状の掘り込みがある。

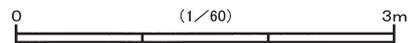
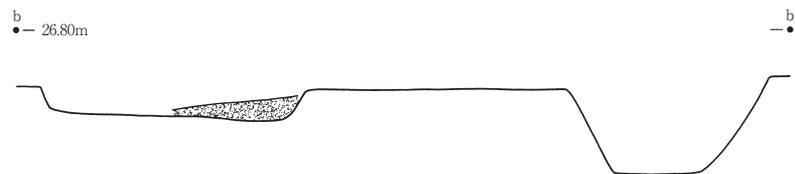
【出土遺物】 2点・167gの被熱のあとがみられる礫が出土している。石器は、黒曜石・チャートの剥片2点がある。土器は、29点・446g出土している。取り上げ方法は、一括扱いのもののみである。そのすべてが条痕文系のものであることから、当該時期を286号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、主なものを第438図18に示した。条痕文系深鉢形土器の胴部破片である。



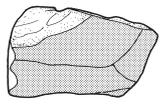
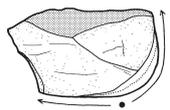
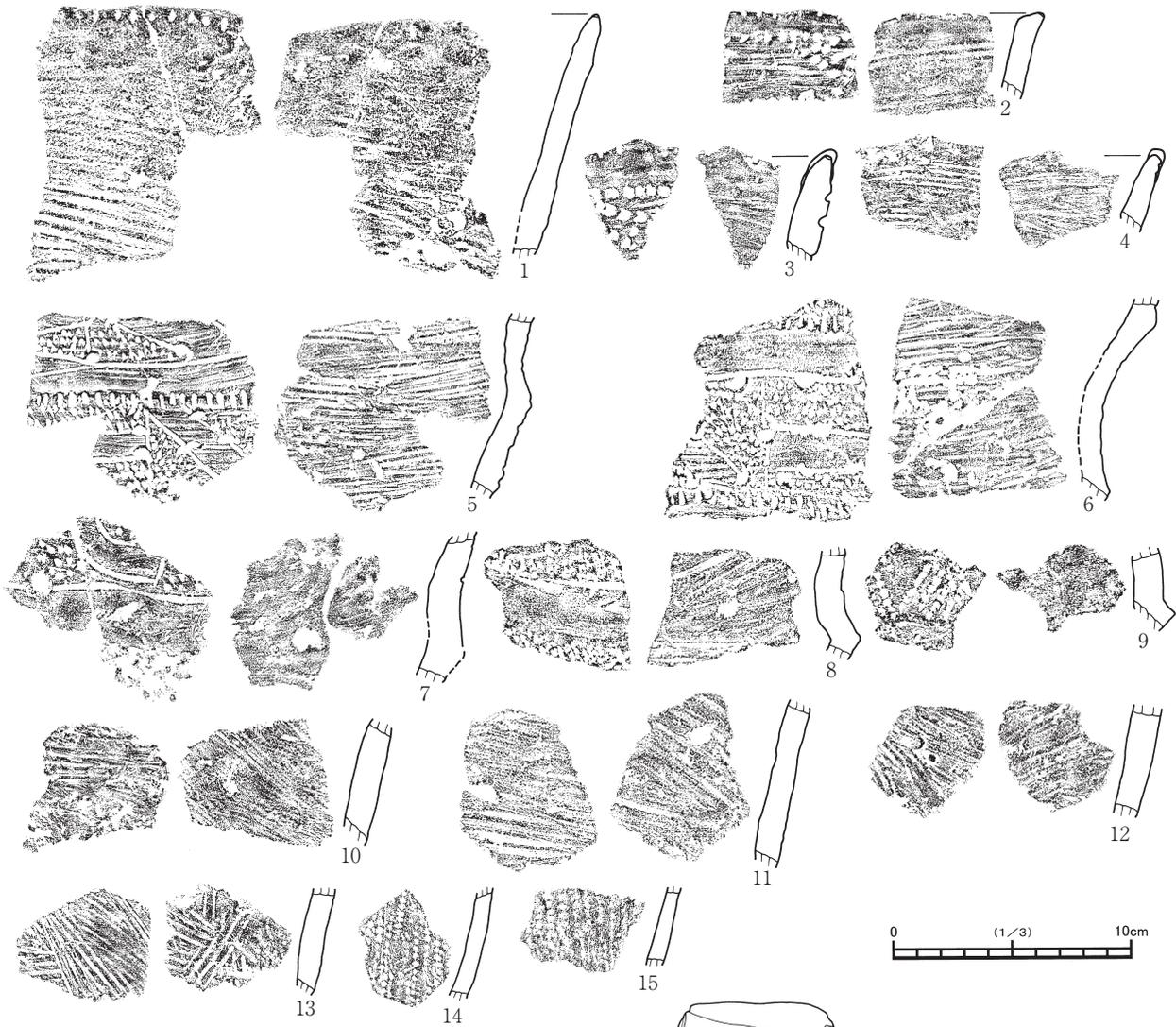
セクション位置：A-A'

No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	黒褐色	多量のローム粒			
2	明茶褐色	ローム			
3	明黒褐色	ローム粒			
4	黒褐色	褐色土粒			
5	暗茶色	焼土粒			
6	明褐色				
7	暗茶色				

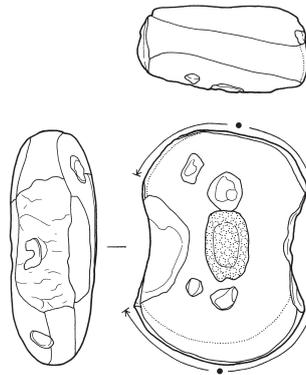


第437図 285・286・287号遺構実測図

(285号)

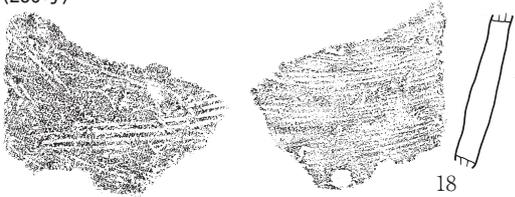


16

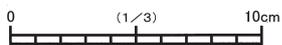
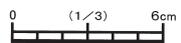
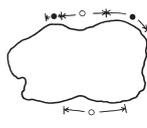
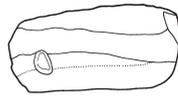


17

(286号)



18



第438图 285・286号遺構出土遺物実測図

287号遺構

【検出位置】 セ28区J8-04

【種別】 土坑？

【規模ほか】 長軸1.35m・短軸1.03m・深さ46cm（第437図）。

【重複関係】 古墳との重複のため本遺構の残存部は西側のごく一部だけである。

出土遺物がないため遺構の詳細時期は不明。

288号遺構

【検出位置】 セ28区J9-01

【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸2.96m・短軸1.30m・深さ37cm。燃焼面1箇所（第439図）。

【覆土】 黒褐色土・暗褐色土などを主体とする。ローム粒・焼土粒などを含む。この遺構内のものとする貝層サンプルが残されているが、その規模・厚さを示す図面記録がないため詳細は不明。ボリュームとしては、水洗後重量で3.3kg程度のものである。

【重複関係】 東側で289号遺構と重複する。

出土遺物がないため遺構の詳細時期は不明。

289号遺構

【検出位置】 セ28区J9-01・05

【種別】 炉穴？

【規模ほか】 長軸2.86m・短軸1.12m・深さ50cm。燃焼面不明（第439図）。

【覆土】 暗黒褐色土・暗茶褐色土などを主体とする。

【重複関係】 西側で288号遺構と重複する。

出土遺物がないため遺構の詳細時期は不明。

290号遺構

【検出位置】 セ28区I9-13・14、J9-01・02

【種別】 土坑

【規模ほか】 長軸1.36m・短軸1.29m・深さ35cm（第439図）。

【覆土】 黒褐色土・褐色土などを主体とする。

【出土遺物】 土器は、2点・10g出土している。取り上げ方法は、一括扱いのもののみである。いずれも条痕文系のものであることから、当該時期を290号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、主なものを第439図1に示した。条痕文系深鉢形土器の胴部破片である。

291号遺構

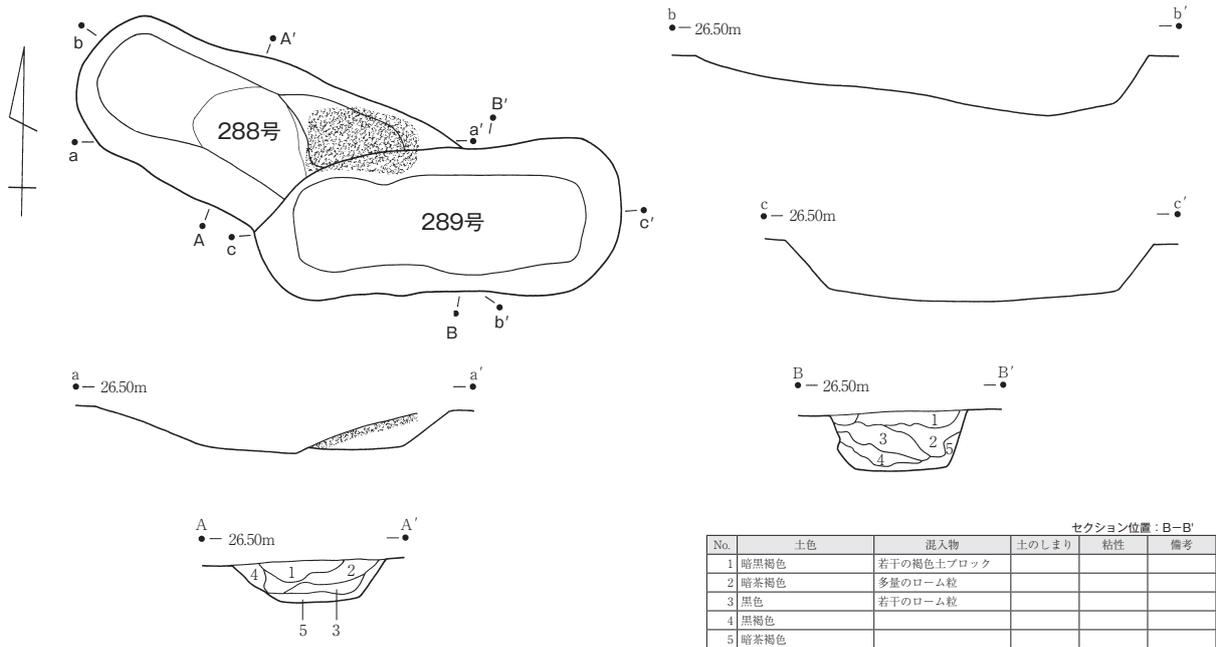
【検出位置】 セ28区J9-01

【種別】 炉穴

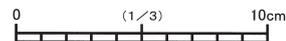
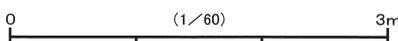
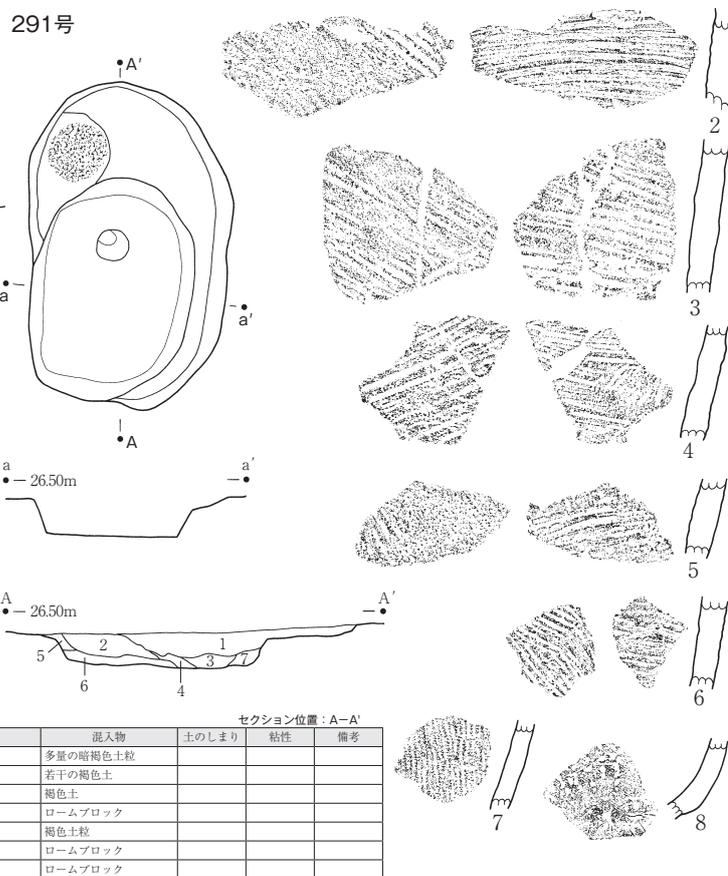
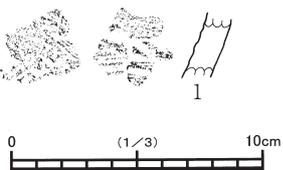
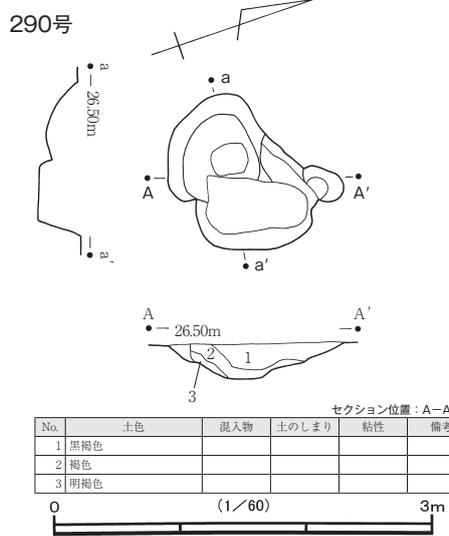
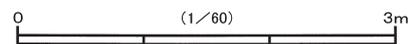
【規模ほか】 長軸2.60m・短軸1.60m・深さ35cm。主軸方向9°。燃焼面1箇所（第439図）。

【覆土】 黒褐色土・暗褐色土などを主体とする。ロームブロックを含む。

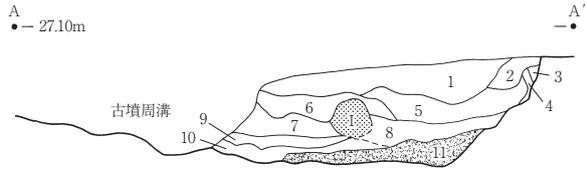
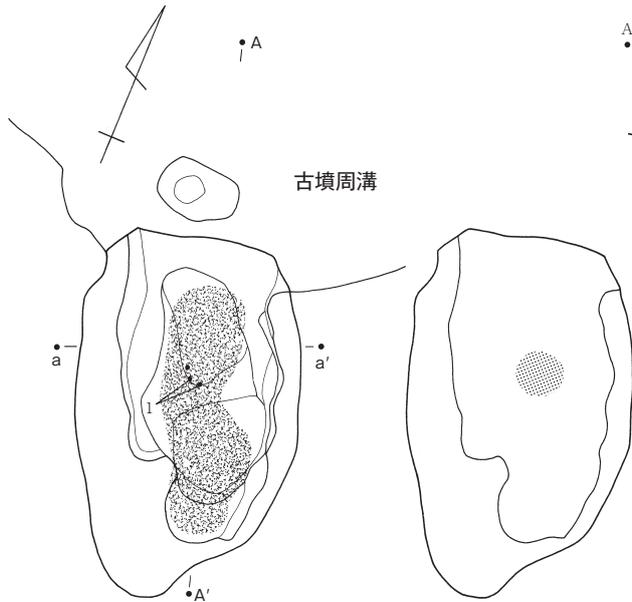
【出土遺物】 土器は、14点・234g出土している。取り上げ方法は、一括扱いのもののみである。う



No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	黒褐色	若干の褐色土ブロック			
2	黒褐色	多量の褐色土			
3	暗褐色	焼土粒			
4	暗褐色	ソフトローム粒			
5	暗茶色	ローム粒・若干のロームブロック			



第439図 288・289・290・291号遺構実測図および出土遺物実測図

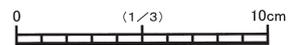
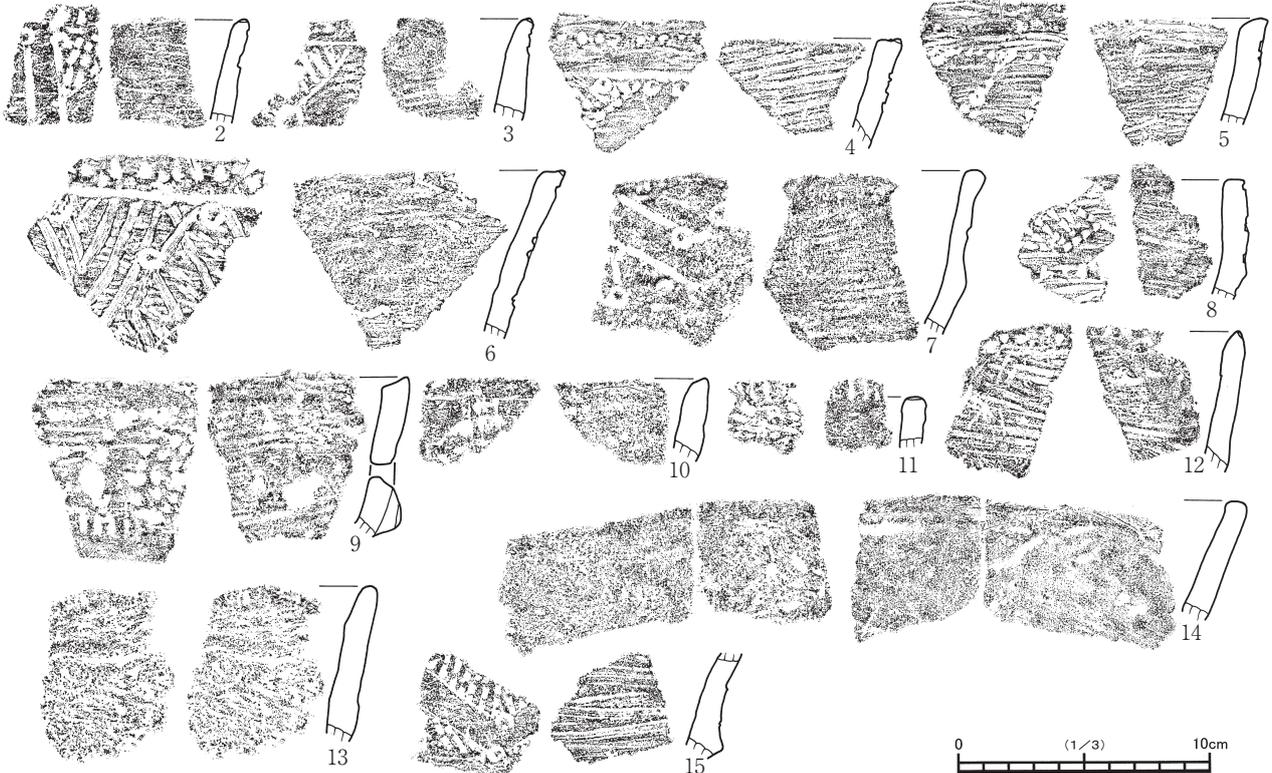
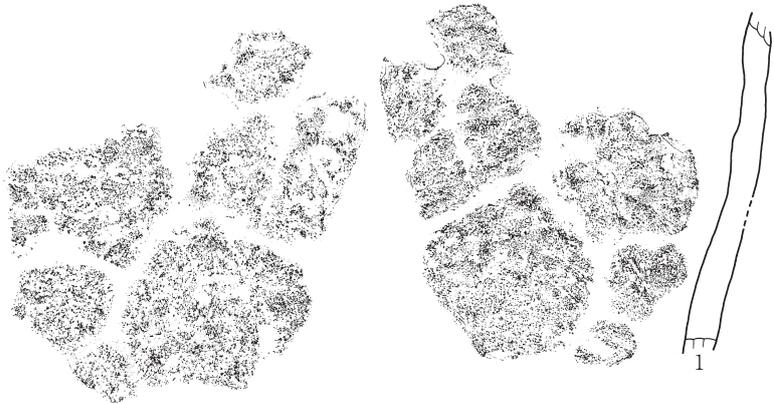
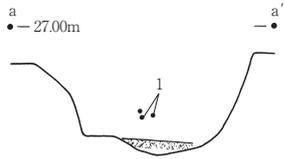
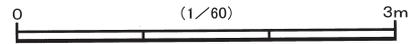


セクション位置：A-A'

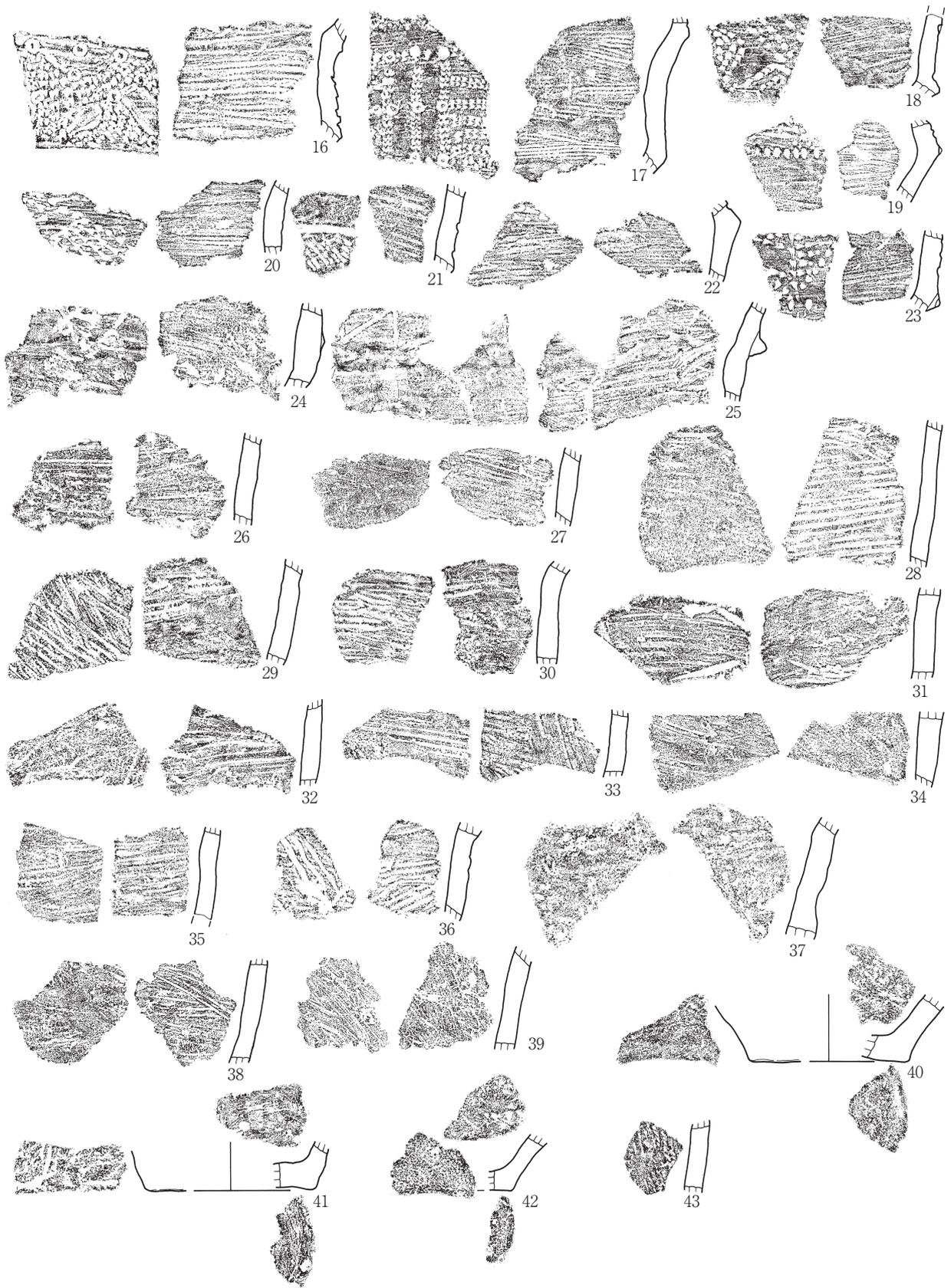
No.	種別 (土の混じり具合)	主体貝	その他の貝	備考
1	混貝土層			

セクション位置：A-A'

No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	黒褐色				
2	暗褐色				
3	暗黄色				
4	暗茶色				
5	黒褐色				
6	黒褐色	褐色土ブロック			
7	暗黒褐色	若干のローム粒・焼土			
8	暗黒茶褐色	若干の焼土粒			
9	褐色	ローム粒・ロームブロック・焼土粒			
10		ローム粒・ロームブロック・黒褐色土ブロック・多量の焼土			
11					焼土 (混入物あり)



第440図 292号遺構実測図・遺物出土状況図および出土遺物実測図(1)



第441图 292号遺構出土遺物実測図(2)

ちわけは、撚糸文系・撚糸文系（無文）・条痕文系などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系のもので全体のおよそ85%あり、当該時期を291号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、主なものを第439図2～8に示した。2～6は条痕文系深鉢形土器の胴部破片である。7は撚糸文系深鉢形土器の胴部破片である。8は底部近くの破片である。

292号遺構

【検出位置】 セ28区I9-02・06

【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸2.87m・短軸1.75m・深さ88cm。燃焼面1箇所（第440図）。

【覆土】 黒褐色土などを主体とする。ロームブロック・ローム粒・焼土粒などを含む。一部に貝層がみられる。貝層は遺構中央の覆土中層付近に、長軸38・短軸35・厚さ32cmほどの規模で形成されていた。

【重複関係】 古墳周溝との重複により北側部分を欠失する。

【出土遺物】 36点・2,339gの礫が出土している。このうちすべてに被熱のあとがみられる。石器は、チャートの剥片1点がある。土器は、207点・4,001g出土している。取り上げ方法は、平面・垂直位置を記録した点あげ、一括扱いの両方がある。うちわけは、撚糸文系・条痕文系・羽状縄文系などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系のもので全体のおよそ98%あり、当該時期を292号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、点あげしたものを第440図1に、一括扱いのものを第440図2～15・第441図16～43に示した。1～39は条痕文系深鉢形土器の口縁部および胴部破片、40～42は底部破片である。43は撚糸文系深鉢形土器の胴部破片である。

293号遺構

【検出位置】 セ28区I9-02・06

【種別】 炉穴

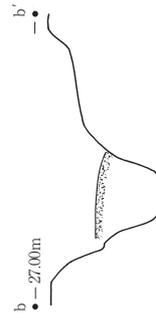
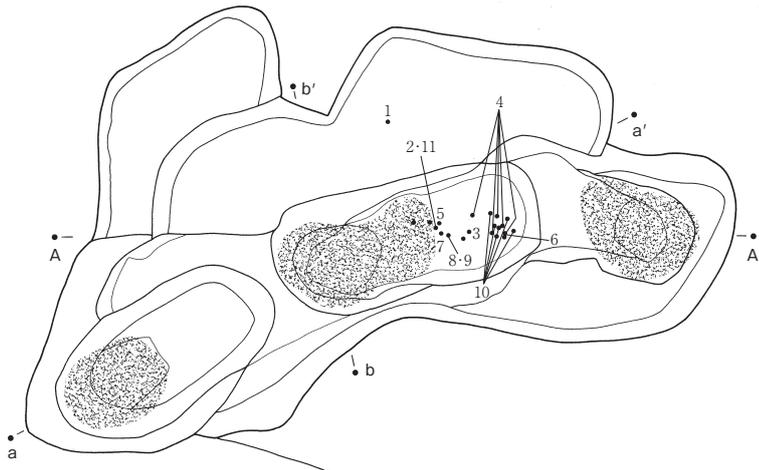
【規模ほか】 長軸5.83m・短軸3.09m・深さ88cm。燃焼面3箇所。形状はアメーバ状（第442図）。

【覆土】 黒褐色土・暗褐色土などを主体とする。ローム粒・焼土粒などを含む層が多い。

【出土遺物】 25点・2,810gの礫および礫石器が出土している。このうち82.2%に被熱のあとがみられる。石器は、3点出土している。うちわけは、ノミ状石器1点・敲石1点・磨石1点である。土器は、50点・2,492g出土している。取り上げ方法は、平面・垂直位置を記録した点あげ、一括扱いの両方がある。そのすべてが条痕文系のものであることから、当該時期を293号遺構の帰属時期とみる。

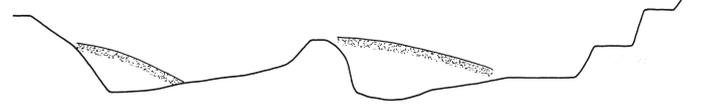
【遺物説明】 出土土器のうち、点あげしたものを第442図1・2、第443図3～11に、一括扱いのものを第443図12～18に示した。1～10・12～17は条痕文系深鉢形土器の口縁部および胴部破片である。1は沈線による三角形区画内を押し引き沈線で充填、要所に円形文を施す。口唇部前面には刺突をめぐらす。文様帯区画は二段の横位隆帯による。10は現存器高181mm・胴部最大径326mmを測る胴部破片である。11は現存器高90mm・底径58mm、18は現存器高24mm・推定底径76mmを測る底部破片である。出土石器を第444図19～21に示した。19は最大長67mmを測る無斑晶質安山岩製のノミ状石器である。20は最大長107mmを測る砂岩製の敲石である。21は砂岩製の磨石破片である。

294号遺構

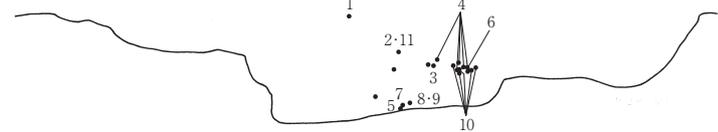


古墳周溝

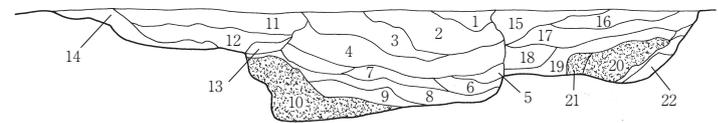
a
● - 27.00m



A
● - 27.10m

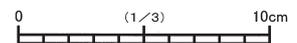
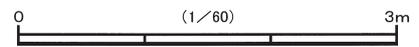


A
● - 27.10m

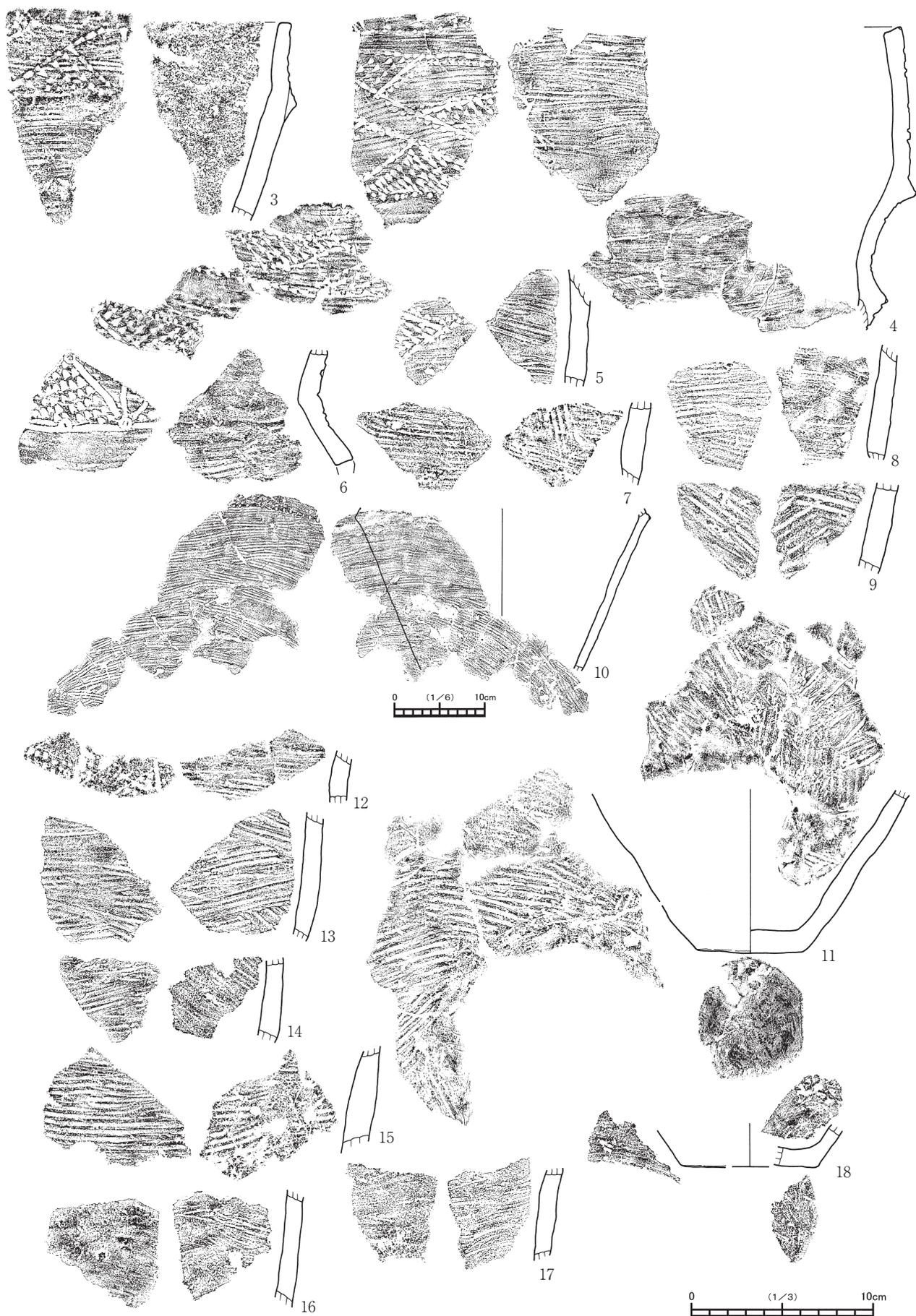


セクション位置：A-A'

No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	黒色				
2	黒褐色	多量のローム粒			
3	暗褐色	多量の焼土			
4	暗黒色	ローム粒			
5	暗黒褐色	ローム粒			
6	暗褐色	多量のローム粒			
7	黒色	ロームブロック (大)			
8		焼土・ロームブロック・黒色土ブロック			
9		焼土			
10		ローム粒			焼土
11	黒褐色	多量のローム粒			
12	黒褐色	ローム粒			
13	褐色	焼土			
14	暗茶褐色				
15	黒褐色	ローム粒			
16	暗褐色	多量のローム粒・ブロック			
17	暗茶褐色	若干のローム粒			
18	褐色	ローム粒・ロームブロック			
19	暗茶褐色	多量の焼土粒			
20					焼土
21					焼土 (やや土が混合)
22					ローム焼土化



第442図 293号遺構実測図・遺物出土状況図および出土遺物実測図(1)



第443图 293号遺構出土遺物実測図(2)

【検出位置】 セ28区I9-06・07

【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸3.29m・短軸2.04m・深さ84cm。燃焼面3箇所。形状はアメーバ状（第445図）。

【覆土】 黒褐色土・暗褐色土などを主体とする。ロームブロック・ローム粒・焼土ブロック・焼土粒などを含む層が多い。一部に貝層がみられる。貝層は遺構覆土の中心部に1箇所、更に東に1箇所、長軸154・短軸54・厚さ24cmほどの規模で形成されていた。

【出土遺物】 18点・1,632gの礫が出土している。このうちすべてに被熱のあとがみられる。土器は、47点・867g出土している。取り上げ方法は、平面・垂直位置を記録した点あげ、一括扱いの両方がある。うちわけは、撚糸文系・条痕文系などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系のもので全体のおよそ96%あり、当該時期を294号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、点あげしたものを第445図1～4に、一括扱いのものを第445図5～12に示した。5は条痕文系深鉢形土器の口縁部、1～3・6～12は胴部の破片である。4は撚糸文系深鉢形土器の胴部破片である。

295号遺構

【検出位置】 セ28区I9-07・08・11・12

【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸3.48m・短軸2.76m・深さ85cm。燃焼面4箇所（第446図）。

【覆土】 黒褐色土・黒色土などを主体とする。ロームブロック・ローム粒・焼土粒などを含む層が多い。

【出土遺物】 3点・116gの礫および礫石器が出土している。このうちの2点には被熱のあとがみられる。石器は、軽石製品1点が出土している。土器は、123点・2,909g出土している。取り上げ方法は、平面・垂直位置を記録した点あげ、一括扱いの両方がある。遺物は遺構の東側、覆土の上層から中層あたりで多く出土している。土器のうちわけは、撚糸文系・撚糸文系（無文）・条痕文系などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系のもので全体の97.6%あり、当該時期を295号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、点あげしたものを第446図1～7に、一括扱いのものを第447図8～27に示した。1・2・8～15は条痕文系深鉢形土器の口縁部、3～6・16～25は胴部の破片である。7・26・27は撚糸文系深鉢形土器の胴部破片である。出土石器を第447図28に示した。最大長43mm・重さ4.9gを測る軽石製品である。

296号遺構

【検出位置】 セ28区I9-10・11

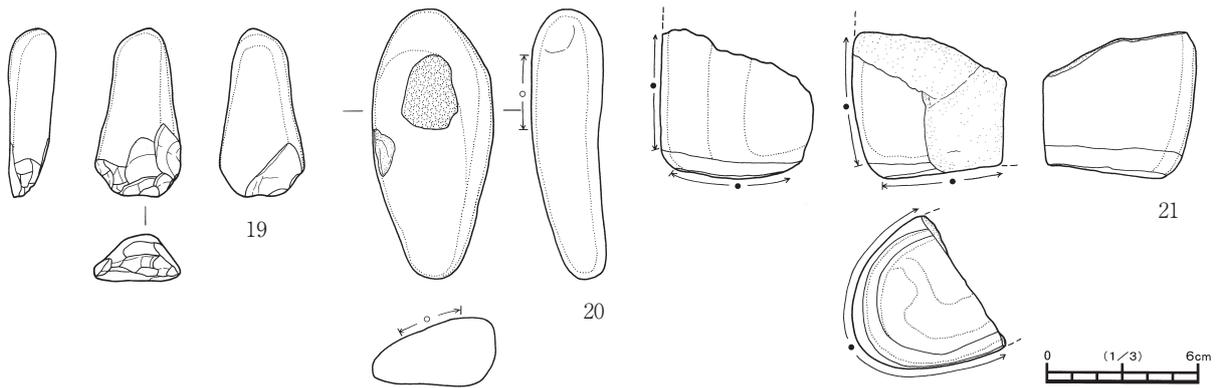
【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸4.15m・短軸3.58m・深さ68cm。燃焼面2箇所（第448図）。

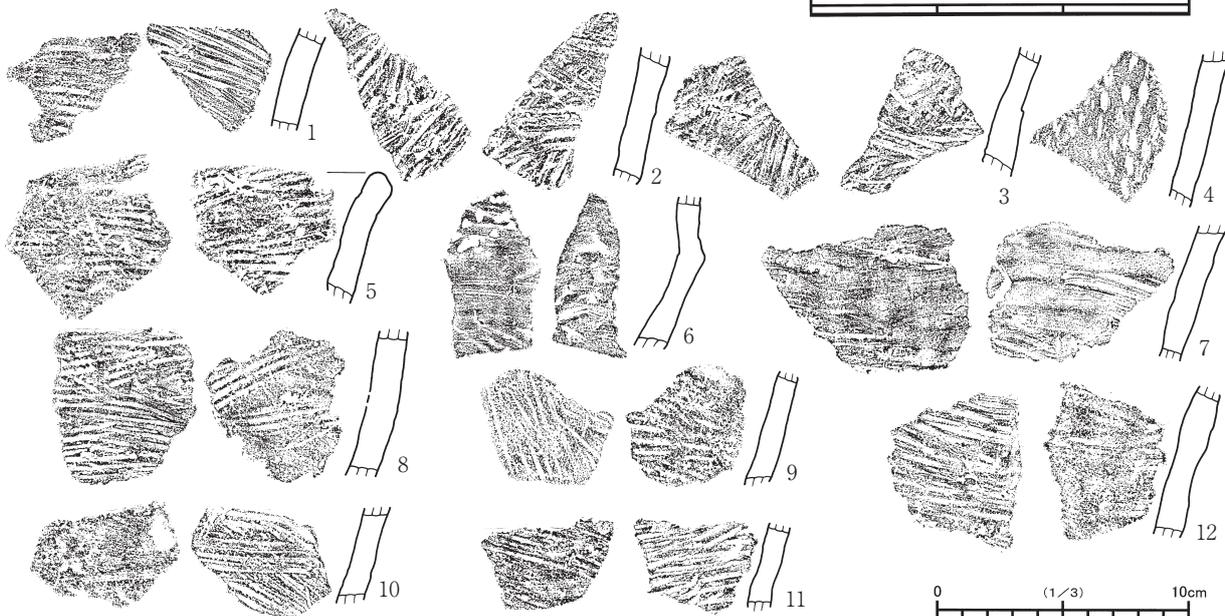
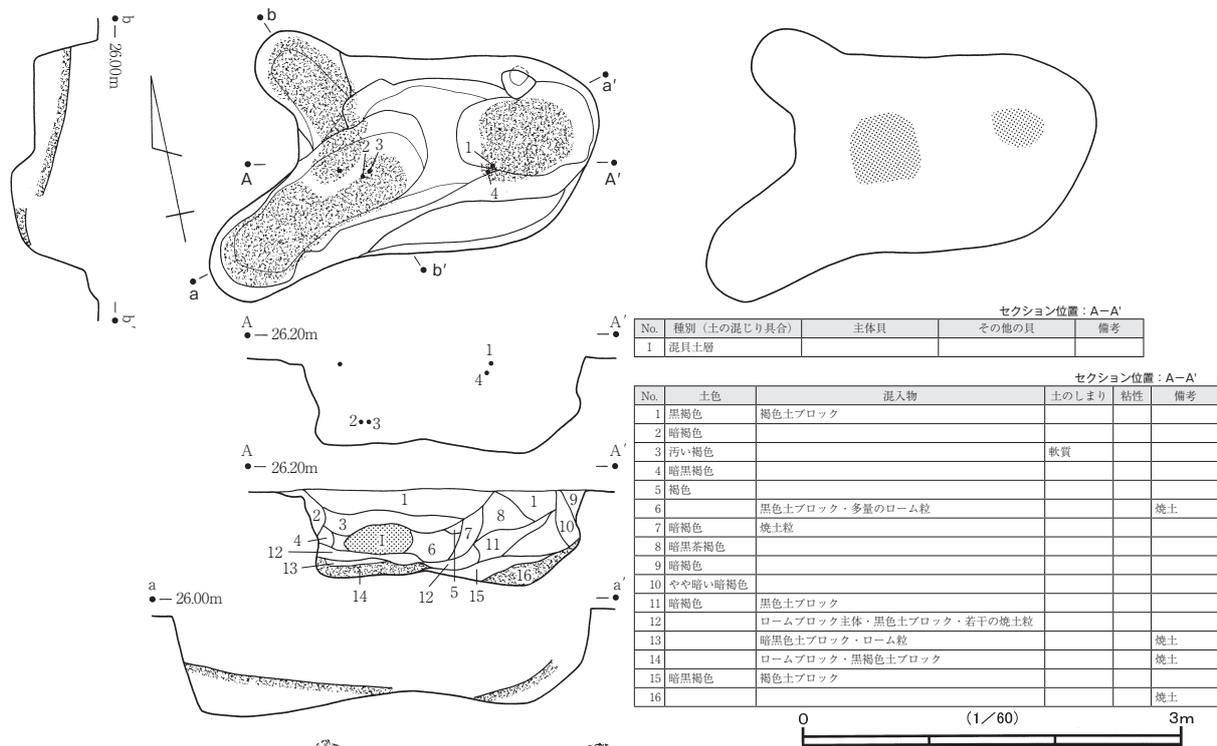
【覆土】 暗黒褐色土・暗茶褐色土などを主体とする。ローム粒を含む。

【その他】 周囲に竪穴状の掘り込みがある。

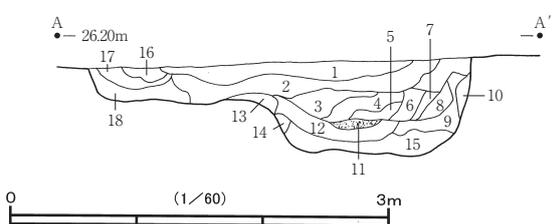
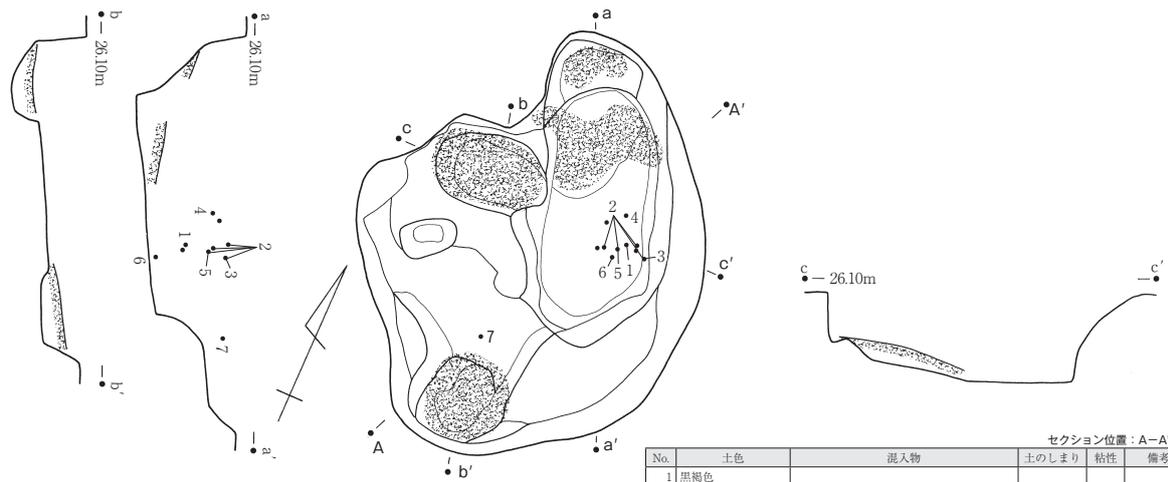
【出土遺物】 30点・1,817gの礫および礫石器が出土している。このうち85.6%に被熱のあとがみられる。石器は、2点出土している。うちわけは、石錐1点・敲石1点、このほか黒曜石の剥片1点がある。土器は、92点・2,435g出土している。取り上げ方法は、平面・垂直位置を記録した点あげ、



第444図 293号遺構出土遺物実測図(3)

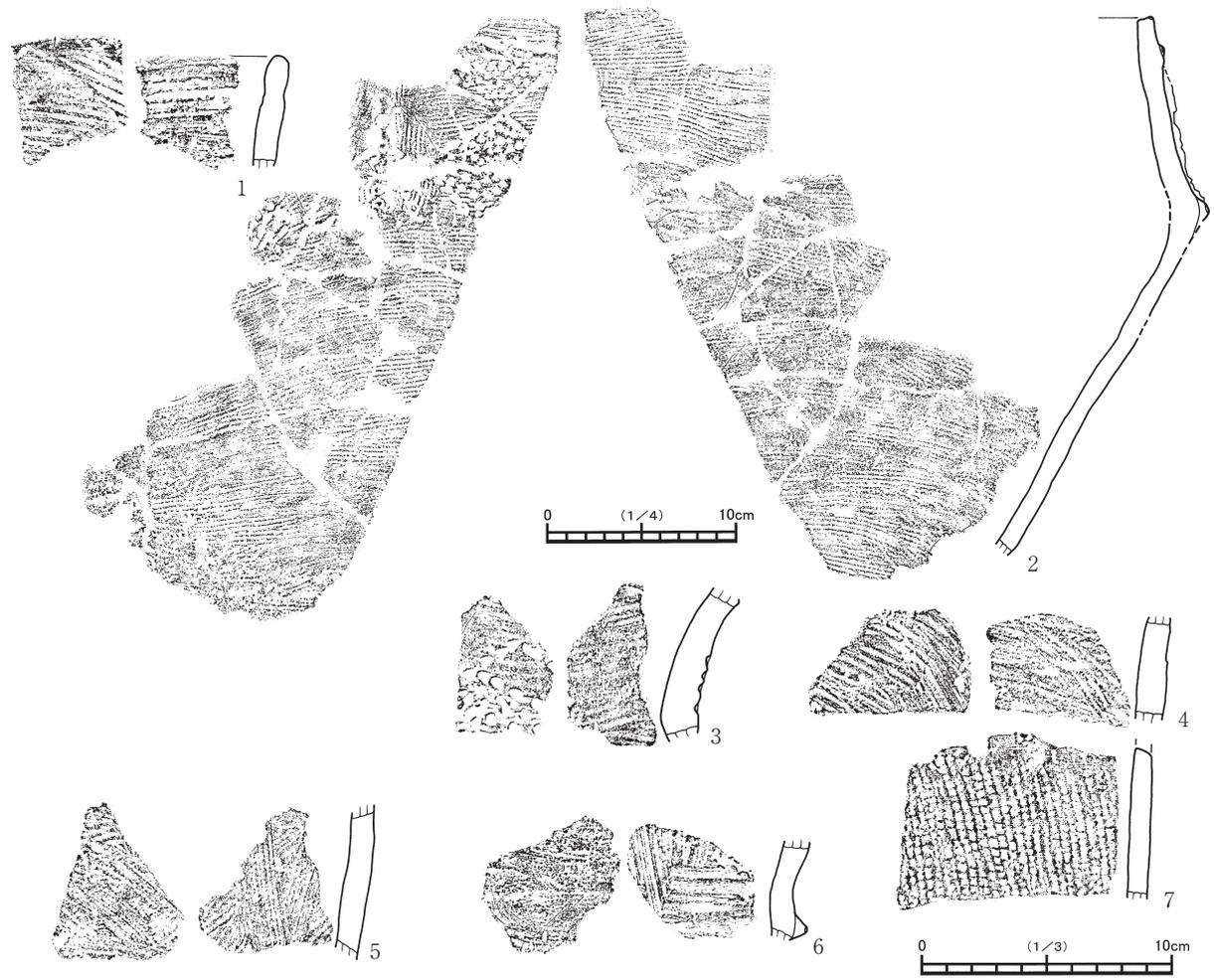


第445図 294号遺構実測図および出土遺物実測図

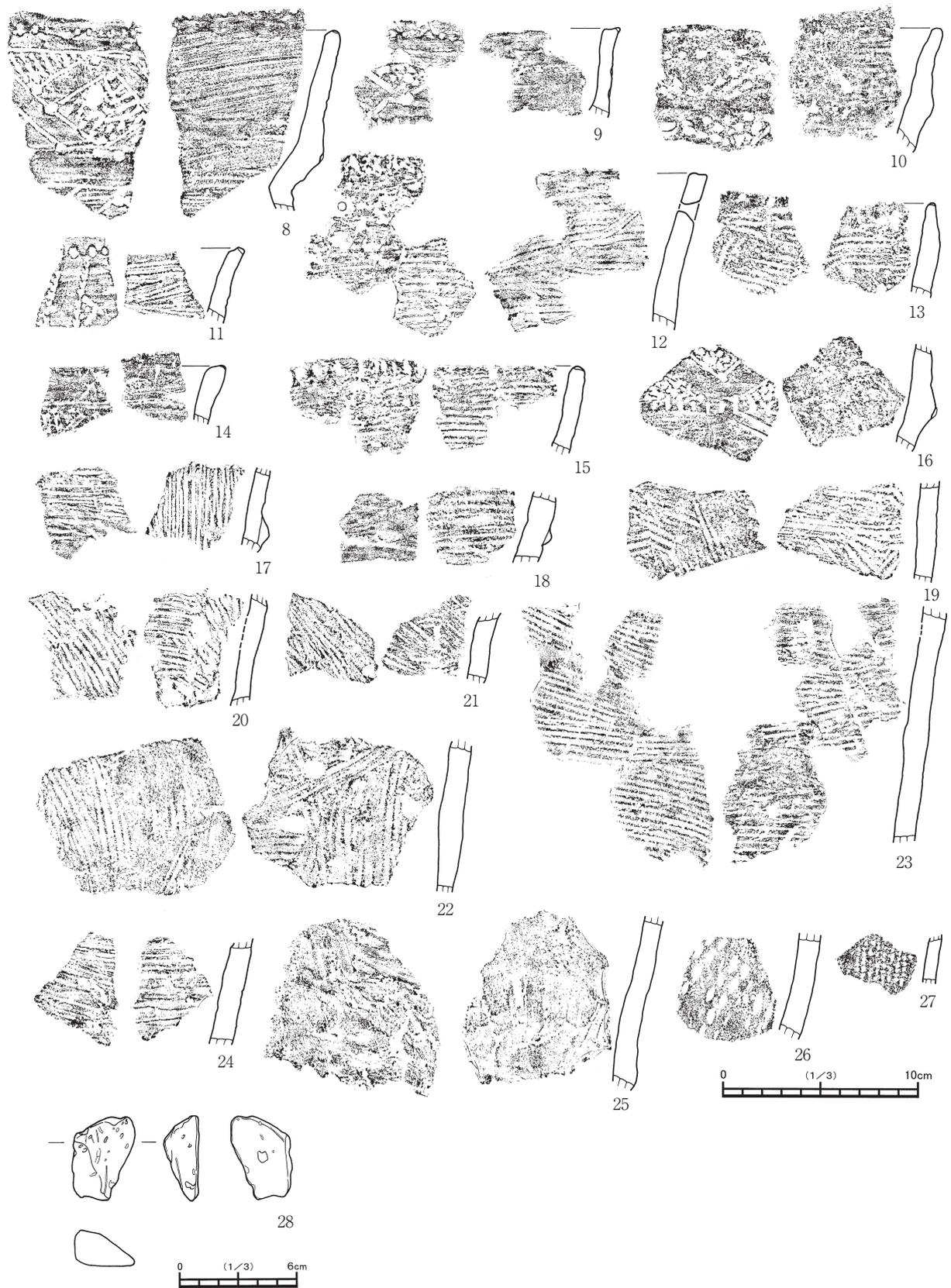


セクション位置：A-A'

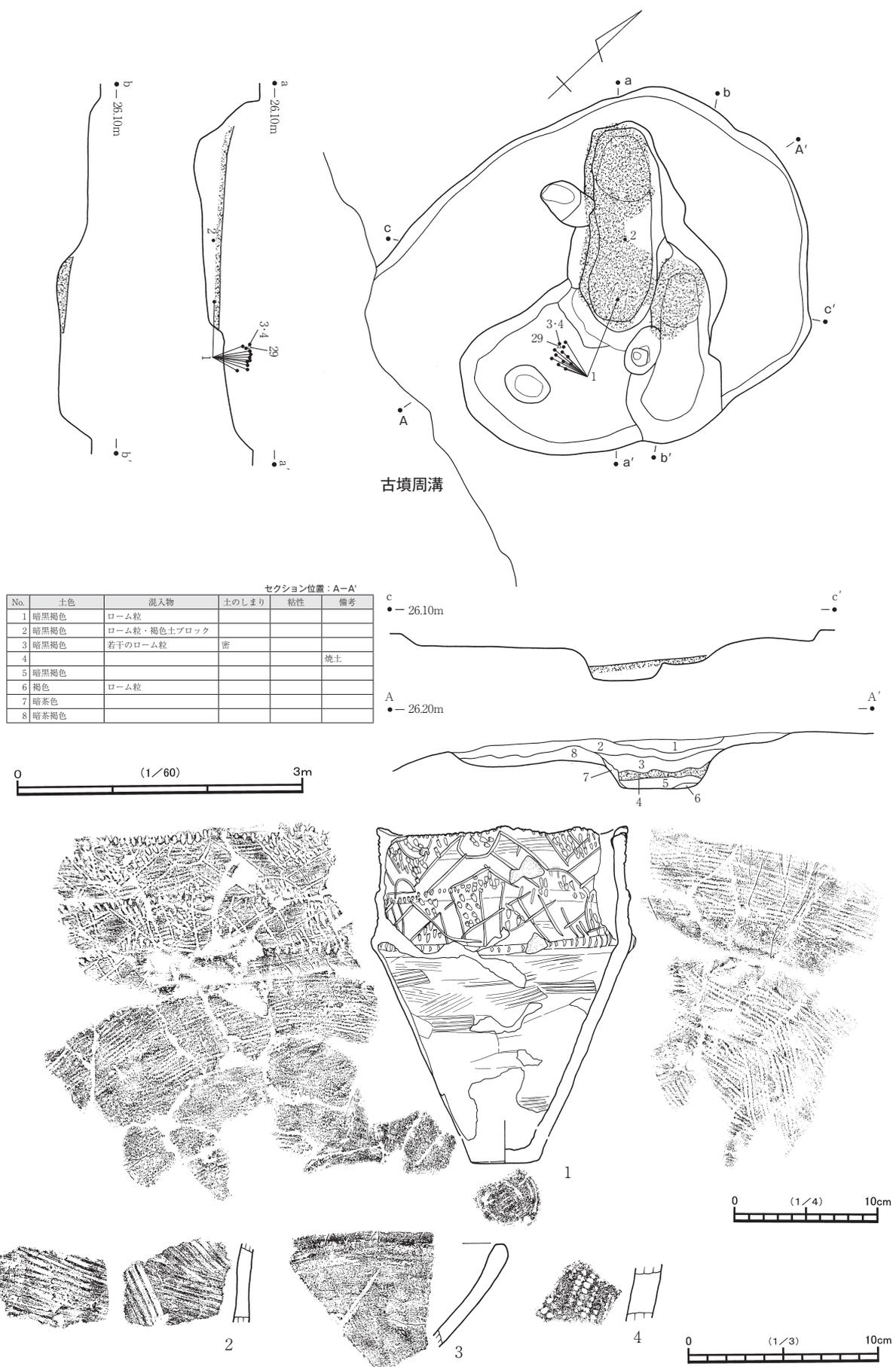
No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	黒褐色				
2	黒褐色	若干のローム粒			
3	暗褐色				
4	褐色	多量のロームブロック・ローム粒			
5	黒色	多量のローム粒・ロームブロック			
6	黒色	ローム粒			
7	褐色	ロームブロック			
8	暗黒褐色	ローム粒・ロームブロック			
9		ロームブロック			
10	暗黄色				
11					焼土
12	黒色	ロームブロック			
13	暗茶色				
14	暗黄色	ロームブロック			
15		ロームブロック・黒色土ブロック・焼土粒			
16	黒褐色	若干の焼土			
17	黒褐色・褐色				
18	黒褐色	若干の焼土・褐色土			



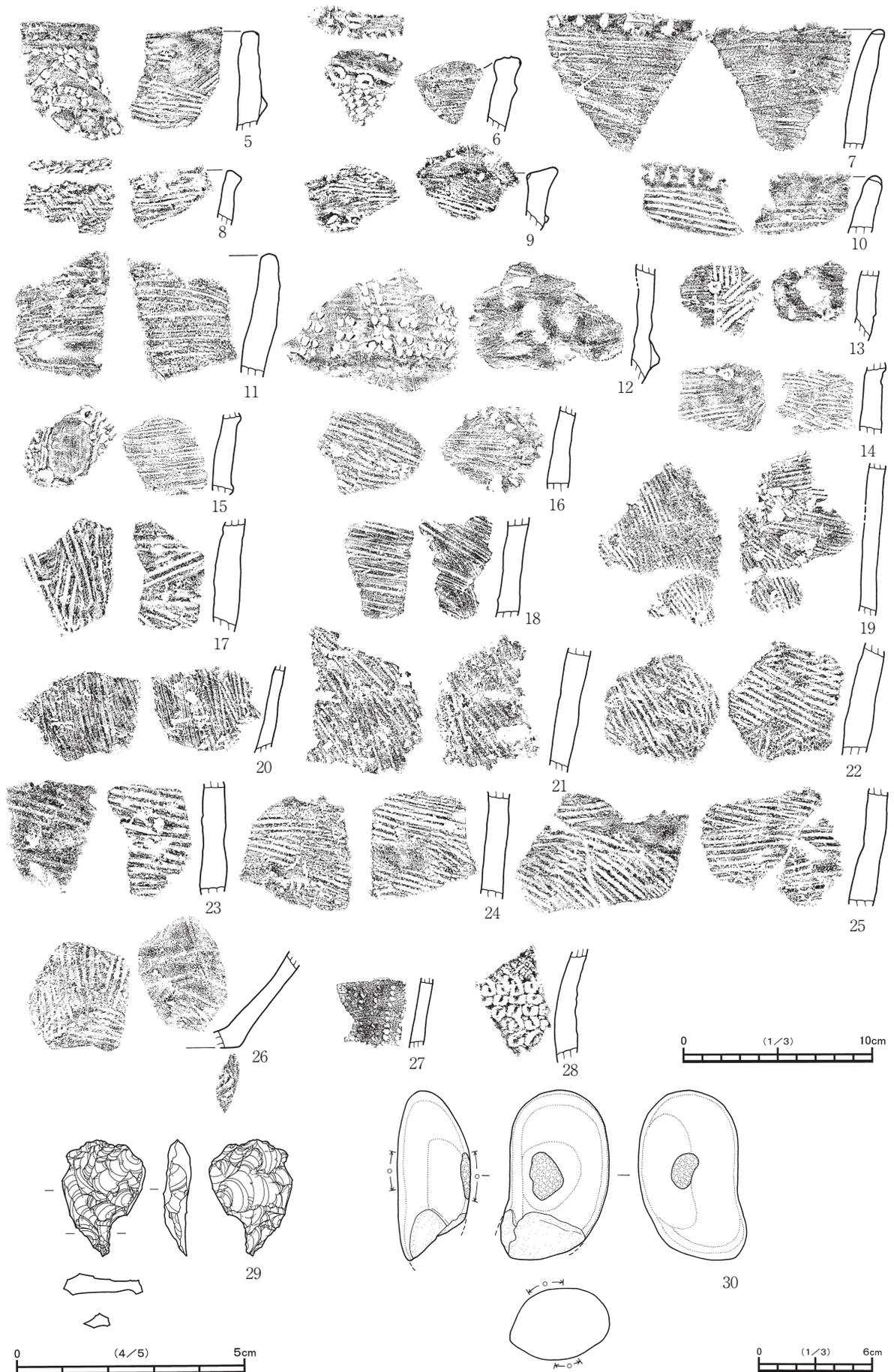
第446図 295号遺構実測図・遺物出土状況図および出土遺物実測図(1)



第447图 295号遺構出土遺物実測図(2)



第448図 296号遺構実測図・遺物出土状況図および出土遺物実測図(1)



第449图 296号遺構出土遺物実測図(2)

一括扱いの両方がある。うちわけは、撚糸文系・条痕文系・羽状縄文系・加曾利E式・加曾利B式などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系のもので全体の95.1%あり、当該時期を296号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、点あげしたものを第448図1～4に、一括扱いのものを第449図5～28に示した。1は推定口径172mm・現存器高218mm・底径48mmを測る口縁部が緩やかな波状となる条痕文系深鉢形土器である。細く深い沈線による区画内に刺突文を充填する文様を主とする。文様帯は楕円刺突を付す横位二条の隆帯によって区分される。また口唇部前面には楕円刺突がめぐる。5～11は条痕文系深鉢形土器の口縁部、2・12～25は胴部、26は底部の破片である。4・27は撚糸文系深鉢形土器の胴部破片である。28は羽状縄文系・関山式深鉢形土器の胴部破片である。3は加曾利B式浅鉢形土器の口縁部破片である。出土石器を第449図29・30に示した。29は最大長24.4mmを測る黒曜石製の石錐である。30は砂岩製の敲石である。

297号遺構

【検出位置】 セ28区I10-01・02・06

【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸7.98m・短軸2.85m・深さ100cm。燃烧面8箇所。形状はアメーバ状（第450図）。

【覆土】 暗黒褐色土・暗褐色土などを主体とする。ロームブロック・ローム粒・焼土粒などを含む。

【重複関係】 東側で298号遺構と重複する。

【出土遺物】 土器は、91点・2,056g出土している。取り上げ方法は、一括扱いのもののみである。うちわけは、撚糸文系・条痕文系・羽状縄文系などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系のもので全体のおよそ95%あり、当該時期を297号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、主なものを第451図1～30に示した。1～11は条痕文系深鉢形土器の口縁部、12～23は胴部の破片である。24～30は撚糸文系深鉢形土器の胴部破片である。

298号遺構

【検出位置】 セ28区I10-01・02

【種別】 炉穴

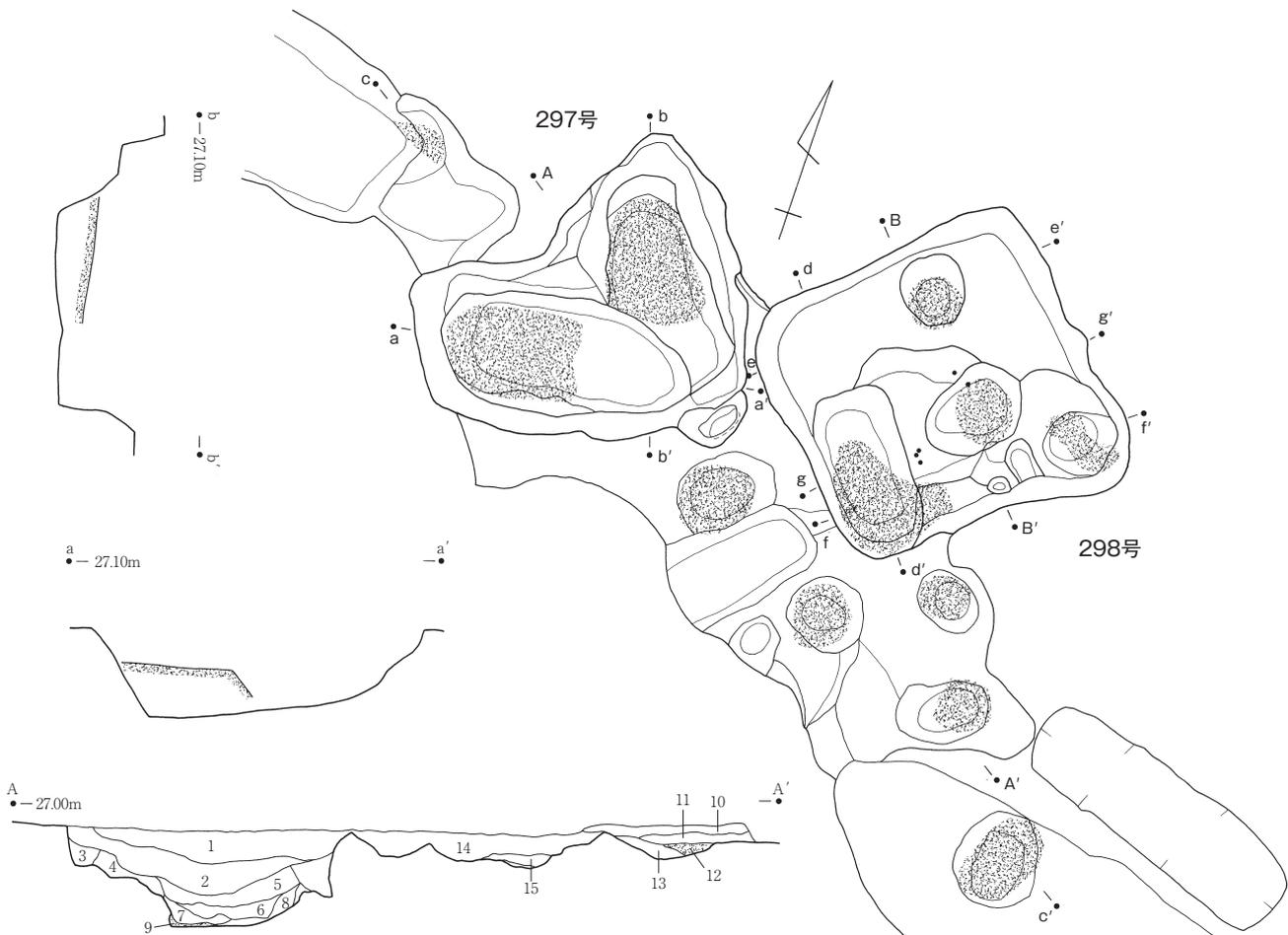
【規模ほか】 長軸2.49m・短軸2.43m・深さ69cm。燃烧面4箇所（第450図）。

【覆土】 黒褐色土・黒色土などを主体とする。ロームブロック・ローム粒・焼土粒などを含む。

【その他】 周囲に方形の竪穴状の掘り込みがある。

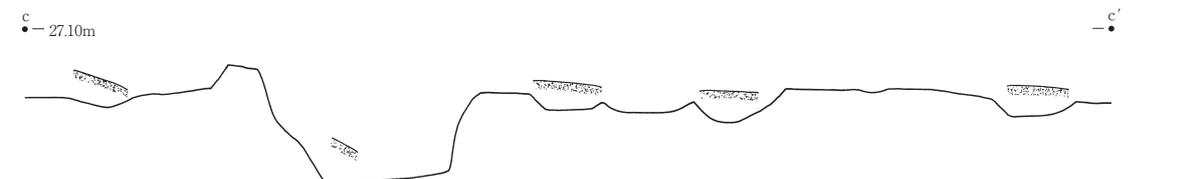
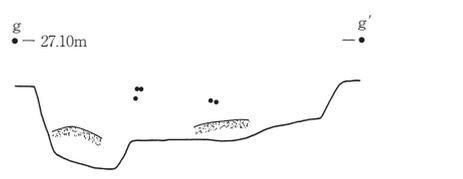
【出土遺物】 121点・5,967gの礫および礫石器が出土している。このうち98.5%に被熱のあとがみられる。石器は2点出土している。うちわけは、打製石斧1点・磨製石斧1点、このほかチャートの剥片2点がある。土器は、311点・5,560g出土している。取り上げ方法は、一括扱いのもののみである。うちわけは、撚糸文系・条痕文系・羽状縄文系などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系のもので全体のおよそ95%あり、当該時期を298号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、主なものを第452図1～31・第453図32～39に示した。1～10は条痕文系深鉢形土器の口縁部、11～34は胴部の破片である。出土石器を、第453図40・41に示した。40は最大長64.9mmを測る堇青石ホルンフェルス製の打製石斧である。41は残存最大長53mmを測る閃緑ひん岩製の磨製石斧である。下端の一部を研磨して刃部を作り出している。



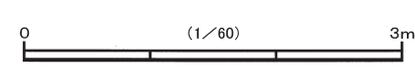
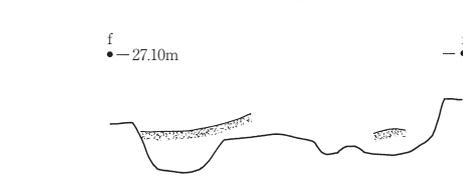
セクション位置：A-A'

No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	暗黒褐色	多量のローム粒			
2	暗黒褐色	若干のローム粒			
3	暗褐色				
4	暗茶褐色				
5	暗褐色	褐色土ブロック・ローム粒			
6	暗黒褐色				
7	暗茶色	ローム粒土・ロームブロック			
8	暗褐色				焼土
9					
10	黒褐色				
11	暗茶色	ローム粒			
12					焼土
13	暗褐色	ロームブロック			
14	暗褐色	多量のローム粒・若干のブロック			
15		ロームブロック・焼土粒			

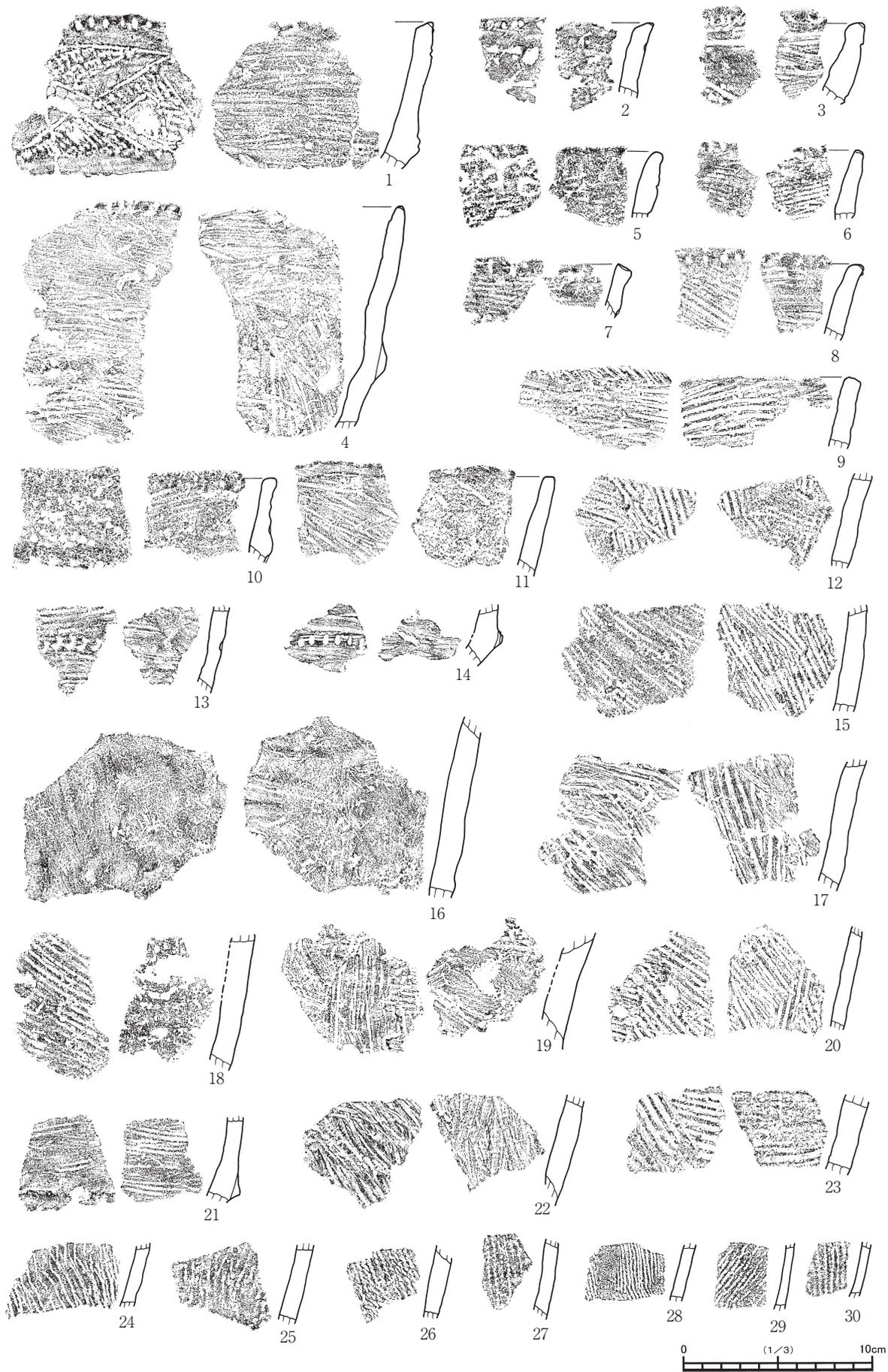


セクション位置：B-B'

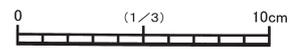
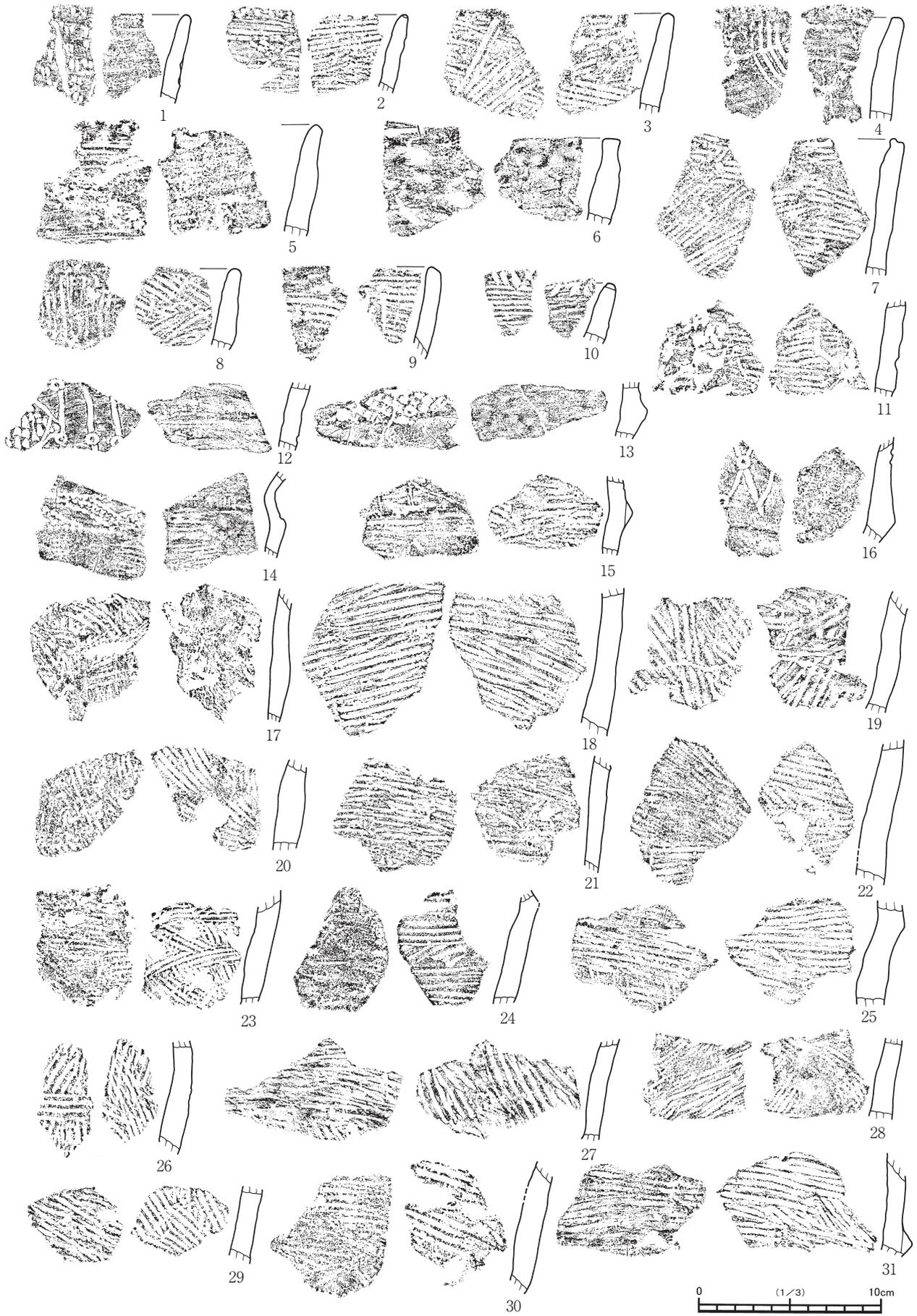
No.	土色	混入物	土のしまり	粘性	備考
1	黒褐色				
2	黒色				
3	黒褐色	ローム粒			
4	暗茶色				
5		焼土粒			
6	黒褐色				
7	黒色				
8	暗茶色				
9	暗褐色				
10		ロームブロック			
11	黒褐色				
12		焼土粒・ローム粒・褐色土			
13					
14		ロームブロック			



第450図 297・298号遺構実測図・遺物出土状況図



第451图 297号遺構出土遺物実測図



第452图 298号遺構出土遺物実測図(1)

299号遺構

【検出位置】 セ28区I10-05・06・09・10

【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸2.76m・短軸2.76m・深さ72cm。燃焼面4箇所（第454図）。

【覆土】 暗黒褐色土・暗黒色土などを主体とする。ロームブロック・ローム粒・焼土粒などを含む。一部に貝層がみられる。貝層は遺構覆土の西部に、長軸58・短軸32・厚さ4cmほどの規模で形成されていた。

【重複関係】 古墳との重複により北側の一部を欠失する。

【出土遺物】 16点・1,159gの礫および礫石器が出土している。このうち94%に被熱のあとがみられる。石器は2点出土している。うちわけは、軽石製品1点・石皿1点、このほか無斑晶ガラス質安山岩の剥片1点がある。土器は、144点・2,380g出土している。取り上げ方法は、平面・垂直位置を記録した点あげ、一括扱いの両方がある。うちわけは、撚糸文系・条痕文系・加曾利B式などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系のもので全体の95.8%あり、当該時期を299号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、点あげしたものを第454図1に、一括扱いのものを第454図2～7・第455図8～27に示した。2～8は条痕文系深鉢形土器の口縁部、1・9～24は胴部の破片である。25は撚糸文系深鉢形土器の口縁部、26は胴部の破片である。27は加曾利B式深鉢形粗製土器の胴部破片とみられる。出土石器を第455図28・29に示した。28は最大長77mm・重さ29.3gを測る軽石製品である。29はスコリア質安山岩製石皿の破片である。

300号遺構

【検出位置】 セ28区I10-10

【種別】 炉穴

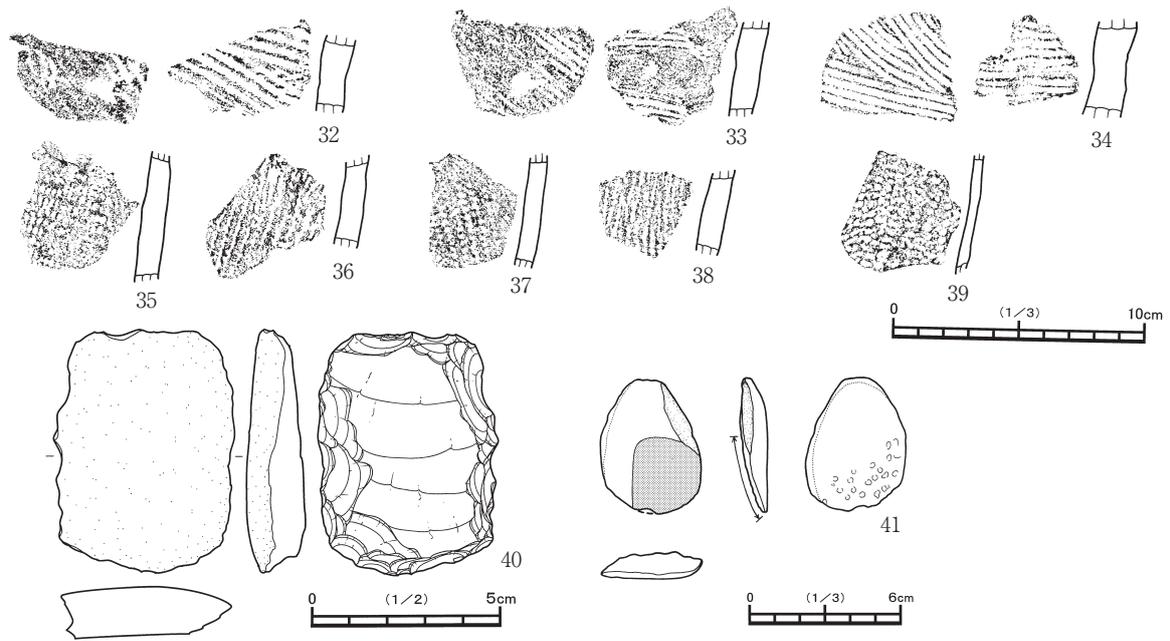
【規模ほか】 長軸2.77m・短軸2.30m・深さ75cm。燃焼面2箇所。形状はアメーバ状（第456図）。

【覆土】 黒褐色土・暗褐色土などを主体とする。ロームブロック・ローム粒・焼土粒などを含む。一部に貝層がみられる。貝層は遺構覆土の北東部に、長軸70・短軸50・厚さ26cmほどの規模で形成されていた。

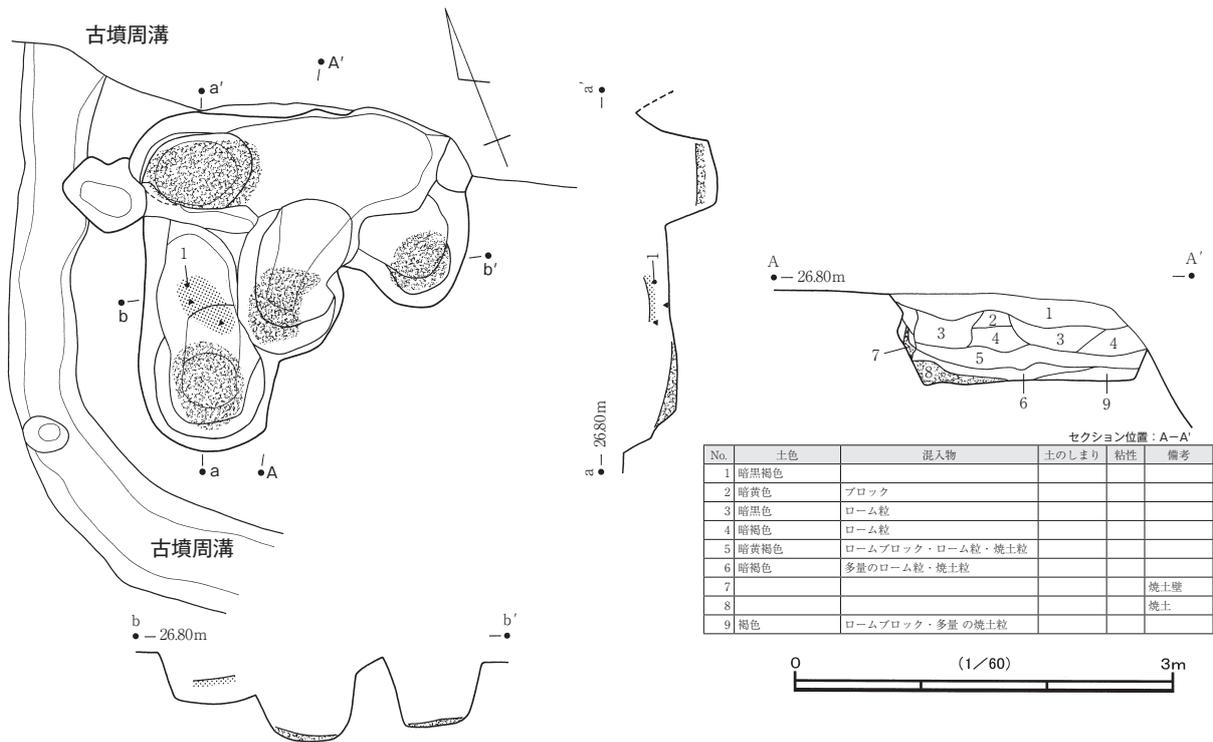
【重複関係】 古墳周溝との重複により遺構中央の一部を欠失する。

【出土遺物】 36点・1,753gの礫および礫石器が出土している。このうち98.2%に被熱のあとがみられる。石器は2点出土している。うちわけは、楔状石器1点・軽石製品1点、このほか黒曜石・チャートなどの剥片3点がある。土器は、198点・3,111g出土している。取り上げ方法は、平面・垂直位置を記録した点あげ、一括扱いの両方がある。うちわけは、撚糸文系・条痕文系・羽状縄文系などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系のもので全体のおよそ97%あり、当該時期を300号遺構の帰属時期とみる。

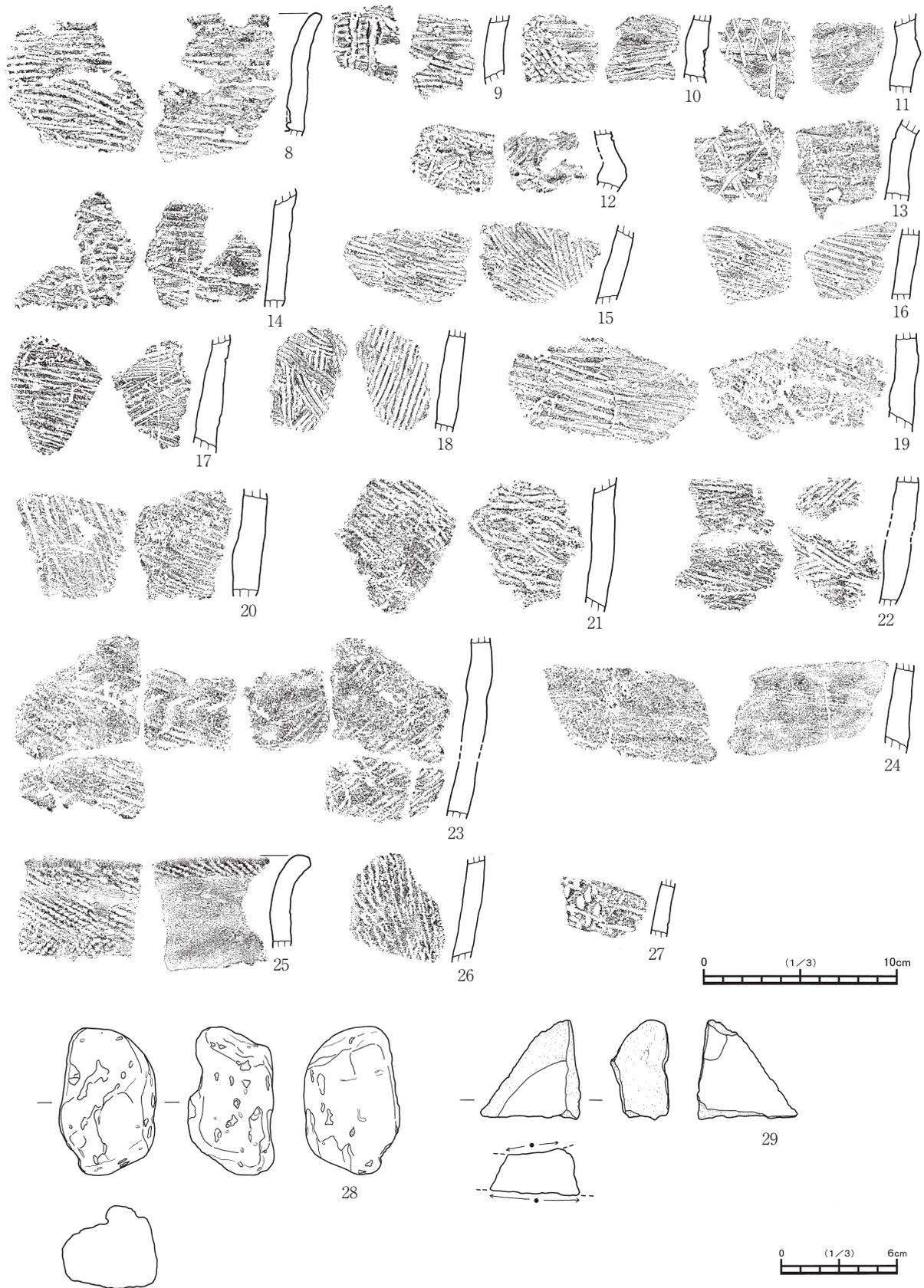
【遺物説明】 出土土器のうち、点あげしたものを第456図1・2に、一括扱いのものを第456図3～13・第457図14～31に示した。1・3～8は条痕文系深鉢形土器の口縁部、2・9～28は胴部、29・30は底部の破片である。31は羽状縄文系深鉢形土器の口縁部破片である。出土石器を第457図32・33に示した。32は最大長49.4mmを測る砂質頁岩製の楔状石器である。33は最大長57mm・重さ3.8gを測



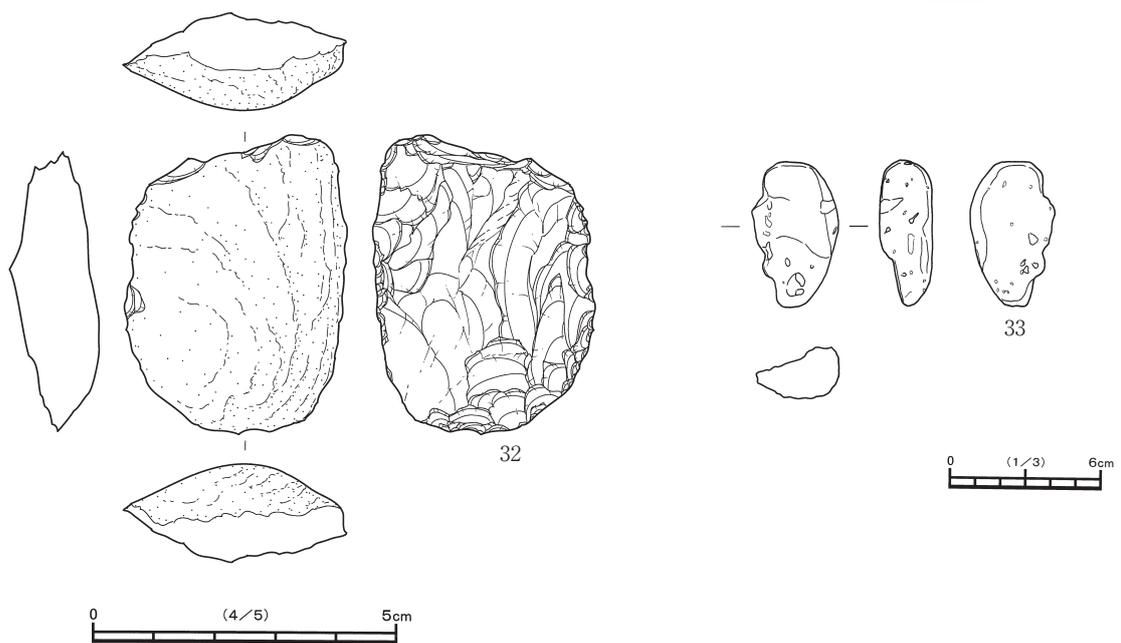
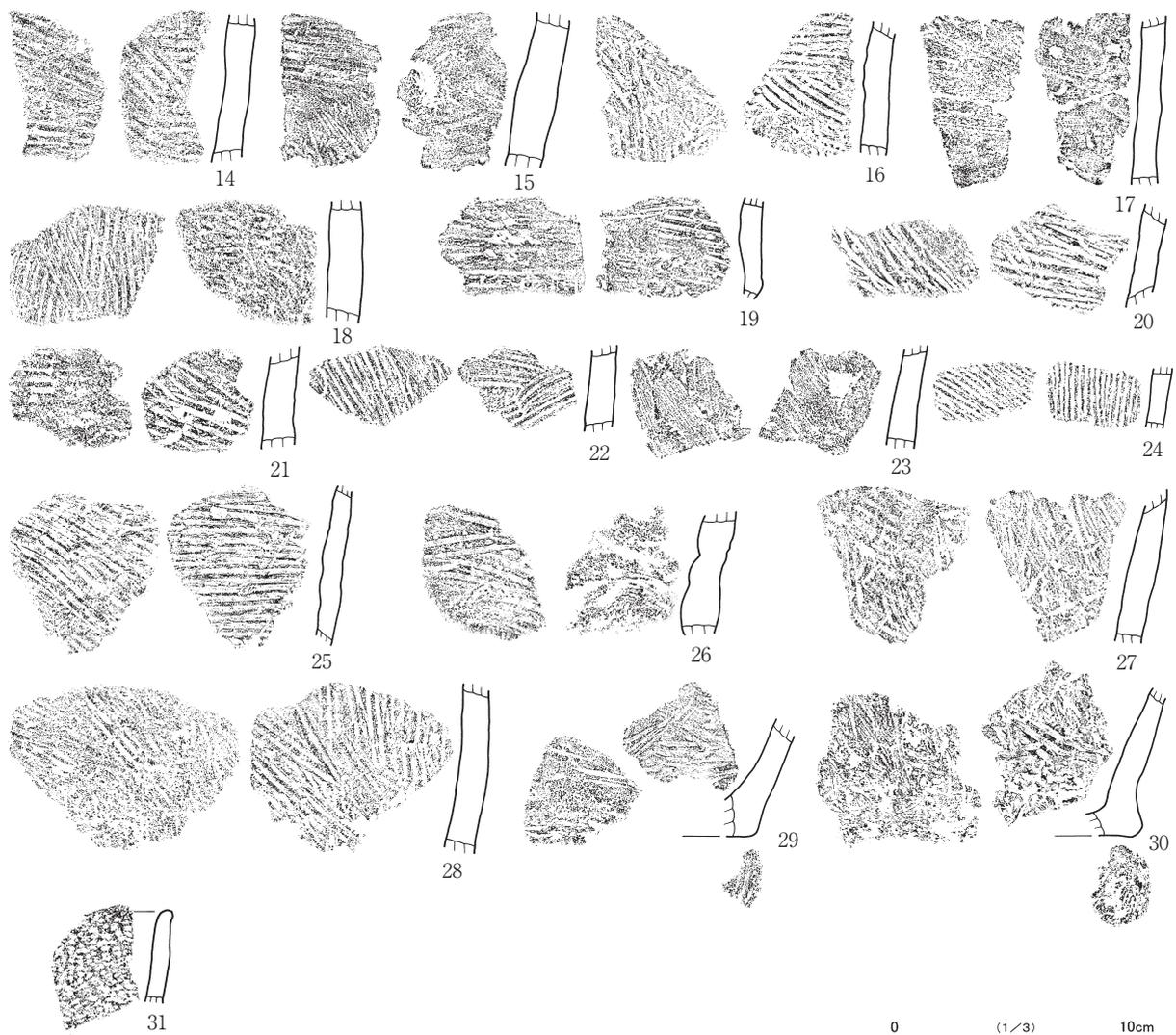
第453図 298号遺構出土遺物実測図(2)



第454図 299号遺構実測図・遺物出土状況図および出土遺物実測図(1)



第455图 299号遺構出土遺物実測図(2)



第457图 300号遺構出土遺物実測図(2)

る軽石製品である。

301号遺構

【検出位置】 セ28区I9-16、J9-04

【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸2.84m・短軸2.07m・深さ49cm。燃焼面1箇所（第458図）。

【覆土】 黒色土・黒褐色土などを主体とする。ロームブロック・ローム粒・焼土粒などを含む。一部に貝層がみられる。貝層は遺構覆土のほぼ中央部に、長軸90・短軸70・厚さ20cmほどの規模で形成されていた。

【出土遺物】 31点・1,328gの礫および礫石器が出土している。このうち76.2%に被熱のあとがみられる。石器は、2点出土している。うちわけは、石皿1点・軽石1点、このほか輝石安山岩（三紀）の剥片1点がある。土器は、88点・1,777g出土している。取り上げ方法は、平面・垂直位置を記録した点あげ、一括扱いの両方がある。遺物は覆土の中央部、基底面より浮いた覆土中層部から出土している。土器のうちわけは、撚糸文系・条痕文系などである。このうち主体を占めるのは、条痕文系のもので全体のおよそ99%あり、当該時期を301号遺構の帰属時期とみる。

【遺物説明】 出土土器のうち、点あげしたものを第458図1・2・4・5に、覆土一括扱いのものを第458図3・6～8に示した。1は条痕文系深鉢形土器の口縁部、2～6は胴部の破片である。7・8は撚糸文系深鉢形土器の胴部の破片である。出土石器のうち主なものを、第458図9に示した。輝石安山岩製石皿の破片である。

302号遺構

【検出位置】 セ28区J9-08

【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸2.59m・短軸1.98m・深さ78cm。燃焼面2箇所。形状はアメーバ状（第459図）。

【覆土】 黒褐色土・暗黒褐色土などを主体とする。ロームブロック・ローム粒、焼土粒などを含む。この遺構内のものとする貝層サンプルが残されているが、その規模・厚さを示す図面記録がないため詳細は不明。ボリュームとしては、水洗後重量で10kg程度のものである。

【重複関係】 北側は31号住居跡と重複する。新旧関係は302号遺構が新。

【出土遺物】 8点・123gの礫が出土している。このうちすべてに被熱のあとがみられる。土器は、2点・40g出土している。取り上げ方法は、覆土一括扱いのもののみである。うちわけは、撚糸文系・条痕文系土器の破片である。いずれも図示できる状態の資料ではないが、このうち条痕文系の土器をもって、当該時期を302号遺構の帰属時期とみたい。

303号遺構

【検出位置】 セ28区J9-08

【種別】 炉穴

【規模ほか】 長軸3.01m・短軸2.04m・深さ52cm。燃焼面3箇所。形状はアメーバ状（第459図）。

【覆土】 黒褐色土・黒色土などを主体とする。

【重複関係】 北側は31号住居跡と重複する。新旧関係は31号住居跡が新。南側の一部は後世のカクランにより欠失する。西側には302号遺構が隣接する。